

履修の手引き

2026年度入学者用



Kobe City University of Foreign Studies

神戸市外国語大学

目 次

I 履修の手引き

| | | |
|----|-------------------------------------|----|
| 1 | 授業時間 | 2 |
| 2 | 必修科目／選択科目 | 2 |
| 3 | 単位制度 | 2 |
| 4 | 履修登録 | 3 |
| 5 | コース制度 | 5 |
| 6 | 科目・プログラムの概要 | 6 |
| 7 | 成績評価・成績発表 | 8 |
| 8 | GPA制度 | 9 |
| 9 | 試験・レポート | 10 |
| 10 | 授業の欠席 (公休・欠席届・出席に関する条件) | 12 |
| 11 | 単位認定 | 13 |
| 12 | 交通機関の運休、気象警報等の発令に よる授業及び定期試験の取扱い | 16 |
| 13 | 教育職員免許状の取得 | 17 |
| 14 | 小学校教員免許状の取得 | 19 |
| 15 | 司書課程の履修 | 19 |
| 16 | 学校図書館司書教諭課程の履修 | 20 |

II 履修の指針

| | | |
|----|-----------------|----|
| 1 | 神戸市外国語大学の人材育成目標 | 21 |
| 2 | ディプロマ・ポリシー | 21 |
| 3 | カリキュラム・ポリシー | 22 |
| 4 | カリキュラム・マップ | 24 |
| 5 | 科目ナンバリング | 26 |
| 6 | カリキュラム概要 | 28 |
| 7 | 英米学科 | 30 |
| 8 | ロシア学科 | 36 |
| 9 | 中国学科 | 41 |
| 10 | イスパニア学科 | 47 |
| 11 | 国際関係学科 | 52 |
| 12 | 第2部英米学科 | 59 |

III 規則集

| | |
|---|-----|
| 学則・諸規則等 | 70 |
| 神戸市外国語大学外国語学部 履修規則 | 73 |
| 神戸市外国語大学外国語学部 第2部履修規則 | 90 |
| 教育職員養成課程の履修に関する規則 | 101 |
| 司書課程に関する履修規則 | 106 |
| 学校図書館司書教諭課程に関する履修規則 | 106 |
| 神戸市外国語大学テーマ研究プログラムに 関する履修規則 | 107 |
| 神戸市外国語大学数理・データサイエンス・ AI教育プログラム(KCUFS-DASH)に関す る履修規則 | 107 |
| 神戸市外国語大学試験に関する規則 | 107 |
| 学生の公休に関する規程 | 108 |
| 神戸市外国語大学外国語学部 履修登録単位の上限に関する規則 | 108 |
| その他 | 108 |

IV 教室等配置図

| | |
|--------|-----|
| 本部棟・学舎 | 109 |
| 第2学舎 | 110 |
| 共同研究棟 | 111 |
| 研究棟 | 112 |
| 第2研究棟 | 113 |
| 大ホール | 113 |
| 図書館 | 114 |
| 体育館 | 114 |
| 学生会館 | 115 |
| 部室会館 | 115 |

I 履修の手引き

I 履修の手引き

この履修の手引きは、2026年度1年次入学者を対象としています。

本手引きに記載されている制度、内容が原則として卒業まで適用されますので、適宜参照してください。

大学では、学生が入学してから所定の単位を修得して卒業するためには、学則及び履修規則等の定めに従って履修計画を立て学修を進めます。

履修の方法や順序を誤るとその後の履修に支障をきたしたり、効果的に学修できない場合もありますので、履修規則・授業時間割・講義概要（シラバス）を熟読して履修計画を立てる必要があります。

履修登録や試験など大学で履修計画を作成するために「I 履修の手引き」でその概要を、「II 履修の指針」で各学科の細則等を説明します。

履修の方法や手続き等に疑問があれば、学生支援・教育グループの教務入試班に問い合わせることで理解を深め、有意義な学生生活を送るよう努めてください。（※相談の場合は直接、教務入試班窓口に来てください。）

1 授業時間

| | | |
|-----|----|---------------|
| 学 部 | 1限 | 8時50分～10時20分 |
| | 2限 | 10時30分～12時00分 |
| | 3限 | 12時45分～14時15分 |
| | 4限 | 14時25分～15時55分 |
| | 5限 | 16時05分～17時35分 |
| 第2部 | 6限 | 17時50分～19時20分 |
| | 7限 | 19時30分～21時00分 |

2 必修科目／選択科目

授業科目は、大きく分けると必修科目と選択科目に区分されます。

(1) 必修科目

必修科目は、「専攻語学」、「兼修語学（必修語学）」と「研究指導」があり、全学生が必ず単位を修得する必要があります。ただし、「キャンパスライフ入門」、「データサイエンス入門」については、必ず履修する必要がありますが、単位未修得の場合も卒業を妨げないもの（必履修科目）とします。

(2) 選択科目

選択科目は学生の多様な学修意欲を満たすために細分化されており、学科ごとに幅広い専門分野の教員が豊富な授業科目を開設しています。選択科目の分野として、「学科基礎科目」「兼修語学（自由選択語学）」「全学共通科目」「コース科目」が用意されています。

3 単位制度

- ・ 1単位に必要な学修時間
- ・ 事前事後学修

(1) 単位と授業期間

1年間の授業を行う期間は、35週にわたることが原則とされ、各授業科目の授業は、十分な教育効果を上げることができるよう、大学が定める適切な期間行うものとされています。

本学では前期（4月1日～9月30日）と後期（10月1日～翌年3月31日）の2学期制を実施しており、試験期間、集中講義などを含め、35週程度の授業期間を確保しています。

大学では、学びたい科目・学ぶべき科目を履修登録する必要があり、登録した科目の試験やレポート等の評価を受け、所定の単位が与えられます。単位とは、学修量を示す基準であり、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準とされています。この45時間には予習・復習などの学修時間も含まれます。

授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行われ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね15時間から45時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって1単位として単位数を計算します。本学では、毎週1時間15週の講義をもって1単位とすることが、学則第32条で定められています。

(2) 卒業に必要な単位数

卒業するためには少なくとも4年間在学し、各学科で定める必要単位を修得する必要があります。

(単位)

| 分野 | 学科 | 英米・ロシア・ 中国・イスパニア | 国際関係 | 第2部英米 |
|------------|----|---------------------|------|-------|
| 専攻語学 | | 44 | 24 | 40 |
| 兼修語学（必修語学） | | 8 | 8 | 8 |
| 学科基礎科目 | | 12 | 8 | 12 |
| 全学共通科目 | | 16 | 12 | 12 |
| コース科目（主専攻） | | 20 | 28 | 20 |
| コース科目（副専攻） | | — | 20 | — |
| 研究指導・卒業論文 | | 16 | 16 | 16 |
| 自由選択単位 | | 8 | 8 | 16 |
| 卒業必要単位数 | | 124 | 124 | 124 |

(3) 年間登録可能単位の上限

年間履修登録上限は49単位です。

※課程科目、卒業論文、模擬国連、単位互換科目は49単位に含みません。

※編入学生に年間履修登録上限はありません。

4 履修登録

(1) 履修登録の流れ

履修登録は学生本人の責任において行うものであり、履修登録の不備や間違いがあればその科目の授業や定期試験を受けることができません。GAIDAI PASSの掲示等に注意して手続きを済ませてください。1年間の履修登録の流れについては以下のとおりです。

| 履修登録手続き | | 説明 |
|---------|------------|--|
| 前期 | 履修登録期間 | 各学年の始めに1年間の履修登録を行います。 |
| | 履修中止期間 | 一部科目を除き履修の中止ができます。この期間を過ぎると前期科目・通年科目の履修中止はできません。 |
| | 集中講義追加登録期間 | 前期集中講義（8月・9月）の追加履修登録ができます。 |
| 後期 | 履修登録期間 | 後期科目の履修登録・削除を行います。（前期に行った後期科目の履修登録を変更できます。） |
| | 履修中止期間 | 一部科目を除き後期科目の履修中止ができます。この期間を過ぎると後期科目の履修中止はできません。 |
| | 集中講義追加登録期間 | 後期集中講義の追加履修登録ができます。 |

(2) 履修中止

前後期それぞれに、「履修中止期間」を設定しています。授業内容が勉強したいものと違っていた場合や、授業を受けるには知識が不足している場合など、このままでは単位修得が難しいと感じた際はこの期間に履修登録を取り消すことができます。

※具体的な日時や方法については教務入試班よりお知らせします。

<注意点>

- ・専攻語学、必履修科目および研究指導は履修中止できません。
- ・抽選があった科目に当選した場合、原則履修中止しないでください。
- ・兼修語学などの通年科目は、前期の履修中止期間にのみ履修中止できます。
- ・集中講義は、前期集中講義（8月・9月）は前期履修中止期間にのみ、後期の集中講義は前期および後期の履修中止期間に履修中止できます。
- ・履修中止した科目はGPAの対象になりません。
- ・履修中止した科目は次学期以降（通年科目については、翌年度以降）に再び履修登録できます。

(3) 各履修登録手続きで登録を変更できる科目

| 履修登録手続き | | 通年科目 | 前期科目 (集中除く) | 前期集中 講義科目 | 後期科目 (集中除く) | 後期集中 講義科目 |
|---------|----------------|-------------|----------------|--------------|----------------|--------------|
| 前期 | 履修登録期間 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 履修中止期間 | ○ (削除のみ) | ○ (削除のみ) | ○ (削除のみ) | ○ (削除のみ) | ○ (削除のみ) |
| | 集中講義追加 登録期間 | × | × | ○ (登録のみ) | × | ○ (登録のみ) |
| 後期 | 履修登録期間 | × | × | × | ○ | ○ |
| | 履修中止期間 | × | × | × | ○ (削除のみ) | ○ (削除のみ) |
| | 集中講義追加 登録期間 | × | × | × | × | ○ (登録のみ) |

(4) クラス指定科目

専攻語学と兼修語学は、クラス指定をしています。各自の所属クラスと履修登録の方法など詳細は別途教務入試班よりお知らせします。

①専攻語学

英米学科、第2部英米学科のⅢ・Ⅳ階程以外の専攻語学については、全学科全階程にすべてクラス指定があります。（専攻語学の所属クラスは、毎年クラス分けを行い発表します。）

②兼修語学

英米学科、国際関係学科、第2部英米学科で履修する兼修語学（兼修ロシア語・中国語・イスパニア語・フランス語・ドイツ語）は、入学時に申し込んだ言語ごとに抽選を行い、指定のクラスを発表します。ロシア学科、中国学科、イスパニア学科で履修する兼修英語Ⅰ階程はクラス指定があります。

(5) 予備登録科目

英米学科と第2部英米学科の専攻英語Ⅲ・Ⅳ階程の科目、ロシア学科・中国学科・イスパニア学科の兼修英語Ⅱ階程やその他一部の科目は、履修登録期間の前に予備登録を行い、事前に所属クラスを決定します。詳細は、教務入試班よりお知らせします。

(6) 所属しない学部で開講する授業の履修

【学部生（英米学科・ロシア学科・中国学科・イスパニア学科・国際関係学科）】

①学部生は、第2部で開講される学部生が履修可能な授業を、在学期間中に36単位を超えない範囲で履修できます。履修可能な授業は【別表 学部生が履修可能な第2部開講科目（P84）】を参照してください。

- ②司書課程科目、学校図書館司書教諭課程科目は上述の36単位に含みません。
 ③学部、第2部で同一科目（複数回認定科目を除く）を重複して履修することはできません。

【第2部生（第2部英米学科）】

- ①第2部生は、学部で開講される第2部生が履修可能な授業を、36単位を超えない範囲で履修できます。履修可能な授業は【別表 第2部学生が履修可能な学部開講科目（P95）】を参照してください。
 ②学部、第2部で同一科目（複数回認定科目を除く）を重複して履修することはできません。

5 コース制度

本学では、伝統ある語学教育に支えられた高いコミュニケーション能力と、専門教育により培われた確かな洞察力、その両方を兼ね備えた人材—2つの武器を持つ人材—を養成するため、専門教育については「コース制度」を設けています。

1年次前期（第2部英米学科の学生は2年次前期）に「コース説明会」を実施しますので、必ず参加し、どのコースを選択するか慎重に検討してください。下記のとおり所定の時期にコースを選択し、2年次秋頃に、選択したコースの研究指導（ゼミ）を選びます。研究指導を選ぶ際には選考があり、必ず第一希望の研究指導に入れるわけではありません。

コースの選択については、コース説明会で案内がありますので、GAIDAI PASSの掲示を確認し、必ず出席してください。

(1) コース選択

| 所属学科 | 選択できるコース |
|----------------------------------|-------------|
| 英米学科 ロシア学科 中国学科 イスパニア学科 | 語学文学コース |
| | 国際法政コース |
| | 経済経営コース |
| | 多文化共生コース |
| | リベラルアーツコース |
| 国際関係学科 | 国際法政コース |
| | 経済経営コース |
| | 多文化共生コース |
| | リベラルアーツコース |
| 第2部英米学科 | 英語学・英語研究コース |
| | 英語圏文化文学コース |
| | 法経商コース |

【英米・ロシア・中国・イスパニア学科】

2年次に進級する際に、語学文学コース、国際法政コース、経済経営コース、多文化共生コース、リベラルアーツコースのいずれか1つのコースを選択します。

【国際関係学科】

2年次に進級する際に、国際法政コース、経済経営コース、多文化共生コース、リベラルアーツコースのうち、2つのコース（「主専攻」及び「副専攻」）を選択します。

【第2部英米学科】

3年次に進級する際に、英語学・英語研究コース、英語圏文化文学コース、法経商コースのいずれか1つのコースを選択します。

6 科目・プログラムの概要

(1) 専攻語学 [必修]

- ・ 高度な言語運用能力とその言語についての専門的な知識の修得を目標として、英米学科、国際関係学科、第2部英米学科では英語を、その他の学科ではそれぞれ、ロシア語、中国語、イスパニア語を1年次から4年間にわたって履修します。
- ・ 全ての学科において専攻語学の単位修得が進級条件となっています。

(2) 兼修語学 [必修]

- ・ 各学科の専攻語学のほかに、第2外国語として必修の兼修語学を1・2年次に履修します。
- ・ 英米学科、国際関係学科、第2部英米学科では、ロシア語・中国語・イスパニア語・ドイツ語・フランス語のいずれかを履修します。
- ・ ロシア学科、中国学科、イスパニア学科では英語を履修します。
- ・ 必修の兼修語学のほかに学科、学年に関係なく履修できる自由選択語学（Ⅲ階程を除く）も提供しています。

(3) 学科基礎科目・全学共通科目

1・2年次には、所属する各学科の学科基礎科目と全学共通科目を履修することが学修効果上望ましいです。

- ① 学科基礎科目は各学科での学修の基礎となる科目です。
- ② 全学共通科目は全学部・学科共通で開講されており、学生として基礎的な教養を学ぶ授業科目です。「人文領域」、「社会科学領域」、「自然・人間科学領域」の3領域に区分されており、卒業までに各領域から少なくとも1科目を修得する必要があります。

(4) コース科目

- ・ 英米学科、ロシア学科、中国学科、イスパニア学科、国際関係学科では、2年次に選択するコースの専門科目として「コース科目」を履修します。第2部英米学科では、3年次に選択するコースの専門科目として「コース科目」を履修します。
- ・ 1年次で「コース科目」を履修する場合、2年次で異なるコースを選択すると、その単位は「コース科目」でなく「自由選択単位」として卒業必要単位に算入されるので履修登録に際しては十分注意してください。

(5) 自由選択単位

以下に定める科目の単位を修得した場合は、原則として自由選択単位として卒業必要単位に算入します。

- ① 属する学科／コースの開設科目を規定の単位数を超えて修得した単位
- ② 他学科／他コース科目
- ③ 単位互換講座科目 [大学コンソーシアムひょうご神戸 etc.]
- ④ 課程科目
- ⑤ その他

(6) 研究指導

研究指導は、いわゆるゼミにあたり、特定の教員の指導のもと自主的に研究活動を行い、卒業論文の作成を目指します。

(7) 卒業論文

卒業論文は研究指導で行ってきた研究の成果として執筆します。

[卒業論文の提出]

- ・卒業論文は、卒業予定年度の所定の期日までにGAIDAI PASSで提出してください。
- ・審査に合格した卒業論文は本学の図書館にて本学学生へ閲覧公開されます。
- ・提出後の卒業論文は返却できません。
- ・詳細については、教務入試班よりお知らせします。

(8) 課程科目

課程科目として「教育職員養成課程科目」「司書課程科目」「学校図書館司書教諭課程科目」を開講しています。

【注意事項】

- ・各教科の指導法は、所属する学科によっては履修できない場合がありますので注意してください。
- ・「司書課程科目」、「学校図書館司書教諭課程科目」は第2部の時間帯（6・7限）の開講科目です。

(9) テーマ研究プログラム

本学では、学科・コースの枠を超えて特定のテーマについて横断的に学修・研究できる「テーマ研究プログラム」を設置しています。学修意欲の高い学生が学科・コースの枠を超えて特定のテーマを学修・研究できるようにするため、一定の研究・教育テーマをもとにグループ化した科目群から定められた数の科目(8科目程度)を履修・単位修得した場合、希望する学生にプログラム修了証を発行します。現在設置しているプログラムは以下のとおりです。

①グローバルコミュニケーションプログラム（2021年度開始）

グローバルコミュニケーションプログラム(GCP)は、国際社会における様々なコミュニケーションの現場を念頭に置きながら英語運用能力を強化するプログラムです。会議通訳者や翻訳者のような専門家を目指す人、ビジネスや社会活動などで英語力をフルに使う仕事を目指す人、そして英語そのものを学問的に研究したい人、に向けた授業が用意されています。これら授業を組み合わせ受講することが、応用力を鍛え、個別の目標達成に対して多角的なアプローチを可能にします。各授業は原則として英語で行われます。

②対照言語学プログラム（2022年度開始）

本学で提供されている言語学・語学関連科目を学科・コース横断的に履修することで言語研究にはさまざまな方法があることを学ぶとともに、個別言語間の比較対照を通して言語分析の視野を広げるプログラムです。

③行政外交プログラム（2023年度開始）

公務において求められる社会科学分野の知識や識見等の習得・向上を図り、公務員試験受験者に有用な知識を提供するプログラムです。

④日本語学プログラム（2026年度開始）

外国語並びに国際文化を研究するために日本の言語・文化について十分知る必要があるとの見地から、日本語及び日本文化に対する深い知識を提供し、日本語教育に関する知見を養うことを目的とするプログラムです。登録日本語教員を養成する「登録日本語教員養成課程」ではありません。また登録日本語教員の資格試験に必要な科目として提供するものでもありません。

〈修了の要件〉

学部生は85ページ～の「別表(8) テーマ研究プログラムに関する科目」を、第2部生は97ページ～の「別表(Ⅱ-6) テーマ研究プログラムに関する科目」を参照の上、指定された科目群から合計16単位を修得、かつ16単位のうちコア科目から8単位以上を修得してください。

(10) 数理・データサイエンス・AI教育プログラム (KCUFS-DASH)

本学では、数理・データサイエンス・AIへの皆さんの関心を高め、かつ適切に理解し、活用する基礎的な能力を育成することを目的として、数理・データサイエンス・AIに関する体系的な教育を行うプログラムを設置しています。2026年度入学生の皆さんは、必履修科目として「キャンパスライフ入門」と「データサイエンス入門」を履修していただきます。この2科目の単位を修得すると、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」のリテラシーレベルを修了したこととなり、希望する学生にはプログラム修了証を発行します。

7 成績評価・成績発表

(1) 成績評価基準

- ・ 授業科目を履修し、その到達目標を達成すれば（合格すれば）単位が取得できます。
- ・ 各授業科目の点数が60点以上の成績であれば合格となり、点数が59点以下の場合は不合格となります。
- ・ 詳細は下記表および別に示す「成績評価基準の基本方針」でご確認ください。

| 合否 | 成績表示 | 評点 | 定義 | GP |
|-----|------|------------------|-------------------------------|-------------|
| 合格 | S | 100点以下 ～90点以上 | 各授業科目で定めた到達目標を、特に優れた水準で達成している | 4.5 ～3.5 |
| | A | 90点未満 ～80点以上 | 各授業科目で定めた到達目標を、優れた水準で達成している | 3.4 ～2.5 |
| | B | 80点未満 ～70点以上 | 各授業科目で定めた到達目標を、良好に達成している | 2.4 ～1.5 |
| | C | 70点未満 ～60点以上 | 各授業科目で定めた到達目標を、最低限達成している | 1.4 ～0.5 |
| 不合格 | F | 60点未満 | 各授業科目で定めた到達目標を、達成していない | 0 |

※GPAは小数点第3位を四捨五入する

(2) 成績発表

①成績発表時期

【前期科目、集中講義科目（8月実施分）】

9月中旬に成績発表を行います。

【通年科目、後期科目、集中講義科目（9月・冬季実施分）】

3月上旬に成績発表を行います。

②成績閲覧の注意点

- ・ 成績はGAIDAI PASSでのみ閲覧可能です。
- ・ 成績は評価（S、A、B、C、F）及びGPAを閲覧することが可能です（点数は開示されません）。

(3) 成績問い合わせ制度

前期・後期の成績発表の日から数日間、「成績問い合わせ期間」を設けています。（日時は別途お知らせします。）成績に関して教員に問い合わせたい事項がある場合は、同期間中に所定の届出書を教務入試班に提出してください。成績問い合わせ期間外や教員への直接の申し出は一切受け付けられません。

(4) 成績通算制度

後期から休学又は留学をするときは、休学学期又は留学学期に連続する直前の前期と復学学期以後又は留学学期後の直近の後期の成績を合算して成績をつけることが可能です。

ただし、休学学期又は留学期に連続する直前の年度と同じ科目が復学学期又は留学期後の直近の年度にも開講されている場合（担当教員や内容が変更されていても可）に限ります。

【申請手続き】

- ・必ず休学開始前に申請書を教務入試班へ提出してください。
- ・申請書の様式は「休学願」の様式と併せて配布します。

8 GPA制度

GPAとはGrade Point Averageの略で、学生一人ひとりの履修科目の成績評価をグレード・ポイント（GP）に置き換えた平均を数値により表すもので、欧米で一般的に用いられている制度です。

(1) 制度の概要

①対象科目

原則として全科目を対象とします。ただし、理由は問わず、単位を認定された科目は対象に含めません。

②計算方法

本学でのGPA計算式は以下のとおりです。

(GPの算出方法)

次の計算式によりGPを計算します。

$$GP = (\text{評価点} - 55) / 10 \quad (\text{評価点} < 60 \text{点のとき} GP = 0)$$

[例：評価点が80点のときGP=2.5、評価点60点のときGP=0.5]

(GPAの算出方法)

GPを用いて以下の式でGPAを計算します。

$$GPA = \frac{\sum (\text{各科目のGP} \times \text{その科目の単位数})}{\text{総単位数}} \quad (\text{小数第3位を四捨五入})$$

- ・分母の総単位数には不可となった科目の単位数が含まれるため、成績が不可となった授業科目があると、分母が大きくなる分だけGPAが低くなります。これを防ぐために、履修中止制度を利用しましょう。
- ・評価点は学生には公表されないため、学生自身でGPA計算はできません。

(2) GPA証明書

GPA証明書 [申請方法：学生支援班にメールで申請]

留学や就職、大学院進学などで、GPAが記載された書類が必要な場合、GPA証明書（和文・英文）を発行します。即日発行はできませんので余裕をもって申請してください。

(3) その他注意点

①成績上書き制度

専攻ロシア語・中国語・イスパニア語のⅠ・Ⅱ階程の一括認定科目については、成績の上書き制度が認められます。不可となった授業科目を次年度以降に再度履修して単位が修得できた場合、不可であった成績に上書きすることができます。ただし、不正行為などの理由により不可となった場合、上書き制度は適用されません。

②複数回認定科目

通常、在学中に同名の科目を複数回履修して単位を修得することはできませんが、複数回認定科目は、複数回履修が可能です。GPは履修のたび各回個別に計算されます。新しい成績を以前に修得した同名の科目の成績に上書きすることはできません。

③休学者について

年度途中で休学した学生については、履修科目は不可とはならずGPAには影響しません。

ただし、通年科目に関して成績通算を利用する場合は、復学後の成績評価に休学前の前期成績が影響します。

9 試験・レポート

(1) 試験・レポートに関するガイドライン

このガイドラインは、本学で実施される定期試験・レポート（卒業論文含む）に適用されます。ただし、各担当教員から別途指示がある場合はそれに従ってください。

1. 試験について

(1) 試験を受けるにあたって

① 必ず学生証を携帯し、教員の指示に従い、机の上に置いて試験を受けてください。

学生証を忘れた場合、試験当日の試験開始前までに学生支援・教育グループで「仮学生証」の発行を申し出てください。学生証を忘れたことによる不利益（試験時間に間に合わない等）はすべて学生の責任に帰します。

② 試験場への入室は試験開始後20分を限度とします。（それ以前であっても教員があらかじめ学生に別途指示していた場合は入室を認めません）

遅刻理由が本学の追試事由に当たる場合は、学生支援・教育グループ（教務入試班）に申し出てください。《本学の追試験事由の例は次ページを参照して下さい。》

③ 筆記用具、時計、眼鏡、ハンカチ、ティッシュ以外（筆箱、飲食物等）はすべてかばんにしまい床に置いてください。（携帯電話を時計代わりに使用することは不可）

④ 同時に携帯電話の電源および時計のアラームを切ってください。

⑤ 机の中に何も無いことを確認してください。資料、メモ、携帯電話、教科書等があれば不正行為とみなす場合があります。

⑥ 持ち込み可の試験の場合でも担当教員が認める物以外の持ち込みの場合は不正行為とみなす場合があります。

(2) 不正行為とみなされる行為

① 試験問題又は答案を盗むこと。

② 試験に関連した内容を机、身体、所持品又は紙片等に記載し、試験中に参照し又は参照させ、もしくは参照できるような状態で受験をすること。

③ 他人の答案を見たり、他人に自分の答案を見せたりすること。

④ 本人に代わって受験し、又は受験させること。

⑤ 持ち込み許可を受けていない書籍、ノート、電子機器等を利用し、又は利用させること。

⑥ 音声、動作等により答案作成に役立つ情報を伝えること、又はそのような行為に加担すること。

⑦ 指定された答案用紙以外の答案用紙を用いること。

⑧ 答案用紙をすり替え、又はすり替えさせること。

⑨ 試験監督の指示に従わないこと。

⑩ その他、明らかに公正な試験の実施を阻害すると認められる行為をすること。

(3) 不正行為を発見した場合

不正行為を発見した場合、本学の懲戒調査委員会を開き、そこで不正行為が確認されると懲戒処分が下されます。具体的には、懲戒処分（戒告、停学、退学）が下されるとともに、その学期のすべての履修科目に評

点が与えられません。また、通年科目については、不正行為を行った学期に関わらず、全履修科目の評点が与えられません。

2. レポートについて

(1) レポート作成にあたっての一般的な注意事項

- ① レポートの作成・提出にあたっては、必ず担当教員の指示を守ってください。
- ② 参考文献などを使用した場合は、それを明記すること。一般的には、引用部分を「 」等で表し、下記のような記載をレポートに明記します。

【著者名、書名、出版社名、発行年、引用ページの順で書く（または当該文書の最後に※1、※2、(1)、(2) …などと記載し、レポートの最後に参考文献と該当ページをまとめて記載する）】

- ③ インターネットの検索・引用を教員が認めている場合は、URL 及び検索日を明記する。

(2) レポートでの不正行為

① 試験における不正行為に類する行為

- ・他人のレポートに自分の学籍番号・氏名を記して提出すること
- ・他人にレポートを作成してもらい提出すること
- ・他人に依頼されてレポートを作成すること

② 盗用等の学問的倫理に反する行為

※注意：参考文献やインターネットから引用した文書を、引用を明記せず、自己の意見のように記述することは一般に盗用とみなされます。

(3) レポートの不正行為を発見した場合

試験と同じく学内の懲戒調査委員会で不正行為について調査し、不正行為が確認された場合は懲戒処分（戒告、停学、退学）が下されるとともに当該科目の評点を与えません。

(2) 追試験

【追試験に該当する事由】

追試験は、次の事由に該当し、かつ所定の事由証明書を提出することができる場合に限り、許可することがあります。

| 事由 | 事由証明書 |
|----------------------|--|
| ①本人の病気・負傷 | 定期試験当日静養を要する旨付記した本学所定の様式「学校感染症罹患証明書」又は医師の診断書 |
| ②家族の死亡 | 会葬礼状もしくは、死亡診断書 ※死亡診断書はコピーでも可 |
| ③教育実習・介護等体験 | |
| ④就職試験 | 就職試験受験証明書 |
| ⑤交通機関の事故 | 20分以上の延着証明書 |
| ⑥その他教務部長が正当な事由と認めたもの | 申し立て書及び教務部長が指定する証明書 |

※②の家族の死亡とは、配偶者及び3親等以内の血族と2親等以内の姻族の範囲です。

なお、日数は下記に定めるとおりです。

配偶者及び1親等の血族 …5日間

2親等の血族及び1親等の姻族…3日間

3親等の血族及び2親等の姻族…1日間

(日数は土日を除く実質授業日で連続した日数。葬儀当日・往復にかかる日数を含む。)

※④の就職試験は、民間企業は最終面接のみで、企業が発行する受験証明書の提出がある場合に限りです。教員採用試験、公務員採用試験の場合は、一次試験合格通知書等を持参の上、教務入試班に事前に相談すること。

【追試験の申請方法】

- ・当該授業科目の「追試験願い兼承認書」及び事由証明書を事前に教務入試班へ提出してください。
- ・やむを得ない事由により事前の申請ができない場合は、当該授業科目の定期試験実施日を含む7日以内に「追試験願い兼承認書」及び事由証明書を教務入試班へ提出してください。
- ・期限を経過した場合、追試験の申請は受理できません。

【追試験の実施日】

追試験は、当該授業科目の定期試験実施日から、原則2週間以内に行います。

10 授業の欠席（公休・欠席届・出席に関する条件）

(1) 公休

願い出により公休手続きを行うことができます。公休が認められた場合、該当日は出席したものと扱われます。ただし、集中講義は原則公休の取扱いをしません。

【該当する事由】

- ①教職課程の教育実習及び介護等体験
- ②親族の喪に遭ったとき
- ③学校感染症による出席停止期間

【手続き方法】

1. 必要書類（公休事由を証明できる書類等）を持参のうえ、学生支援班 証明書窓口で「公休願承認書」を受け取ってください。必要事項を記入し、必要書類を添えて証明書窓口へ提出してください。
 - ・【該当する事由】が①の場合は、該当授業の一週間前までに提出してください。
 - ・【該当する事由】が②・③の場合は、事由発生後（感染症の場合は、出席停止期間終了後）一週間以内に提出してください。
2. 提出後、承認した「公休願承認書」を返却しますので、承認日から10日以内に担当教員へ提出してください。
3. 担当教員へ提出後は、年度末の成績を確認するまでご自身で保管してください。

(2) 欠席届

公休事由に該当しない事由により授業を欠席する場合、「欠席届」を提出することを認めています。ただし、これは公休のように、学生の権利として「欠席扱いにしない」ことを要求できるものではありません。

【手続き方法】

本学ホームページからダウンロードした「欠席届」に必要事項を記入し、直接担当教員へ提出してください。

(3) 出席に関する要件

「専攻語学」「兼修語学」「スポーツ方法1・2」には出席に関する最低要件が定められており、全授業の2分の1以上出席しなければ単位を与られません。ただしこれは最低要件であり、各授業での出席に関する具体的な条件については、シラバスもしくは教員の指示を確認してください。

11 単位認定

(1) 単位認定の種別

- ・ 単位互換講座
- ・ 新1年生の入学時既修得単位
- ・ 編入学
- ・ 転部
- ・ 留学

(2) 単位互換講座

【大学コンソーシアムひょうご神戸】

① 概要

「大学コンソーシアムひょうご神戸」に加盟している大学間で、各大学の立地や特性を活かした魅力ある科目を提供し、単位互換を行っています。

② 本学で認定する単位

「自由選択単位」として卒業必要単位に算入されます。

【神戸高専との科目相互開放】

① 概要

同一法人下の神戸市立工業高等専門学校の一部が本学学生へ特別開放されています。

② 本学で認定する単位

「自由選択単位」として卒業必要単位に算入されます。

※科目によっては、単位認定がされない聴講科目となる場合があります。

(3) 新1年生の入学時既修得単位

① 対象

大学または短期大学等を卒業または中退して通常の試験、あるいは第2部英米学科社会人特別選抜の試験を受けて1年次に入学した者（新1年生という）。

② 本学で認定する単位

- ・ 全学共通科目：8単位まで
- ・ 兼修語学（必修語学）：8単位まで

③ 申請方法

入学時の指定期日に学業成績証明書及び講義概要（シラバス）を添えて単位認定願を教務入試班に提出してください。

(4) 編入学者の既修得単位

【本学卒業後に他学科へ編入する者】

① 対象

本学の一つの学科を卒業した者で、更に他の学科に入学を志願する者（学則第24条第1号該当者）。

② 本学で認定する単位

- ・編入した学年に対応する階程以上の専攻語学を除いた科目を認定します。
- ・本学卒業生が他学科へ編入する場合、以前に在籍した学科の専攻語学は編入後の兼修語学（必修語学）として認定します。

| 認定する科目 | 認定できる単位 |
|--------|----------------------|
| 専攻語学 | 編入した学年に対応する階程未満の単位まで |
| 兼修語学 | 制限なし |
| 学科基礎 | |
| 全学共通 | |
| コース | |
| 自由選択 | |

③ 申請方法

入学時の指定期日に学業成績証明書及び講義概要（シラバス）を添えて単位認定願を教務入試班に提出してください。

【他大学等からの編入学者】

① 対象

他の大学、短期大学又は高等専門学校を卒業した者、および他の大学から転学を志願する者または、法律の規定に基づき大学に編入することができる者（学則第24条第3～5号該当者）。

② 本学で認定する単位

兼修語学（必修語学）8単位、学科基礎科目8単位、全学共通科目16単位（第2部英米学科は全学共通科目12単位＋自由選択単位4単位）をそれぞれ超えない範囲で認定します。

| 認定する科目 | 認定できる単位 |
|--------|---|
| 専攻語学 | 編入した学年に対応する階程未満の単位まで |
| 兼修語学 | 8単位まで |
| 学科基礎 | 8単位まで |
| 全学共通 | 16単位まで (第2部英米学科は12単位＋自由選択単位として4単位まで) |
| コース | 不可 |
| 自由選択 | |

③ 申請方法

入学時の指定期日に学業成績証明書及び講義概要（シラバス）を添えて単位認定願を教務入試班に提出してください。

(5) 転部者の既修得単位

- ① 対象
学則第42条に定める転部試験により、転部した者。
- ② 本学で認定する単位

| 認定する科目 | 認定できる単位 |
|--------|----------------------|
| 専攻語学 | 転部した学年に対応する階程未満の単位まで |
| 兼修語学 | 制限なし |
| 学科基礎 | |
| 全学共通 | |
| コース | |
| 自由選択 | |

- ③ 申請方法
転部時の指定期日に所定の様式により教務入試班へ申請してください。

(6) 留学

- ① 認定科目
留学先で学修した内容と時間に応じて、以下の範囲での単位認定を行います。

| 留学の種別 | 認定する科目 | 認定できる単位 |
|--------------|------------------|---------------------------|
| 交換留学 認定留学 | 専攻語学 | 留学期間に該当する学期に本学で履修予定であった科目 |
| | 研究指導 | |
| スペイン語圏派遣留学 | 全学共通 (人文科学領域) | 「海外派遣留学科目1～4」 (各2単位) |
| 短期派遣留学 | 全学共通 (人文科学領域) | 「海外協定校短期研修1・2」 (各2単位) |

- ② 申請方法
帰国後、速やかに「単位認定申請書」を作成し、申請してください。
- ③ その他
- ・ 交換・認定留学者は兼修語学の成績通算が利用できます。
 - ・ 詳細は、別途国際交流センター、教務入試班よりお知らせします。

(7) 単位認定の上限

単位互換講座、留学による単位認定は34単位を上限としています。(学則第36条2項)

12 交通機関の運休、気象警報等の発令による授業及び定期試験の取扱い

本学では、交通機関の運休又は気象警報等の発令により通学が困難となった場合における授業及び定期試験の実施に関する判断基準を定めています。

(1) 交通機関の運休

以下①～④のいずれかの場合に「交通機関の運休」とみなします。

- ① 神戸市営地下鉄西神・山手線が運休のとき
- ② J R線（大阪－姫路間）、阪急電鉄及び阪神電鉄がすべて運休のとき
- ③ J R線（大阪－姫路間）及び山陽電鉄が共に運休のとき
- ④ J R線（大阪－姫路間）及び神戸電鉄が共に運休のとき

(2) 気象警報の発令

神戸市のいずれかの行政区（東灘区、灘区、中央区、兵庫区、北区、長田区、須磨区、垂水区、西区）に、特別警報又は警報（暴風警報、暴風雪警報、大雪警報のみ）が発令されたとき

※「大雨警報」は対象としませんので注意してください

(3) 避難指示の発令

本学敷地内に避難指示が発令されたとき

(4) 休講・定期試験延期の判断基準

【外国語学部及び大学院】

- ① 午前7時までに運休または気象警報等が解除されたときは、平常どおり実施する。
- ② 午前11時までに解除されたときは、当日の3限から実施する。
- ③ 午前11時までに解除されないときは、授業を休講し、または定期試験を延期する。

【外国語学部第2部】

- ① 午後4時までに運休または気象警報等が解除されたときは、平常どおり実施する。
- ② 午後4時までに解除されないときは、授業を休講し、または定期試験を延期する。

(5) その他

- ① 地震による災害、感染症の発生、その他本学周辺の天候悪化等に伴い本学が危険であると判断する場合には、休講・休校・試験延期等の措置をとることがあります。また、その場合には、本学公式ウェブサイト、ポータルサイト、学内の掲示板等で通知します。
- ② 授業又は定期試験が実施される場合であっても、本学までの経路内で気象警報等が発令される等により通学に危険であると自身で判断した場合は、身の安全を最優先してください。やむを得ない事情により授業を欠席する場合には、「欠席届」を提出することができます。また、定期試験の欠席については、所定の事由に該当する場合は「追試験」を願い出ることができます。

* 「欠席届」及び「追試験」については、本手引の該当ページを参照してください。

13 教育職員免許状の取得

教育職員養成課程（以下、「教職課程」）により教育職員免許状（以下、「教員免許状」）を取得しようとする学生は、「教育職員養成課程の履修に関する規則」に基づいて必要な科目の単位を修得してください。

(1) 資格登録

教職課程を履修するためには説明会に出席し、教職課程の資格登録をすることが必要です。資格登録がされていなければ「教育職員養成課程の履修に関する規則」に定める「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」及び「各教科の指導法」の履修登録ができません。

(2) 履修カルテ

教職課程を履修する学生は「履修カルテ」を作成することが必要です。「履修カルテ」とは、自分が教職課程の授業やそれ以外の活動の中で何を学んだのかをふりかえるための記録です。また、教員の十分な資質を備えるために、今後どのような学習が必要なのかを自分で考える手がかりとするためのものです。

(3) 「教科及び教科の指導法に関する科目」の履修

「教育職員養成課程の履修に関する規程」の別表3に示されているように、所属する学科と取得を希望する免許状の教科にあわせて所定の単位を修得する必要があります。「必修」に指定されている科目全てと、選択科目の単位を修得し、必要な単位数を充足してください。

「英語教育法「第2」1」、「英語教育法「第2」2」（※もしくはロシア語・中国語・イスパニア語の教育法「第2」1・2）については、中学校の教員免許状を取得しようとする学生のみ必修です。

「教科教育法」については、教員免許状を取得しようとする教科についての教育法を履修することが必要です。実習を行なう教科の教育法「第1」1・2については、教育実習の前年度までに修得が必要です。

(4) 「教育の基礎的理解に関する科目」・「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」・「教育実践に関する科目」（以下、「教育の基礎的理解に関する科目等」）の履修

「教育職員養成課程の履修に関する規程」の別表4を参照し、別途示す「履修モデル」を参考に履修してください。本学では、必要修得単位数は中学校では33単位、高等学校では29単位となっています。かなりの負担になりますので、教育職員免許状を取得するためには計画的に履修することが必要です。

「道徳教育の理論と実践」「教育実習2」については、中学校の教員免許状を取得しようとする学生のみ必修です。

(5) 「大学が独自に設定する科目」の履修

教育職員免許法施行規則では、「大学が独自に設定する科目」の必要修得単位数は中学校が4単位、高等学校が12単位となっています。「教育職員養成課程の履修に関する規則」の別表5に掲げた科目の単位のほかに教育職員免許法別表第1に規定する最低修得単位数（「教科及び教科の指導法に関する科目」については1教科につき中学校では28単位、高等学校では24単位、「教育の基礎的理解に関する科目等」については中学校では27単位、高等学校では23単位）を超えて修得した「教科及び教科の指導法に関する科目」及び「教育の基礎的理解に関する科目等」の単位数が、「大学が独自に設定する科目」の単位数に算入されます。

(6) 「免許法施行規則第66条の6に定める科目」の履修

教員免許状を取得するためには、「教育職員養成課程の履修に関する規則」の別表6に定める「免許法施行規則第66条の6に定める科目」の所定の単位もあわせて修得する必要があります。このうち「外国語コミュニケーション」は、学科で必要な専攻語学または兼修語学が該当しますので、特に意識して修得する必要はありません。また「日本国憲法」や「体育」、「数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作」に対応する科目は、卒業に必要な「全学共通科目」に指定されていますので、1年次から計画的に履修するようにしてください。

(7) 介護等体験

中学校の教員免許状を取得しようとする学生は「介護等体験」を行うことが必要です。4年次には教育実習がありますので、2・3年次に行うようにしてください。

(8) 教育実習

教育実習は4年次に行います。教育実習を行う前年度の4月に「教育実習説明会」を実施しますので、必ず出席してください。実習校での教育実習には大きな社会的責任が伴います。安易な気持ちで申込みことや、自己都合で実習を辞退することのないようにしてください。

教育実習を行うには、教育実習の前年度までに満たすべき条件があります。

【教育実習の前年度までに修得しておかなければならない科目・単位】

◆中学校の教員免許状を取得しようとする場合…「教育の基礎的理解に関する科目等」の10単位以上（「道徳教育の理論と実践」は必ず修得すること）+実習教科の教育法「第1」1・2の4単位

◆高等学校の教員免許状のみを取得しようとする場合…「教育の基礎的理解に関する科目等」の8単位以上+実習教科の教育法「第1」1・2の4単位

前年度までにこれらの条件を満たせなかった場合は、教育実習を辞退することになります。十分に注意してください。

「英語教育法「第1」1・2」を履修するためには、英語運用能力の指標として、TOEIC 650点以上、TOEFL PBT 520点以上、TOEFL CBT 190点以上、TOEFL iBT 68点以上（TOEIC, TOEFLについては過去3年以内に取得したものに限り）、英検準1級以上、IELTS5.5以上のいずれかのスコアを提出する必要があります。

(9) ロシア学科・中国学科・イスパニア学科の学生の「英語」の免許取得

ロシア学科・中国学科・イスパニア学科の学生は、英米学科の学科基礎科目や語学文学コース科目等を履修して単位を修得することで「英語」の免許を取得することができます。卒業に必要な単位に加え、多くの授業科目を履修することになりますので、1年次から計画的に履修することが求められます。場合によっては4年間では履修しきれない可能性もありますので、注意が必要です。

(10) 神戸教育インターンシップ

教員免許状を取得しようとする学生は、全学共通科目（自然・人間科学領域）の「神戸・教育インターンシップ1・2・3」をできるだけ履修するようにしてください。

(11) 教職サロン

学舎1階には、教職志望の学生を支援するための「教職サロン」があります。プロジェクターや黒板、机、いすを配置した模擬授業のためのスペースと、仲間同士の交流のためのサロンのようなスペースの両方を備え、教職セミナー等に利用されています。各種教科書や教員採用試験対策本、先輩達の残した指導案、教育委員会の採用試験情報等も閲覧可能です。情報収集や交流の場として、ぜひ活用してください。

(12) 教職勉強会

教職サロンは教職を志す学生たちの自発的学習グループである「教職勉強会」の拠点としても利用されています。この「教職勉強会」は、教員になるための資質を高めることを目的として、模擬授業、教員採用試験対策、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を中心に、週1～2回開催され、楽しく活動しています。ぜひ参加してください。

14 小学校教員免許状の取得

神戸親和大学通信教育部との提携プログラムにより、本学（大学院含む）に在籍しながら神戸親和大学通信教育部の科目等履修生になり、必要な単位を修得することで、小学校教員免許状（1種）を取得することができます。希望者は、1年次の冬に開催される説明会に参加してください。

※注意事項

- ・このプログラムには別途費用（約50万円）が必要です。
- ・原則として2年次から3年間のプログラムですが、3年次以上でも履修可能な場合がありますので教職課程担当に相談してください。
- ・本学で中学校又は高等学校の教員免許状を取得することが前提となります。

15 司書課程の履修**(1) 趣旨**

外国語の能力に優れた図書館のスペシャリストを養成し、本学学生が一層幅広く社会で活躍することを願い、司書課程が設置されています。

(2) 司書課程科目

卒業に必要な単位に加え、「司書課程に関する履修規則」に定められた司書課程科目15科目26単位全てを修得すれば、図書館法第5条に定められている司書の資格が与えられます。

(3) 司書課程の履修

司書課程を履修するためには司書課程の資格登録をすることが必要です。資格登録がされていなければ、司書課程科目の履修登録はできません。司書課程を履修しようとする学生は、4月に「履修説明会」がありますので、必ず参加してください。司書課程科目は3・4年生を対象に設けられていますが、ご自身の履修計画に余裕があれば、2年生以下でも履修することができます。また、司書課程科目は第2部に開講されていますが、学部の学生も受講することができます。

(4) 司書課程修了証書の発行

司書課程科目全ての単位を修得すれば、卒業時に司書課程修了証書を取得できます。希望者は教務入試班で申込みをしてください。申込みの時期はGAIDAI PASSでお知らせします。

16 学校図書館司書教諭課程の履修

(1) 趣旨

学校図書館法の改正に伴う学校図書館の再評価と、その担当者としての司書教諭に対する重要性の認識のもとに、将来教職を目指す本学学生を対象として、学校図書館司書教諭課程を設置しています。

(2) 学校図書館司書教諭課程科目

本学においては文部科学大臣の認定を受けて、大学における科目の単位を司書教諭講習の科目の単位に相当するものとして、司書教諭課程を開設しています。本学の「学校図書館司書教諭課程に関する履修規則」に定められた課程科目の単位を全て修得したのち、司書教諭講習実施大学である放送大学の「学校図書館司書教諭講習」に申込み手続きをし（別途費用が必要）、単位を読替えることで、放送大学より1年後の3月下旬に修了証書が送られます。申込み条件等の詳細については、教務入試班にお問い合わせください。申込みの時期はGAIDAI PASSでお知らせします。

Ⅱ 履修の指針

II 履修の指針

この章では、本学のディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシー、それに基づく各学科の履修科目・履修方法について説明します。また、進級要件や卒業要件等について記載します。

1 神戸市外国語大学の人材育成目標

神戸市外国語大学外国語学部は、専攻する言語の高度な運用能力と、その言語の背後に広がる文化や社会に関する深い知識の習得に加え、言語・文学、法律・政治、経済・経営、文化などの多様な専門領域を学ぶことにより養われる複眼的思考力と、他者への理解に基づく他者との協調性を備えた、国際的視野を持って活躍できる「行動する国際人」を育成することを目的としています。

2 ディプロマ・ポリシー

本学では、次のような資質を持つ「行動する国際人」に学位（※英米・ロシア・中国・イスパニア・第2部英米学科においては「学士（外国学）」、国際関係学科においては「学士（国際関係学）」）を授与します。

【外国語学部】

| | | ディプロマ・ポリシー |
|---|------------|---|
| 1 | 能動的に学ぶ力 | 世界で活躍する人間にふさわしいリテラシーや倫理を備え、多様な背景を持つ人々と協働する力を身につけている |
| 2 | 世界の多様性を観る力 | 国際的な視点を持って、多様な文化や社会を理解する力を身につけている |
| 3 | 高度な外国語運用能力 | 高度で柔軟な外国語運用能力を身につけている |
| | 英米学科 | 歴史・文化・言語学的背景に基づいて英語を理解するとともに、自らの学問的関心の追求に適した高度な運用能力を身につけている |
| | ロシア学科 | 自らの目的や課題のために必要な情報や知識を獲得し、自らの意見を効果的に表現できるロシア語の総合的運用能力を身につけている |
| | 中国学科 | 中国語圏の多様な言語・文化・社会状況への理解に裏打ちされた、時代の変化や地域的特性に柔軟に対応できる総合的な中国語運用能力を身につけている |
| | イスパニア学科 | 歴史的・文化的背景に基づいて情報を的確に理解するとともに、自らの見解を効果的に発信するイスパニア語の能力を身につけている |
| | 国際関係学科 | 批判的・客観的な国際感覚に基づいた、国際社会で通用する英語の運用能力と自己表現力を身につけている |
| 4 | 専門的思考力・表現力 | 体系的な学問習得により、自らの考えをまとめる思考力と表現力を身につけている |
| | 語学文学コース | 専攻する地域の言語・文学・文化について十分な認識を持っている。複眼的な思考力を身につけている |
| | 国際法政コース | 歴史的背景や社会的文脈を理解した上で、現代の国際社会が抱える諸問題に向き合うことができる |
| | 経済経営コース | 経済学、経営学、または商学を体系的に習得し、自身の関心のある問題に応用できる能力を身につけている |
| | 多文化共生コース | 多様なバックグラウンドを持つ人々との共生を図るための行動力を身につけている |
| | リベラルアーツコース | 人文学・社会科学・自然科学などリベラルアーツの根幹となる諸分野を理解している |

| | | |
|---|---------------------|---|
| 5 | グローバル化された社会で行動し生きる力 | 課題の発見・分析・解決に導く複眼的思考力をもち、積極的に世界に向き合う姿勢を身につけている |
|---|---------------------|---|

【第2部英米学科】

| ディプロマ・ポリシー | | |
|------------|---------------------|--|
| 1 | 能動的に学ぶ力 | 世界で活躍する人間にふさわしいリテラシーや倫理を備え、多様な背景を持つ人々と協働する力を身につけている |
| 2 | 世界の多様性を観る力 | 国際的な視点を持って、多様な文化や社会を理解する力を身につけている |
| 3 | 高度な外国語運用能力 | 高度で柔軟な外国語運用能力を身につけている |
| | 第2部英米学科 | 歴史・文化・言語学的背景に基づいて英語を理解するとともに、自らの学問的関心の追求に適した高度な運用能力を身につけている。 |
| 4 | 専門的思考力・表現力 | 体系的な学問習得により、自らの考えをまとめる思考力と表現力を身につけている |
| | 英語学・英語研究コース | 英語の人間・社会・文化に対する関わりを深く理解しており、英語学・英語教育学の観点からことばや教育に関する諸問題を分析する力を身につけている。 |
| | 英語圏文化文学コース | 英語圏の文化・社会・文学について深い認識があり、文学研究や文化研究の観点からことばや文化表象の問題について分析する力を身につけている。 |
| | 法経商コース | 法学・経済学・経営学・商学の視点から現代の諸問題を分析する力を身につけている。 |
| 5 | グローバル化された社会で行動し生きる力 | 課題の発見・分析・解決に導く複眼的思考力をもち、積極的に世界に向き合う姿勢を身につけている |

3 カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーが定める5つの資質は以下のように関係づけられます。

「1. 能動的に学ぶ力」と「2. 世界の多様性を観る力」は、本学の学びを基礎づける資質となります。この基礎の上に「3. 高度な外国語運用能力」と「4. 専門的思考力・表現力」という複眼的な資質を養うことを目指します。これら4つの資質に基づいて「5. グローバル化された社会で行動し生きる力」を養成し、「行動する国際人」の育成を図ります。

この考え方に基づいて、カリキュラム・ポリシーではディプロマ・ポリシーで定める5つの資質の育成に主として寄与する科目群を策定するとともに、別に定めるカリキュラム・マップを通じて各授業科目がどのような資質の育成を図ろうとするかを明示することにより、体系性を持った教育課程を編成します。

教育内容：

1. 「能動的に学ぶ力」をもち、世界で活躍できる人間に必要なリテラシーや倫理を獲得するために、多様な学問分野から成る「全学共通科目」に加えて「高大接続科目」を配置し、大学での学びの基盤を養うとともに、ものの見方の多様性への理解を促します。
2. 学科に「学科基礎科目」を配置して各専攻言語のみならず背後にある文化や社会に対する理解を深め、「世界の多様性を観る力」を養います。また、専攻する言語の他に、もう一つ別の外国語を修得する「兼修語学」科目を体系的に提供します。兼修語学では、他人の意見を理解し自分の意見を表明することができる能力を身につけさせるとともに、専攻する言語との対照を通じて複眼的な思考を養います。

3. 「高度な外国語運用能力」を獲得させるために、「専攻語学」科目を体系的に提供します。開講するすべての授業科目をそれぞれのレベルに応じて4つの階程の中に位置づけ、段階的に学修を進めます。各学科のカリキュラム・ポリシーについては学科ごとに後述します。

4. 外国語学部英米学科、ロシア学科、中国学科、イスパニア学科では、2年次から5つのコースのいずれかに所属して専門的な科目を学びます。高度な外国語運用能力に加えて、体系的な学問習得により柔軟かつ論理的な思考力と精緻な表現力を身につけます。

国際関係学科では、専門教育における学際性をより重視し、2年次から4つのコースのうち、1つを主専攻、もう1つを副専攻とし、2つの専攻分野の知見をもとに国際問題を複数の視点から観察、分析し、思考する力を身につけます。さらに、第2部英米学科では、3年次から3つのコースに分かれて専門的な科目を学びます。

また、コースを横断する形で開講されるテーマ研究プログラムでは、学生は各自の希望やニーズに応じて、特定のテーマ・分野についての理解を深めることを目指します。

【外国語学部】

語学文学コース

語学文学コースでは、英語、ロシア、中国、イスパニアの各言語圏における言語、文学、文化に関して、体系的かつ多様な授業を開講し、これらの分野についての十分な専門的知識を養うとともに、柔軟な言語運用能力と複眼的な批判的思考力の養成を行います。

国際法政コース

国際法政コースでは、国際関係論、政治学、法学、地域研究などの研究領域を踏まえながら、国家間の反目や衝突、民族問題、排外主義思想など、様々な政治的な緊張や対立に向き合い、国際社会、国家、民間組織、個人として如何に対処し解決を導くのか、政治体制や法、理念・思想などの問題として考察することを促します。また、このなかで、国際平和秩序の形成に必要な構想力を培います。

経済経営コース

経済経営コースでは、経済学・経営学・商学の分野について学生の問題意識を広げ、深めることを可能にするため、ミクロ経済学、マクロ経済学、経営学、会計学及びそれに関連する授業を段階的・体系的に開講し、経済経営の視点から現代の諸問題を分析する力を養います。そのことを通じて、自らの考えを体系的にまとめ、広い国際的視野に立って活躍しうる人材の養成を図ります。

多文化共生コース

多文化共生コースでは、異なる価値観の共生が可能な社会の構築に向けた実践力を養うことを目指します。移民やLGBTQ、宗教的マイノリティ、異文化理解などについて分野横断的に学び、複眼的な視点を身につけることで、多様な価値をつむぐために他者と協働する能力を磨きます。

リベラルアーツコース

リベラルアーツコースでは、哲学・社会学・心理学・言語学・歴史学・教育学・情報科学・自然科学・スポーツ文化論などの多様な学問体系を体系的・専門的に深く学ぶことを通じて、幅広い教養と自由で豊かな発想力、そして次代を切り開く新たな価値を創造する力を養成します。

【第2部英米学科】

英語学・英語研究コース

英語学・英語研究コースでは、英語学、応用言語学、英語教育学などの分野に関して英語をより深く理解することを目的とした体系的かつ多様な授業を開講し、これらの分野についての十分な専門的知識を身につけさせるとともに、柔軟な言語運用能力と複眼的な批判的思考力の養成を行います。

英語圏文化文学コース

英語圏文化文学コースでは、英語圏の文化、社会、文学などの分野に関して、ことばとその背後にある文化や社会をより深く理解することを目的とした体系的かつ多様な授業を開講し、これらの分野についての十分な専門的知識を身につけさせるとともに、柔軟な言語運用能力と複眼的な批判的思考力の養成を行います。

法経商コース

法経商コースでは、社会人として国際的な場で活躍できるよう、法学・経済学・経営学・商学の分野についての理論的・実践的な授業を提供し、学生の問題意識を広げ、深めます。そのことを通して、社会がどのような仕組みで動いているのかを理解し、法学及び経済経営の視点から現代の諸問題を分析でき、広い視野に立って活躍しうる人材の養成を図ります。

5. 各自の学びの経験に基づいて自ら課題を発見し、学術的基盤に立った論理的な分析を行うことを通じてその課題の解決を図るため、2年間にわたるゼミ形式の「研究指導」を配置し、世界を俯瞰する視点と世界に向き合う姿勢を養います。

4 カリキュラム・マップ

カリキュラム・マップは、授業科目と教育目標の関係を示した表のことです。

ディプロマ・ポリシーに基づき、各学部・学科で開講されている科目が、卒業までに身につけるべき能力のどの項目と関連するのか、また学修成果の目標を達成するためにどの授業科目が寄与するかを示す、カリキュラム・ポリシーを体系的に表現したものです。

神戸市外国語大学のカリキュラム・マップについては下表を参照してください。

【科目分類による基本DP（学部・第2部）】

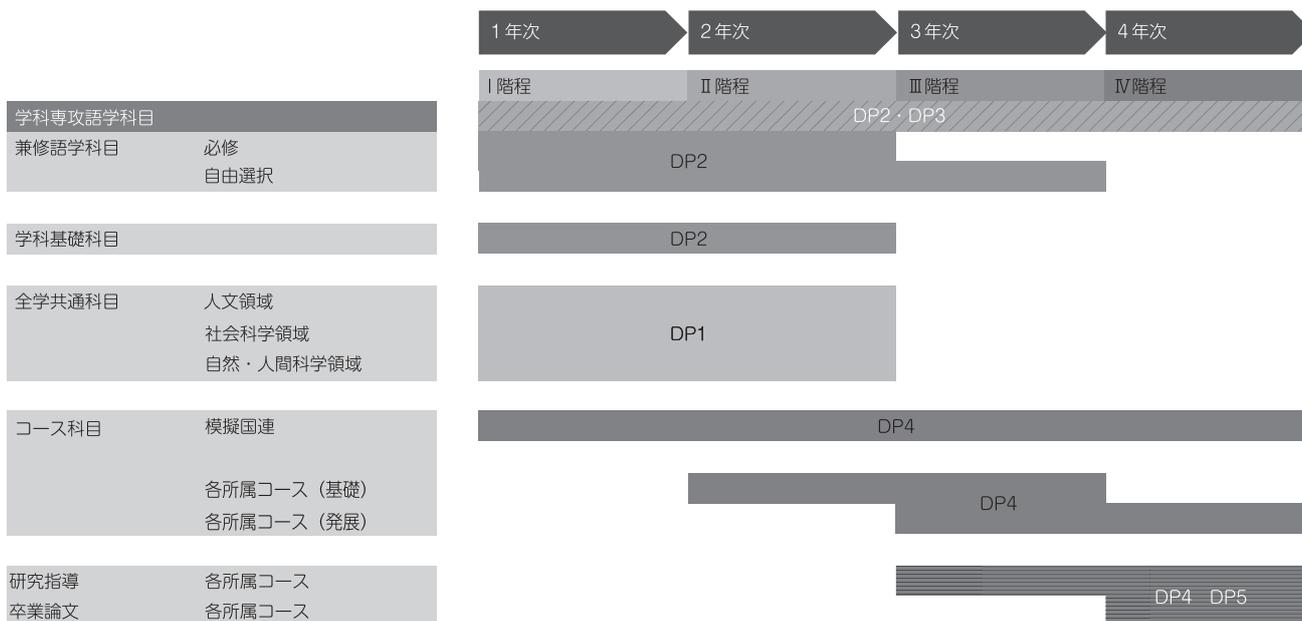
DPとはディプロマ・ポリシーのことです。

DPの詳細については、ディプロマポリシーの項目を参照してください。

| 科目分類 | 基本DP（関連するDP） |
|-------------------|--------------|
| 専攻語学 | DP2・DP3 |
| 兼修語学（必修語学） | DP2 |
| 兼修語学（自由選択語学） | DP2 |
| 学科基礎科目 | DP2 |
| 全学共通科目（人文領域） | DP1 |
| 全学共通科目（社会科学領域） | DP1 |
| 全学共通科目（自然・人間科学領域） | DP1 |
| コース科目 | DP4 |
| 研究指導 | DP4・DP5 |
| 卒業論文 | DP4・DP5 |
| 課程科目 | — |

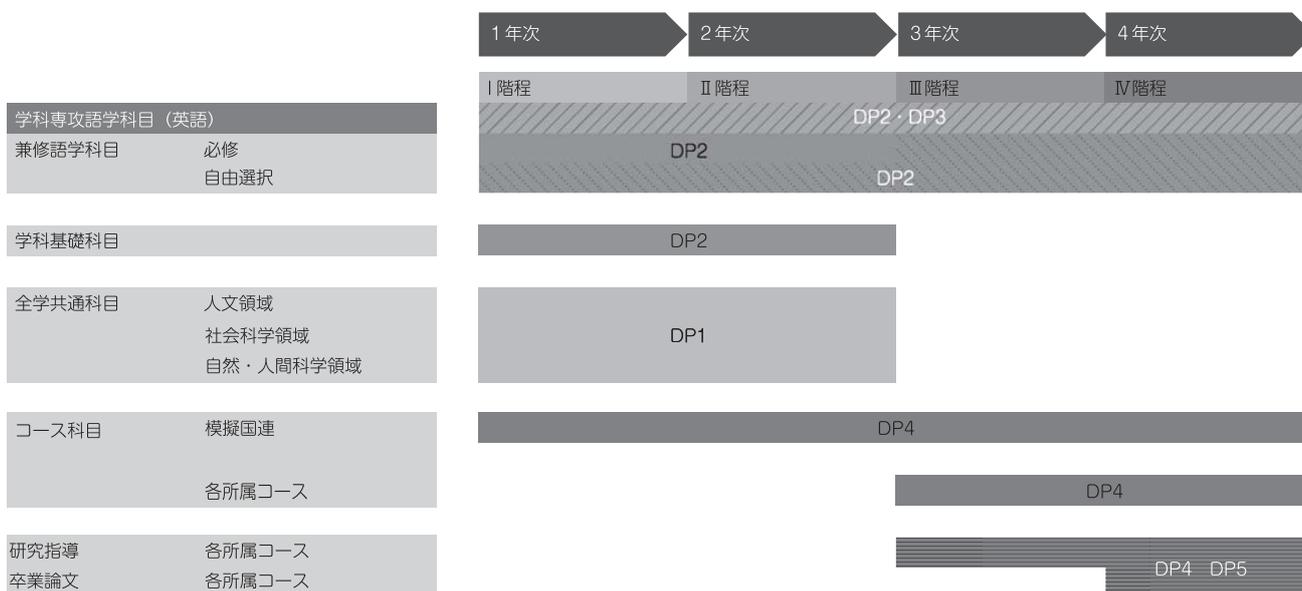
＜英米・ロシア・中国・イスパニア・国際関係学科＞カリキュラム・マップ

※下記マップは概要のため、各科目の詳細については、シラバスで確認すること



＜第2部英米学科＞カリキュラム・マップ

※下記マップは概要のため、各科目の詳細については、シラバスで確認すること



5 科目ナンバリング

科目ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みのことです。授業科目個々の学問的位置づけを示すことにより、みなさんの計画的な学修への一助とすることを目的としています。

分野と年次に対応して各科目に付番することで分野、授業レベルが明確になり、順序立てて授業を選択することができ、体系的な履修計画を立てることができます。

また、単位修得してきた科目のコードを見ることで、自身がこれまでどの学問分野を履修し、その科目がどのレベルのものであるか等の学修状況が分かるようになることが期待されます。さらには、科目ナンバリングはアメリカのほとんどの大学で導入されており、海外の大学への留学時の活用にも期待されます。

各々の授業の科目ナンバリングは、シラバスに記載されていますので、シラバスをご確認ください。

コード体系

本学の科目ナンバリングは下記のとおりコード体系となっています。

- 分科 — 科目の学問分野を表します
- 水準 — 当該授業の授業レベルを表します
- 授業コード — 各々の授業に付されているコードです

例) 21110010 専攻英語 I 講読 [1] (短編小説) A の場合

| | | | | |
|-----------------|---|--------------|---|-------------------------|
| 分科 | — | 水準 | — | 授業コード |
| LAN 言語 | — | 10 専攻英語 I | — | 21110010 講読[1](短編小説) |
| LAN-10-21110010 | | | | |

| 分 科 | | |
|-------------|-----|----|
| 言語 | LAN | *1 |
| 情報学 | INF | |
| 地域研究 | ARS | |
| ジェンダー | GDE | |
| 哲学 | PHI | |
| 芸術学 | ART | |
| 文学 | LIT | |
| 言語学 | LIN | |
| 史学 | HIS | |
| 文化人類学 | CAN | |
| 法学 | LAW | |
| 政治学 | POL | |
| 経済学 | ECO | |
| 経営学 | MAN | |
| 社会学 | SOC | |
| 心理学 | PSY | |
| 教育学 | EDU | |
| 数学 | MAT | |
| 天文学 | AST | |
| 健康・スポーツ科学 | HSS | |
| 物理学 | PHY | |
| 科学社会学・科学技術史 | SHS | |
| 協定大学関連科目 | EXC | |
| 研究指導（ゼミ） | SEM | |
| 卒業論文 | THE | |

*1 専攻語学, 兼修語学, DELE対策演習 など

| 水準 | | |
|--------------------|--------|-------|
| 専攻語学 | I 階程 | 10 |
| | II 階程 | 20 |
| | III 階程 | 30 |
| | IV 階程 | 40 |
| 兼修語学 | I 階程 | 10 |
| | II 階程 | 20 |
| | III 階程 | 30 |
| | 自由選択語学 | 10/20 |
| 学科基礎科目 | | 15 |
| 全学共通科目 | | 15 |
| コース科目（基礎） | | 25 |
| コース科目（発展） | | 35 |
| 研究指導 3年／卒業論文指導「第1」 | | 30 |
| 研究指導 4年／卒業論文指導「第2」 | | 40 |
| 卒業論文 | | 40 |
| 課程科目 | | 90 |

*2 学科基礎科目, 全学共通科目→1・2年次で履修想定

コース科目（基礎）→2・3年次で履修想定

コース科目（発展）→3・4年次で履修想定

| | | | |
|------------------|---|----|--|
| 兼修語学 (自由選択語学) | 科目等履修 一般課程 | 10 | |
| | ※イタリア語 I, ポルトガル語 I, インドネシア語 朝鮮語 I, エスペラント語, 東洋諸語, 東欧諸語 | | |
| | 科目等履修 語学課程 | 20 | |
| | ※イタリア語 II, ポルトガル語 II, 朝鮮語 II | | |

6 カリキュラム概要

4年間の学びのイメージは図のとおりです。

カリキュラム概要 ~4年間の学び~



3年次

専攻語学、及び2年次に選択したコース科目を引き続き履修します。また、3年次からゼミナール(研究指導)が始まります。さらに多くの言語を学ぶ意欲に応えるために自由選択語学を履修することもできます。

第2部英米学科では、3年次に「英語学・英語研究」「英語圏文化文学」「法経商」の3つのコースから1つを選択し、それぞれに設けられた科目を履修します。

4年次

専攻語学を引き続き履修し、3年次から所属するゼミナール(研究指導)で卒業論文執筆等の指導を受けます。

| | | |
|------|--|--|
| 専攻語学 | 英米学科 英語 Ⅲ階程(3年次) ○本格的な英米文学作品や英語による研究書を理解 ○英語を用いて専門的な議論を行う能力を養成 Ⅳ階程(4年次) ○英語での論文作成を可能にする発信能力を身につける | ロシア学科 ロシア語 Ⅲ階程(3年次) ○テキスト講読で得た知識を作文と会話の授業で実際に使用 Ⅳ階程(4年次) ○より高度なテキストの講読 ○対話のみならず、人前で自分の意見を述べる練習 |
| | 中国学科 中国語 Ⅲ階程(3年次) ○より高度な短編小説、散文、映画・文芸評論などを精読し、日常会話以上のきめ細かな表現力を養成 ○古典に触れ、中国文化の奥深さを探求 Ⅳ階程(4年次) ○本格的な翻訳能力、豊かできめ細かな表現力の養成 | イスパニア学科 スペイン語 Ⅲ階程(3年次) ○時事問題なども取り上げながら、より幅広い分野での言語の理解に努める Ⅳ階程(4年次) ○歴史的、文化的な背景知識に基づいて情報を理解 ○みずからの見解を効果的に発信するための能力を身につける |
| | 国際関係学科 英語 Ⅲ階程(3年次) ○各種英語文献、ニュースを通じて、世界の問題を様々な角度から検討、議論し発表する Ⅳ階程(4年次) ○自身の意見を理路整然と構成し、それを効果的に伝える総合的な自己表現能力を養成 | 第2部英米学科 英語 Ⅲ階程(3年次) ○本格的な英米文学作品や英語による研究書を理解 ○英語を用いて専門的な議論を行う能力を養成 Ⅳ階程(4年次) ○英語での論文作成を可能にする発信能力を身につける |

| | | | |
|--|---|--|---|
| コース選択と開講科目 | 英米学科 語学文学コース ※国際関係学科は除く 他 | 英米学科 ・イギリス文学特殊講義 ・英語文学・文化研究演習 ・統語論講義 | ロシア学科 ・ロシアの文学と思想 ・ロシア語語彙・文法研究 ・ロシア語コミュニケーション演習 他 |
| | ロシア学科 中国語学コース 他 | 中国学科 ・中国文学特殊講義 ・中国語学特殊講義 ・中国語学演習 | イスパニア学科 ・イスパニア文学特殊講義 ・イスパニア語学特殊講義 ・イスパニア語学演習 他 |
| | 中国学科 国際法政コース 民法/政治学/国際政治学/国際法「基本」/アジア国際関係史/アメリカ政治 アフリカ政治/国際取引法/行政法/途上国地域社会論/ヨーロッパ政治 他 | | |
| | イスパニア学科 経済経営コース ミクロ経済学/マクロ経済学/経営学/簿記原理/統計学/経済学演習 会計学/マーケティング論/国際金融論/財政学/計量経済学 他 | | |
| | 国際関係学科 多文化共生コース 言語文化の多様性とアジア/移民社会論/コミュニケーション論/朝鮮文化論 民族誌学/社会調査分析/出版と編集/言語と文化 他 | | |
| | 国際関係学科 リベラルアーツコース 哲学/社会学/中欧文化史/フランス文化論/東洋史/日本史/スポーツ文化論 言語学研究/日本文化研究/西洋古典学 他 | | |
| 第2部英米学科 英語学・英語研究コース 統語論講義/意味論講義/英語学特殊講義/英語学研究演習/応用言語学 他 英語圏文化文学コース 英語文学・文化特殊講義/英語圏文学特殊講義/英米文学と社会/現代の思想と文化 他 法経商コース 民法/商法/政治学/経営学/会計学/商業英語/国際法「基本」 他 | | | |

ゼミナール 研究指導・卒業論文

7 英米学科

卒業必要単位（124単位）を満たすには以下のA～Gのグループから（ ）内に示されている単位数を最低限度として修得する必要があります。【別表 英米学科履修科目参照】

A. 専攻語学（44単位）

(1) 専攻語学のカリキュラムポリシー

I・II階程では、講読・発音・文法・作文・会話等の演習を通して英語の運用能力を能動的に培うとともに、英語圏の文学・文化・歴史・社会・言語についての教養を身につけます。III・IV階程では、本学で提供されているコースでの研究に不可欠な、より高度な英語の受信・発信能力を養います。

(2) カリキュラムの概要

英米学科の専攻英語科目は下記のように体系化されています。

□ カリキュラム構成（科目表）

| 扱う技能 | | I 階程 | II 階程 | III 階程 | IV 階程 |
|-----------|--------------------|---|--|---|---------------------------------------|
| 受信する／わかる | 聞く | ・会話 ・発音 | ・会話 ・総合英語コミュニケーション | ・会話 ・総合英語[2](コミュニケーション) | |
| | 読む | ・文法 ・講読[1]（短編小説） ・講読[2]（メディア英語基礎） ・講読[3]（戯曲） | ・講読[1]（小説） ・講読[2]（英語学入門） ・講読[3]（詩） | ・講読[1]（文学） ・講読[2]（英語学基礎） ・講読[3] ・総合英語[1]（文学） | ・講読[1]（文学） ・講読[2]（英語学発展） ・講読[3] |
| 発信する／つたえる | 話す | ・会話 ・発音 | ・会話 ・総合英語コミュニケーション | ・会話 ・総合英語[2](コミュニケーション) | |
| | 書く | ・作文 ・文法 | ・作文 ・総合英語コミュニケーション | ・総合英語[2](コミュニケーション) | ・作文 |
| 媒介する／こなす | Mediating texts | ・講読[1]（短編小説） ・講読[3]（戯曲） | ・講読[1]（小説） ・講読[2]（英語学入門） ・講読[3]（詩） | ・講読[1]（文学） ・講読[2]（英語学基礎） ・講読[3] ・総合英語[1]（文学） | ・講読[1]（文学） ・講読[2]（英語学発展） ・講読[3] |
| | Mediating concepts | ・会話 | ・会話 ・総合英語コミュニケーション | ・会話 ・総合英語[2](コミュニケーション) | |
| 探求する／さぐる | | ・講読[1]（短編小説） ・講読[2]（メディア英語基礎） ・講読[3]（戯曲） | ・講読[1]（小説） ・講読[2]（英語学入門） ・講読[3]（詩） | ・講読[1]（文学） ・講読[2]（英語学基礎） ・講読[3] ・総合英語[1]（文学） | ・講読[1]（文学） ・講読[2]（英語学発展） ・講読[3] |

※網掛けの科目はネイティブ・スピーカーの教員が担当します。

- 英米学科および第2部英米学科では、高校までの暗記や和訳を中心とした英語学習の習慣を脱し、「専門研究のための／としての英語」を習得することを目標としています。
- I・II階程では、講読で多様なジャンルの英語に触れるとともに、発音、文法、作文、会話を通して英語の基本的な運用能力を身につけます。また、辞書（とくに英英辞書）や視聴覚教材を活用して、英語で理解し、考え、意見を述べるための方法を学びます。
- III・IV階程では、各自の関心を専門研究として追求する際に求められる英語についての高度な知識と運用能力を獲得することが目標です。

(3) 階程ごとの到達目標

● I 階程

- 聞く：関心のある話題についての会話、放送、講義の内容を理解できる。
- 読む：多様なジャンルの比較的短い英語文章を、文構造および内容を正確に把握しながら読める。
- 話す：身近な話題について、英語でやや長い会話を適切な発音で続けられる。
- 書く：パラグラフの基本的な構造や特徴を理解した上で英語の文章を書ける。
- 媒介する：多様なジャンルの英文を翻訳したり、簡単な概念や知識を他者に英語で説明できる。
- 探求する：英語圏の社会・文化・歴史に関する基本的な知識を身につける。

● II 階程

- 聞く：比較的ゆっくりと明瞭な発音で話してもらえれば、なじみのない話題についての会話、放送、講義の内容を理解できる。
- 読む：多様なジャンルの比較的長い英語文章を、文構造および内容を正確に把握しながら読める。
- 話す：様々な学術分野や時事的な事柄について、英語で長い会話を続けることができる。また、自ら質問を行ったり、自身の主張を根拠とともに展開したりできる。
- 書く：一般的な話題についてエッセイを書ける。また、他人のアイディアや文章を適切に引用、参照しながら情報を伝えられる。
- 媒介する：様々な学術分野や時事的な事柄に関する基本的な概念や知識を他者に理解できる形で説明できる。
- 探求する：様々な学術分野や時事的な事柄を理解するために必要な英語圏の社会・文化・歴史に関する基本的な知識を身につける。

● III 階程

- 聞く：明瞭な発音で話してもらえれば、なじみのない話題についての会話、放送、講義の内容を理解できる。
- 読む：様々な分野の基本的な学術書や文学作品等を、文構造および内容を正確に把握しながら読める。
- 話す：様々な学術分野や時事的な事柄について、英語で能動的に議論し発表できる。また、非字義的な表現の理解等、英語で高度なコミュニケーションを行うためのスキルを身につける。
- 書く：他人のアイディアや文章を適切に引用・参照し、明瞭かつ詳細に自身の考えを論じられる。また、様々な話題について、適切な語彙や文法表現を用いて論じられる。
- 媒介する：様々な学術分野や時事的な事柄に関する専門的な概念や知識を他者に理解できる形で説明できる。
- 探求する：様々な学術分野や時事的な事柄に関する高度な英文を理解するために必要な英語圏の社会・文化・歴史に関する基本的な知識を身につける。

● IV 階程

- 読む：様々な分野の専門的な学術書や文学作品等を、文構造および内容を正確に把握しながら読める。
- 書く：様々な話題について、I～IV階程で身につけた知識・技能を用いながら論文や報告書、エッセイ等を書ける。
- 探求する：様々な学術分野や時事的な事柄に関して、豊富な知識を必要とする高度な英文を理解するため

に必要な英語圏の社会・文化・歴史に関する基本的な知識を身につける。

(4) 科目数と履修単位

- ・ 1年次はⅠ階程の7科目(12単位)(発音・文法はそれぞれ半期1単位)、2年次はⅡ階程の6科目(12単位)を履修します。
- ・ 3年次はⅢ階程の講読2科目(8単位)と会話1科目(4単位)の合計3科目(12単位)を選択し、履修します。
- ・ Ⅲ階程で選択する講読については同じ科目から2つを選択することはできません。
[例：講読[1]-G1と講読[1]-G3の選択は不可、講読[1]-G1と講読[2]-G1の選択は可]
- ・ 4年次はⅣ階程の講読1科目(4単位)と作文1科目(4単位)の合計2科目(8単位)を選択し履修します。
- ・ 各年度に修得する専攻英語の単位数は12単位を超えることができません。

(5) 進級条件と再履修

<進級条件表>

| 進級内容 | 条件(進級には全条件を満たす必要があります) |
|-------|--|
| 1年⇒2年 | 専攻英語Ⅰ階程12単位のうち8単位以上を修得 |
| 2年⇒3年 | 専攻英語Ⅰ階程12単位を全て修得 専攻英語Ⅱ階程12単位のうち8単位以上を修得 |
| 3年⇒4年 | 専攻英語Ⅱ階程12単位を全て修得 専攻英語Ⅲ階程12単位のうち8単位以上を修得 |

① 2年への進級と再履修

- Ⅰ階程の科目のうち8単位以上を修得すれば、翌年度2年に進級します。その場合、Ⅰ階程で修得できなかった科目があれば、翌年度にⅡ階程の科目とともに再履修します。Ⅱ階程の科目は、本来の6科目(12単位)から再履修の単位数を差し引いた残りの単位数分の科目を履修します。
- Ⅰ階程の科目のうち修得できた単位が8単位未満の場合は留年とします。その場合、Ⅰ階程で修得できなかった科目を翌年度に再履修します。ただし、再履修の科目の単位数を12単位から差し引いた残りの単位数分を、Ⅱ階程の科目から履修することができます。

<Ⅰ階程の再履修とⅡ階程履修可能単位数>

| 区分 | Ⅰ階程で取得できた単位数 | Ⅰ階程の再履修単位数 | Ⅱ階程の履修可能単位数 |
|----|--------------|------------|-------------|
| 留年 | 0(1)単位 | 12(11)単位 | 履修不可 |
| | 2(3)単位 | 10(9)単位 | 2単位[1科目] |
| | 4(5)単位 | 8(7)単位 | 4単位[2科目] |
| | 6(7)単位 | 6(5)単位 | 6単位[3科目] |
| 進級 | 8(9)単位 | 4(3)単位 | 8単位[4科目] |
| | 10(11)単位 | 2(1)単位 | 10単位[5科目] |

② 3年への進級と再履修

- a. I 階程の全科目（12単位）を修得し、かつ II 階程の科目のうち 4 科目（8 単位）以上を修得すれば、翌年度 3 年に進級します。その場合、II 階程で修得できなかった科目があれば、翌年度に III 階程の科目とともに、再履修します。III 階程の科目は、本来の 3 科目（12 単位）から再履修の単位数を差し引いた残りの単位数分の科目を履修します。
- b. II 階程の科目のうち修得できた単位が 8 単位未満、あるいは I 階程の科目を全て修得できていない場合は留年とします。その場合、I 階程あるいは II 階程で修得できなかった科目を、翌年度に再履修します。
- c. 3 年に進級できなかった場合、III 階程の科目は履修できません。

< II 階程の再履修と III 階程履修可能単位数 >

| 区分 | II 階程で取得できた単位数 | II 階程の再履修単位数 | III 階程の履修可能単位数 |
|----|----------------|---------------|----------------|
| 留年 | 0 単位 [0 科目] | 12 単位 [6 科目] | 履修不可 |
| | 2 単位 [1 科目] | 10 単位 [5 科目] | 履修不可 |
| | 4 単位 [2 科目] | 8 単位 [4 科目] | 履修不可 |
| | 6 単位 [3 科目] | 6 単位 [3 科目] | 履修不可 |
| 進級 | 8 単位 [4 科目] | 4 単位 [2 科目] | 8 単位 [2 科目] |
| | 10 単位 [5 科目] | 2 単位 [1 科目] | 8 単位 [2 科目] |

③ 4年への進級と再履修

- a. II 階程の全科目（12単位）を修得し、かつ III 階程の科目のうち 2 科目（8 単位）を修得すれば、翌年度 4 年に進級します。その場合、III 階程で修得できなかった科目があれば、翌年度に IV 階程の科目とともに再履修します。
- b. III 階程の科目のうち修得できた単位が 8 単位未満、あるいは II 階程の科目を全て修得できていない場合は留年とします。その場合、II 階程あるいは III 階程で修得できなかった科目を翌年度に再履修します。ただし、II 階程を全て修得できている場合は、再履修の科目の単位数を 12 単位から差し引いた残りの単位数分を IV 階程の科目から履修することができます。

< III 階程の再履修と IV 階程履修可能単位数 >

| 区分 | III 階程で取得できた単位数 | III 階程の再履修単位数 | IV 階程の履修可能単位数 |
|----|-----------------|---------------|---------------|
| 留年 | 0 単位 [0 科目] | 12 単位 [3 科目] | 履修不可 |
| | 4 単位 [1 科目] | 8 単位 [2 科目] | 4 単位 [1 科目] |
| 進級 | 8 単位 [2 科目] | 4 単位 [1 科目] | 8 単位 [2 科目] |

B. 兼修語学（必修語学 8 単位）

- (1) 兼修語学としてロシア語、中国語、イスパニア語、フランス語、ドイツ語のうちから 1 ケ国語を選択し履修します。
- (2) 兼修語学は 1 年次で I 階程の 2 科目（4 単位）、2 年次で II 階程の 2 科目（4 単位）を履修します。
- (3) I 階程の科目は 2 科目（4 単位）を一括して単位を付与します。II 階程の科目は 1 科目（2 単位）ごとに単位を付与します。
- (4) I 階程の 2 科目（4 単位）を修得し、II 階程のうち 1 科目（2 単位）を修得すれば III 階程を履修できます。
- (5) 兼修語学の I、II 階程 4 科目（8 単位）を修得すれば、さらに他の兼修語学を履修することができます。この場合、履修者のレベルに応じて、大学が適当と認めるときは II 階程もしくは III 階程から履修することができます。

- (6) 兼修語学のうち、Ⅲ階程を除く自由選択語学は学年に関わらず履修することができます。
- (7) 8単位を超えて修得した兼修語学の単位は、「自由選択単位」として卒業単位に算入されます。

C. 学科基礎科目 (12単位)

学科基礎科目は各学科での学修の基礎となる科目のため、学修効果上1・2年次での履修が望ましいです。

D. 全学共通科目 (16単位)

全学共通科目は、「人文領域」、「社会科学領域」、「自然・人間科学領域」の3領域に区分されており、卒業までに各領域から少なくとも1科目を修得する必要があります。

E. コース科目 (20単位)

- (1) 2年次から所属するコースのコース科目を20単位修得する必要があります。
- (2) 1年次で「コース科目」を履修する場合、2年次で異なるコースを選択すると、その単位は「コース科目」ではなく「自由選択単位」として卒業必要単位に算入されます。

F. 研究指導・卒業論文 (16単位)

(1) 研究指導

- ・研究指導は必修科目であり、3・4年継続履修を原則とします。
- ・研究指導の担当教員は2年次後期に選考のうえ決定します。詳細は教務入試班よりお知らせします。

(2) 卒業論文

- ・卒業予定年次に卒業論文を提出し、審査に合格すれば8単位が与えられ、卒業必要単位に算入されます。
- ・卒業論文を提出しない場合、所属コースのコース科目を8単位（コース科目は合計28単位となる）修得することが必要です。
- ・卒業論文の審査に合格した者で、卒業が次年度以降となった場合は卒業論文を再提出する必要はありません。

G. 自由選択単位 (8単位)

以下に定める科目の単位を修得した場合は、原則として自由選択単位として卒業必要単位に算入します。

- ①属する学科／コースの開設科目を規定の単位数を超えて修得した単位
- ②他学科／他コース科目
- ③単位互換講座科目[大学コンソーシアムひょうご神戸 etc.]
- ④課程科目
- ⑤その他

その他

(1) 複数回単位認定科目

【別表 複数回単位認定科目】に記載のある科目は、複数回単位の修得が可能です。ただし、同一の学期に同一の担当者が行う授業は履修できません。

(2) 第2部開講科目の履修

【別表 学部生が履修可能な第2部開講科目】に記載のある第2部開講科目を履修することができます。ただし、同一の授業名であっても修得できる単位の科目区分が異なる場合があるため注意してください。

【英米学科履修科目】

| | | | | | |
|------|---|--|---|---|--------------|
| 必修科目 | A | 学科専攻語学 | I 階程：英語 12単位 [通年5科目、半期2科目] 講読 [1]・[2]・[3]・作文・会話・文法 [半期1単位]・発音 [半期1単位] | II 階程：英語 12単位 [通年6科目] 講読 [1]・[2]・[3]・作文・会話・総合英語 | 44 |
| | | | III 階程：英語 12単位 [通年3科目] 講読 ([1]・[2]・[3]より2科目選択)・会話 | IV 階程：英語 8単位 [通年2科目] 講読 ([1]・[2]・[3]より1科目選択)・作文 | |
| 兼修語学 | B | 必修語学 | I 階程：4単位 [通年2科目 [1]・[2]] 一括認定 II 階程：4単位 [通年2科目 [1]・[2]] | ロシア語、中国語、イスパニア語、フランス語、ドイツ語 | [1言語選択] 8 |
| | | 自由選択語学 | イタリア語Ⅰ・Ⅱ、ポルトガル語Ⅰ・Ⅱ、インドネシア語、朝鮮語Ⅰ・Ⅱ、エスペラント語、東洋諸語 } [各通年2単位] ロシア語Ⅲ、中国語Ⅲ、イスパニア語Ⅲ、フランス語Ⅲ、ドイツ語Ⅲ、東欧諸語1～4 } [各半期1単位] | ◆ | |
| C | 学科基礎科目 (英米学科) | | 英国史、英国の文化、米国史、米国の文化、英国の社会1・2、米国の社会、英語圏の文化と社会1・2、英文学史1・2、米文学史、英語学概論1・2、英語研究入門1・2 | 12 | |
| D | 全学共通科目 | 人文領域 | 宗教学入門、哲学概論、日本思想史、仏教学、倫理学入門、ジェンダー論入門、社会学入門、アメリカ地域論、ヨーロッパ地域論入門、西洋史、東洋史入門、日本史入門、言語学入門、日本語学概論1・2、日本文学論入門、日本文化入門、近現代日本社会入門、言語学基礎論1・2、音声学1・2、古典語(ラテン語)1・2、海外派遣選学科目1～4、海外協定校短期研修1・2、中東欧研究入門1～4 [各半期1単位]、海外協定校提供科目A、海外協定校提供科目B、Japanese contemporary literature and culture、History of Japanese cinema、Negotiating stereotypes about Japanese culture | 16 | |
| | | 社会科学領域 | 憲法1・2、現代の法、現代の政治、現代日本経済論1・2、経済経営入門、現代国際法政問題、現代国際経済問題、現代国際文化問題、インターンシップ(就業体験)1・2 [各半期1単位]、現代の企業経営、国際ビジネス・コミュニケーション、ビジネスロシア語1・2、ビジネス中国語1・2、商業イスパニア語1・2、現代世界経済論1・2、社会開発論、社会人類学入門、神戸・地域メディアワークショップ、Issues in Japanese culture and society | | |
| | | 自然・人間科学領域 | 自然の認識1・2、東の科学、西の科学、数理の世界1・2、情報科学概論1～3、人権論、人権教育、環境と人間、人間形成論入門、社会心理学入門1・2、臨床心理学入門1・2、生涯教育論1・2、児童英語教育、スポーツ方法1・2 [各半期1単位]、教育原理、教育哲学、教育史、神戸・教育インターンシップ1～3 [各半期1単位]、キャリアデザイン、ジャーナリズム論1、キャンパスライフ入門、データサイエンス入門、キャンパス・リーダーシップ [半期1単位]、プログラミング実習Ⅰ・Ⅱ | | |
| E | コース科目 | 全てのコース科目として認定される | 模擬国連 [コース科目への認定は1回限り。2回目以降は自由選択単位となる。] | | |
| | | 語学文学 | 基礎 | 英米文学・文化研究入門、英米文学と視覚文化、英米文学と社会、比較文学、現代の思想と文化、英語史1・2、音声学・音韻論講義、統語論講義、意味論講義、語用論・談話分析講義、応用言語学1・2、構文研究、語法文法研究、文学翻訳演習、通訳演習1・2、メディア英語演習1・2、リスニング分析1・2、オーラル・プレゼンテーション1、通訳(基礎)、会議通訳(逐次)、パブリック・スピーチ、映画研究、翻訳1・2、メディア論、英語学特殊講義(現代社会)1～4、社会言語学、小学校英語教育論 | 20 |
| | | 発展 | イギリス文学特殊講義1～4、アメリカ文学特殊講義1～4、英語圏文学特殊講義1・2、英語文学・文化特殊講義1～8、英語学特殊講義1～4、英語文学・文化研究演習1～10、Advanced Writing1・2、英語学研究演習1～12、英語教育学演習、オーラル・プレゼンテーション2、放送通訳、会議通訳(同時)、小学校英語教育論演習 | | |
| | | 国際法政 | 基礎 | 民法1・2、政治学1・2、国際政治学1・2、比較政治1・2、国際法「基本」1・2、国際政治経済学、アジア国際関係史1・2、アメリカ政治1、中国法政論、社会学、ロシアの社会1・2、移民社会論、統計学1・2、文化と政治 | 20 |
| | | 発展 | 民法3～5、行政法1・2、国際取引法1・2、法政特論1・2、途上国地域社会論1・2、国際紛争処理法、国際法「発展」1・2、国際私法1・2、ヨーロッパ政治1・2、アフリカ政治1・2、アメリカ政治2、移民社会論演習、ゲーム理論、比較地域研究1・2、東南アジア地域論：政治、商法1・2、労働法、東南アジア地域論特殊講義：政治、ロシア政治経済論1・2、Japan and the international politics of Asia | | |
| | | 経済経営 | 基礎 | ミクロ経済学1・2、マクロ経済学1・2、簿記原理、経営学1・2、神戸研究、近代世界システム成立史、統計学1・2、Japan's current and future challenges | 20 |
| | | 発展 | 国際経営論1・2、ミクロ経済政策1・2、マクロ経済政策1・2、産業組織の経済学1・2、経済学演習1・2、経済学特殊講義1～4、経営学特殊講義1～4、会計学1・2、マーケティング論1・2、国際商務論1・2、商業英語1・2、国際金融論1・2、国際貿易論、貿易政策論、開発経済論1・2、金融論1・2、財政学1・2、公共政策、労働経済、計量経済学1・2、商法1・2、労働法、ゲーム理論、東南アジア地域論：経済、東南アジア地域論特殊講義：経済、ロシア政治経済論1・2、プロジェクト演習(経済経営) | | |
| | | 多文化共生 | 基礎 | 宗教と社会の共生、ヨーロッパ地域論、移民社会論、朝鮮文化論1、外国人学習者の観点から見た日本語、日本語の形と意味、日本語の多様性、民族誌学1、近現代日本社会、アジアの文化と社会の共生1・2、アジア言語文化の諸問題、フランスの思想と社会1、出版と編集、コミュニケーション学概論、コミュニケーション理論、言語と国家、社会人類学、コミュニケーション論、異文化間コミュニケーション論、英米文学特殊講義(現代社会)1・2、英語学特殊講義(現代社会)1～4、バリアフリー論、日本語手話、ロシア文化特殊講義1、中国文化特殊講義2、ラテンアメリカ文化特殊講義1・2、社会調査分析1・2、文化と政治、環境論1、Japan's current and future challenges | 20 |
| | | 発展 | フランスの社会、朝鮮文化論2、民族誌学2、日本語の談話研究、日本語変異の研究、近現代日本社会研究1・2、言語文化の多様性とアジア1・2、フランスの思想と社会2、コミュニケーション研究、言語と文化、社会人類学研究、ジェンダー共生論演習、社会共生論演習、プロジェクト演習(多文化共生)、東南アジアの社会と文化、比較地域研究1・2、東南アジア地域論：経済、東南アジア地域論：政治、東南アジア地域論特殊講義：経済、東南アジア地域論特殊講義：政治、ロシア文化特殊講義2、中国文化特殊講義4、移民社会論演習、環境論2、Japan and the international politics of Asia | | |
| | | リベラルアーツ | 基礎 | 宗教学基礎論、西洋哲学史、倫理学、フランス文化論1、ヨーロッパ文化史1、ヨーロッパ文化論1、ヨーロッパ文学論、東洋史、日本史、日本文学論、言語類型論、歴史言語学、古典語(ギリシャ語)1・2、日本語教育の基礎、人間形成論、日本語の文法、日本語の音声、日本の文化、西洋古典学1、哲学、自然科学(基礎)1・2、人間関係論1・2、スポーツ文化論1・2、中欧文化史1、ヨーロッパにおけるドイツ1、フランス文学論1、ジェンダー論、文化芸術論1、社会学、小学校英語教育論、社会調査分析1・2、出版と編集 | 20 |
| 発展 | フランス文化論2、ヨーロッパ文化史2、ヨーロッパ文化論2、日本文化の諸相1・2、言語学研究1・2、小学校英語教育論演習、社会言語学、西洋古典学2、西洋史研究1・2、アジア言語文化1・2、歴史学特殊講義、自然科学(発展)1・2、スポーツ文化論演習「第1」1・2、スポーツ文化論演習「第2」1・2、一般言語学から見た日本語、日本語の統語論的研究、日本語の意味・機能研究、日本語音声・音韻の研究、日本文化研究1・2、アジア言語学1・2、哲学特殊講義1・2、中欧文化史2、ヨーロッパにおけるドイツ2、フランス文学論2、社会心理学演習1・2、臨床心理学演習1・2、現代文明論、文化芸術論2 | | | | |
| F | 研究指導、卒業論文 | 研究指導 [必修] [通年4単位] [通年4単位]、卒業論文 [半期8単位] (卒業論文は自由選択。卒業論文により8単位が取得できない場合は、所属コースのコース科目からこれに代えて8単位取得しなければなりません。) | 16 | | |
| G | 自由選択単位 | 属する学科の必修科目及び選択科目の卒業必要単位数を超過して取得した単位および自由選択語学で取得した単位 属する学科以外の選択科目、単位互換講座科目および課程科目で取得した単位 | 8 | | |

【注意事項】

1. 表右欄の数字は卒業必要単位数を示します。
2. 単位数を表記していない科目は、半期2単位です。
3. 毎年度に履修登録可能な単位の上限は49単位とします。(ただし卒業論文と課程科目を除く)
4. ◆印：兼修語学のうち自由選択語学で修得した単位は、自由選択単位に算入します。
5. 全学共通科目は、人文領域、社会科学領域、自然・人間科学領域の中からそれぞれ1科目以上の履修が必要です。
6. □印は教育職員養成課程の科目です。外国語学部履修規則別表(5)-2および教育職員養成課程の履修に関する規則、別表もあわせて確認すること。

8 ロシア学科

卒業必要単位（124単位）を満たすには、以下のA～Gのグループから（ ）内に示されている単位数を最低限度として修得する必要があります。【別表 ロシア学科履修科目参照】

A. 専攻語学（44単位）

(1) 専攻語学のカリキュラムポリシー

I 階程ではロシア語の正確な発音と基礎文法の定着を図ります。II 階程では文法理解を深めるとともに、定型表現を習得し対話能力を養います。III 階程では多様な分野のテキストを素材に、ロシア語を通じた世界の見方や異なる文体や修辞法を学習します。また、より複雑な内容を話題にした表現力を養います。IV 階程では専門的なテキストの読解力、ならびにプレゼンテーションや交渉などに必要な自己表現力・対話力を強化します。

(2) カリキュラムの概要

ロシア学科の専攻ロシア語科目は下記のように体系化されています。

□ カリキュラム構成（科目別）

| | 教授言語：主に日本語 | | | | 教授言語：ロシア語 | |
|-----|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|-------------------------|-------------------------|
| I | 専攻ロシア語Ⅰ [1] 総合・基礎文法 | 専攻ロシア語Ⅰ [2] 総合・基礎文法 | 専攻ロシア語Ⅰ [3] 総合・基礎文法 | 専攻ロシア語Ⅰ [4] 総合・基礎文法 | 専攻ロシア語Ⅰ [5] 総合・会話 | 専攻ロシア語Ⅰ [6] 総合・会話 |
| II | 専攻ロシア語Ⅱ 講読[1]・文化 | 専攻ロシア語Ⅱ 講読[2]・文学 | 専攻ロシア語Ⅱ 文法[1]・応用 | 専攻ロシア語Ⅱ 文法[2]・統語法 | 専攻ロシア語Ⅱ 作文会話 | 専攻ロシア語Ⅱ 会話 |
| III | 専攻ロシア語Ⅲ 講読[1]・社会 | 専攻ロシア語Ⅲ 講読[2]・文学 | 専攻ロシア語Ⅲ 講読[3]・言語文化 | 専攻ロシア語Ⅲ 講読[4]・多読 | 専攻ロシア語Ⅲ 作文 | 専攻ロシア語Ⅲ 会話 |
| IV | 専攻ロシア語Ⅳ 講読[1]・社会 | 専攻ロシア語Ⅳ 講読[2]・文学 | 専攻ロシア語Ⅳ 講読[3]・文化 | | 専攻ロシア語Ⅳ 会話 | |

* 網掛けの科目は習熟度別クラス分けを行なっています。

□ カリキュラム構成（技能別）

| | 受信する／わかる | | 発信する／つたえる | | 媒介する／つなぐ | 探求する／さぐる |
|-----|--------------------------------|------------------------|--------------------------------|---------------------------------|-------------------------------------|------------------------|
| | 聞く | 読む | 話す | 書く | | |
| I | I [5] [6] | I [1] [2] [3] [4] | I [4] [5] [6] | I [1] [5] [6] | | |
| II | II 会話 II 作文会話 | II 講読 [1] [2] | II 会話 II 作文会話 | II 文法 [1] [2] II 作文会話 | II 講読 [2] II 文法 [1] [2] | II 講読 [2] II 文法 [2] |
| III | III 会話 III 講読 [4] | III 講読 [1] [2] [3] [4] | III 会話 | III 講読 [1] III 作文 | III 講読 [1] [2] [3] III 作文 | III 講読 [2] [3] |
| IV | IV 会話 | IV 講読 [1] [2] [3] | IV 会話 | IV 会話 | IV 講読 [1] [2] [3] | IV 講読 [1] [2] [3] |

* 太字の科目は教授言語がロシア語です。

(3) 階程ごとの到達目標**● I 階程**

ロシア語の発音と文法の基礎を学ぶ（テルキ基礎／CEFR_A2, ロシア語能力検定 3 級）。

● II 階程

文の構造、そしてロシア語特有の文法現象について本格的に学び、ロシア語の文章を読む練習をする。また会話の授業では、基本的な表現や決まり文句を修得し、聴きとりの力をつけるための練習を行なう（テルキ 1 / CEFR_B1, ロシア語能力検定 3～2 級）。

● III 階程

講読では様々な領域のテキストに触れ、ジャンルによって言葉のスタイル、修辞や論法にどのような傾向があるのかを理解する。作文と会話の授業では、講読で得た知識を実際に用いてみる（テルキ 2～3 / CEFR_B2～C1, ロシア語能力検定 2～1 級）。

● IV 階程

講読では様々な領域の、そして内容がさらに高度な文章を読む。会話の授業では、対話だけでなくプレゼンテーションや議論の練習も行なう（テルキ 2～3 / CEFR_B2～C1, ロシア語能力検定 2～1 級）。

(4) 科目数と履修単位

- ・ 1 年次には I 階程の 6 科目（12 単位）、2 年次には II 階程 6 科目（12 単位）を履修します。I、II 階程はそれぞれ全ての科目を修得した際に一括して単位が与えられます。
- ・ 3 年次には III 階程の 6 科目（12 単位）、4 年次には IV 階程の 4 科目（8 単位）を履修します。単位は 1 科目ごとに与えられます。
- ・ 各年度に履修する専攻語学の単位数は 12 単位を超えることはできません。

(5) 進級条件と再履修

<進級条件表>

| 進級内容 | 条件（進級には全条件を満たす必要があります） |
|---------|----------------------------------|
| 1 年⇒2 年 | 専攻ロシア語 I 階程 12 単位全てを修得（一括認定） |
| 2 年⇒3 年 | 専攻ロシア語 II 階程 12 単位全てを修得（一括認定） |
| 3 年⇒4 年 | 専攻ロシア語 III 階程 12 単位のうち 8 単位以上を修得 |

① 2 年への進級

I 階程の 6 科目（12 単位）をすべて修得しなければ 2 年へは進級できません。

② 3 年への進級

II 階程の 6 科目（12 単位）をすべて修得しなければ 3 年へは進級できません。

③ 4 年への進級と再履修

- III 階程のうち 4 科目（8 単位）以上の単位を修得すれば、翌年度 4 年に進級します。その場合、III 階程で修得できなかった科目があれば、翌年度に IV 階程の科目とともに再履修します。
- III 階程の科目のうち修得できた単位が 8 単位未満の場合は留年とします。その場合、III 階程で修得できなかった科目を再履修します。ただし、再履修の科目の単位数を 12 単位から差し引いた残りの単位数分を、IV 階程の科目から履修することができます。なお、留年となった場合、3 年次で履修できる IV 階程科目は 2 科目（4 単位）が上限です。

<Ⅲ階程の再履修とⅣ階程履修可能単位数>

| 区分 | Ⅲ階程で取得できた単位数 | Ⅲ階程の再履修単位数 | Ⅳ階程の履修可能単位数 |
|----|--------------|------------|-------------|
| 留年 | 0単位 [0科目] | 12単位 [6科目] | 履修不可 |
| | 2単位 [1科目] | 10単位 [5科目] | 2単位 [1科目] |
| | 4単位 [2科目] | 8単位 [4科目] | 4単位 [2科目] |
| | 6単位 [3科目] | 6単位 [3科目] | 4単位 [2科目] |
| 進級 | 8単位 [4科目] | 4単位 [2科目] | 8単位 [4科目] |
| | 10単位 [5科目] | 2単位 [1科目] | 8単位 [4科目] |

B. 兼修語学（必修語学8単位）

- (1) 兼修語学として英語を学修します。
- (2) 1年次にⅠ階程の2科目（4単位）、2年次にⅡ階程の2科目（4単位）をそれぞれ履修します。
- (3) 単位は1科目（2単位）ごとに与えられます。
- (4) Ⅰ階程のうち1科目（2単位）を修得すれば、翌年度にⅡ階程の2科目（4単位）を履修できます。このとき、修得できなかったⅠ階程の科目を翌年度に再履修します。
- (5) Ⅰ階程の2科目（4単位）を修得し、Ⅱ階程の1科目（2単位）を修得すればⅢ階程を履修することができます。
- (6) 兼修英語をⅠ、Ⅱ階程の4科目（8単位）全て修得すれば、他の兼修語学（中国語、イスパニア語、フランス語、ドイツ語）を履修できます。このとき、Ⅰ階程の2科目（4単位）は一括して単位を付与します。Ⅱ階程の科目は1科目（2単位）ごとに単位を付与します。また、履修者のレベルに応じて、大学が適当と認めるときは、Ⅱ階程もしくはⅢ階程から履修することができます。
- (7) 兼修語学のうちⅢ階程を除く自由選択語学は、学年に関わらず履修することができます。
- (8) 8単位を超えて修得した兼修語学の単位は、「自由選択単位」として卒業単位数に算入されます。
- (9) 専攻語学と兼修語学の授業が重なる場合は、履修登録前に教務入試班に相談してください。

C. 学科基礎科目（12単位）

学科基礎科目は各学科での学修の基礎となる科目のため、学修効果上1・2年次での履修が望ましいです。

D. 全学共通科目（16単位）

全学共通科目は、「人文領域」、「社会科学領域」、「自然・人間科学領域」の3領域に区分されており、卒業までに各領域から少なくとも1科目を修得する必要があります。

E. コース科目（20単位）

- (1) 2年次から所属するコースのコース科目を20単位修得する必要があります。
- (2) 1年次で「コース科目」を履修する場合、2年次で異なるコースを選択すると、その単位は「コース科目」ではなく「自由選択単位」として卒業必要単位数に算入されます。

F. 研究指導・卒業論文（16単位）

(1) 研究指導

- ・研究指導は必修科目であり、3・4年継続履修を原則とします。
- ・研究指導の担当教員は2年次後期に選考のうえ決定します。詳細は教務入試班よりお知らせします。

(2) 卒業論文

- ・卒業予定年次に卒業論文を提出し、審査に合格すれば8単位が与えられ、卒業必要単位に算入されます。
- ・卒業論文を提出しない場合、所属コースのコース科目を8単位（コース科目は合計28単位となる）修得することが必要です。
- ・卒業論文の審査に合格した者で、卒業が次年度以降となった場合は卒業論文を再提出する必要はありません。

G. 自由選択単位（8単位）

以下に定める科目の単位を修得した場合は、原則として自由選択単位として卒業必要単位に算入します。

- ①属する学科／コースの開設科目を規定の単位数を超えて修得した単位
- ②他学科／他コース科目
- ③単位互換講座科目 [大学コンソーシアムひょうご神戸 etc.]
- ④課程科目
- ⑤その他

その他

(1) 複数回単位認定科目

【別表 複数回単位認定科目】に記載のある科目は、複数回単位の修得が可能です。ただし、同一の学期に同一の担当者が行う授業は履修できません。

(2) 第2部開講科目の履修

【別表 学部生が履修可能な第2部開講科目】に記載のある第2部開講科目を履修することができます。ただし、同一の授業名であっても修得できる単位の科目区分が異なる場合があるため注意してください。

【ロシア学科履修科目】

| | | | | | |
|------|--|----------------|---|--|----------|
| 必修科目 | A | 学科専攻語学 | ※Ⅰ階程：ロシア語 12単位 [通年6科目] 一括認定 [1]・[2]・[3]・[4]・[5]・[6] | ※Ⅱ階程：ロシア語 12単位 [通年6科目] 一括認定 講読 [1]・[2]・文法 [1]・[2]・作文会話・会話 | 44 |
| | | | Ⅲ階程：ロシア語 12単位 [通年6科目] 講読 [1]・[2]・[3]・[4]・作文・会話 | Ⅳ階程：ロシア語 8単位 [通年4科目] 講読 [1]・[2]・[3]・会話 | |
| B | 兼修語学 | 必修語学 | I階程：英語 4単位 [通年2科目 [1]・[2]] | II階程：英語 4単位 [通年2科目 [1]・[2]] | 8 |
| | | 自由選択語学 | 英語Ⅲ [1] [2], イタリア語Ⅰ・Ⅱ, ポルトガル語Ⅰ・Ⅱ, インドネシア語, 朝鮮語Ⅰ・Ⅱ, エスペラント語, 東洋諸語 | | [各通年2単位] |
| C | | 学科基礎科目 (ロシア学科) | ロシア文化史1・2, ロシアの社会1・2, ロシア地域論1~4, ロシア文学史1・2, ロシア史1・2, ロシア語学入門, ロシア学入門, ロシア文化入門1・2 | | 12 |
| D | 全学共通科目 | 人文領域 | 宗教学入門, 哲学概論, 日本思想史, 仏教学, 倫理学入門, ジェンダー論入門, 社会学入門, アメリカ地域論, ヨーロッパ地域論入門, 西洋史, 東洋史入門, 日本史入門, 歴史学入門, 言語学入門, 日本語学概論1・2, 日本文学論入門, 日本文化入門, 近現代日本社会入門, 言語学基礎論1・2, 音声学1・2, 古典語(ラテン語)1・2, 海外派遣留学科目1~4, 海外協定校短期研修1・2, 中東欧研究入門1~4 [各半期1単位], 海外協定校提供科目A, 海外協定校提供科目B, Japanese contemporary literature and culture, History of Japanese cinema, Negotiating stereotypes about Japanese culture | | 16 |
| | | 社会科学領域 | 憲法1・2, 現代の法, 現代の政治, 現代日本経済論1・2, 経済経営入門, 現代国際法政問題, 現代国際経済問題, 現代国際文化問題, インターナショナル(就業体験)1・2 [各半期1単位], 現代の企業経営, 国際ビジネス・コミュニケーション, ビジネスロシア語1・2, ビジネス中国語1・2, 商業イスパニア語1・2, 現代世界経済論1・2, 社会開発論, 社会人類学入門, 神戸・地域メディアワークショップ, Issues in Japanese culture and society | | |
| | | 自然・人間科学領域 | 自然の認識1・2, 東の科学, 西の科学, 数理の世界1・2, 情報科学概論1~3, 人権論, 人権教育, 環境と人間, 人間形成論入門, 社会心理学入門1・2, 臨床心理学入門1・2, 生涯教育論1・2, 児童英語教育, スポーツ方法1・2 [各半期1単位], [教育原理], [教育哲学], [教育史], [神戸・教育インターナショナル1~3 [各半期1単位]], キャリアデザイン, ジャーナリズム論1, キャンパスライフ入門, データサイエンス入門, キャンパス・リーダーシップ [半期1単位], プログラミング実習Ⅰ・Ⅱ | | |
| E | コース科目 | | 全てのコース科目として認定される 模擬国連 [コース科目への認定は1回限り。2回目以降は自由選択単位となる。] | | |
| | | 語学文学 | 基礎 | ロシア語意味論1・2, ロシア語語彙・文法研究, ロシア語語形成論, ロシア語コミュニケーション演習1・2 ロシア語対照言語学, ロシアの文学と思想1~3, ロシア語学演習1, ロシア文化特殊講義1・2 | 20 |
| | | | 発展 | スラヴ語学1・2, ロシア・スラヴ研究, ロシア語アカデミックライティング, ロシア語通訳・翻訳研究, ロシア語動詞研究1・2 ロシア語歴史研究1・2, ロシア文学原典講読1・2, ロシア文化特殊講義2, ロシア文学特殊講義1・2 | |
| | | 国際法政 | 基礎 | 民法1・2, 政治学1・2, 国際政治学1・2, 比較政治1・2, 国際法「基本」1・2, 国際政治経済学, アジア国際関係史1・2, アメリカ政治1, 中国法政論, 社会学, 移民社会論, 統計学1・2, 文化と政治 | 20 |
| | | | 発展 | 民法3~5, 行政法1・2, 国際取引法1・2, 法政特論1・2, 途上国地域社会論1・2, 国際紛争処理法, 国際法「発展」1・2, 国際私法1・2, ヨーロッパ政治1・2, アフリカ政治1・2, アメリカ政治2, 移民社会論演習, ゲーム理論, 比較地域研究1・2, 東南アジア地域論:政治, 商法1・2, 労働法, 東南アジア地域論特殊講義:政治, ロシア政治経済論1・2, Japan and the international politics of Asia | |
| | | 経済経営 | 基礎 | ミクロ経済学1・2, マクロ経済学1・2, 簿記原理, 経営学1・2, 神戸研究, 近代世界システム成立史, 統計学1・2, Japan's current and future challenges | 20 |
| | | | 発展 | 国際経営論1・2, ミクロ経済政策1・2, マクロ経済政策1・2, 産業組織の経済学1・2, 経済学演習1・2, 経済学特殊講義1~4, 経営学特殊講義1~4, 会計学1・2, マーケティング論1・2, 国際商務論1・2, 商業英語1・2, 国際金融論1・2, 国際貿易論, 貿易政策論, 開発経済論1・2, 多国籍企業論1・2, 金融論1・2, 財政学1・2, 公共政策, 労働経済, 計量経済学1・2, 商法1・2, 労働法, ゲーム理論, 東南アジア地域論:経済, 東南アジア地域論特殊講義:経済, ロシア政治経済論1・2, プロジェクト演習(経済経営) | |
| | | 多文化共生 | 基礎 | 宗教と社会の共生, ヨーロッパ地域論, 移民社会論, 朝鮮文化論1, 外国人学習者の観点から見た日本語, 日本語の形と意味, 日本語の多様性, 民族誌学1, 近現代日本社会, アジアの文化と社会の共生1・2, アジア言語文化の諸問題, フランスの思想と社会1, 出版と編集, コミュニケーション学概論, コミュニケーション理論, 言語と国家, 社会人類学, コミュニケーション論, 異文化間コミュニケーション論, 英米文学特殊講義(現代社会)1・2, 英語学特殊講義(現代社会)1~4, バリアフリー論, 日本手話, ロシア文化特殊講義1, 中国文化特殊講義2, ラテンアメリカ文化特殊講義1・2, 社会調査分析1・2, 文化と政治, 環境論1, Japan's current and future challenges | 20 |
| | | | 発展 | フランスの社会, 朝鮮文化論2, 民族誌学2, 日本語の談話研究, 日本語変異の研究, 近現代日本社会研究1・2, 言語文化の多様性とアジア1・2, フランスの思想と社会2, コミュニケーション研究, 言語と文化, 社会人類学研究, ジェンダー共生論演習, 社会共生論演習, プロジェクト演習(多文化共生), 東南アジアの社会と文化, 比較地域研究1・2, 東南アジア地域論:経済, 東南アジア地域論:政治, 東南アジア地域論特殊講義:経済, 東南アジア地域論特殊講義:政治, ロシア文化特殊講義2, 中国文化特殊講義4, 移民社会論演習, 環境論2, Japan and the international politics of Asia | |
| | | リベラルアーツ | 基礎 | 宗教学基礎論, 西洋哲学史, 倫理学, フランス文化論1, ヨーロッパ文化史1, ヨーロッパ文化論1, ヨーロッパ文学論, 東洋史, 日本史, 日本文学論, 言語類型論, 歴史言語学, 古典語(ギリシャ語)1・2, 日本語教育の基礎, 人間形成論, 日本語の文法, 日本語の音声, 日本の文化, 西洋古典学1, 哲学, 自然科学(基礎)1・2, 人間関係論1・2, スポーツ文化論1・2, 中欧文化史1, ヨーロッパにおけるドイツ1, フランス文学論1, ジェンダー論, 文化芸術論1, 社会学, 小学校英語教育論, 社会調査分析1・2, 出版と編集 | 20 |
| 発展 | フランス文化論2, ヨーロッパ文化史2, ヨーロッパ文化論2, 日本文化の諸相1・2, 言語学研究1・2, 小学校英語教育論演習, 社会言語学, 西洋古典学2, 西洋史研究1・2, アジア言語文化1・2, 歴史学特殊講義, 自然科学(発展)1・2, スポーツ文化論演習「第1」1・2, スポーツ文化論演習「第2」1・2, 一般言語学から見た日本語, 日本語の統語論的研究, 日本語の意味・機能研究, 日本語音声・音韻の研究, 日本文化研究1・2, アジア言語学1・2, 哲学特殊講義1・2, 中欧文化史2, ヨーロッパにおけるドイツ2, フランス文学論2, 社会心理学演習1・2, 臨床心理学演習1・2, 現代文明論, 文化芸術論2 | | | | |
| F | | 研究指導 卒業論文 | 研究指導 [必修] [通年4単位] [通年4単位], 卒業論文 [半期8単位] (卒業論文は自由選択。卒業論文により8単位が取得できない場合は、所属コースのコース科目からこれに代えて8単位取得しなければなりません。) | 16 | |
| G | | 自由選択単位 | 属する学科の必修科目及び選択科目の卒業必要単位数を超過して取得した単位および自由選択語学で取得した単位 属する学科以外の選択科目、単位互換講座科目および課程科目で取得した単位 | 8 | |

【注意事項】

1. 表右欄の数字は卒業必要単位数を示します。
2. 単位数を表記していない科目は、半期2単位です。
3. 毎年度に履修登録可能な単位の上限は49単位とします。(ただし卒業論文と課程科目を除く)
4. ※印：専攻語学Ⅰ階程及びⅡ階程の単位は一括して認定します。
5. ◆印：兼修語学のうち自由選択語学で修得した単位は、自由選択単位に算入します。
6. 全学共通科目は、人文領域、社会科学領域、自然・人間科学領域の中からそれぞれ1科目以上の履修が必要です。
7. []は教育職員養成課程の科目です。外国語学部履修規則別表(5)-2および教育職員養成課程の履修に関する規則、別表もあわせて確認すること。

9 中国学科

卒業必要単位（124単位）を満たすには、以下のA～Gのグループから（ ）内に示されている単位数を最低限度として修得する必要があります。【別表 中国学科履修科目参照】

A. 専攻語学（44単位）

(1) 専攻語学のカリキュラムポリシー

I 階程では中国語の基本的な発音と文法、及び会話のために必要な基礎的語彙力を養います。II 階程では常用語彙とやや高度な文法の知識を定着させるとともに、使用頻度の高い構文や慣用表現にも段階的に知識を広げ、より中国語らしいコミュニケーションのスタイルを習得します。III 階程では様々な文章を味わう力を養うとともに、より高度な会話、作文の能力を身につかせます。IV 階程では中国語を実際に応用するための総合的な表現力を養います。

(2) カリキュラムの概要

中国学科の専攻中国語科目は下記のように体系化されています。

□ カリキュラム構成（科目別）

| | [1] | [2] | [3] | [4] | [5] | [6] |
|--------|--------------|------|----------------|---------------|-----------------------|---------------|
| I 階程 | 発音と語彙, 文法の基礎 | | | | [1]～[4]の応用練習 (中国語) | |
| II 階程 | 講読 (論説文) | 表現総合 | 講読 (小説) | 文法 | 作文 (中) | 会話 (中国語) |
| III 階程 | 表現総合 (中) | 古典入門 | 講読 (中国語学入門) | 講読 (中・論説文) | 講読 (報道文) | 作文会話 (中国語) |
| IV 階程 | 古典 (中) | 表現総合 | 翻訳 | 作文 (中国語) | | |

* 「(中)」は中国語のネイティブ・スピーカーの教員が講義を担当する科目

* 「(中国語)」は中国語のネイティブ・スピーカーの教員が中国語のみで講義を進める科目

* 網掛けの科目では習熟度別クラス分けを実施

□ カリキュラム構成（技能別）

| | 受信する／わかる | | 発信する／つたえる | | 媒介する／つなぐ | 探求する／さぐる | | |
|--------|----------------------|----------------------------------|---|-------------------------|----------|----------|--------------------------|--------------------------------------|
| | 聞く | 読む | 話す | 書く | | | | |
| I 階程 | I [5] I [6] | I [1] I [2] I [3] I [4] | I [2] I [3] I [4] I [5] I [6] | I [1] I [3] I [4] | / | | | |
| II 階程 | II 会話 | II 講読 [2] II 講読 [3] | II 会話 II 講読 [1] | II 文法 II 作文 | | | II 講読 [1] | II 講読 [2] II 文法 |
| III 階程 | III 作文 III 講読 [4] | III 講読 [5] | III 講読 [1] | III 作文会話 | | | III 講読 [4] III 講読 [5] | III 作文会話 III 講読 [2] III 講読 [3] |

| | | | | | | |
|------|----------------------|----------|----------|------|------------------|----------------------------------|
| IV階程 | IV講読 [1] IV講読 [2] | IV講読 [3] | IV講読 [3] | IV作文 | IV講読 [3] IV作文 | IV講読 [1] IV講読 [2] IV講読 [3] |
|------|----------------------|----------|----------|------|------------------|----------------------------------|

* 太字は中国語のネイティブ・スピーカーの教員が講義を担当する科目

(3) 階程ごとの到達目標

● I 階程 (HSK 3 級、中国語検定試験 3 級クリアレベル)

- ・ 中国語の基本的な発音を習得させる
- ・ 基本的な文法構造を理解させる
- ・ 基本的な日常会話に必要な語彙力を養成する
- ・ 中国語と中国語圏の社会や文化に対する関心と理解を深める
- ・ 日本語を母語とする講師は、発音、ピンインと簡体字表記、語彙、文法に関する規則を説明し、それぞれ日本語(適宜英語)との違いを理解させる
- ・ 中国語ネイティブの講師は、模範の発音と、語彙、文法に関する具体例を提示し、中国語によるコミュニケーションを実践的に体験させる

● II 階程 (HSK 4 級、中国語検定試験 3 級上位レベル)

- ・ I 階程で学んだ基礎力を確実なものにするともに、応用力養成に向けた準備を整える
 - 講読：一定の語彙知識と、正確な文法分析力に基づいて中国語の文章を理解し、それを的確な日本語で表現することができるようにする
 - 文法：基本的な構文や語彙の特徴、及び文法事項について、中心的な用法に習熟し、周縁的用法にも段階的に知識を広げる
 - 会話：様々なトピックや場面を設定し、状況に応じたリスニングと口頭表現の訓練を行う
 - 作文：I 階程で学んだ常用語彙、及び基本的な文法に関する知識に基づき、さらに語彙量を増やし、使用頻度の高い構文や慣用表現に十分に慣れ親しませる

● III 階程 (HSK 5 級、中国語検定試験 2 級レベル)

- ・ 応用力の養成
 - 講読：
 - ・ 中国語の歴史的変遷及び国際共通語としての中国語の実態について、基本的な概要を理解させる
 - ・ 短編小説、散文、映画・文芸評論、論説文など精読し、中国語で直接中国作品を味わうことができるようにする
 - ・ 中国の新聞・雑誌記事が実用レベルの速度で読め、その理解のための社会、歴史、政治、経済に関する基礎知識を持たせる
 - 表現総合：中国の社会や文化を理解させ、その基礎の上で、日本の社会や文化との橋渡しに貢献できるような言語能力を養成する
 - 作文会話：作文、会話ともに文語表現を織り込んだ格調高い言語能力を身につけさせる
 - 古典入門：古典中国語に特徴的な語彙や表現などを正確に理解し、文言文鑑賞の方法を習得させる

● IV 階程 (HSK 6 級、中国語検定試験準 1 級レベル)

- ・ 応用力の養成
 - 古典：中国古典や文学作品の代表的名作の成立背景や含意、韻律などの言語的魅力を理解し、原文で鑑賞することができるようにする

表現総合：歴史文化や社会問題、及び日中関係などについて、自らの考えや他人の意見などを中国語で分かりやすく説明できる表現力を養成する

翻訳：カジュアルな会話体や書面語など、様々に異なる色合いを持つ中国語原文について、それぞれにふさわしい日本語を選んで翻訳することができる

作文：説明文・記述文・討論文など、業務や日常生活に必要な文体を用いた一般的な文章作法を把握し、目的にふさわしい文体を選んで作文できる能力を身につけさせる

(4) 科目数と履修単位

- ・1年次にはⅠ階程の6科目（12単位）、2年次にはⅡ階程6科目（12単位）を履修します。Ⅰ、Ⅱ階程はそれぞれ全ての科目を修得した際に一括して単位が与えられます。
- ・3年次にはⅢ階程の6科目（12単位）、4年次にはⅣ階程の4科目（8単位）を履修します。単位は1科目ごとに与えられます。
- ・各年度に履修する専攻語学の単位数は12単位を超えることはできません。

(5) 進級条件と再履修

| 進級内容 | 条件（進級には全条件を満たす必要があります） |
|-------|--------------------------|
| 1年⇒2年 | 専攻中国語Ⅰ階程 12単位全てを修得（一括認定） |
| 2年⇒3年 | 専攻中国語Ⅱ階程 12単位全てを修得（一括認定） |
| 3年⇒4年 | 専攻中国語Ⅲ階程 12単位のうち8単位以上を修得 |

① 2年への進級

Ⅰ階程の6科目（12単位）をすべて修得しなければ2年へは進級できません。

② 3年への進級

Ⅱ階程の6科目（12単位）をすべて修得しなければ3年へは進級できません。

③ 4年への進級と再履修

- Ⅲ階程のうち4科目（8単位）以上の単位を修得すれば、翌年度4年に進級します。その場合、Ⅲ階程で修得できなかった科目があれば、翌年度にⅣ階程の科目とともに再履修します。
- Ⅲ階程の科目のうち修得できた単位が8単位未満の場合は留年とします。その場合、Ⅲ階程で修得できなかった科目を再履修します。ただし、再履修の科目の単位数を12単位から差し引いた残りの単位数分を、Ⅳ階程の科目から履修することができます。なお、留年となった場合、3年次で履修できるⅣ階程科目は2科目（4単位）が上限です。

<Ⅲ階程の再履修とⅣ階程履修可能単位数>

| 区分 | Ⅲ階程で取得できた単位数 | Ⅲ階程の再履修単位数 | Ⅳ階程の履修可能単位数 |
|----|--------------|------------|-------------|
| 留年 | 0単位 [0科目] | 12単位 [6科目] | 履修不可 |
| | 2単位 [1科目] | 10単位 [5科目] | 2単位 [1科目] |
| | 4単位 [2科目] | 8単位 [4科目] | 4単位 [2科目] |
| | 6単位 [3科目] | 6単位 [3科目] | 4単位 [2科目] |
| 進級 | 8単位 [4科目] | 4単位 [2科目] | 8単位 [4科目] |
| | 10単位 [5科目] | 2単位 [1科目] | 8単位 [4科目] |

B. 兼修語学（必修語学8単位）

- (1) 兼修語学として英語を学修します。
- (2) 1年次にⅠ階程の2科目（4単位）、2年次にⅡ階程の2科目（4単位）をそれぞれ履修します。
- (3) 単位は1科目（2単位）ごとに与えられます。
- (4) Ⅰ階程のうち1科目（2単位）を修得すれば、翌年度にⅡ階程の2科目（4単位）を履修できます。このとき、修得できなかったⅠ階程の科目を翌年度に再履修します。
- (5) Ⅰ階程の2科目（4単位）を修得し、Ⅱ階程の1科目（2単位）を修得すればⅢ階程を履修することができます。
- (6) 兼修英語をⅠ、Ⅱ階程の4科目（8単位）全て修得すれば、他の兼修語学（ロシア語、イスパニア語、フランス語、ドイツ語）を履修できます。このとき、Ⅰ階程の2科目（4単位）は一括して単位を付与します。Ⅱ階程の科目は1科目（2単位）ごとに単位を付与します。また、履修者のレベルに応じて、大学が適当と認めるときは、Ⅱ階程もしくはⅢ階程から履修することができます。
- (7) 兼修語学のうちⅢ階程を除く自由選択語学は、学年に関わらず履修することができます。
- (8) 8単位を超えて修得した兼修語学の単位は、「自由選択単位」として卒業単位に算入されます。
- (9) 専攻語学と兼修語学の授業が重なる場合は、履修登録前に教務入試班に相談してください。

C. 学科基礎科目（12単位）

学科基礎科目は各学科での学修の基礎となる科目のため、学修効果上1・2年次での履修が望ましいです。

D. 全学共通科目（16単位）

全学共通科目は、「人文領域」、「社会科学領域」、「自然・人間科学領域」の3領域に区分されており、卒業までに各領域から少なくとも1科目を修得する必要があります。

E. コース科目（20単位）

- (1) 2年次から所属するコースのコース科目を20単位修得する必要があります。
- (2) 1年次で「コース科目」を履修する場合、2年次で異なるコースを選択すると、その単位は「コース科目」ではなく「自由選択単位」として卒業必要単位に算入されます。

F. 研究指導・卒業論文（16単位）

(1) 研究指導

- ・研究指導は必修科目であり、3・4年継続履修を原則とします。
- ・研究指導の担当教員は2年次後期に選考のうえ決定します。詳細は教務入試班よりお知らせします。

(2) 卒業論文

- ・卒業予定年次に卒業論文を提出し、審査に合格すれば8単位が与えられ、卒業必要単位に算入されます。
- ・卒業論文を提出しない場合、所属コースのコース科目を8単位（コース科目は合計28単位となる）修得することが必要です。
- ・卒業論文の審査に合格した者で、卒業が次年度以降となった場合は卒業論文を再提出する必要はありません。

G. 自由選択単位（8単位）

以下に定める科目の単位を修得した場合は、原則として自由選択単位として卒業必要単位に算入します。

- ① 属する学科／コースの開設科目を規定の単位数を超えて修得した単位
- ② 他学科／他コース科目
- ③ 単位互換講座科目 [大学コンソーシアムひょうご神戸 etc.]

- ④ 課程科目
- ⑤ その他

その他

(1) 複数回単位認定科目

【別表 複数回単位認定科目】に記載のある科目は、複数回単位の修得が可能です。ただし、同一の学期に同一の担当者が行う授業は履修できません。

(2) 第2部開講科目の履修

【別表 学部生が履修可能な第2部開講科目】に記載のある第2部開講科目を履修することができます。ただし、同一の授業名であっても修得できる単位の科目区分が異なる場合があるため注意してください。

【中国学科履修科目】

| | | | | | |
|-----------|--|---------------|--|---|----|
| 必修科目 | A | 学科専攻語学 | ※Ⅰ階程：中国語 12単位 [通年6科目] 一括認定 [1]・[2]・[3]・[4]・[5]・[6] | ※Ⅱ階程：中国語 12単位 [通年6科目] 一括認定 講読 [1]・[2]・[3]・文法・作文・会話 | 44 |
| | | | Ⅲ階程：中国語 12単位 [通年6科目] 講読 [1]・[2]・[3]・[4]・[5]・作文会話 | Ⅳ階程：中国語 8単位 [通年4科目] 講読 [1]・[2]・[3]・作文 | |
| 兼修語学 | B | 必修語学 | Ⅰ階程：英語 4単位 [通年2科目 [1]・[2]] | Ⅱ階程：英語 4単位 [通年2科目 [1]・[2]] | 8 |
| | | | 自由選択語学 | 英語Ⅲ [1] [2], イタリア語Ⅰ・Ⅱ, ポルトガル語Ⅰ・Ⅱ, インドネシア語, 朝鮮語Ⅰ・Ⅱ, エスペラント語, 東洋諸語 } [各通年2単位] ロシア語Ⅲ, イスパニア語Ⅲ, フランス語Ⅲ, ドイツ語Ⅲ, 東欧諸語1~4 [各半期1単位] | |
| C | | 学科基礎科目 (中国学科) | 中国文化論, 中国社会論, 中国経済論, 中国の法と政治, 現代中国論, 中国地域論, 中国歴史論, 中国文学史1・2, 中国語学基礎論1・2, 東洋思想1・2 | | 12 |
| D | | 全学共通科目 | 人文領域 | 宗教学入門, 哲学概論, 日本思想史, 仏教学, 倫理学入門, ジェンダー論入門, 社会学入門, アメリカ地域論, ヨーロッパ地域論入門, 西洋史, 東洋史入門, 日本史入門, 歴史学入門, 言語学入門, 日本語学概論1・2, 日本文学論入門, 日本文化入門, 近現代日本社会入門, 言語学基礎論1・2, 音声学1・2, 古典語(ラテン語)1・2, 海外派遣留学科目1~4, 海外協定校短期研修1・2, 中東欧研究入門1~4 [各半期1単位], 海外協定校提供科目A, 海外協定校提供科目B, Japanese contemporary literature and culture, History of Japanese cinema, Negotiating stereotypes about Japanese culture | 16 |
| | | | 社会科学領域 | 憲法1・2, 現代の法, 現代の政治, 現代日本経済論1・2, 経済経営入門, 現代国際法政問題, 現代国際経済問題, 現代国際文化問題, インターンシップ(就業体験)1・2 [各半期1単位], 現代の企業経営, 国際ビジネス・コミュニケーション, ビジネスロシア語1・2, ビジネス中国語1・2, 商業イスパニア語1・2, 現代世界経済論1・2, 社会開発論, 社会人類学入門, 神戸・地域メディアワークショップ, Issues in Japanese culture and society | |
| | | | 自然・人間科学領域 | 自然の認識1・2, 東の科学, 西の科学, 数理の世界1・2, 情報科学概論1~3, 人権論, 人権教育, 環境と人間, 人間形成論入門, 社会心理学入門1・2, 臨床心理学入門1・2, 生涯教育論1・2, 児童英語教育, スポーツ方法1・2 [各半期1単位], [教育原理], [教育哲学], [教育史], [神戸・教育インターンシップ1~3 [各半期1単位]], キャリアデザイン, ジャーナリズム論1, キャンパスライフ入門, データサイエンス入門, キャンパス・リーダーシップ [半期1単位], プログラミング実習Ⅰ・Ⅱ | |
| E | | コース科目 | 全てのコース科目として認定される | 模擬国連 [コース科目への認定は1回限り。2回目以降は自由選択単位となる。] | 20 |
| | | | 語学基礎 | 中国文学特殊講義1~4, 中国語学特殊講義1~5, 中国文化特殊講義1・2, 中国文学研究演習1, 中国語学演習1 | |
| | | | 語学発展 | 中国文学特殊講義5・6, 中国語学特殊講義6~12, 中国文化特殊講義3・4, 中国文学研究演習2, 中国語学演習2 | |
| | | | 国際法政基礎 | 民法1・2, 政治学1・2, 国際政治学1・2, 比較政治1・2, 国際法「基本」1・2, 国際政治経済学, アジア国際関係史1・2, アメリカ政治1, 中国法政論, 社会学, ロシアの社会1・2, 移民社会論, 統計学1・2, 文化と政治 | |
| | | | 国際法政発展 | 民法3~5, 行政法1・2, 国際取引法1・2, 法政特論1・2, 途上国地域社会論1・2, 国際紛争処理法, 国際法「発展」1・2, 国際私法1・2, ヨーロッパ政治1・2, アフリカ政治1・2, アメリカ政治2, 移民社会論演習, ゲーム理論, 比較地域研究1・2, 東南アジア地域論:政治, 商法1・2, 労働法, 東南アジア地域論特殊講義:政治, ロシア政治経済論1・2, Japan and the international politics of Asia | |
| | | | 経済経営基礎 | ミクロ経済学1・2, マクロ経済学1・2, 簿記原理, 経営学1・2, 神戸研究, 近代世界システム成立史, 統計学1・2, Japan's current and future challenges | |
| | | | 経済経営発展 | 国際経営論1・2, ミクロ経済政策1・2, マクロ経済政策1・2, 産業組織の経済学1・2, 経済学演習1・2, 経済学特殊講義1~4, 経営学特殊講義1~4, 会計学1・2, マーケティング論1・2, 国際商務論1・2, 商業英語1・2, 国際金融論1・2, 国際貿易論, 貿易政策論, 開発経済論1・2, 多国籍企業論1・2, 金融論1・2, 財政学1・2, 公共政策, 労働経済, 計量経済学1・2, 商法1・2, ゲーム理論, 東南アジア地域論:経済, 東南アジア地域論特殊講義:経済, ロシア政治経済論1・2, プロジェクト演習(経済経営) | |
| | | | 多文化共生基礎 | 宗教と社会の共生, ヨーロッパ地域論, 移民社会論, 朝鮮文化論1, 外国人学習者の観点から見た日本語, 日本語の形と意味, 日本語の多様性, 民族誌学1, 近現代日本社会, アジアの文化と社会の共生1・2, アジア言語文化の諸問題, フランスの思想と社会1, 出版と編集, コミュニケーション概論, コミュニケーション理論, 言語と国家, 社会人類学, コミュニケーション論, 異文化間コミュニケーション論, 英米文学特殊講義(現代社会)1・2, 英語学特殊講義(現代社会)1~4, パリアフリー論, 日本手話, ロシア文化特殊講義1, 中国文化特殊講義2, ラテンアメリカ文化特殊講義1・2, 社会調査分析1・2, 文化と政治, 環境論1, Japan's current and future challenges | |
| | | | 多文化共生発展 | フランスの社会, 朝鮮文化論2, 民族誌学2, 日本語の談話研究, 日本語変異の研究, 近現代日本社会研究1・2, 言語文化の多様性とアジア1・2, フランスの思想と社会2, コミュニケーション研究, 言語と文化, 社会人類学研究, ジェンダー共生論演習, 社会共生論演習, プロジェクト演習(多文化共生), 東南アジアの社会と文化, 比較地域研究1・2, 東南アジア地域論:経済, 東南アジア地域論:政治, 東南アジア地域論特殊講義:経済, 東南アジア地域論特殊講義:政治, ロシア文化特殊講義2, 中国文化特殊講義4, 移民社会論演習, 環境論2, Japan and the international politics of Asia | |
| | | | リベラルアーツ基礎 | 宗教学基礎論, 西洋哲学史, 倫理学, フランス文化論1, ヨーロッパ文化史1, ヨーロッパ文化論1, ヨーロッパ文学論, 東洋史, 日本史, 日本文学論, 言語類型論, 歴史言語学, 歴史言語学(ギリシャ語)1・2, 日本語教育の基礎, 人間形成論, 日本語の文法, 日本語の音声, 日本の文化, 西洋古典学1, 哲学, 自然科学(基礎)1・2, 人間関係論1・2, スポーツ文化論1・2, 中欧文化史1, ヨーロッパにおけるドイツ1, フランス文学論1, ジェンダー論, 文化芸術論1, 社会学, 小学校英語教育論, 社会調査分析1・2, 出版と編集 | |
| リベラルアーツ発展 | フランス文化論2, ヨーロッパ文化史2, ヨーロッパ文化論2, 日本文化の諸相1・2, 言語学研究1・2, 小学校英語教育論演習, 社会言語学, 西洋古典学2, 西洋史研究1・2, アジア言語文化1・2, 歴史学特殊講義, 自然科学(発展)1・2, スポーツ文化論演習「第1」1・2, スポーツ文化論演習「第2」1・2, 一般言語学から見た日本語, 日本語の統語論的研究, 日本語の意味・機能研究, 日本語音声・音韻の研究, 日本文化研究1・2, アジア言語学1・2, 哲学特殊講義1・2, 中欧文化史2, ヨーロッパにおけるドイツ2, フランス文学論2, 社会心理学演習1・2, 臨床心理学演習1・2, 現代文明論, 文化芸術論2 | | | | |
| F | | 研究指導, 卒業論文 | 研究指導[必修][通年4単位][通年4単位], 卒業論文[半期8単位] (卒業論文は自由選択。卒業論文により8単位が取得できない場合は、所属コースのコース科目からこれに代えて8単位取得しなければなりません。) | 16 | |
| G | | 自由選択単位 | 属する学科の必修科目及び選択科目の卒業必要単位数を超えて取得した単位および自由選択語学で取得した単位 属する学科以外の選択科目、単位互換講座科目および課程科目で取得した単位 | 8 | |

【注意事項】

1. 表右欄の数字は卒業必要単位数を示します。
2. 単位数を表記していない科目は、半期2単位です。
3. 毎年度に履修登録可能な単位の上限は49単位とします。(ただし卒業論文と課程科目を除く)
4. ※印：専攻語学Ⅰ階程及びⅡ階程の単位は一括して認定します。
5. ◆印：兼修語学のうち自由選択語学で修得した単位は、自由選択単位に算入します。
6. 全学共通科目は、人文領域、社会科学領域、自然・人間科学領域の中からそれぞれ1科目以上の履修が必要です。
7. □印は教育職員養成課程の科目です。外国語学部履修規則別表(5)-2および教育職員養成課程の履修に関する規則、別表もあわせて確認すること。

10 イスパニア学科

卒業必要単位（124単位）を満たすには、以下のA～Gのグループから（ ）内に示されている単位数を最低限度として修得する必要があります。【別表イスパニア学科履修科目参照】

A. 専攻語学（44単位）

(1) 専攻語学のカリキュラムポリシー

I 階程ではイスパニア語の基本的な文法事項と正確な発音の習得を通じて、運用の基礎を養います。II 階程ではより高度な文法事項の習得によって、情報を正確に理解、発信する力を養います。III 階程ではより幅広い分野における文を理解し、発信できる力を養います。IV 階程では高度な内容を理解し、自らの見解を効果的に発信するための能力を養います。

(2) カリキュラムの概要

イスパニア学科の専攻イスパニア語科目は下記のように体系化されています。

□ カリキュラム構成（科目別）

| 階程 | 文法 | 講読 | 会話 | 作文 |
|-----|-----------------------|--|-----------------------------------|--------------------|
| I | 専攻イスパニア語 I [1] [2] | 専攻イスパニア語 I [3] (文法講読) | 専攻イスパニア語 I [4] (発音) [5] [6] | — |
| II | 専攻イスパニア語 II 文法 | 専攻イスパニア語 II 講読 [1] [2] (文化講読) | 専攻イスパニア語 II 会話 [1] [2] | 専攻イスパニア語 II 作文 |
| III | — | 専攻イスパニア語 III 講読 [1] [2] [3] (文学・文化・時事講読) | 専攻イスパニア語 III 会話 [1] [2] | 専攻イスパニア語 III 作文 |
| IV | — | 専攻イスパニア語 IV 講読 [1] [2] (文学・文化・時事講読) | 専攻イスパニア語 IV 会話 | 専攻イスパニア語 IV 作文 |

□ カリキュラム構成（技能別）

| | 受信する／わかる | | 発信する／つたえる | | 媒介する／つなぐ | 探求する／さぐる |
|-----|------------------|------------------------|------------------|------------------|---|------------------------|
| | 聞く | 読む | 話す | 書く | | |
| I | I [4] [5] [6] | I [1] [2] [3] | I [4] [5] [6] | I [4] [5] [6] | | |
| II | II 会話 [1] [2] | II 講読 [1] [2] II 文法 | II 会話 [1] [2] | II 作文 | II 講読 [1] [2] II 文法 | II 講読 [1] [2] II 文法 |
| III | III 会話 [1] [2] | III 講読 [1] [2] [3] | III 会話 [1] [2] | III 作文 | III 作文 III 会話 [1] [2] III 講読 [1] [2] [3] | III 講読 [1] [2] [3] |
| IV | IV 会話 | IV 講読 [1] [2] | IV 会話 | IV 作文 | IV 会話 IV 講読 [1] [2] IV 作文 | IV 講読 [1] [2] |

(3) 階程ごとの到達目標

● I 階程 (CEFR A2レベル)

基本的な文法事項および正確な発音を習得し、さらにテキストの読解や会話練習をととして言語運用の基礎を築く。

- ・ イスパニア語 (スペイン語) の初級文法を体系的に理解している
- ・ 日常的な場面、身近な社会問題に関する議論での表現や語彙を聞き取り、理解することができる
- ・ 身近な事象に関する平易なテキストを理解できる
- ・ 身近な事象に関し、イスパニア語の正確な発音で平易な文を発信できる
- ・ 複雑でない語りの要点をまとめ、伝えることができる

● II 階程 (CEFR A2-B1レベル)

I 階程で学んだ基礎を発展させ、より高度な文法事項を習得するとともに、会話および作文をととして正確に情報を発信する力を育成し、また言語の理解に不可欠な文化的背景についても学ぶ。

- ・ 日常的话题のやりとりを理解し、必要な情報を得ることができる
- ・ 難解でない文で書かれたテキストを、文構造を把握しながら正確に理解できる
- ・ 関心のある話題について明確な議論を構築し、発表できる
- ・ 自分の経験を詳細に述べ、個人的な意見を伝えることができる
- ・ エッセイや小説の内容を理解し、適切に翻訳できる
- ・ イスパニア語の基本的な言語学的知識、イスパニア語圏の基本情報を把握している

● III 階程 (CEFR B1-B2レベル)

I、II 階程で培われた総合的な語学力を基礎とし、さらなる言語運用能力の向上を目指すとともに、時事問題なども取り上げながら、より幅広い分野での言語の理解に努める。

- ・ 時事問題・学術的话题などのやや複雑な議論の要点を理解できる
- ・ さまざまなジャンルのテキストを文化的背景も踏まえ理解し、要約することができる
- ・ 身近な話題に関する議論に積極的に参加することができる
- ・ 関心のある話題について明確かつ体系的にエッセイやレポートを書くことができる
- ・ 専門性のあるテキストを自身の解釈を入れながら分析することができる
- ・ 関心のある事柄について論理的な文を使ってプレゼンテーションができる

● IV 階程 (CEFR B2-C1レベル)

III 階程につづき、歴史的、文化的な背景知識に基づいて情報を理解するとともに、みずからの見解を効果的に発信するための能力を身につける。

- ・ 時事問題・学術的内容に関する議論、複雑かつまとまりのある発話を理解できる
- ・ 複雑な文学作品、専門性の高い高度な内容のテキストの内容を理解できる
- ・ 抽象的で複雑な話題に関する議論に積極的に参加することができる
- ・ 複雑な話題について、派生的話題にも立ち入りながら詳説するテキストを書くことができる
- ・ 専門性の高いテキストや難解な文学作品の内容を理解し、原文のイメージを損なうことなく日本語に訳すことができる
- ・ 学術的话题・社会問題などの複雑な議論において自分の意見を論理的に発表できる。

(4) 科目数と履修単位

- ・ 1 年次には I 階程の 6 科目 (12 単位)、2 年次には II 階程 6 科目 (12 単位) を履修します。I、II 階程はそれぞれ全ての科目を修得した際に一括して単位が与えられます。
- ・ 3 年次には III 階程の 6 科目 (12 単位)、4 年次には IV 階程の 4 科目 (8 単位) を履修します。単位は 1 科目ごとに与えられます。
- ・ 各年度に履修する専攻語学の単位数は 12 単位を超えることはできません。

(5) 進級条件と再履修

＜進級条件表＞

| 進級内容 | 条件（進級には全条件を満たす必要があります） |
|-------|-----------------------------|
| 1年⇒2年 | 専攻イスパニア語Ⅰ階程 12単位全てを修得（一括認定） |
| 2年⇒3年 | 専攻イスパニア語Ⅱ階程 12単位全てを修得（一括認定） |
| 3年⇒4年 | 専攻イスパニア語Ⅲ階程 12単位のうち8単位以上を修得 |

① 2年への進級

Ⅰ階程の6科目（12単位）をすべて修得しなければ2年へは進級できません。

② 3年への進級

Ⅱ階程の6科目（12単位）をすべて修得しなければ3年へは進級できません。

③ 4年への進級と再履修

- a.Ⅲ階程のうち4科目（8単位）以上の単位を修得すれば、翌年度4年に進級します。その場合、Ⅲ階程で修得できなかった科目があれば、翌年度にⅣ階程の科目とともに再履修します。
- b.Ⅲ階程の科目のうち修得できた単位が8単位未満の場合は留年とします。その場合、Ⅲ階程で修得できなかった科目を再履修します。ただし、再履修の科目の単位数を12単位から差し引いた残りの単位数分を、Ⅳ階程の科目から履修することができます。なお、留年となった場合、3年次で履修できるⅣ階程科目は2科目（4単位）が上限です。

＜Ⅲ階程の再履修とⅣ階程履修可能単位数＞

| 区分 | Ⅲ階程で取得できた単位数 | Ⅲ階程の再履修単位数 | Ⅳ階程の履修可能単位数 |
|----|--------------|------------|-------------|
| 留年 | 0単位 [0科目] | 12単位 [6科目] | 履修不可 |
| | 2単位 [1科目] | 10単位 [5科目] | 2単位 [1科目] |
| | 4単位 [2科目] | 8単位 [4科目] | 4単位 [2科目] |
| | 6単位 [3科目] | 6単位 [3科目] | 4単位 [2科目] |
| 進級 | 8単位 [4科目] | 4単位 [2科目] | 8単位 [4科目] |
| | 10単位 [5科目] | 2単位 [1科目] | 8単位 [4科目] |

B. 兼修語学（必修語学8単位）

- (1) 兼修語学として英語を学習します。
- (2) 1年次にⅠ階程の2科目（4単位）、2年次にⅡ階程の2科目（4単位）をそれぞれ履修します。
- (3) 単位は1科目（2単位）ごとに与えられます。
- (4) Ⅰ階程のうち1科目（2単位）を修得すれば、翌年度にⅡ階程の2科目（4単位）を履修できます。このとき、修得できなかったⅠ階程の科目を翌年度に再履修します。
- (5) Ⅰ階程の2科目（4単位）を修得し、Ⅱ階程の1科目（2単位）を修得すればⅢ階程を履修することができます。
- (6) 兼修英語をⅠ、Ⅱ階程の4科目（8単位）全て修得すれば、他の兼修語学（ロシア語、中国語、フランス語、ドイツ語）を履修できます。このとき、Ⅰ階程の2科目（4単位）は一括して単位を付与します。Ⅱ階程の科目は1科目（2単位）ごとに単位を付与します。また、履修者のレベルに応じて、大学が適当と認めるときは、Ⅱ階程もしくはⅢ階程から履修することができます。
- (7) 兼修語学のうちⅢ階程を除く自由選択語学は、学年に関わらず履修することができます。
- (8) 8単位を超えて修得した兼修語学の単位は、「自由選択単位」として卒業単位に算入されます。

(9) 専攻語学と兼修語学の授業が重なる場合は、履修登録前に教務入試班に相談してください。

C. 学科基礎科目 (12単位)

学科基礎科目は各学科での学修の基礎となる科目のため、学修効果上1・2年次での履修が望ましいです。

D. 全学共通科目 (16単位)

全学共通科目は、「人文領域」、「社会科学領域」、「自然・人間科学領域」の3領域に区分されており、卒業までに各領域から少なくとも1科目を修得する必要があります。

E. コース科目 (20単位)

- (1) 2年次から所属するコースのコース科目を20単位修得する必要があります。
- (2) 1年次で「コース科目」を履修する場合、2年次で異なるコースを選択すると、その単位は「コース科目」ではなく「自由選択単位」として卒業必要単位に算入されます。

F. 研究指導・卒業論文 (16単位)

(1) 研究指導

- ・研究指導は必修科目であり、3・4年継続履修を原則とします。
- ・研究指導の担当教員は2年次後期に選考のうえ決定します。詳細は教務入試班よりお知らせします。

(2) 卒業論文

- ・卒業予定年次に卒業論文を提出し、審査に合格すれば8単位が与えられ、卒業必要単位に算入されます。
- ・卒業論文を提出しない場合、所属コースのコース科目を8単位（コース科目は合計28単位となる）修得することが必要です。
- ・卒業論文の審査に合格した者で、卒業が次年度以降となった場合は卒業論文を再提出する必要はありません。

G. 自由選択単位 (8単位)

以下に定める科目の単位を修得した場合は、原則として自由選択単位として卒業必要単位に算入します。

- ① 属する学科／コースの開設科目を規定の単位数を超えて修得した単位
- ② 他学科／他コース科目
- ③ 単位互換講座科目【大学コンソーシアムひょうご神戸 etc.】
- ④ 課程科目
- ⑤ その他

その他

(1) 複数回単位認定科目

【別表 複数回単位認定科目】に記載のある科目は、複数回単位の修得が可能です。ただし、同一の学期に同一の担当者が行う授業は履修できません。

(2) 第2部開講科目の履修

【別表 学部生が履修可能な第2部開講科目】に記載のある第2部開講科目を履修することができます。ただし、同一の授業名であっても修得できる単位の科目区分が異なる場合があるため注意してください。

【イスパニア学科履修科目】

| | | | | | |
|------|--|--|--|---|----|
| 必修科目 | A | 学科専攻語学 | ※Ⅰ階層：イスパニア語 12単位 [通年6科目] 一括認定 [1]・[2]・[3]・[4]・[5]・[6] | ※Ⅱ階層：イスパニア語 12単位 [通年6科目] 一括認定 講読 [1]・[2]・文法・作文・会話 [1]・[2] | 44 |
| | | | Ⅲ階層：イスパニア語 12単位 [通年6科目] 講読 [1]・[2]・[3]・作文・会話 [1]・[2] | Ⅳ階層：イスパニア語 8単位 [通年4科目] 講読 [1]・[2]・作文・会話 | |
| 兼修語学 | B | 自由選択語学 | Ⅰ階層：英語 4単位 [通年2科目] [1]・[2] | Ⅱ階層：英語 4単位 [通年2科目] [1]・[2] | 8 |
| | | | 英語Ⅲ [1] [2], イタリア語Ⅰ・Ⅱ, ポルトガル語Ⅰ・Ⅱ, インドネシア語, 朝鮮語Ⅰ・Ⅱ, エスペラント語, 東洋諸語 } [各通年2単位] | ロシア語Ⅲ, 中国語Ⅲ, フランス語Ⅲ, ドイツ語Ⅲ, 東欧諸語1~4 [各半期1単位] | ◆ |
| C | | 学科基礎科目 (イスパニア学科) | イスパニア文化史1・2, 中南米文化史1・2, イスパニアの社会1・2, 中南米の社会1・2, 中南米地域研究1・2, イスパニア文学史1・2, ラテンアメリカ文学史1・2, イスパニア語学概論1・2, Preparación para el DELE (DELE対策演習) 1・2 | 12 | |
| D | 全学共通科目 | 人文領域 | 宗教学入門, 哲学概論, 日本思想史, 仏教学, 倫理学入門, ジェンダー論入門, 社会学入門, アメリカ地域論, ヨーロッパ地域論入門, 西洋史, 東洋史入門, 日本史入門, 歴史学入門, 言語学入門, 日本語学概論1・2, 日本文学入門, 日本文化入門, 近現代日本社会入門, 言語学基礎論1・2, 音声学1・2, 古典語(ラテン語)1・2, 海外派遣留学科目1~4, 海外協定校短期研修1・2, 中東欧研究入門1~4 [各半期1単位], 海外協定校提供科目A, 海外協定校提供科目B, Japanese contemporary literature and culture, History of Japanese cinema, Negotiating stereotypes about Japanese culture | 16 | |
| | | 社会科学領域 | 憲法1・2, 現代の法, 現代の政治, 現代日本経済論1・2, 経済経営入門, 現代国際法政問題, 現代国際経済問題, 現代国際文化問題, インターンシップ(就業体験)1・2 [各半期1単位], 現代の企業経営, 国際ビジネス・コミュニケーション, ビジネスロシア語1・2, ビジネス中国語1・2, 商業イスパニア語1・2, 現代世界経済論1・2, 社会開発論, 社会人類学入門, 神戸・地域メディアワークショップ, Issues in Japanese culture and society | | |
| | | 自然・人間科学領域 | 自然の認識1・2, 東の科学, 西の科学, 数理の世界1・2, 情報科学概論1~3, 人権論, 人権教育, 環境と人間, 人間形成論入門, 社会心理学入門1・2, 臨床心理学入門1・2, 生涯教育論1・2, 児童英語教育, スポーツ方法1・2 [各半期1単位], 教育原理, 教育哲学, 教育史, 神戸・教育インターンシップ1~3 [各半期1単位], キャリアデザイン, ジャーナリズム論1, キャンパスライフ入門, データサイエンス入門, キャンパス・リーダーシップ [半期1単位], プログラミング実習Ⅰ・Ⅱ | | |
| E | コース科目 | 全てのコース科目として認定される | 模擬国連 [コース科目への認定は1回限り。2回目以降は自由選択単位となる。] | | |
| | | 語学文学 | 基礎 | イスパニア文学特殊講義1・2, ラテンアメリカ文学特殊講義1・2, イスパニア語学特殊講義1・2, イスパニア文化特殊講義1・2, イスパニア文学研究演習1・2, ラテンアメリカ文学研究演習1・2, イスパニア語学演習1・2, ラテンアメリカ文化特殊講義1・2 | 20 |
| | | | 発展 | イスパニア文学特殊講義3・4, ラテンアメリカ文学特殊講義3・4, イスパニア語学特殊講義3・4, イスパニア文化特殊講義3・4, ラテンアメリカ文化特殊講義3・4, イスパニア文学研究演習3・4, ラテンアメリカ文学研究演習3・4, イスパニア語学演習3・4 | |
| | | 国際法政 | 基礎 | 民法1・2, 政治学1・2, 国際政治学1・2, 比較政治1・2, 国際法「基本」1・2, 国際政治経済学, アジア国際関係史1・2, アメリカ政治1, 中国法政論, 社会学, ロシアの社会1・2, 移民社会論, 統計学1・2, 文化と政治 | 20 |
| | | | 発展 | 民法3・4・5, 行政法1・2, 国際取引法1・2, 法政特論1・2, 途上国地域社会論1・2, 国際紛争処理法, 国際法「発展」1・2, 国際私法1・2, ヨーロッパ政治1・2, アフリカ政治1・2, アメリカ政治2, 移民社会論演習, ゲーム理論, 比較地域研究1・2, 東南アジア地域論: 政治, 商法1・2, 労働法, 東南アジア地域論特殊講義: 政治, ロシア政治経済論1・2, Japan and the international politics of Asia | |
| | | 経済経営 | 基礎 | ミクロ経済学1・2, マクロ経済学1・2, 簿記原理, 経営学1・2, 神戸研究, 近代世界システム成立史, 統計学1・2, Japan's current and future challenges | 20 |
| | | | 発展 | 国際経営論1・2, ミクロ経済政策1・2, マクロ経済政策1・2, 産業組織の経済学1・2, 経済学演習1・2, 経済学特殊講義1~4, 経営学特殊講義1~4, 会計学1・2, マーケティング論1・2, 国際商務論1・2, 商業英語1・2, 国際金融論1・2, 国際貿易論, 貿易政策論, 開発経済論1・2, 多国籍企業論1・2, 金融論1・2, 財政学1・2, 公共政策, 労働経済, 計量経済学1・2, 商法1・2, 労働法, ゲーム理論, 東南アジア地域論: 経済, 東南アジア地域論特殊講義: 経済, ロシア政治経済論1・2, プロジェクト演習(経済経営) | |
| | | 多文化共生 | 基礎 | 宗教と社会の共生, ヨーロッパ地域論, 移民社会論, 朝鮮文化論1, 外国人学習者の観点から見た日本語, 日本語の形と意味, 日本語の多様性, 民族誌学1, 近現代日本社会, アジアの文化と社会の共生1・2, アジア言語文化の諸問題, フランスの思想と社会1, 出版と編集, コミュニケーション学概論, コミュニケーション理論, 言語と国家, 社会人類学, コミュニケーション論, 異文化間コミュニケーション論, 英米文学特殊講義(現代社会)1・2, 英語学特殊講義(現代社会)1~4, バリアフリー論, 日本語話, ロシア文化特殊講義1, 中国文化特殊講義2, ラテンアメリカ文化特殊講義1・2, 社会調査分析1・2, 文化と政治, 環境論1, Japan's current and future challenges | 20 |
| | | | 発展 | フランスの社会, 朝鮮文化論2, 民族誌学2, 日本語の談話研究, 日本語変異の研究, 近現代日本社会研究1・2, 言語文化の多様性とアジア1・2, フランスの思想と社会2, コミュニケーション研究, 言語と文化, 社会人類学研究, ジェンダー共生論演習, 社会共生論演習, プロジェクト演習(多文化共生), 東南アジアの社会と文化, 比較地域研究1・2, 東南アジア地域論: 経済, 東南アジア地域論: 政治, 東南アジア地域論特殊講義: 経済, 東南アジア地域論特殊講義: 政治, ロシア文化特殊講義2, 中国文化特殊講義4, 移民社会論演習, 環境論2, Japan and the international politics of Asia | |
| | | リベラルアーツ | 基礎 | 宗教学基礎論, 西洋哲学史, 倫理学, フランス文化論1, ヨーロッパ文化史1, ヨーロッパ文化論1, ヨーロッパ文学論, 東洋史, 日本史, 日本文学論, 言語類型論, 歴史言語学, 古典語(ギリシャ語)1・2, 日本語教育の基礎, 人間形成論, 日本語の文法, 日本語の音声, 日本の文化, 西洋古典学1, 哲学, 自然科学(基礎)1・2, 人間関係論1・2, スポーツ文化論1・2, 中欧文化史1, ヨーロッパにおけるドイツ1, フランス文学論1, ジェンダー論, 文化芸術論1, 社会学, 小学校英語教育論, 社会調査分析1・2, 出版と編集 | 20 |
| 発展 | フランス文化論2, ヨーロッパ文化史2, ヨーロッパ文化論2, 日本文化の諸相1・2, 言語学研究1・2, 小学校英語教育論演習, 社会言語学, 西洋古典学2, 西洋史研究1・2, アジア言語文化1・2, 歴史学特殊講義, 自然科学(発展)1・2, スポーツ文化論演習「第1」1・2, スポーツ文化論演習「第2」1・2, 一般言語学から見た日本語, 日本語の統語論的研究, 日本語の意味・機能研究, 日本語音声・音韻の研究, 日本文化研究1・2, アジア言語学1・2, 哲学特殊講義1・2, 中欧文化史2, ヨーロッパにおけるドイツ2, フランス文学論2, 社会心理学演習1・2, 臨床心理学演習1・2, 現代文明論, 文化芸術論2 | | | | |
| F | 研究指導, 卒業論文 | 研究指導〔必修〕[通年4単位] [通年4単位], 卒業論文 [半期8単位] (卒業論文は自由選択。卒業論文により8単位が取得できない場合は、所属コースのコース科目からこれに代えて8単位取得しなければなりません。) | 16 | | |
| G | 自由選択単位 | 属する学科の必修科目及び選択科目の卒業必要単位数を超えて取得した単位および自由選択語学で取得した単位 属する学科以外の選択科目、単位互換講座科目および課程科目で取得した単位 | 8 | | |

【注意事項】

- 表右欄の数字は卒業必要単位数を示します。
- 単位数を表記していない科目は、半期2単位です。
- 毎年度に履修登録可能な単位の上限は40単位とします。(ただし卒業論文と課程科目を除く)
- ※印：専攻語学Ⅰ階層及びⅡ階層の単位は一括して認定します。
- ◆印：兼修語学のうち自由選択語学で修得した単位は、自由選択単位に算入します。
- 全学共通科目は、人文領域、社会科学領域、自然・人間科学領域の中からそれぞれ1科目以上の履修が必要です。
- は教育職員養成課程の科目です。外国語学部履修規則別表(5)-2および教育職員養成課程の履修に関する規則、別表もあわせて確認すること。

11 国際関係学科

卒業必要単位（124単位）を満たすには、以下のA～Gのグループから（ ）内に示されている単位数を最低限度として修得する必要があります。【別表 国際関係学科履修科目参照】

A. 専攻語学（24単位）

(1) 専攻語学のカリキュラムポリシー

I・II階程では、講読で幅広い分野の英文に触れることによって国際問題への意識や関心を養うとともに、作文、会話を通して実用的な運用能力を身につけさせ、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション等によって自己を表現する力を養います。III・IV階程では、英語の高度な知識と運用能力、及び国際社会で通用する表現力を養います。

(2) カリキュラムの概要

国際関係学科の専攻英語科目は下記のように体系化されています。

□ カリキュラム構成（科目別）

| | | Course I / I 階程 | Course II / II 階程 | Course III / III 階程 | Course IV / IV 階程 |
|--|-----------|---|---|--|--|
| Receive /Understand 受信する ／わかる | Listen 聞く | Global Issues 1 Oral Communication 1 | Global Issues 2 Oral Communication 2 | Global Issues 3 Integrated Skills in English 1 | Global Issues 4 Integrated Skills in English 2 |
| | Read 読む | Global Issues 1 Academic Reading 1 | Global Issues 2 Academic Reading 2 | Global Issues 3 | Global Issues 4 |
| Send /Communicate 発信する ／つたえる | Speak 話す | Global Issues 1 Oral Communication 1 | Global Issues 2 Oral Communication 2 | Global Issues 3 Integrated Skills in English 1 | Global Issues 4 Integrated Skills in English 2 |
| | Write 書く | Global Issues 1 Academic Writing 1 | Global Issues 2 Academic Writing 2 | Global Issues 3 Integrated Skills in English 1 | Global Issues 4 Integrated Skills in English 2 |
| Mediate /Connect 媒介する ／つなぐ | | Global Issues 1 Academic Reading 1 Academic Writing 1 Oral Communication 1 | Global Issues 2 Academic Reading 2 Academic Writing 2 Oral Communication 2 | Global Issues 3 Integrated Skills in English 1 | Global Issues 4 Integrated Skills in English 2 |
| Explore 探求する ／さぐる | | Global Issues 1 Academic Reading 1 Academic Writing 1 | Global Issues 2 Academic Reading 2 Academic Writing 2 | Integrated Skills in English 1 | Global Issues 4 Integrated Skills in English 2 |

(3) 階程ごとの到達目標

● I 階程

- ・一般に聞きなれたアクセントではっきり発音されれば、日常的トピックあるいは自分の仕事に関連したトピックに関する事実に基づく平易な情報を、概略と詳細の両方を聞き分けながら、理解することができる。
- ・自分の興味のある領域の単純な事実に基づくテキストを、満足のいくレベルの理解で読むことができる。
- ・自分の興味のある多様な領域の話題を、単純な言葉で合理的に流暢に説明でき、筋が通ったまとめりとして話すことができる。
- ・短い断片的な要素をまとめりのあるアイデアとして書き表すことにより、自分の興味のある分野内の馴染みある話題に関して、平易で繋がりのあるテキストを書くことができる。
- ・特定の表現の意味を調べれば、関心のある分野のトピックに関する長いテキストに示された要点を要約できる。
- ・主な情報を別の方法で伝えることにより、日常の話題の一面をより明確にすることができる。
- ・多様なグローバル問題に関する英語の情報を理解し、他の科目から得た知識を英語科目のタスクに結び付けることができる。

● II 階程

- ・話題が自分にとって馴染みのあるものであり、話の方向性を明示的な言語表現で示されれば、長くて複雑な議論の筋についていくことができる。
- ・ある程度独力で読むことができる。広範な語彙を使いこなせるが、頻度の低い慣用表現には困難を感じるかもしれないレベル。
- ・自分の興味のある分野に関連したかなり広範な話題について、明確で詳細な説明と口頭発表をすることができ、補助的なポイントと関連する例を使用して考えを拡大・支持することができる。
- ・多様な情報源からの情報を使いながら、自分の興味ある分野に関連した様々な話題に関する明確で詳細なテキストを書くことができる。
- ・様々なソースから発信される情報や議論を統合・報告できる。
- ・具体的な例を挙げ、段階的に要約し、要点を反復することにより、関心のある分野の主題に関する概念をより理解しやすくすることができる。
- ・国際関係に関するより長く複雑な英語のテキストや講義を理解し、基本的な国際関係理論（リベラリズム、リアリズムなど）および他の科目から得た知識や情報を英語科目のタスクに結び付けることができる。

● III 階程

- ・通常の個人的、社会的、学問的あるいは職業的生活において遭遇するようなトピックで、馴染みがあるものもないものも、標準的な話しことばであれば、ライブでも放送されたものでも理解できる（極端な背後の騒音や不十分な談話構造、慣用表現の使用がなければ理解できる）。
- ・様々なテキストと目的に応じて読むスタイルとスピードを変え、適切な参考文献を選択して使いながら、概ね独力で読むことができる。広範な語彙を使いこなすことができる。
- ・重要なポイントを適切に強調し、それを詳細に説明して支持しながら、明確で体系的な表現で口頭発表を展開することができる。
- ・通常の個人的、社会的、あるいは職業的生活において遭遇するような話題で、馴染みがあるものやないものであっても、複数の情報源からの情報や議論を統合・評価しながら、明確で詳細なテキストを書くことができる。
- ・対照的な視点や主要なテーマについてコメントし、議論しながら、より広範囲な事実のテキストまたは想像によるテキストを要約することができる。
- ・例、推論、説明およびコメントを追加することにより、関心のある分野の主題に関するテキストの内容をより理解しやすくすることができる。

- ・国際関係の事例研究に関する具体的で複雑な英語のテキストや講義を理解し、それらの内容と見解を評価し、他の科目から得た知識と比較することができる。

●IV階程

- ・話が明確に構造化されていない場合や、話の関係が暗に示されているだけで明示的に通知されていない場合でも、長いスピーチについていくことができる。
- ・自分の専門の領域かどうかに関わらず、難しい部分を再読すれば、長い複雑なテキストを詳細に理解することができる。
- ・複雑な話題について明確で詳細な表現で口頭発表を行い、サブテーマを統合し、特定のポイントを発展させ、適切な結論で締めくくることができる。
- ・自らの主張と関連する顕著な問題を強調し、補助的なポイント・理由・適切な例を用いてある程度自分の見解を展開・支持し、適切な結論でまとめながら、複雑な主題に関する明確で構造化されたテキストを書くことができる。
- ・自身の学問的又は専門的な能力の範囲内の事柄に関する、長く、骨の折れるテキストを、様々な観点を詳細に把握・検討し、最も重要な点を見極めて、要約することができる。
- ・難しい見地をより明確に説明し、理解に役立つ詳細情報を追加することにより、複雑で難解な内容を理解しやすくすることができる。
- ・国際関係に関連する英語のテキストや講義に批判的な視点を使用し、集約的な知識と専門知識を使用して、反論と展望を提供するとともに、他の科目で学んだ情報と関係づけることができる。

(4) 科目数と履修単位

- ・専攻語学として英語を学習します。
- ・1年次にはI階程の4科目（8単位）、2年次にはII階程の4科目（8単位）、3年次にはIII階程の2科目（4単位）、4年次にはIV階程の2科目（4単位）を履修します。
- ・全ての階程で1科目（2単位）ごとに単位が付与されます。

(5) 進級条件と再履修

<進級条件表>

| 進級内容 | 条件（進級には全条件を満たす必要があります） |
|-------|---|
| 1年⇒2年 | 専攻英語 I 階程 8 単位のうち 6 単位以上を修得 |
| 2年⇒3年 | 専攻英語 I 階程 8 単位を全て修得 専攻英語 II 階程 8 単位のうち 6 単位以上を修得 |
| 3年⇒4年 | なし（3年に進級した翌年度に4年に進級します） |

① 2年への進級と再履修

- I 階程の科目のうち 3 科目（6 単位）を修得すれば 2 年に進級します。
- I 階程で単位を修得できなかった科目があるときは、翌年度に II 階程の科目とともに再履修します。
- 2 年に進級できなければ、II 階程の科目は履修できません。

< I 階程の再履修と II 階程履修可能単位数 >

| 区分 | I 階程で取得できた単位数 | I 階程の再履修単位数 | II 階程の履修可能単位数 |
|----|---------------|--------------|---------------|
| 留年 | 0 単位 [0 科目] | 8 単位 [4 科目] | 履修不可 |
| | 2 単位 [1 科目] | 6 単位 [3 科目] | 履修不可 |
| | 4 単位 [2 科目] | 4 単位 [2 科目] | 履修不可 |
| 進級 | 6 単位 [3 科目] | 2 単位 [1 科目] | 8 単位 [4 科目] |

② 3年への進級と再履修

- Ⅱ階程の科目のうち3科目（6単位）を修得すれば3年に進級します。ただし、Ⅰ階程をすべて修得しなければ3年に進級できません。
- Ⅱ階程で単位を修得できなかった科目があるときは、翌年度にⅢ階程の科目とともに再履修します。
- 3年に進級できなければ、Ⅲ階程の科目は履修できません。

<Ⅱ階程の再履修とⅢ階程履修可能単位数>

| 区分 | Ⅱ階程で取得できた単位数 | Ⅱ階程の再履修単位数 | Ⅲ階程の履修可能単位数 |
|----|--------------|------------|-------------|
| 留年 | 0単位 [0科目] | 8単位 [4科目] | 履修不可 |
| | 2単位 [1科目] | 6単位 [3科目] | 履修不可 |
| | 4単位 [2科目] | 4単位 [2科目] | 履修不可 |
| 進級 | 6単位 [3科目] | 2単位 [1科目] | 4単位 [2科目] |

③ 4年への進級と再履修

- 4年への進級に条件はないため、3年に進級した翌年度に4年に進級します。
- Ⅲ階程で単位を修得できなかった科目があるときは、翌年度にⅣ階程の科目とともに再履修します。

<Ⅲ階程の再履修とⅣ階程履修可能単位数>

| Ⅲ階程で取得できた単位数 | Ⅲ階程の再履修単位数 | Ⅳ階程の履修可能単位数 |
|--------------|------------|-------------|
| 0単位 [0科目] | 4単位 [2科目] | 4単位 [2科目] |
| 2単位 [1科目] | 2単位 [1科目] | 4単位 [2科目] |

B. 兼修語学（必修語学8単位）

- 兼修語学としてロシア語、中国語、イスパニア語、フランス語、ドイツ語のうちから1ヶ国語を選択し履修します。
- 兼修語学は1年次でⅠ階程の2科目（4単位）、2年次でⅡ階程の2科目（4単位）を履修します。
- Ⅰ階程の科目は2科目（4単位）を一括して単位を付与します。Ⅱ階程の科目は1科目（2単位）ごとに単位を付与します。
- Ⅰ階程の2科目（4単位）を修得し、Ⅱ階程のうち1科目（2単位）を修得すればⅢ階程を履修できます。
- 兼修語学のⅠ、Ⅱ階程4科目（8単位）を修得すれば、さらに他の兼修語学を履修することができます。また、履修者のレベルに応じて、大学が適当と認めるときは、Ⅱ階程もしくはⅢ階程から履修することができます。
- 兼修語学のうち、Ⅲ階程を除く自由選択語学は学年に関わらず履修することができます。
- 8単位を超えて修得した兼修語学の単位は、「自由選択単位」として卒業単位に算入されます。

C. 学科基礎科目（8単位）

学科基礎科目は各学科での学修の基礎となる科目のため、学修効果上1・2年次での履修が望ましいです。

D. 全学共通科目（12単位）

全学共通科目は、「人文領域」、「社会科学領域」、「自然・人間科学領域」の3領域に区分されており、卒業までに各領域から少なくとも1科目を修得する必要があります。

E. コース科目（主専攻28単位、副専攻20単位）

- (1) 2年次から所属するコースのコース科目を計48単位（主専攻28単位、副専攻20単位）修得する必要があります。
- (2) 1年次で「コース科目」を履修する場合、2年次で異なるコースを選択すると、その単位は「コース科目」ではなく「自由選択単位」として卒業必要単位数に算入されます。

F. 研究指導・卒業論文（16単位）

(1) 研究指導

- ・研究指導は必修科目であり、3・4年継続履修を原則とします。
- ・研究指導の担当教員は2年次後期に選考のうえ決定します。詳細は教務入試班よりお知らせします。

(2) 卒業論文

- ・卒業予定年次に卒業論文を提出し、審査に合格すれば8単位が与えられ、卒業必要単位数に算入されます。
- ・卒業論文を提出しない場合、所属コースのコース科目を主専攻、副専攻いずれかから8単位（コース科目は合計56単位となる）修得することが必要です。
- ・卒業論文の審査に合格した者で、卒業が次年度以降となった場合は卒業論文を再提出する必要はありません。

G. 自由選択単位（8単位）

以下に定める科目の単位を修得した場合は、原則として自由選択単位として卒業必要単位数に算入します。

- ① 属する学科／コースの開設科目を規定の単位数を超えて修得した単位
- ② 他学科／他コース科目
- ③ 単位互換講座科目 [大学コンソーシアムひょうご神戸 etc.]
- ④ 課程科目
- ⑤ その他

その他

(1) 複数回単位認定科目

【別表 複数回単位認定科目】に記載のある科目は、複数回単位の修得が可能です。ただし、同一の学期に同一の担当者が行う授業は履修できません。

(2) 第2部開講科目の履修

【別表 学部生が履修可能な第2部開講科目】に記載のある第2部開講科目を履修することができます。ただし、同一の授業名であっても修得できる単位の科目区分が異なる場合があるため注意してください。

【国際関係学科履修科目】

| | | | | | | |
|------|-----------------|--|---|--|---------------|----|
| 必修科目 | A | 学科専攻語学 | I階層：英語 8単位 [通年4科目] Global Issues 1, Academic Reading 1, Academic Writing 1, Oral Communication 1 | II階層：英語 8単位 [通年4科目] Global Issues 2, Academic Reading 2, Academic Writing 2, Oral Communication 2 | 24 | |
| | | | III階層：英語 4単位 [通年2科目] Global Issues 3, Integrated Skills in English 1 | IV階層：英語 4単位 [通年2科目] Global Issues 4, Integrated Skills in English 2 | | |
| 兼修語学 | B | 必修語学 | I階層：4単位 [通年2科目 [1]・[2]] 一括認定 II階層：4単位 [通年2科目 [1]・[2]] | ロシア語、中国語、イスパニア語、フランス語、ドイツ語 | [1言語選択] | 8 |
| | | 自由選択語学 | 英語Ⅲ [1] [2], イタリア語Ⅰ・Ⅱ, ポルトガル語Ⅰ・Ⅱ, インドネシア語, 朝鮮語Ⅰ・Ⅱ, エスペラント語, 東洋諸語 | | [各通年2単位] | |
| | | | ロシア語Ⅲ, 中国語Ⅲ, イスパニア語Ⅲ, フランス語Ⅲ, ドイツ語Ⅲ, 東欧諸語 1～4 | | [各半期1単位] | |
| C | 学科基礎科目 (国際関係学科) | 国際機構論, 国際経済関係史, 地球市民社会論 1～4, 国際関係学特別講義 | | | 8 | |
| D | 全学共通科目 | 人文領域 | 宗教学入門, 哲学概論, 日本思想史, 仏教学, 倫理学入門, ジェンダー論入門, 社会学入門, アメリカ地域論, ヨーロッパ地域論入門, 西洋史, 東洋史入門, 日本史入門, 歴史学入門, 言語学入門, 日本語学概論 1・2, 日本文学論入門, 日本文化入門, 近現代日本社会入門, 言語学基礎論 1・2, 音声学 1・2, 古典語 (ラテン語) 1・2, 海外派遣留学科目 1～4, 海外協定校短期研修 1・2, 中東欧研究入門 1～4 [各半期1単位], 海外協定校提供科目A, 海外協定校提供科目B, Japanese contemporary literature and culture, History of Japanese cinema, Negotiating stereotypes about Japanese culture | | | 12 |
| | | 社会科学領域 | 憲法 1・2, 現代の法, 現代の政治, 現代日本経済論 1・2, 経済経営入門, 現代国際法政問題, 現代国際経済問題, 現代国際文化問題, インターンシップ (就業体験) 1・2 [各半期1単位], 現代の企業経営, 国際ビジネス・コミュニケーション, ビジネスロシア語 1・2, ビジネス中国語 1・2, 商業イスパニア語 1・2, 現代世界経済論 1・2, 社会開発論, 社会人類学入門, 神戸・地域メディアワークショップ, Issues in Japanese culture and society | | | |
| | | 自然・人間科学領域 | 自然の認識 1・2, 東の科学, 西の科学, 数理の世界 1・2, 情報科学概論 1～3, 人権論, 人権教育, 環境と人間, 人間形成論入門, 社会心理学入門 1・2, 臨床心理学入門 1・2, 生涯教育論 1・2, 児童英語教育, スポーツ方法 1・2 [各半期1単位], [教育原理], [教育哲学], [教育史], [神戸・教育インターンシップ 1～3 [各半期1単位]], キャリアデザイン, ジャーナリズム論 1, キャンパスライフ入門, データサイエンス入門, キャンパス・リーダーシップ [半期1単位], プログラミング実習Ⅰ・Ⅱ | | | |
| E | 選択科目 | 全てのコースでコース科目 (主専攻) として認定される 模擬国連 [コース科目への認定は1回限り。2回目以降は自由選択単位となる。] | | | 主専攻 28・副専攻 20 | |
| | | 国際法政 | 基礎 | 民法 1・2, 政治学 1・2, 国際政治学 1・2, 比較政治 1・2, 国際法「基本」 1・2, 国際政治経済学, アジア国際関係史 1・2, アメリカ政治 1, 中国法政論, 社会学, ロシアの社会 1・2, 移民社会論, 統計学 1・2, 文化と政治 | | |
| | | | 発展 | 民法 3～5, 行政法 1・2, 国際取引法 1・2, 法政特論 1・2, 途上国地域社会論 1・2, 国際紛争処理法, 国際法「発展」 1・2, 国際私法 1・2, ヨーロッパ政治 1・2, アフリカ政治 1・2, アメリカ政治 2, 移民社会論演習, ゲーム理論, 比較地域研究 1・2, 東南アジア地域論：政治, 商法 1・2, 労働法, 東南アジア地域論特殊講義：政治, ロシア政治経済論 1・2, Japan and the international politics of Asia | | |
| | | 経済経営 | 基礎 | ミクロ経済学 1・2, マクロ経済学 1・2, 簿記原理, 経営学 1・2, 神戸研究, 近代世界システム成立史, 統計学 1・2, Japan's current and future challenges | | |
| | | | 発展 | 国際経営論 1・2, ミクロ経済政策 1・2, マクロ経済政策 1・2, 産業組織の経済学 1・2, 経済学演習 1・2, 経済学特殊講義 1～4, 経営学特殊講義 1～4, 会計学 1・2, マーケティング論 1・2, 国際商務論 1・2, 商業英語 1・2, 国際金融論 1・2, 国際貿易論, 貿易政策論, 開発経済論 1・2, 多国籍企業論 1・2, 金融論 1・2, 財政学 1・2, 公共政策, 労働経済, 計量経済学 1・2, 商法 1・2, 労働法, ゲーム理論, 東南アジア地域論：経済, 東南アジア地域論特殊講義：経済, ロシア政治経済論 1・2, プロジェクト演習 (経済経営) | | |
| | | 多文化共生 | 基礎 | 宗教と社会の共生, ヨーロッパ地域論, 朝鮮文化論 1, 外国人学習者の観点から見た日本語, 日本語の形と意味, 日本語の多様性, 民族誌学 1, 近現代日本社会, アジアの文化と社会の共生 1・2, アジア言語文化の諸問題, フランスの思想と社会 1, 出版と編集, コミュニケーション学概論, コミュニケーション理論, 言語と国家, 社会人類学, コミュニケーション論, 異文化間コミュニケーション論, 英米文学特殊講義 (現代社会) 1・2, 英語学特殊講義 (現代社会) 1～4, バリアフリー論, 日本手話, ロシア文化特殊講義 1, 中国文化特殊講義 2, ラテンアメリカ文化特殊講義 1・2, 移民社会論, 社会調査分析 1・2, 文化と政治, 環境論 1, Japan's current and future challenges | | |
| | | | 発展 | フランスの社会, 朝鮮文化論 2, 民族誌学 2, 日本語の談話研究, 日本語変異の研究, 近現代日本社会研究 1・2, 言語文化の多様性とアジア 1・2, フランスの思想と社会 2, コミュニケーション研究, 言語と文化, 社会人類学研究, ジェンダー共生論演習, 社会共生論演習, プロジェクト演習 (多文化共生), 東南アジアの社会と文化, 比較地域研究 1・2, 東南アジア地域論：経済, 東南アジア地域論：政治, 東南アジア地域論特殊講義：経済, 東南アジア地域論特殊講義：政治, ロシア文化特殊講義 2, 中国文化特殊講義 4, 移民社会論演習, 環境論 2, Japan and the international politics of Asia | | |
| | | リベラルアーツ | 基礎 | 宗教学基礎論, 西洋哲学史, 倫理学, フランス文化論 1, ヨーロッパ文化史 1, ヨーロッパ文化論 1, ヨーロッパ文学論, 東洋史, 日本史, 日本文学論, 言語類型論, 歴史言語学, 古典語 (ギリシャ語) 1・2, 日本語教育の基礎, 人間形成論, 日本語の文法, 日本語の音声, 日本の文化, 西洋古典学 1, 哲学, 自然科学 (基礎) 1・2, 人間関係論 1・2, スポーツ文化論 1・2, 中欧文化史 1, ヨーロッパにおけるドイツ 1, フランス文学論 1, ジェンダー論, 文化芸術論 1, 社会学, 小学校英語教育論, 社会調査分析 1・2, 出版と編集 | | |
| | | | 発展 | フランス文化論 2, ヨーロッパ文化史 2, ヨーロッパ文化論 2, 日本文化の諸相 1・2, 言語学研究 1・2, 小学校英語教育論演習, 社会言語学, 西洋古典学 2, 西洋史研究 1・2, アジア言語文化 1・2, 歴史学特殊講義, 自然科学 (発展) 1・2, スポーツ文化論演習「第1」 1・2, スポーツ文化論演習「第2」 1・2, 一般言語学から見た日本語, 日本語の統語論的研究, 日本語の意味・機能研究, 日本語音声・音韻の研究, 日本文化研究 1・2, アジア言語学 1・2, 哲学特殊講義 1・2, 中欧文化史 2, ヨーロッパにおけるドイツ 2, フランス文学論 2, 社会心理学演習 1・2, 臨床心理学演習 1・2, 現代文明論, 文化芸術論 2 | | |
| | | F | 研究指導, 卒業論文 | 研究指導 [必修] [通年4単位] [通年4単位], 卒業論文 [半期8単位] (卒業論文は自由選択。卒業論文により8単位が取得できない場合は、所属コースのコース科目からこれに代えて8単位取得しなければなりません。) | | |
| G | 自由選択単位 | 属する学科の必修科目及び選択科目の卒業必要単位数を超過して取得した単位および自由選択語学で取得した単位 属する学科以外の選択科目、単位互換講座科目および課程科目で取得した単位 | | | 8 | |

【注意事項】

1. 表右欄の数字は卒業必要単位数を示します。
2. 単位数を表記していない科目は、半期2単位です。
3. 毎年度に履修登録可能な単位の上限は49単位とします。(ただし卒業論文と課程科目を除く)
4. ◆印：兼修語学のうち自由選択語学で修得した単位は、自由選択単位に算入します。
5. 全学共通科目は、人文領域、社会科学領域、自然・人間科学領域の中からそれぞれ1科目以上の履修が必要です。
6. 下線のある科目は、1つの科目が複数のコースで開講されます。
7. □は教育職員養成課程の科目です。外国語学部履修規則別表(5)-2および教育職員養成課程の履修に関する規則、別表もあわせて確認すること。

| 科目名 | 本籍 | 共通 | 科目名 | 本籍 | 共通 |
|---------------------------------------|---------|------|--|-------|---------|
| 社会学 | リベラルアーツ | 国際法政 | 労働法 | 国際法政 | 経済経営 |
| 移民社会論 | 多文化共生 | 国際法政 | 東南アジア地域論：経済 | 経済経営 | 多文化共生 |
| 統計学1・2 | 経済経営 | 国際法政 | 東南アジア地域論：政治 | 国際法政 | 多文化共生 |
| 文化と政治 | 多文化共生 | 国際法政 | 東南アジア地域論特殊講義：経済 | 経済経営 | 多文化共生 |
| 比較地域研究1・2 | 多文化共生 | 国際法政 | 東南アジア地域論特殊講義：政治 | 国際法政 | 多文化共生 |
| ゲーム理論 | 経済経営 | 国際法政 | 社会調査分析1・2 | 多文化共生 | リベラルアーツ |
| 商法1・2 | 国際法政 | 経済経営 | 移民社会論演習 | 多文化共生 | 国際法政 |
| ロシア政治経済論1・2 | 国際法政 | 経済経営 | 出版と編集 | 多文化共生 | リベラルアーツ |
| Japan's current and future challenges | 多文化共生 | 経済経営 | Japan and the international politics of Asia | 国際法政 | 多文化共生 |

- ・開講されているコースを選択している場合（主専攻・副専攻）、その科目を履修した際に、コース科目として認定されます。
- ・この科目を履修した場合、主専攻・副専攻の組み合わせによって、認定されるコースや科目区分が異なりますので、注意してください。詳しくは次の表で確認してください。

主専攻・副専攻との関係は下記のとおりです。

（例）「商法1」（本：国際法政（発展）、共：経済経営（発展））の場合

| 学生の専攻 | 学生の副専攻 | 認定されるコース | 学生の専攻 | 学生の副専攻 | 認定されるコース |
|-------|---------|----------|---------|---------|----------|
| 国際法政 | 経済経営 | 国際法政 | 多文化共生 | 国際法政 | 国際法政 |
| | 多文化共生 | 国際法政 | | 経済経営 | 経済経営 |
| | リベラルアーツ | 国際法政 | | リベラルアーツ | 自由選択 |
| 経済経営 | 国際法政 | 国際法政 | リベラルアーツ | 国際法政 | 国際法政 |
| | 多文化共生 | 経済経営 | | 経済経営 | 経済経営 |
| | リベラルアーツ | 経済経営 | | 多文化共生 | 自由選択 |

12 第2部英米学科

卒業必要単位（124単位）を満たすには以下のA～Gのグループから（ ）内に示されている単位数を最低限度として修得する必要があります。【別表 第2部英米学科履修科目参照】

A. 専攻語学（40単位）

(1) 専攻語学のカリキュラムポリシー

I・II階程では、講読・発音・文法・作文・会話等の演習を通して英語の運用能力を能動的に培うとともに、英語圏の文学・文化・歴史・社会・言語についての教養を身につけます。III・IV階程では、本学で提供されているコースでの研究に不可欠な、より高度な英語の受信・発信能力を養います。

(2) カリキュラムの概要

第2部英米学科の専攻英語科目は下記のように体系化されています。

□ カリキュラム構成（科目表）

| 扱う技能 | I 階程 | II 階程 | III 階程 | IV 階程 |
|-----------|---|---|--|--|
| 受信する／わかる | 聞く ・会話 ・発音 | ・会話 | ・会話 | |
| | 読む ・文法 ・講読[1]（短編小説） ・講読[2]（メディア英語基礎） | ・講読[1]（小説） ・講読[2]（英語学入門） ・講読[3]（詩） | ・講読[1]（文学） ・講読[2]（英語学基礎） ・講読[3] | ・講読[1]（文学） ・講読[2]（英語学発展） ・講読[3] |
| 発信する／つたえる | 話す ・会話 ・発音 | ・会話 | ・会話 | |
| | 書く ・作文 ・文法 | ・作文 | | ・作文 |
| 媒介する／つなぐ | Mediating texts ・講読[1]（短編小説） | Mediating texts ・講読[1]（小説） ・講読[2]（英語学入門） ・講読[3]（詩） | Mediating texts ・講読[1]（文学） ・講読[2]（英語学基礎） ・講読[3] | Mediating texts ・講読[1]（文学） ・講読[2]（英語学発展） ・講読[3] |
| | Mediating concepts ・会話 | Mediating concepts ・会話 | Mediating concepts ・会話 | |
| 探索する／たぐる | ・講読[1]（短編小説） ・講読[2]（メディア英語基礎） | ・講読[1]（小説） ・講読[2]（英語学入門） ・講読[3]（詩） | ・講読[1]（文学） ・講読[2]（英語学基礎） ・講読[3] | ・講読[1]（文学） ・講読[2]（英語学発展） ・講読[3] |

※網掛けの科目はネイティブ・スピーカーの教員が担当します。

- ・英米学科および第二部英米学科では、高校までの暗記や和訳を中心とした英語学習の習慣を脱し、「専門研究のための／としての英語」を習得することを目標としています。
- ・Ⅰ・Ⅱ階程では、講読で多様なジャンルの英語に触れるとともに、発音、文法、作文、会話を通して英語の基本的な運用能力を身につけます。また、辞書（とくに英英辞書）や視聴覚教材を活用して、英語で理解し、考え、意見を述べるための方法を学びます。
- ・Ⅲ・Ⅳ階程では、各自の関心を専門研究として追求する際に求められる英語についての高度な知識と運用能力を獲得することが目標です。

(3) 階程ごとの到達目標

●Ⅰ階程

- 聞く：関心のある話題についての会話、放送、講義の内容を理解できる。
- 読む：多様なジャンルの比較的短い英語文章を、文構造および内容を正確に把握しながら読める。
- 話す：身近な話題について、英語でやや長い会話を適切な発音で続けられる。
- 書く：パラグラフの基本的な構造や特徴を理解した上で英語の文章を書ける。
- 媒介する：多様なジャンルの英文を翻訳したり、簡単な概念や知識を他者に英語で説明できる。
- 探求する：英語圏の社会・文化・歴史に関する基本的な知識を身につける。

●Ⅱ階程

- 聞く：比較的ゆっくりと明瞭な発音で話してもらえれば、なじみのない話題についての会話、放送、講義の内容を理解できる。
- 読む：多様なジャンルの比較的長い英語文章を、文構造および内容を正確に把握しながら読める。
- 話す：様々な学術分野や時事的な事柄について、英語で長い会話を続けることができる。また、自ら質問を行ったり、自身の主張を根拠とともに展開したりできる。
- 書く：一般的な話題についてエッセイを書ける。また、他人のアイディアや文章を適切に引用、参照しながら情報を伝えられる。
- 媒介する：様々な学術分野や時事的な事柄に関する基本的な概念や知識を他者に理解できる形で説明できる。
- 探求する：様々な学術分野や時事的な事柄を理解するために必要な英語圏の社会・文化・歴史に関する基本的な知識を身につける。

●Ⅲ階程

- 聞く：明瞭な発音で話してもらえれば、なじみのない話題についての会話、放送、講義の内容を理解できる。
- 読む：様々な分野の基本的な学術書や文学作品等を、文構造および内容を正確に把握しながら読める。
- 話す：様々な学術分野や時事的な事柄について、英語で能動的に議論し発表できる。また、非字義的な表現の理解等、英語で高度なコミュニケーションを行うためのスキルを身につける。
- 書く：他人のアイディアや文章を適切に引用・参照し、明瞭かつ詳細に自身の考えを論じられる。また、様々な話題について、適切な語彙や文法表現を用いて論じられる。
- 媒介する：様々な学術分野や時事的な事柄に関する専門的な概念や知識を他者に理解できる形で説明できる。
- 探求する：様々な学術分野や時事的な事柄に関する高度な英文を理解するために必要な英語圏の社会・文化・歴史に関する基本的な知識を身につける。

●Ⅳ階程

- 読む：様々な分野の専門的な学術書や文学作品等を、文構造および内容を正確に把握しながら読める。
- 書く：様々な話題について、Ⅰ～Ⅳ階程で身につけた知識・技能を用いながら論文や報告書、エッセイ等を書ける。
- 探求する：様々な学術分野や時事的な事柄に関して、豊富な知識を必要とする高度な英文を理解するため

に必要な英語圏の社会・文化・歴史に関する基本的な知識を身につける。

(4) 科目数と履修単位

- ・ 1年次にⅠ階程の6科目（10単位）（発音・文法はそれぞれ半期1単位）、2年次にⅡ階程の5科目（10単位）を履修します。
- ・ 3年次にⅢ階程の講読2科目（8単位）と会話1科目（4単位）の合計3科目（12単位）を選択し、履修します。
- ・ Ⅲ階程で選択する講読については同じ科目から2つを選択することはできません。
[例：講読[1]-G1と講読[1]-G3の選択は不可、講読[1]-G1と講読[2]-G1の選択は可]
- ・ 4年次にⅣ階程の講読1科目（4単位）と作文1科目（4単位）の合計2科目（8単位）を選択し履修します。
- ・ 各年度に履修する専攻語学の単位数はⅠ、Ⅱ階程は10単位、Ⅲ、Ⅳ階程は12単位を超えることができません。

(5) 進級条件と再履修

<進級条件表>

| 進級内容 | 条件（進級には全条件を満たす必要があります） |
|-------|--|
| 1年⇒2年 | 専攻英語Ⅰ階程10単位のうち6単位以上を修得 |
| 2年⇒3年 | 専攻英語Ⅰ階程10単位を全て修得 専攻英語Ⅱ階程10単位のうち6単位以上を修得 |
| 3年⇒4年 | 専攻英語Ⅱ階程10単位を全て修得 専攻英語Ⅲ階程12単位のうち8単位以上を修得 |

① 2年への進級と再履修

- Ⅰ階程の科目のうち6単位以上を修得すれば、翌年度2年に進級します。その場合、Ⅰ階程で修得できなかった科目があれば翌年度にⅡ階程の科目とともに再履修します。Ⅱ階程の科目は、本来の5科目（10単位）から再履修の単位数を差し引いた残りの単位数分の科目を履修します。
- Ⅰ階程の科目のうち修得できた単位が6単位未満の場合は留年とします。その場合、Ⅰ階程で修得できなかった科目を翌年度に再履修します。ただし、再履修の科目の単位数を10単位から差し引いた残りの単位数分を、Ⅱ階程の科目から履修することができます。

<Ⅰ階程の再履修とⅡ階程履修可能単位数>

| 区分 | Ⅰ階程で取得できた単位数 | Ⅰ階程の再履修単位数 | Ⅱ階程の履修可能単位数 |
|----|--------------|------------|-------------|
| 留年 | 0（1）単位 | 10（9）単位 | 履修不可 |
| | 2（3）単位 | 8（7）単位 | 2単位〔1科目〕 |
| | 4（5）単位 | 6（5）単位 | 4単位〔2科目〕 |
| 進級 | 6（7）単位 | 4（3）単位 | 6単位〔3科目〕 |
| | 8（9）単位 | 2（1）単位 | 8単位〔4科目〕 |

② 3年への進級と再履修

- I 階程の全科目（10単位）を修得し、かつ II 階程の科目のうち 3 科目（6 単位）以上を修得すれば、翌年度 3 年に進級します。その場合、II 階程で修得できなかった科目があれば、翌年度に III 階程の科目とともに再履修します。III 階程の科目は本来の 3 科目（12 単位）から再履修の単位数を差し引いた残りの単位数分の科目を履修します。
- II 階程の科目のうち修得できた単位が 6 単位未満、あるいは I 階程の全科目を修得できていない場合は留年とします。その場合、I 階程あるいは II 階程で修得できなかった科目を翌年度に再履修します。
- 3 年に進級できなかった場合、III 階程の科目は履修できません。

< II 階程の再履修と III 階程履修可能単位数 >

| 区分 | II 階程で取得できた単位数 | II 階程の再履修単位数 | III 階程の履修可能単位数 |
|----|----------------|---------------|----------------|
| 留年 | 0 単位 [0 科目] | 10 単位 [5 科目] | 履修不可 |
| | 2 単位 [1 科目] | 8 単位 [4 科目] | 履修不可 |
| | 4 単位 [2 科目] | 6 単位 [3 科目] | 履修不可 |
| 進級 | 6 単位 [3 科目] | 4 単位 [2 科目] | 8 単位 [2 科目] |
| | 8 単位 [4 科目] | 2 単位 [1 科目] | 8 単位 [2 科目] |

③ 4年への進級と再履修

- II 階程の全科目（10単位）を修得し、かつ III 階程の科目のうち 2 科目（8 単位）を修得すれば、翌年度 4 年に進級します。その場合、III 階程で修得できなかった科目があれば、翌年度に IV 階程の科目とともに再履修します。
- III 階程の科目のうち修得できた単位が 8 単位未満、あるいは II 階程の全科目を修得できていない場合は留年とします。その場合、II 階程あるいは III 階程で修得できなかった科目を翌年度に再履修します。ただし、II 階程を全て修得できている場合は、再履修の科目の単位数を 12 単位から差し引いた残りの単位数分を IV 階程の科目から履修することができます。

< III 階程の再履修と IV 階程履修可能単位数 >

| 区分 | III 階程で取得できた単位数 | III 階程の再履修単位数 | IV 階程の履修可能単位数 |
|----|-----------------|---------------|---------------|
| 留年 | 0 単位 [0 科目] | 12 単位 [3 科目] | 履修不可 |
| | 4 単位 [1 科目] | 8 単位 [2 科目] | 4 単位 [1 科目] |
| 進級 | 8 単位 [2 科目] | 4 単位 [1 科目] | 8 単位 [2 科目] |

B. 兼修語学（必修語学 8 単位）

- 兼修語学としてロシア語、中国語、スペイン語、フランス語、ドイツ語のうちから 1 ヶ国語を選択し履修します。
- 兼修語学は 1 年次で I 階程の 2 科目（4 単位）、2 年次で II 階程の 2 科目（4 単位）を履修します。
- I 階程の科目は 2 科目（4 単位）を一括して単位を付与します。II 階程の科目は 1 科目（2 単位）ごとに単位を付与します。
- I 階程の 2 科目（4 単位）を修得し、II 階程のうち 1 科目（2 単位）を修得すれば III 階程を履修できます。
- 兼修語学の I、II 階程 4 科目（8 単位）を修得すれば、さらに他の兼修語学を履修することができます。また、履修者のレベルに応じて、大学が適当と認めるときは、II 階程もしくは III 階程から履修することができます。
- 兼修語学のうち、III 階程を除く学部開講の自由選択語学は学年に関わらず履修することができます。
- 8 単位を超えて修得した兼修語学の単位は、「自由選択単位」として卒業単位に算入されます。

C. 学科基礎科目 (12単位)

学科基礎科目は各学科の学修の基礎となる科目のため、学修効果上1・2年次での履修が望ましいです。

D. 全学共通科目 (12単位)

全学共通科目は、「人文領域」、「社会科学領域」、「自然・人間科学領域」の3領域に区分されており、卒業までに各領域から少なくとも1科目を修得する必要があります。

E. コース科目 (20単位)

- (1) 3年次から所属するコースのコース科目を20単位修得する必要があります。
- (2) 1・2年次で「コース科目」を履修する場合、3年次で異なるコースを選択すると、その単位は「コース科目」ではなく「自由選択単位」として卒業必要単位に算入されます。

F. 研究指導・卒業論文 (16単位)**(1) 研究指導**

- ・研究指導は必修科目であり、3・4年継続履修を原則とします。
- ・研究指導の担当教員は2年次後期に選考のうえ決定します。詳細は教務入試班よりお知らせします。

(2) 卒業論文

- ・卒業予定年次に卒業論文を提出し、審査に合格すれば8単位が与えられ、卒業必要単位に算入されます。
- ・卒業論文を提出しない場合、所属コースのコース科目を8単位（コース科目は合計28単位となる）修得することが必要です。
- ・卒業論文の審査に合格した者で、卒業が次年度以降となった場合は卒業論文を再提出する必要はありません。

G. 自由選択単位 (16単位)

以下に定める科目の単位を修得した場合は、原則として自由選択単位として卒業必要単位に算入します。

- ①属する学科／コースの開設科目を規定の単位数を超えて修得した単位
- ②他学科／他コース科目
- ③単位互換講座科目 [大学コンソーシアムひょうご神戸 etc.]
- ④課程科目
- ⑤その他

その他**(1) 複数回単位認定科目**

【別表 複数回単位認定科目】に記載のある科目は、複数回単位の修得が可能です。ただし、同一の学期に同一の担当者が行う授業は履修できません。

(2) 学部開講科目の履修

【別表 第2部生が履修可能な学部開講科目】に記載のある学部開講科目を履修することができます。ただし、同一の授業名であっても修得できる単位の科目区分が異なる場合があるため注意してください。

【第2部英米学科履修科目】

| | | | | | |
|--------|-----------|--|---|--|----|
| 必修科目 | A | 学科専攻語学 | I 階程：英語 10単位 [通年4科目、半期2科目] 講読 [1]・[2]・作文・会話・文法 [半期1単位]・発音 [半期1単位] | II 階程：英語 10単位 [通年5科目] 講読 [1]・[2]・[3]・作文・会話 | 40 |
| | | | III 階程：英語 12単位 [通年3科目] 講読 ([1]・[2]・[3]より2科目選択)・会話 | IV 階程：英語 8単位 [通年2科目] 講読 ([1]・[2]・[3]より1科目選択)・作文 | |
| 兼修語学 | B | 必修語学 | I 階程：4単位 [通年2科目 [1]・[2]] 一括認定 II 階程：4単位 [通年2科目 [1]・[2]] | ロシア語、中国語、イスパニア語、 フランス語、ドイツ語 | 8 |
| | | 自由選択語学 | ロシア語Ⅲ、中国語Ⅲ、イスパニア語Ⅲ [各半期1単位] | [1言語選択] | |
| C | | 学科基礎科目(第2部英米学科) | 英国史、英国の文化、米国史、米国の文化、英国の社会1・2、米国の社会、英語圏の文化と社会1・2、英文学史1・2、米文学史、英語学概論1・2、英語研究入門1・2 | | 12 |
| 全学共通科目 | D | 人文領域 | 宗教学入門、宗教学基礎論、哲学概論、日本思想史、西洋哲学史、ジェンダー論入門、社会学入門、社会学、ヨーロッパ地域論入門、ヨーロッパ地域論、文化人類学1・2、アジア言語文化の諸問題、西洋史、日本史入門、日本史、歴史学入門、言語学入門、日本語学概論1・2、日本語の文法、日本語の形と意味、日本語の音声、日本語の多様性、日本文学論入門、日本文学論、日本文化入門、近現代日本社会入門、日本文化入門「第3」1・2、言語学基礎論1・2、言語類型論、歴史言語学、音声学1・2、古典語(ギリシャ語)1・2、古典語(ラテン語)1・2、日本語教育の基礎、外国人学習者の観点から見た日本語、海外派遣留学科目1～4、海外協定校短期研修1・2、海外協定校提供科目A、海外協定校提供科目B、Japanese contemporary literature and culture、History of Japanese cinema、Negotiating stereotypes about Japanese culture | | 12 |
| | | 社会科学領域 | 憲法1・2、現代の法、現代の政治、現代の経済、現代日本経済論1・2、ミクロ経済学1・2、マクロ経済学1・2、経済経営入門、簿記原理、日本と世界1・2、インターンシップ(就業体験)1・2 [各半期1単位]、神戸・地域メディアワークショップ、Issues in Japanese culture and society | | |
| | | 自然・人間科学領域 | 自然の認識1・2、数理の世界1・2、統計学1・2、情報科学概論1～3、人権論、人権教育、人間形成論入門、人間形成論、社会心理学入門1・2、臨床心理学入門1・2、児童英語教育、スポーツ文化論1・2、スポーツ方法1・2 [半期1単位]、教育原理、教育哲学、教育史、ジャーナリズム論1・2、図書館情報資源概論、生涯学習概論、図書館概論、図書・図書館史、神戸・教育インターンシップ1～3 [各半期1単位]、キャンパスライフ入門、データサイエンス入門、キャンパスインターンシップ [半期1単位]、プログラミング実習Ⅰ・Ⅱ | | |
| 選択科目 | E | 全てのコースでコース科目として認定される | 模擬国連 [コース科目への認定は1回限り。2回目以降は自由選択単位となる。] | | 20 |
| | | 英語学・英語研究 | 英語学特殊講義1～4、音声学・音韻論講義、統語論講義、意味論講義、語用論・談話分析講義、応用言語学1・2、構文研究、語法文法研究、英語学研究演習1～12、パブリック・スピーチ、リスニング分析1・2、英語教育学演習、社会言語学、メディア英語演習1・2、通訳演習1・2、英語史1・2 | | |
| | | 英語圏文化文学 | イギリス文学特殊講義1～4、アメリカ文学特殊講義1～4、英語圏文学特殊講義1・2、英米文学・文化研究入門、英米文学と視覚文化、英米文学と社会、比較文学、現代の思想と文化、Advanced Writing1・2、文学翻訳演習、西洋史研究1・2、比較地域研究1・2、英語文学・文化特殊講義1～8、英語文学・文化研究演習1～10 | | |
| | | 法経商 | 民法1～5、商法1～4、行政法1・2、労働法、経済法1・2、英米法1・2、国際取引法1・2、政治学1・2、比較政治1・2、法政特論1・2、ミクロ経済政策1・2、マクロ経済政策1・2、国際貿易論、貿易政策論、産業組織の経済学1・2、計量経済学1・2、経済学特殊講義1～4、アメリカ経済論、経営学1・2、経営学特殊講義1～4、会計学1・2、国際商務論1・2、商業英語1・2、国際金融論1・2、国際法「基本」1・2、アメリカ政治1・2、ゲーム理論、プロジェクト演習(経済経営)、Japan and the international politics of Asia、Japan's current and future challenges | | 20 |
| F | 研究指導、卒業論文 | 研究指導 [必修] [通年4単位] [通年4単位]、卒業論文 [半期8単位] (卒業論文は自由選択。卒業論文により8単位が取得できない場合は、所属コースのコース科目からこれに代えて8単位取得しなければなりません。) | | 16 | |
| G | 自由選択単位 | 属する学科の必修科目及び選択科目の卒業必要単位数を超過して取得した単位および自由選択語学で取得した単位 属する学科以外の選択科目、単位互換講座科目および課程科目で取得した単位 | | 16 | |

【注意事項】

1. 表右欄の数字は卒業必要単位数を示します。
2. 単位数を表記していない科目は、半期2単位です。
3. 毎年度に履修登録可能な単位の上限は49単位とします。(ただし卒業論文と課程科目を除く)
4. ◆印：兼修語学のうち自由選択語学で修得した単位は、自由選択単位に算入します。
5. 全学共通科目は、人文領域、社会科学領域、自然・人間科学領域の中からそれぞれ1科目以上の履修が必要です。
6. □印は教育職員養成課程の科目です。外国語学部第2部履修規則別表(Ⅱ-3-2)および教育職員養成課程の履修に関する規則、別表もあわせて確認すること。
7. 波線は司書課程科目です。外国語学部第2部履修規則別表(Ⅱ-3-2)および司書課程に関する履修規則、別表もあわせて確認すること。

複数回単位認定科目

| | |
|--------------------------------------|--------------------------|
| 中国学科 | |
| 中国文学特殊講義 1 中国語学特殊講義11 | 中国文学特殊講義 2 中国語学特殊講義12 |
| <全コース> | |
| 模擬国連（但し、コース科目への認定は1回限り。2回目以降は自由選択単位） | |

第2部 複数回単位認定科目

| |
|--------------------------------------|
| <全コース> |
| 模擬国連（但し、コース科目への認定は1回限り。2回目以降は自由選択単位） |

学部生が履修可能な第2部開講科目（2026年度以降入学生）

| 第2部での科目種別 | 科目名称 | 学部で認定される科目種別／注 |
|----------------------------|---|------------------------------------|
| 学科基礎科目 | 英国史, 英国の文化, 米国史, 米国の文化, 英国の社会1・2, 米国の社会, 英語圏の文化と社会1・2, 英文学史1・2, 米文学史, 英語学概論1・2, 英語研究入門1・2 | 学部英米学科 学科基礎科目 (学部英米学科以外は自由選択単位) |
| 兼修語学 (自由選択語学) | ロシア語Ⅲ [半期1単位], 中国語Ⅲ [半期1単位], イスパニア語Ⅲ [半期1単位] | 兼修語学 (自由選択語学) |
| 全学共通科目 (人文) | 宗教学入門, 哲学概論, 日本思想史, ジェンダー論入門, 社会学入門, ヨーロッパ地域論入門, 西洋史, 日本史入門, 歴史学入門, 言語学入門, 日本語学概論1・2, 日本文学論入門, 日本文化入門, 近現代日本社会入門, 言語学基礎論1・2, 音声学1・2, 古典語(ラテン語)1・2, 海外協定校提供科目A・B, Japanese contemporary literature and culture, History of Japanese cinema, Negotiating stereotypes about Japanese culture | 全学共通科目 (人文) |
| | アジア言語文化の諸問題, ヨーロッパ地域論, 外国人学習者の観点から見た日本語, 日本語の形と意味, 日本語の多様性, 近現代日本社会 | コース科目 (多文化共生) |
| | 宗教学基礎論, 西洋哲学史, 日本史, 日本文学論, 言語類型論, 歴史言語学, 社会学※, 古典語(ギリシャ語)1・2, 日本語教育の基礎, 日本語の文法, 日本語の音声, 日本の文化 | コース科目 (リベラルアーツ) |
| (社会科学) | 現代の法, 現代の政治, 憲法1・2, 現代日本経済論1・2, 経済経営入門, 神戸・地域メディアワークショップ, Issues in Japanese culture and society | 全学共通科目(社会科学) |
| | ミクロ経済学1・2, マクロ経済学1・2, 簿記原理 | コース科目(経済経営) |
| (自然・人間科学) | 自然の認識1・2, 数理の世界1・2, 情報科学概論1・2・3, 人権論, 人権教育, 人間形成論入門, 社会心理学入門1・2, 臨床心理学入門1・2, 児童英語教育, ジャーナリズム論1, スポーツ方法1・2 [各半期1単位], 教育原理, 教育哲学, 教育史, 神戸・教育インターンシップ1・2・3 [各半期1単位], キャンパスライフ入門, データサイエンス入門, プログラミング実習Ⅰ・Ⅱ, キャンパス・リーダーシップ [半期1単位] | 全学共通科目 (自然・人間科学) |
| | スポーツ文化論1・2, 人間形成論 | コース科目(リベラルアーツ) |
| | 統計学1・2※ | コース科目(経済経営) |
| コース科目 (英語学・英語研究 コース) | 英語学特殊講義1～4, 音声学・音韻論講義, 統語論講義, 意味論講義, 語用論・談話分析講義, 応用言語学1・2, 構文研究, 語法文法研究, 英語学研究演習1～12, 英語教育学演習, 社会言語学※, メディア英語演習1・2, 英語史1・2 | コース科目 (英米学科・語学文学) |
| (英語圏文化文学 コース) | 英語文学・文化特殊講義1～8, イギリス文学特殊講義1～4, アメリカ文学特殊講義1～4, 英語圏文学特殊講義1・2, 英米文学・文化研究入門, 英米文学と視覚文化, 英米文学と社会, 比較文学, 現代の思想と文化, 英語文学・文化研究演習1～10, Advanced Writing1・2, 文学翻訳演習 | |
| | 比較地域研究1・2※ 西洋史研究1・2 | |
| コース科目 (法経商) | 民法1・2・3・4・5, 商法1・2※, 行政法1・2, 労働法※, 国際法「基本」1・2, 国際取引法1・2, 政治学1・2, 法政特論1・2, 比較政治1・2, アメリカ政治1・2, Japan and the international politics of Asia※ | コース科目 (国際法政) |
| | ミクロ経済政策1・2, マクロ経済政策1・2, 国際貿易論, 貿易政策論, 産業組織の経済学1・2, 計量経済学1・2, 経済学特殊講義1・2・3・4, 国際金融論1・2, 経営学1・2, 経営学特殊講義1・2・3・4, 会計学1・2, 国際商務論1・2, 商業英語1・2, ゲーム理論※, プロジェクト演習(経済経営) | コース科目 (経済経営) |
| | Japan's current and future challenges※ | コース科目(多文化共生) |
| 課程科目 教員養成課程 | 教職概論, 教育課程論, 教育心理学, 道徳教育の理論と実践, 教育行政学, 教育方法論, 特別活動の指導法, 生徒・進路指導論, 教育相談, 教職実践演習(中・高), 教育実習1・2, 英語教育法「第1」1・2, 英語教育法「第2」1・2, 総合的な学習の時間の指導法, 特別支援教育の指導法, 教育とICT活用 | 自由選択単位 |

注：第2部に同名の科目があるが 学部生が履修できない科目
 学科専攻語学(専攻英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)
 兼修語学の必修語学
 研究指導

- ・司書課程・学校図書館司書教諭課程の科目の履修については、神戸市外国語大学外国語学部履修規則第11条第2項に定める。
- ・※印の科目は下記を参照のこと

| 科目名 | 本籍 | 共通 | 科目名 | 本籍 | 共通 |
|---------------------------------------|---------|------|--|-------|---------|
| 社会学 | リベラルアーツ | 国際法政 | 社会言語学 | 英米・語文 | リベラルアーツ |
| 統計学1・2 | 経済経営 | 国際法政 | 比較地域研究1・2 | 多文化共生 | 国際法政 |
| 商法1・2 | 国際法政 | 経済経営 | 労働法 | 国際法政 | 経済経営 |
| ゲーム理論 | 経済経営 | 国際法政 | | | |
| Japan's current and future challenges | 多文化共生 | 経済経営 | Japan and the international politics of Asia | 国際法政 | 多文化共生 |

語科(英・ロ・中・伊)：本籍・共通どちらかのコースを選択している場合、自身のコースの科目として認定される。

国際関係：科目の「本籍」、「共通」の順にコース科目として認定される。(別表(4)-2参照)

例：主専攻「国際法政」、副専攻「経済経営」の学生が「統計学1・2」を履修した場合は、「経済経営」のコース科目として認定される。

第2部学生が履修可能な学部開講科目 (2026年度以降入学生)

| 学部での科目種別 | 科目名称 | 第2部での科目種別 |
|--|--|---------------------|
| 学部英米学 学科基礎科目 (学部英米学科以外は 自由選択単位) | 英国史, 英国の文化, 米国史, 米国の文化, 英国の社会1・2, 米国の社会, 英語圏の文化と社会1・2, 英文学史1・2, 米文学史, 英語学概論1・2, 英語研究入門1・2 | 学科基礎科目 |
| 兼修語学 (自由選択語学) | ロシア語Ⅲ(半期1単位), 中国語Ⅲ(半期1単位), イスパニア語Ⅲ(半期1単位), フランス語Ⅲ(半期1単位), ドイツ語Ⅲ(半期1単位), イタリア語Ⅰ(通年2単位)・Ⅱ(通年2単位), ポルトガル語Ⅰ(通年2単位)・Ⅱ(通年2単位), インドネシア語(通年2単位), 朝鮮語Ⅰ(通年2単位)・Ⅱ(通年2単位), エスペラント語(通年2単位), 東欧諸語1・2・3・4(各半期1単位), 東洋諸語(通年2単位) | 兼修語学 (自由選択語学) |
| 全学共通科目 (人文) | 宗教学入門, 哲学概論, 日本思想史, ジェンダー論入門, 社会学入門, ヨーロッパ地域論入門, 西洋史, 日本史入門, 歴史学入門, 言語学入門, 日本語学概論1・2, 日本文学論入門, 日本文化入門, 近現代日本社会入門, 言語学基礎論1・2, 音声学1・2, 古典語(ラテン語)1・2, 海外協定校提供科目A・B, Japanese contemporary literature and culture, History of Japanese cinema, Negotiating stereotypes about Japanese culture | 全学共通科目 (人文) |
| | 東洋史入門, 仏教学, 倫理学入門, 中東欧研究入門1・2・3・4 | 自由選択単位 |
| 全学共通科目 (社会科学) | 憲法1・2, 現代の法, 現代の政治, 現代日本経済論1・2, 経済経営入門, 神戸・地域メディアワークショップ, Issues in Japanese culture and society | 全学共通科目 (社会科学) |
| | ビジネスロシア語1・2, ビジネス中国語1・2, 商業イスパニア語1・2, 現代の企業経営, 国際ビジネス・コミュニケーション | 自由選択単位 |
| 全学共通科目 (自然・人間科学) | 自然の認識1・2, ジャーナリズム論1, 数理の世界1・2, 情報科学概論1・2・3, 人権論, 人権教育, 人間形成論入門, 社会心理学入門1・2, 臨床心理学入門1・2, 児童英語教育, スポーツ方法1・2[各半期1単位], 教育原理, 教育哲学, 教育史, 神戸・教育インターンシップ1・2・3[各半期1単位], キャンパスライフ入門, データサイエンス入門, プログラミング実習Ⅰ・Ⅱ, キャンパス・リーダーシップ[半期1単位] | 全学共通科目 (自然・人間科学) |
| | キャリアデザイン, 東の科学, 西の科学, 環境と人間, 生涯教育論1・2 | 自由選択単位 |
| 学科基礎科目 (国際関係) | 国際機構論 | 自由選択単位 |
| コース科目 (語学文学) | イギリス文学特殊講義1~4, アメリカ文学特殊講義1~4, 英語文学・文化特殊講義1~8, 英語圏文学特殊講義1・2, 英米文学・文化研究入門, 英米文学と視覚文化, 英米文学と社会, 比較文学, 現代の思想と文化, 英語文学・文化研究演習1~10, Advanced Writing1・2, 文学翻訳演習 | コース科目 (英語圏文化文学) |
| | 英語史1・2, 英語学特殊講義1~4, 音声学・音韻論講義, 統語論講義, 意味論講義, 語用論・談話分析講義, 応用言語学1・2, 構文研究, 語法文法研究, 英語学研究演習1~12, 英語教育学演習, 社会言語学※, メディア英語演習1・2, パブリック・スピーチ | コース科目 (英語学・英語研究) |
| | 小学校英語教育論※, 放送通訳, 英語学特殊講義(現代社会)3, 通訳(基礎), 会議通訳(逐次), 会議通訳(同時), 翻訳1・2, 映画研究, メディア論 | 自由選択単位 |
| コース科目 (国際法政) | 民法1・2・3・4・5, 行政法1・2, 商法1・2※, 労働法※, 法政特論1・2, 国際取引法1・2, 政治学1・2, 比較政治1・2, 国際法「基本」1・2, アメリカ政治1・2, ゲーム理論, Japan and the international politics of Asia※ | コース科目 (法経商) |
| | 国際法「発展」1・2, 国際紛争処理法, 国際私法1・2, 東南アジア地域論:政治※, 東南アジア地域論特殊講義:政治※, ロシア政治経済論1・2 | 自由選択単位 |
| コース科目 (経済経営) | ミクロ経済学1・2, マクロ経済学1・2, 簿記原理 | 全学共通科目(社会科学) |
| | 統計学1・2※ | 全学共通科目(自然・人間科学) |
| | ミクロ経済政策1・2, マクロ経済政策1・2, 計量経済学1・2, 産業組織の経済学1・2, 経済学特殊講義1・2・3・4, 経営学1・2, 経営学特殊講義1・2・3・4, 会計学1・2, 国際商務論1・2, 国際金融論1・2, 商業英語1・2, 国際貿易論, 貿易政策論, ゲーム理論※, プロジェクト演習(経済経営) | コース科目 (法経商) |
| | 開発経済論1・2, 神戸研究, 東南アジア地域論:経済※, 経済学演習1・2, 東南アジア地域論特殊講義:経済※, マーケティング論1, 国際経営論1・2 | 自由選択単位 |
| コース科目 (多文化共生) | ヨーロッパ地域論, 外国人学習者の観点から見た日本語, 日本語の形と意味, 日本語の多様性, アジア言語文化の諸問題, 近現代日本社会 | 全学共通科目 (人文) |
| | 比較地域研究1・2※ | コース科目(英語圏文化文学) |
| | Japan's current and future challenges※ | コース科目(法経商) |
| | 近現代日本社会, アジアの文化と社会の共生1・2, 出版と編集※, コミュニケーション概論, コミュニケーション理論, 宗教と社会の共生, 移民社会論※, フランスの社会, 朝鮮文化論1・2, コミュニケーション論, 異文化間コミュニケーション論, コミュニケーション研究 | 自由選択単位 |
| コース科目 (リベラルアーツ) | 宗教学基礎論, 西洋哲学史, 社会学※, 日本史, 言語類型論, 歴史言語学, 古典語(ギリシャ語)1・2, 日本語教育の基礎, 日本語の文法, 日本語の音声, 日本文学論, 日本の文化 | 全学共通科目 (人文) |
| | 人間形成論, スポーツ文化論1・2 | 全学共通科目(自然・人間科学) |
| | 西洋史研究1・2 | コース科目(英語圏文化文学) |
| | 日本の文化, アジア言語文化1・2, 倫理学, フランス文化論1・2, ヨーロッパ文化史1・2, ヨーロッパ文化論1・2, 東洋史, 日本文化の諸相1・2 | 自由選択単位 |
| 課程科目 教員養成課程 | 教職概論, 教育課程論, 教育心理学, 道德教育の理論と実践, 教育行政学, 教育方法論, 特別活動の指導法, 生徒・進路指導論, 教育相談, 教職実践演習(中・高), 教育実習1・2, 英語教育法「第1」1・2, 英語教育法「第2」1・2, 総合的な学習の時間の指導法, 特別支援教育の指導法, 教育とICT活用 | 自由選択単位 |

注：学部・第2部に同名の科目があるが、第2部学生の受講が認められない科目。
 学科専攻語学（専攻英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ）
 兼修語学内の必修語学
 研究指導

※印の科目は複数のコースで開講されています。

| 科目名 | 本籍 | 共通 |
|--|----------|---------|
| 社会言語学 | 語学文学（英米） | リベラルアーツ |
| 小学校英語教育論 | 語学文学（英米） | リベラルアーツ |
| 商法1・2 | 国際法政 | 経済経営 |
| 労働法 | 国際法政 | 経済経営 |
| ロシア政治経済論1・2 | 国際法政 | 経済経営 |
| 東南アジア地域論：政治 | 国際法政 | 多文化共生 |
| 東南アジア地域論特殊講義：政治 | 国際法政 | 多文化共生 |
| 東南アジア地域論：経済 | 経済経営 | 多文化共生 |
| 東南アジア地域論特殊講義：経済 | 経済経営 | 多文化共生 |
| 移民社会論 | 多文化共生 | 国際法政 |
| 比較地域研究1・2 | 多文化共生 | 国際法政 |
| 社会学 | リベラルアーツ | 国際法政 |
| ゲーム理論 | 経済経営 | 国際法政 |
| 統計学1・2 | 経済経営 | 国際法政 |
| 出版と編集 | 多文化共生 | リベラルアーツ |
| Japan's current and future challenges | 多文化共生 | 経済経営 |
| Japan and the international politics of Asia | 国際法政 | 多文化共生 |

Ⅲ 規則集

Ⅲ 規則集

この章では学生生活に関する規則を掲載します。必要に応じて参照してください。

学則・諸規則等

学則

第1章 総則

(目的)

第1条 神戸市外国語大学(以下「本学」という。)は、教育基本法(平成18年法律第120号)の精神に基づき、学校教育法(昭和22年法律第26号)の定めるところに従い、外国語並びに国際社会・文化に関する理論及び実感を教授研究し、広範な知識及び円満な人格を具備する人材を育成し、もって文化及び教育の面で地域の社会及び産業の持続可能な発展に貢献するとともに、我が国その他世界の高等教育及び学術研究の向上に寄与することを目的とする。

(自己点検・評価)

第2条 本学は、教育研究水準の向上を図るとともに、前条の目的を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の点検及び評価について必要な事項は、別に定める。

第2章 学部及び学科等の組織

(学部及び学科)

第3条 本学に外国語学部及び外国語学部第2部(以下「第2部」という。)を置き、外国語学部(以下「学部」という。)に英米学科、ロシア学科、中国学科、イスパニア学科及び国際関係学科を、第2部に英米学科を置く。

2 前項に規定する学部及び学科の人材の育成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

| | |
|---------|---|
| 外国語学部 | 外国語学部は、専攻する言語の高度な運用能力と、その言語の背後に広がる文化や社会に関する深い知識の習得に加え、言語・文学、法律・政治、経済・経営、文化などの多様な専門領域を学ぶことにより養われる複眼的思考力と、他者への理解に基づく他者との協調性を備えた、国際的視野を持って活躍できる「行動する国際人」を育成することを目的とする。 |
| 英米学科 | 英米学科は、洗練された高度な英語運用能力と、英語圏の言語・文学・文化・社会に関わる深い知識を身につけ、思索と行動の両面でグローバル化の進む世界に貢献することのできる、先導的な人材を育成することを目的とする。 |
| ロシア学科 | ロシア学科は、ロシア語の運用能力を揺るぎない軸として、ロシア語圏言語・文化・社会に関する複眼的な知識及び専門領域における確かな洞察力を兼ね備え、自らの目的や課題の解決に活かすことが出来る人材、その学びの意義を理解し持続可能な複言語・複文化社会の構築に積極的に貢献できる人材を育成することを目的とする。 |
| 中国学科 | 中国学科は、中国語の「読む・書く・聴く・話す」の実用的訓練を基礎に、言語の背後に広がる文化や社会に関する授業を通じて、中国の経済・文化・社会情勢の動きに即した「使える」中国語の運用能力を身につけ、時代の変化や地域的特性に柔軟に対応できる人材を育成することを目的とする。 |
| イスパニア学科 | イスパニア学科は、歴史的・文化的背景に基づいて情報を的確に把握・理解するとともに、広範なイスパニア語圏に対する鋭敏な洞察力と複眼的な思考力を身につけ、併せて自らの見解を効果的に発信するイスパニア語の高度な運用能力を獲得することで世界と日本の関係及び文化発展に寄与できる人材を育成することを目的とする。 |
| 国際関係学科 | 国際関係学科は、国際社会の動きを多角的に捉え、国境を越えて広がる複雑多岐な課題に柔軟に対応する能力を身につけるため、英語を中心とする外国語とともに、法律・政治、経済・経営、社会・文化など多様な専門領域から知識を習得し、国際的なバランス感覚を以て、未来を切り開いていける人材を育成することを目的とする。 |
| 第2部英米学科 | 第2部英米学科は、勤労と学業の両立を目指す学生に特に配慮しながら、洗練された高度な英語運用能力と、英語圏の言語・文学・文化・社会に関わる深い知識を身につけ、思索と行動の両面でグローバル化の進む世界に貢献することのできる、先導的な人材を育成することを目的とする。 |

(定員)

第4条 本学の学生定員は、次のとおりとする。

| 学部別 | 学科別 | 入学定員 | 総定員 |
|-----|---------|------|------|
| 学部 | 英米学科 | 140人 | 560人 |
| | ロシア学科 | 40 | 160 |
| | 中国学科 | 50 | 200 |
| | イスパニア学科 | 40 | 160 |
| | 国際関係学科 | 80 | 320 |
| 第2部 | 英米学科 | 80 | 320 |
| 計 | | 430 | 1720 |

(大学院)

第5条 本学に大学院を置く。大学院の学則は、別に定める。

(学生支援部及び教務部)

第6条 本学に学生支援部及び教務部を置く。

2 学生支援部及び教務部について必要な事項は、別に定める。

(外国学研究所)

第7条 本学に外国学研究所を置く。

2 外国学研究所について必要な事項は、別に定める。

(図書館)

第8条 本学に図書館を置く。

2 図書館について必要な事項は、別に定める。

(そのほかの付属施設)

第9条 本学にキャリアサポートセンター、国際交流センター、神戸グローバル教育センター、教職支援センター及び地域連携推進センターを置く。

2 前項の施設について必要な事項は、別に定める。

(大学事務局)

第10条 本学に大学事務局を置く。

2 大学事務局の組織及び運営に関し必要な事項は、別に定める。

第3章 職員組織

(職員)

第11条 本学に次の職員を置く。

- (1) 学長及び副学長
- (2) 教授、准教授、講師、助教及び助手(以下「教員」という。)
- (3) 事務職員及び技術職員
- (4) 前3号のほか必要な職員

2 学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。

3 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

4 副学長は、学長があらかじめ指定した順序により、学長に事故があるときはその職務を代理し、学長が欠員のときはその職務を行う。

(学部長)

第12条 学部学部長を置く。

2 学部の学部長は、第2部の学部長を兼ねる。

3 学部長は、学長の監督のもとに、学部に関する事項をつかさどる。

4 学部長は、副学長のうちから学長の申出に基づき理事長が任命する。(学生支援部長、教務部長及び外国学研究所長)

第13条 学生支援部、教務部及び外国学研究所に長として学生支援部長、教務部長及び外国学研究所長を置く。

2 前項の長は、副学長のうちから、学長の申出に基づき理事長が任命する。

3 そのほか必要な事項は、別に定める。

(付属施設の長)

第14条 図書館及びそのほかの付属施設に長を置く。

2 前項の長は、学長の申出に基づき理事長が任命する。

3 そのほか必要な事項は、別に定める。

(事務局長)

第15条 大学事務局に事務局長を置く。

2 事務局長は、大学事務局を統括する。

3 事務局長は、理事長が任命する。

(教授会)

第16条 本学に教授会を置く。

2 教授会について必要な事項は、別に定める。

第4章 学年、学期及び休業日

(学年)

第17条 学年は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第18条 学年を分けて次の2学期とする。

- (1) 前期 4月1日から9月30日まで
- (2) 後期 10月1日から翌年3月31日まで

2 学長が特に必要があると認めるときは、前項の期間を変更することができる。

(休業日)

第19条 休業日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日及び土曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
- (3) 春季休業 2月20日から4月5日まで
- (4) 夏季休業 8月1日から9月30日まで
- (5) 冬季休業 12月25日から翌年1月5日まで

2 学長が特に必要があると認めるときは、前項の休業日を変更し、又は臨時の休業日を定めることができる。

3 前2項の規定にかかわらず、学長が必要と認めるときは、休業日に授業を行うことができる。

第5章 修業年限及び在学年限

(修業年限)

第20条 本学の修業年限は、4年とする。

(在学年限)

第21条 在学期間は、7年を超えることはできない。

2 前項の規定にかかわらず、第24条の規定により第2年次に編入学した者の在学期間は6年を超えることはできない。また、第3年次に編入学した者の在学期間は5年を超えることはできない。

3 第1項の規定にかかわらず、第42条の規定により相当学年に転部した者についても前項に準ずるものとする。なお、第1年次に転部した者の在学期間は第1項のとおりとする。

4 前3項の在学期間に、休学の期間は算入しない。

第6章 入学、再入学及び編入学

(入学の時期)

第22条 入学の時期は、毎年4月とする。

(入学資格)

第23条 入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する資格を有するものとする。

- (1) 高等学校（中等教育学校〔後期課程〕を含む。）を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が、高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たす者に限る。）で、文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者
- (8) 廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）により文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格した者
- (9) 本学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

(再入学及び編入学)

第24条 前条の規定にかかわらず、次に掲げる者は、相当学年に入学を志願することができる。

- (1) 本学の一つの学科を卒業した者で、更に他の学科に入学を志願する者
- (2) 本学を退学した者で、退学後2年以内に同一学科に再入学を志願する者。ただし、第45条第2号及び第3号に該当する者は、この限りではない。

(3) 他の大学、短期大学又は高等専門学校を卒業した者

(4) 他の大学から転学を志願する者

(5) 前各号に掲げるもののほか、法律の規定に基づき大学に編入学することができる者

(入学志願の手続き)

第25条 入学志願者は、所定の入学願書に必要書類を添付し、指定の日までに本学に提出しなければならない。

(入学試験)

第26条 学長は、教授会の議を経て、入学志願者に対して別に定めるところにより選考を行い、合格者を決定する。

(入学手続及び入学許可)

第27条 学長は、合格者のうち保証人を定め、指定の期間内に本学所定の宣誓書に保証人誓約書及び別に定める入学金を添えて本学に提出した者に入学を許可する。

2 学長は、前項の手続きを怠った者に対して、その入学を許可しないことができる。

3 学長は、入学を許可した後であっても、第23条、第24条、第36条第4項、第54条第3項及び入学に関し別に定める規程等に反することが判明したときは、入学許可を取り消すことができる。

(届出事項の変更)

第28条 入学を許可された者又は保証人の住所その他の届出事項に変更があったときは、直ちに届け出なければならない。

第7章 教育課程の履修及び学習の評価

(教育課程)

第29条 教育課程は、本学の教育上の目標を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に編成するものとする。

(授業科目及び授業の方法)

第30条 授業科目は、必修科目及び選択科目とする。

2 必修科目を学科専攻語学及び研究指導に、選択科目を学科基礎科目、兼修語学、全学共通科目、コース科目、卒業論文及び課程のために設置される科目（以下「課程科目」という。）に分ける。

3 授業科目の授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

4 前項の授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

5 第3項の授業は、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

6 第3項の授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより、授業の一部を、校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。

(授業科目の系列、単位数及び履修方法など)

第31条 各授業科目の系列、名称、単位数、履修方法及び単位の認定については、神戸市外国語大学外国語学部履修規則（2023年4月規則77号）で定める。

(単位の計算及び授与)

第32条 授業科目の単位の計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果及び授業時間外の必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

(1) 毎週1時間15週の講義をもって1単位とする。

(2) 前号の規定にかかわらず、別に定める授業科目については、同号の計算と異なる計算により1単位とすることができる。

2 授業科目を履修し、その試験又は論文等の審査に合格した者には、所定の単位を与える。

(成績の評価)

第33条 成績の評価は、S・A・B・C・Fの5段階評定とし、上位4段階までを合格とする。

(課程の修了)

第34条 学部及び第2部において全課程を修了するには、学部履修規程及び第2部履修規程に沿って124単位以上の授業科目を履修してその単位を取得しなければならない。

2 第30条第4項の授業の方法により修得する単位数は、60単位を超えないものとする。

(教育職員免許状の取得)

第 35 条 教育職員免許法(昭和24年法律第147号)及び教育職員免許法施行規則(昭和29年文部省令第26号)による同法第4条に規定する免許状(以下「免許状」という。)の授与に係る所定の科目に該当する授業科目の単位を修得した者は、各相当の免許状を受ける資格を取得することができる。

2 免許状の種類及び履修方法は、別に定める。

(他の大学等における履修)

第 36 条 学長は、教育上有益と認めるときは、他の大学又は高等専門学校(以下「他の大学等」という)との協議に基づき、学生が他の大学等の授業科目を履修することを認めることができる。

2 前項の規定により、学生が履修した授業科目について取得した単位は、34単位を超えない範囲で本学において取得したものとみなす。

3 前2項の規定は、学生が学長の許可を受けて外国の大学に留学する場合に準用する。この場合において、留学期間は在学期間に算入する。

4 前3項又は別に定める場合を除き、学生は学校教育法第1条及び第132条に定める他の学校に同時に正規の学生として在籍することはできない。

(入学前取得単位の認定)

第 37 条 学生が、本学に入学する前に本学、他の大学又は短期大学において履修した授業科目について取得した単位の認定については、別に定める。

第8章 休学、復学、転部、転学、退学及び卒業

(休学)

第 38 条 疾病・事故又は留学等により3箇月以上修学することができない者は、保証人と連署を持って、1年以内の休学を願い出ることができる。

2 前項の規定による許可を受けた者で、特別の事由があるものは、引き続き更に、1年以内の休学を願い出ることができる。

3 疾病による休学のときは、願書に医師の診断書を添えなければならない。

第 39 条 学長は、特別の必要があると認められた者に休学を命じることができる。

(休学の期間)

第 40 条 休学の期間は、通算して3年を超えることはできない。

(復学)

第 41 条 休学の事由がなくなったときは、審議の上、復学を許可する。

(転部)

第 42 条 本学に在学する者で、転部を願い出るときは、選考の上、許可することができる。

(転学)

第 43 条 他の大学等へ入学または転学する者は、本学を退学しなければならない。

(退学)

第 44 条 退学しようとする者は、その事由を詳記して、保証人と連署を持って願い出なければならない。

2 疾病による退学のときは、願書に医師の診断書を添えなければならない。

(措置退学)

第 45 条 次のいずれかに該当する者は、退学させることができる。

(1) 疾病その他の事由により成業の見込みがないと認められた者

(2) 入学金の納付の猶予の申請を行い不許可となった者又は猶予を許可された者で、所定の期日までに入学金を納付しない者

(3) 授業料の納付を怠り、督促を受けても、なお、納付しない者

(卒業)

第 46 条 学長は、4年以上在学し、第34条の規定により必要な単位を取得した者について、卒業を認定する。

(学位の授与)

第 47 条 学長は、本学を卒業した者について、神戸市外国語大学学位規則(2023年4月規則91号)の定めるところにより学士の学位を授与する。

第9章 賞罰

(表彰)

第 48 条 学長は、学生でよくその本分を全うし、他の模範とするに足るものがあるときは、これを表彰する。

(懲戒)

第 49 条 学長は、学生で本学の諸例規に背き、その他学生の本分にもとる行為があるものは、学生懲戒規程に基づき懲戒する。懲戒は、戒告、停学及び退学の3種とする。

2 前項に規定する退学は、次の各号のいずれかに該当するときに行う。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められるとき。

(2) 本学の秩序を乱し、その他学生の本分に著しく反したとき。

第10章 授業料、入学金そのほか費用徴収

第 50 条 この学則に定めるもののほか、授業料、入学金、入学選抜料等納付金に関することは、別に定めるところによる。

第11章 科目等履修生、特別聴講生、外国人交流留学生及び外国人留学生

(科目等履修志願の手続き)

第 51 条 学長は、授業科目を選択して、履修を願い出る者があるときは、収容能力の限度内において、選考の上、許可することができる。

2 前項の履修を願い出ようとする者は、所定の書類を指定期間内に、本学に提出しなければならない。

3 第1項の規定により履修を許可された者は、保証人を定め、指定期間内に、本学所定の宣誓書に保証人誓約書及び別に定める入学金を添えて、本学に提出しなければならない。

4 学長は、前項の手続きを怠った者に対し、履修の許可を取り消すことができる。

(規定の準用)

第 52 条 第22条、第28条、第38条(第2項を除く。)、第41条、第44条、第45条第3号及び第50条の規定は、科目等履修生に準用する。

(科目等履修生の資格及び授業料その他徴収費用)

第 53 条 本章に定めるもののほか、科目等履修生に関することは、別に定める。

(特別聴講学生)

第 54 条 学長は、他の大学等との協議に基づき、他の大学等に在学する者に特別聴講学生として入学を許可することができる。

2 特別聴講学生に関する事項は、別に定める。

3 本条及び別に定める場合を除き、学校教育法第1条及び第132条に定める他の学校に在学する者は、同時に本学に正規の学生として入学することはできない。

(外国人交流留学生)

第 55 条 学長は、外国の大学との協議に基づき、外国の大学に在学する者に外国人交流留学生として、入学を許可することができる。

2 外国人交流留学生に関する事項は、別に定める。

(外国人留学生)

第 56 条 学長は、外国人で本学学生又は科目等履修生として入学又は履修を願い出る者があるときは、収容能力の限度内において、選考の上、入学又は履修を許可することができる。

2 外国人留学生については、別に定めるもののほか、一般学生又は科目等履修生に関する規定を準用する。

第12章 厚生保健施設

第 57 条 本学に、学生会館、食堂、保健室その他の厚生保健施設を設ける。

2 厚生保健施設の利用については、別に定める。

第13章 雑則

第 58 条 この学則の施行に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この学則は、2007年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2007年12月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この学則は、2009年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 改正後の学則第4節及び第5節の規定は、2009年度以後に入学する者について適用し、2008年度以前に入学した者については、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

3 2009年度から2011年度までの各年度における学部各学科及び第2部英米学科の総定員については、第4条の規定にかかわらず次のとおりとする。

| 学部別 | 学科別 | 2009年度 | 2010年度 | 2011年度 |
|-----|---------|--------|--------|--------|
| 学部 | 英米学科 | 500人 | 520人 | 540人 |
| | ロシア学科 | 160 | 160 | 160 |
| | 中国学科 | 170 | 180 | 190 |
| | イスパニア学科 | 160 | 160 | 160 |
| | 国際関係学科 | 320 | 320 | 320 |
| 第2部 | 英米学科 | 440 | 400 | 360 |
| | 計 | 1750 | 1740 | 1730 |

附則

(施行期日)

1 この学則は、2010年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 2010年3月31日までに入学した者の在学期間については、従前の例による。

附則

この学則は、2014年4月1日から施行する。

附則

この学則は、2015年4月1日から施行する。

附則

この学則は、2016年4月1日から施行する。

附則

この学則は、2019年4月1日から施行する。

附則

この学則は、2020年3月1日から施行する。

附則

この学則は、2020年7月1日から施行する。

附則

この学則は、2022年4月1日から施行する。

附則

この学則は、2023年4月1日から施行する。

附則

(施行期日)

1 この規則は、2024年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 改正後の第33条成績評価に関する規定は、2024年度以後に入学する者について適用し、2024年3月31日までに入学した者の成績評価については、従前の例による。

神戸市外国語大学外国語学部履修規則

(授業科目及び単位)

第1条 外国語学部（以下「学部」という）の授業科目の系列、名称及び単位数は、次のとおりとする。

(1) 英米学科、ロシア学科、中国学科及びイスパニア学科の学科専攻語学、兼修語学、学科基礎科目、全学共通科目、コース科目、研究指導及び自由選択単位については別表(1)で定める。

(2) 国際関係学科の学科専攻語学、兼修語学、学科基礎科目、全学共通科目、コース科目、研究指導及び自由選択単位については別表(2)で定める。

(3) 教育職員養成課程、司書課程及び学校図書館司書教諭課程に関する科目については別表(5)-1及び(5)-2で定める。

(4) テーマ研究プログラムに関する科目については、別表(8)で定める。

(5) 数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する科目については、別表(9)で定める。

(履修登録)

第2条 毎学年度に履修する授業科目は、その年度の初めにおいて指定された期日までに履修手続きを行うものとする。

2 学科専攻語学、研究指導以外の科目について、履修登録している授業を指定された期間に登録を削除することができる。

3 履修する後期開講の授業科目は、毎学年度後期の指定された期日までに変更することができる。

4 毎学年度に履修登録できる単位数については別途規則等で定める。

(履修中止)

第3条 授業開始後、所定の期間に限り登録科目の履修中止手続きをすることができる。ただし履修中止科目は、次のとおりとする。

(1) 学科専攻語学、必履修科目又は研究指導以外の科目について、指定された期間に登録を削除することができる。

(2) 兼修語学などの通年科目は、前期の履修中止期間のみ登録を削除することができる。

2 履修中止した科目は、別で定めるGPA制度の対象科目に含まないものとする。

3 履修中止した科目は、次学期以降（通年科目は翌年度以降）に再度履修登録することができる。

(必修科目及び選択科目)

第4条 学科専攻語学、研究指導を必修科目とし、兼修語学、学科基礎科目、全学共通科目、コース科目及び卒業論文を選択科目とする。但し、全学共通科目のうちキャンパスライフ入門、データサイエンス入門については、必ず履修するものとするが、単位未修得の場合も卒業を妨げないものとする。

(単位の認定)

第5条 各学科の単位は、必修科目である学科専攻語学、研究指導及び第2条の規定により履修手続きを行った授業科目のうち所定の試験に合格したもの及び審査に合格した卒業論文に与える。

(成績評価)

第6条 授業科目の評点は100点をもって満点とし、60点以上を合格として単位を与える。

2 合格した科目の評価は、90点～100点を評価Sとし、80点～89点を評価Aとし、70点～79点を評価Bとし、60点～69点を評価Cとする。

(成績通算制度)

第7条 学科専攻語学、兼修語学及び研究指導などの通年科目について、後期から休学又は神戸市外国語大学学生海外留学派遣規則（2023年4月規則第102号。以下「海外留学派遣規則」という。）第2条に規定する留学をするときは、休学学期又は留学学期に連続する直前の前期と、休学学期又は留学学期との連続性に関わらず、復学学期以後又は留学学期後の直近の後期の成績を合算して成績評価をし、単位を与えることができる。

2 復学学期以後又は留学学期後に前期から履修する通年科目の後期の成績は、第1項の成績の合算の対象とすることができない。

(単位計算の特例)

第8条 神戸市外国語大学学則（2007年4月学則第1号。以下「学則」という。）第32条第1項第2号の規定に該当する授業科目の単位計算は、次のとおりとする。

(1) 学科専攻語学及び兼修語学の授業科目は、毎週2時間15週の授業をもって1単位とする。ただし、英米学科専攻語学のⅢ及びⅣ階級の科目は、毎週2時間15週の授業をもって2単位とする。

(2) スポーツ方法1及びスポーツ方法2は、毎週2時間15週の授業をもって1単位とする。

(3) 教育実習（事前及び事後指導を除く）は、原則的に連続した2週80時間（2単位）または3週120時間（4単位）で行うものとする。

2 臨時に増設する授業科目については、単位及び単位算定の方法をそのつど定め、取得した単位は卒業必要単位に算入することができる。

(コースの選択)

第9条 英米学科、ロシア学科、中国学科及びイスパニア学科では、語学文学コース、国際法政コース、経済経営コース、多文化共生コース又はリベラルアーツコースのうち、いずれかを選択するものとする。国際関係学科では、国際法政コース、経済経営コース、多文化共生コース又はリベラルアーツコースのうち、2つのコース（主専攻・副専攻）を選択するものとする。

2 前項のコースの選択は、学科専攻語学のⅡ階級に進級した年度の始めに届け出なければならない。

(各学科の履修科目)

第10条 英米学科、ロシア学科、中国学科及びイスパニア学科では、別

- 表(3)-1または別表(3)-2に示す授業科目を履修しなければならない。
- 2 国際関係学科では、別表(4)-1及び別表(4)-3に示す授業科目を履修しなければならない。
- (第2部で履修できる科目)
- 第11条 英米学科、ロシア学科、中国学科及びイスパニア学科では別表(1)、別表(3)-1、別表(3)-2及び別表(5)のうち、国際関係学科では別表(2)、別表(4)-1、別表(4)-3及び別表(5)-1、別表(5)-2のうち、いずれも別表(7)-1または(7)-2または別表(7)-3に示す第2部の授業を、36単位を超えない範囲で学部の授業科目として履修することができる。ただし、同一科目を学部・第2部両方で重複して履修することはできない。
- 2 各学科では、別表(5)-1または別表(5)-2に掲げる外国語学部第2部に開設された司書科目、学校図書館司書教諭科目を履修することができる。ただし、これらの取得単位は第1項の36単位に含まないものとする。
- (英米学科の学科専攻語学)
- 第12条 英米学科での学科専攻語学の履修方法及び単位の付与については、次項以下で定める。
- 2 I、II、III及びIVの階程を順次履修し、I、II及びIIIの階程ではそれぞれ12単位、IVの階程では8単位を履修するものとする。
- 3 Iの階程は半期科目に1単位、通年科目に2単位を与え、IIの階程では通年科目に2単位を与え、III及びIVの階程は通年科目に4単位を与える。
- 4 I階程の科目のうち8単位を取得すればII階程に進むことができる。
- 5 I階程の全科目の単位を取得した上で、II階程の科目のうち8単位を取得すればIII階程に進むことができる。
- 6 II階程の全科目の単位を取得した上で、III階程の科目のうち8単位を取得すればIV階程に進むことができる。
- 7 I、II、III及びIVの階程で単位を取得できなかった科目があるときは、その科目を次年度に再び履修して単位を取得しなければならない。II階程に進級できなかった者は、単位を取得できなかったI階程の科目に加えてII階程の科目を、また、IV階程に進級できなかった者は、単位を取得できなかったIII階程の科目に加えてIV階程の科目を、それぞれ履修することができる。ただし、各年度において取得できる単位の合計は12単位を超えることができない。
- 8 第2部英米学科からの転部者については、I及びIIの階程では、第2部で取得済のそれぞれ10単位を単位認定し、IIIの階程では20単位、IVの階程では8単位を履修するものとする。ただし、そのうち4単位は自由選択単位へ算入することができる。
- 9 前項の学生は、III階程の科目のうち、III総合英語の8単位を除いた12単位のうち8単位を取得すればIV階程に進むことができる。III総合英語の単位は、第7項ただし書の12単位に含まないものとする。
- (ロシア、中国及びイスパニア学科の学科専攻語学)
- 第13条 ロシア、中国及びイスパニア学科での学科専攻語学の履修方法及び単位の付与については、次項以下で定める。
- 2 I、II、III及びIVの階程を順次履修するものとする。
- 3 I階程の6科目全てを取得したときはII階程に、II階程の6科目全てを取得したときはIII階程に進むことができる。
- 4 III階程の科目のうち4科目(8単位)以上の科目を取得したときはIV階程に進むことができる。
- 5 I及びIIの階程は各階程ごとに一括して12単位を与え、III及びIVの階程は各科目に細別して、科目ごとに2単位を与える。
- 6 I、II、III及びIVの階程で単位を取得できなかった科目があるときは、その科目を次年度に再び履修して単位を取得しなければならない。
- 7 IV階程に進級できなかった者は、単位を取得できなかったIII階程の科目に加えてIV階程の科目を、4単位まで履修することができる。ただし、各年度において取得できる単位の合計は12単位を超えることができない。
- (国際関係学科の学科専攻語学)
- 第14条 国際関係学科での学科専攻語学の履修方法及び単位の付与については、次項以下で定める。
- 2 I、II、III及びIVの階程を順次履修するものとする。
- 3 I階程の科目のうち3科目の単位を取得したときはII階程に進むことができる。
- 4 I階程の全科目の単位を取得した上で、II階程の科目のうち3科目の単位を取得したときはIII階程に進むことができる。
- 5 III階程に進んだ翌年度にIV階程に進むことができる。

- 6 各階程は各科目に細別して、科目ごとに2単位を与える。
- 7 I、II、III及びIVの階程で単位を取得できなかった科目があるときは、その科目を次年度に再び履修して単位を取得しなければならない。
- (兼修語学)
- 第15条 ロシア、中国及びイスパニア学科では、兼修語学として英語を履修する。
- 2 英米及び国際関係学科では、兼修語学の必修語学から英語以外の1科目を選択して履修する。
- 3 兼修語学の必修語学は、I、II及びIIIの階程に分け、順次履修する。
- 4 兼修英語では、各階程は各科目に細別して科目ごとに2単位を与える。
- 5 兼修英語のI階程から1科目を取得したときは、II階程に進むことができる。I階程の全科目の単位を取得した上で、II階程の1科目を取得すればIII階程に進むことができる。単位を取得できなかった科目があるときは、その科目を次年度に再び履修して単位を取得しなければならない。
- 6 兼修ロシア語、中国語、イスパニア語、フランス語及びドイツ語については、I階程の2科目を修了した後でなければII階程に進むことができない。この単位についてはI階程では一括して4単位を与え、II階程では科目ごとに2単位を与える。II階程の1科目を取得すればIII階程に進むことができる。
- 7 兼修語学のうち1つの言語でII階程の2科目を修得した場合、他の言語を履修することができる。
- 8 前項の定めにより2言語目以降の科目を履修する場合、大学が適当と認めるときは、II階程又はIII階程から履修することができる。
- (出席要件)
- 第16条 学科専攻語学、兼修語学、スポーツ方法1及びスポーツ方法2については、科目ごとにその全授業時数の2分の1以上出席しなければ単位を与えない。
- (研究指導)
- 第17条 研究指導は、学科専攻語学のIII階程に進級した年度から履修するものとする。
- 2 研究指導は、同一担当者について2年間履修するものとする。ただし、やむを得ない事情があるときは、担当者の承認を得て変更することができる。
- 3 研究指導は、同一年度に複数の担当者について履修することはできない。
- 4 研究指導は、通算して8単位まで卒業単位に算入する。
- 5 研究指導の単位を取得できなかったときは、次年度において、さらに履修しなければならない。
- (卒業論文)
- 第18条 研究指導を履修登録している者又は単位取得済みの者が卒業論文を提出することができる。
- 2 卒業論文を提出しない者は、選択したコースのコース科目の中からこれに代えて8単位分の科目を取得しなければならない。
- 3 卒業論文は、所定の期日までに提出しなければならない。
- 4 卒業論文の審査は、原則として2人の審査員によって行う。そのうち1人は研究指導担当者とする。
- (自由選択単位)
- 第19条 以下の場合に取得した単位は、自由選択単位として卒業必要単位に8単位まで算入することができる。
- (1) 学生が属する学科の必修科目及び選択科目以外の科目を履修した場合
- (2) 学生が属する学科の必修科目及び選択科目を規定の単位数を超えて履修した場合
- (複数回単位認定科目)
- 第20条 別表(6)に掲げる授業科目が異なる学期に開講されたときは、同一科目を履修しても、それぞれの科目を異なる授業科目として所定の単位を与え、卒業必要単位に算入することができる。また、同一の学期に開講された場合でも、担当者が異なるときは、それぞれの科目を異なる授業科目として所定の単位を与え、卒業必要単位に算入することができる。
- (他大学等との単位互換科目)
- 第21条 学則第36条第1項及び第2項の規定に基づき取得した単位は、自由選択単位として卒業必要単位に算入することができる。
- (編入学者及び転部者等の単位認定)
- 第22条 大学又は短期大学の卒業生又は中途退学者で新1年次に入学し

た学生、編入学者及び転部者が既に取得した科目の単位認定については別に定める。

(復学者の単位認定)

第 23 条 休学した者が当該年度に復学したときは、出席時数を考慮して単位を与えることができる。ただし、留学等のときは、別に定める海外留学派遣規則による。

(科目名称等の変更)

第 24 条 この規程の改正により授業科目の名称及び内容を変更したときは、変更された授業科目の履修及び単位の認定については、その都度定める。

附 則

(施行期日)

第 1 条 この規則は、2023年4月1日から施行する。

(経過措置)

第 2 条 2020年度以前に入学した者については、神戸市外国語大学外国語学部履修規程(2007年4月規程65号)の2021年4月改正前の例による。

(旧規程の廃止)

第 3 条 神戸市外国語大学外国語学部履修規程は、廃止する。

附 則

(施行期日)

第 1 条 この規則は、2024年4月1日から施行する。

(経過措置)

第 2 条 第6条第2項の規定は、2023年度以前に入学した者については、神戸市外国語大学外国語学部履修規則の2023年4月制定時の例による。

附 則

(施行期日)

第 1 条 この規則は、2024年7月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

第 1 条 この規則は、2025年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

第 1 条 この規則は、2025年9月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

第 1 条 この規則は、2026年4月1日から施行する。

別表(1) 英米学科・ロシア学科・中国学科・イスパニア学科の必要取得単位数

| 科目種別 | 必要取得単位数 | 履修条件 |
|-------------|-------------------------|---|
| 学 科 専 攻 語 学 | 44単位 | 各階程において取得する単位数は次のとおり I 階程 12単位 II 階程 12単位 III 階程 12単位 IV 階程 8 単位 ただし、第2部英米学科から英米学科への転部者の各階程における必要取得単位数は、次のとおり 第I 階程 10単位 第II 階程 10単位 第III 階程 20単位 第IV 階程 8 単位 (転部者については、そのうち4単位は自由選択単位への算入対象とする。) |
| 兼 修 語 学 | 8 単位 | 各階程において取得する単位数は次のとおり I 階程 4 単位 II 階程 4 単位 |
| 学 科 基 礎 科 目 | 12単位 | 各学科の設置する学科基礎科目から12単位を取得する。 |
| 全 学 共 通 科 目 | 16単位 | 人文領域、社会科学領域、自然・人間科学領域からそれぞれ少なくとも1科目を履修する。 |
| コ ー ス 科 目 | 20単位 | 各コースが設置するコース科目から20単位を取得する。 |
| 研究指導、卒業論文 | 16単位 (内、卒業論文の単位は8単位) | 卒業論文は自由選択。 卒業論文により8単位が取得できない場合は、所属コースのコース科目からこれに代えて8単位取得しなければならない。 |
| 自 由 選 択 単 位 | 8 単位 | 他コース・他学科の開講科目および自学科・自コース開設科目で規定の単位数を超えて取得したものについては、原則として「自由選択単位」として卒業必要単位に算入する。規定の単位数は、第2部英米学科から英米学科への転部者の専攻語学については44単位とし、そのほかについては必要取得単位数とする。 |

別表(2) 国際関係学科の必要取得単位数

| 科目種別 | | 必要取得単位数 | 履修条件 |
|-------------|-------|-------------------------------|---|
| 学 科 専 攻 語 学 | | 24単位 | 各階程において取得する単位数は次のとおり 第Ⅰ階程 8単位 第Ⅱ階程 8単位 第Ⅲ階程 4単位 第Ⅳ階程 4単位 |
| 兼 修 語 学 | | 8単位 | 各階程において取得する単位数は次のとおり 第Ⅰ階程 4単位 第Ⅱ階程 4単位 |
| 学 科 基 礎 科 目 | | 8単位 | 各学科の設置する学科基礎科目から8単位を取得する。 |
| 全 学 共 通 科 目 | | 12単位 | 人文領域、社会科学領域、自然・人間科学領域からそれぞれ少なくとも1科目を履修する。 |
| コース 科 目 | 主 専 攻 | 28単位 | 各コースが設置するコース科目から主専攻28単位、副専攻20単位を取得する。 |
| | 副 専 攻 | 20単位 | |
| 研究指導, 卒業論文 | | 16単位 (内, 卒業論文の 単位数は8単位) | 卒業論文は自由選択。 卒業論文により8単位が取得できない場合は、所属コースのコース科目からこれに代えて8単位取得しなければならない。 |
| 自 由 選 択 単 位 | | 8単位 | 他コース・他学科の開講科目および自学科・自コース開設科目で規定の単位数を超えて取得したものについては、原則として「自由選択単位」として卒業必要単位に算入する。規定の単位数は必要取得単位数とする。 |

別表(3)ー2 英米学科、ロシア学科、中国学科、イスパニア学科 履修科目表 (2025年度以降入学生)

単位数の表示の無い科目は、半期2単位

| 科目種別 | 科目名称 | 注 |
|------|--|---|
| 英米学科 | I 階程： 専攻英語 I 講読 [1] (短編小説) [通年2単位]， 専攻英語 I 講読 [2] (メディア英語基礎) [通年2単位]， 専攻英語 I 講読 [3] (戯曲) [通年2単位]， 専攻英語 I 作文 [通年2単位]， 専攻英語 I 会話 [通年2単位]， 専攻英語 I 文法 [半期1単位]， 専攻英語 I 発音 [半期1単位] II 階程： 専攻英語 II 講読 [1] (小説) [通年2単位]， 専攻英語 II 講読 [2] (英語学入門) [通年2単位]， 専攻英語 II 講読 [3] (詩) [通年2単位]， 専攻英語 II 作文 [通年2単位]， 専攻英語 II 会話 [通年2単位]， 専攻英語 II 総合英語 (コミュニケーション) [通年2単位] III 階程： 専攻英語 III 講読 [1] (文学) [通年4単位]， 専攻英語 III 講読 [2] (英語学基礎) [通年4単位]， 専攻英語 III 講読 [3] [通年4単位]， 専攻英語 III 会話 [通年4単位]， 専攻英語 III 総合英語 [1] (文学) [通年4単位]， 専攻英語 III 総合英語 [2] (コミュニケーション) [通年4単位] IV 階程： 専攻英語 IV 講読 [1] (文学) [通年4単位]， 専攻英語 IV 講読 [2] (英語学発展) [通年4単位]， 専攻英語 IV 講読 [3] [通年4単位]， 専攻英語 IV 作文 [通年4単位] | |
| | I 階程： 専攻ロシア語 I [1] [通年2単位]， 専攻ロシア語 I [2] [通年2単位]， 専攻ロシア語 I [3] [通年2単位]， 専攻ロシア語 I [4] [通年2単位]， 専攻ロシア語 I [5] [通年2単位]， 専攻ロシア語 I [6] [通年2単位] II 階程： 専攻ロシア語 II 講読 [1] [通年2単位]， 専攻ロシア語 II 講読 [2] [通年2単位]， 専攻ロシア語 II 文法 [1] [通年2単位]， 専攻ロシア語 II 文法 [2] [通年2単位]， 専攻ロシア語 II 作文会話 [通年2単位]， 専攻ロシア語 II 会話 [通年2単位] III 階程： 専攻ロシア語 III 講読 [1] [通年2単位]， 専攻ロシア語 III 講読 [2] [通年2単位]， 専攻ロシア語 III 講読 [3] [通年2単位]， 専攻ロシア語 III 講読 [4] [通年2単位]， 専攻ロシア語 III 作文 [通年2単位]， 専攻ロシア語 III 会話 [通年2単位] IV 階程： 専攻ロシア語 IV 講読 [1] [通年2単位]， 専攻ロシア語 IV 講読 [2] [通年2単位]， 専攻ロシア語 IV 講読 [3] [通年2単位]， 専攻ロシア語 IV 会話 [通年2単位] | |
| | I 階程： 専攻中国語 I [1] [通年2単位]， 専攻中国語 I [2] [通年2単位]， 専攻中国語 I [3] [通年2単位]， 専攻中国語 I [4] [通年2単位]， 専攻中国語 I [5] [通年2単位]， 専攻中国語 I [6] [通年2単位] II 階程： 専攻中国語 II 講読 [1] [通年2単位]， 専攻中国語 II 講読 [2] [通年2単位]， 専攻中国語 II 講読 [3] [通年2単位]， 専攻中国語 II 文法 [通年2単位]， 専攻中国語 II 作文 [通年2単位]， 専攻中国語 II 会話 [通年2単位] III 階程： 専攻中国語 III 講読 [1] [通年2単位]， 専攻中国語 III 講読 [2] [通年2単位]， 専攻中国語 III 講読 [3] [通年2単位]， 専攻中国語 III 講読 [4] [通年2単位]， 専攻中国語 III 講読 [5] [通年2単位]， 専攻中国語 III 作文会話 [通年2単位] IV 階程： 専攻中国語 IV 講読 [1] [通年2単位]， 専攻中国語 IV 講読 [2] [通年2単位]， 専攻中国語 IV 講読 [3] [通年2単位]， 専攻中国語 IV 作文 [通年2単位] | |
| | I 階程： 専攻イスパニア語 I [1] [通年2単位]， 専攻イスパニア語 I [2] [通年2単位]， 専攻イスパニア語 I [3] [通年2単位]， 専攻イスパニア語 I [4] [通年2単位]， 専攻イスパニア語 I [5] [通年2単位]， 専攻イスパニア語 I [6] [通年2単位] II 階程： 専攻イスパニア語 II 講読 [1] [通年2単位]， 専攻イスパニア語 II 講読 [2] [通年2単位]， 専攻イスパニア語 II 文法 [通年2単位]， 専攻イスパニア語 II 作文 [通年2単位]， 専攻イスパニア語 II 会話 [1] [通年2単位]， 専攻イスパニア語 II 会話 [2] [通年2単位] III 階程： 専攻イスパニア語 III 講読 [1] [通年2単位]， 専攻イスパニア語 III 講読 [2] [通年2単位]， 専攻イスパニア語 III 講読 [3] [通年2単位]， 専攻イスパニア語 III 作文 [通年2単位]， 専攻イスパニア語 III 会話 [1] [通年2単位]， 専攻イスパニア語 III 会話 [2] [通年2単位] IV 階程： 専攻イスパニア語 IV 講読 [1] [通年2単位]， 専攻イスパニア語 IV 講読 [2] [通年2単位]， 専攻イスパニア語 IV 作文 [通年2単位]， 専攻イスパニア語 IV 会話 [通年2単位] | |

| | | | | |
|--------|-----------------|--|---|---|
| 兼修語学 | 必修語学 | 兼修英語Ⅰ [1] [通年2単位], 兼修英語Ⅱ [1] [通年2単位], 兼修ロシア語Ⅰ [1] [通年2単位], 兼修ロシア語Ⅱ [1] [通年2単位], 兼修中国語Ⅰ [1] [通年2単位], 兼修中国語Ⅱ [1] [通年2単位], 兼修スペイン語Ⅰ [1] [通年2単位], 兼修スペイン語Ⅱ [1] [通年2単位], 兼修フランス語Ⅰ [1] [通年2単位], 兼修フランス語Ⅱ [1] [通年2単位], 兼修ドイツ語Ⅰ [1] [通年2単位], 兼修ドイツ語Ⅱ [1] [通年2単位], | 兼修英語Ⅰ [2] [通年2単位], 兼修英語Ⅱ [2] [通年2単位], 兼修ロシア語Ⅰ [2] [通年2単位], 兼修ロシア語Ⅱ [2] [通年2単位], 兼修中国語Ⅰ [2] [通年2単位], 兼修中国語Ⅱ [2] [通年2単位], 兼修スペイン語Ⅰ [2] [通年2単位], 兼修スペイン語Ⅱ [2] [通年2単位], 兼修フランス語Ⅰ [2] [通年2単位], 兼修フランス語Ⅱ [2] [通年2単位], 兼修ドイツ語Ⅰ [2] [通年2単位], 兼修ドイツ語Ⅱ [2] [通年2単位] | ・ロシア学科、中国学科、イスパニア学科の必修の兼修語学は英語 ・英米学科は英語以外の「必修語学」から1種類を選択 |
| | 自由選択語学 | 兼修英語Ⅲ [1] 講読 [通年2単位], 兼修英語Ⅲ [2] 作文会話 [通年2単位], 兼修ロシア語Ⅲ [半期1単位], 兼修中国語Ⅲ [半期1単位], 兼修スペイン語Ⅲ [半期1単位], 兼修フランス語Ⅲ [半期1単位], 兼修ドイツ語Ⅲ [半期1単位] | イタリア語Ⅰ [通年2単位], イタリア語Ⅱ [通年2単位], ポルトガル語Ⅰ [通年2単位], ポルトガル語Ⅱ [通年2単位], インドネシア語 [通年2単位], 朝鮮語Ⅰ [通年2単位], 朝鮮語Ⅱ [通年2単位], エスペラント語 [通年2単位], 東欧諸語1・2・3・4 [各半期1単位], 東洋諸語 [通年2単位] | ・自由選択語学のうち、兼修英語Ⅲは、英米学科の学生は原則として履修することができない |
| 学科基礎科目 | 英米学科 | 英国史、英国の文化、米国史、米国の文化、英国の社会1、英国の社会2、米国の社会(2025年度入学生は「米国の社会1」)、 米国の社会2、英語圏の文化と社会1、英語圏の文化と社会2、英文学史1、英文学史2、米文学史(2025年度入学生は「米文学史1」)、 米文学史2、英語学概論1、英語学概論2、英語学入門1、英語学入門2 | | |
| | ロシア学科 | ロシア文化史1、ロシア文化史2、ロシアの社会1、ロシアの社会2、 ロシア地域論1、ロシア地域論2、ロシア地域論3、ロシア地域論4、ロシア文学史1、ロシア文学史2、 ロシア史1、ロシア史2、ロシア語学入門、ロシア学入門、ロシア文化入門1、ロシア文化入門2 | | |
| | 中国学科 | 中国文化論、中国社会論、中国経済論、中国の法と政治、現代中国論、中国地域論、中国歴史論、 中国文学史1、中国文学史2、中国語学基礎論1、中国語学基礎論2、東洋思想1、東洋思想2 | | |
| | イスパニア学科 | イスパニア文化史1、イスパニア文化史2、中南米文化史1、中南米文化史2、イスパニアの社会1、イスパニアの社会2、 中南米の社会1、中南米の社会2、中南米地域研究1、中南米地域研究2、イスパニア文学史1、イスパニア文学史2、 ラテンアメリカ文学史1、ラテンアメリカ文学史2、イスパニア語学概論1、イスパニア語学概論2、 Preparación para el DELE (DELE対策演習) 1、Preparación para el DELE (DELE対策演習) 2 | | |
| 全学共通科目 | 人文領域 | 宗教学入門、哲学概論、日本思想史、仏教学、倫理学入門、ジェンダー論入門、社会学入門、 アメリカ地域論、ヨーロッパ地域論入門、西洋史、東洋史入門、日本史入門、歴史学入門、言語学入門、 日本語学概論1、日本語学概論2、日本文学論入門、日本文化入門、近現代日本社会入門、 言語学基礎論1、言語学基礎論2、音声学1、音声学2、古典語(ラテン語)1、古典語(ラテン語)2、海外協定校提供科目A、 海外協定校提供科目B、海外派遣留学科目1、海外派遣留学科目2、海外派遣留学科目3、海外派遣留学科目4、 海外協定校短期研修1、海外協定校短期研修2、中東欧研究入門1 [半期1単位]、中東欧研究入門2 [半期1単位]、 中東欧研究入門3 [半期1単位]、中東欧研究入門4 [半期1単位]、Japanese contemporary literature and culture、 History of Japanese cinema、Negotiating stereotypes about Japanese culture | | |
| | 社会科学領域 | 憲法1、憲法2、現代の法、現代の政治、現代日本経済論1、現代日本経済論2、経済経営入門、 現代国際法政問題、現代国際経済問題、現代国際文化問題、インターンシップ(就業体験)1 [半期1単位]、 インターンシップ(就業体験)2 [半期1単位]、現代の企業経営、国際ビジネス・コミュニケーション、ビジネスロシア語1、 ビジネスロシア語2、ビジネス中国語1、ビジネス中国語2、商業イスパニア語1、商業イスパニア語2、 現代世界経済論1、現代世界経済論2、社会開発論、社会人類学入門、神戸・地域メディアワークショップ、 Issues in Japanese culture and society | | |
| | 自然・人間科学領域 | 自然の認識1、自然の認識2、東の科学、西の科学、数理の世界1、数理の世界2、 情報科学概論1、情報科学概論2、情報科学概論3、人権論、人権教育、環境と人間、人間形成論入門、 社会心理学入門1、社会心理学入門2、臨床心理学入門1、臨床心理学入門2、生涯教育論1、生涯教育論2、児童英語教育、 スポーツ方法1 [半期1単位]、スポーツ方法2 [半期1単位]、教育原理、教育哲学、教育史、 神戸・教育インターンシップ1 [半期1単位]、神戸・教育インターンシップ2 [半期1単位]、 神戸・教育インターンシップ3 [半期1単位]、キャリアデザイン、ジャーナリズム論1、キャンパスライフ入門、データサイエンス入門、 キャンパス・リーダーシップ [半期1単位]、プログラミング実習Ⅰ、プログラミング実習Ⅱ | | |
| コース科目 | 全コースでコース科目として認定 | 模擬国連 | | |
| | 語学文学コース(英米学科) | 【基礎】 英米文学・文化研究入門、英米文学と視覚文化、英米文学と社会、比較文学、現代の思想と文化、英語史1、英語史2、 統語論講義、意味論講義、語用論・談話分析講義、音声学・音韻論講義、構文研究、語法文法研究、 応用言語学1、応用言語学2、文学翻訳演習、メディア英語演習1、メディア英語演習2、通訳演習1、通訳演習2、 社会言語学、小学校英語教育論、リスニング分析1、リスニング分析2、オーラル・プレゼンテーション1、通訳(基礎)、 会議通訳(逐次)、パブリック・スピーチ、映画研究、翻訳1(2025年度入学生は「翻訳理論」)、翻訳2(2025年度入学生は「翻訳」)、メディア論、 英語学特殊講義(現代社会)1、英語学特殊講義(現代社会)2、英語学特殊講義(現代社会)3、英語学特殊講義(現代社会)4 【発展】 イギリス文学特殊講義1、イギリス文学特殊講義2、イギリス文学特殊講義3、イギリス文学特殊講義4、 アメリカ文学特殊講義1、アメリカ文学特殊講義2、アメリカ文学特殊講義3、アメリカ文学特殊講義4、 英語圏文学特殊講義1、英語圏文学特殊講義2、英語文学・文化特殊講義1、英語文学・文化特殊講義2、英語文学・文化特殊講義3、 英語文学・文化特殊講義4、英語文学・文化特殊講義5、英語文学・文化特殊講義6、英語文学・文化特殊講義7、 英語文学・文化特殊講義8、英語学特殊講義1、英語学特殊講義2、英語学特殊講義3、英語学特殊講義4、英語学・文化研究演習1、 英語学・文化研究演習2、英語学・文化研究演習3、英語学・文化研究演習4、英語学・文化研究演習5、英語学・文化研究演習6、 英語学・文化研究演習7、英語学・文化研究演習8、英語学・文化研究演習9、英語学・文化研究演習10、Advanced Writing 1、 Advanced Writing 2、英語学研究演習1、英語学研究演習2、英語学研究演習3、英語学研究演習4、英語学研究演習5、 英語学研究演習6、英語学研究演習7、英語学研究演習8、英語学研究演習9、英語学研究演習10、英語学研究演習11、英語学研究演習12、 小学校英語教育論演習、英語教育学演習、オーラル・プレゼンテーション2、放送通訳、会議通訳(同時) | | |
| | 語学文学コース(ロシア学科) | 【基礎】 ロシアの文学と思想1、ロシアの文学と思想2、ロシアの文学と思想3、ロシア文学基礎講義1、ロシア文学基礎講義2、 ロシア語形成論、ロシア語語彙・文法研究、ロシア語意味論1、ロシア語意味論2、ロシア語対照言語学、 ロシア語コミュニケーション演習1、ロシア語コミュニケーション演習2、ロシア語学演習1、ロシア文化特殊講義1 【発展】 ロシア文学特殊講義1、ロシア文学特殊講義2、ロシア文学原典講義1、ロシア文学原典講義2、 ロシア語アカデミックライティング、ロシア語通訳・翻訳研究、ロシア語歴史研究1、ロシア語歴史研究2、 ロシア・スラヴ研究、ロシア文化特殊講義2、スラヴ語学1、スラヴ語学2、ロシア語動詞研究1、ロシア語動詞研究2 | | |

| | | | |
|-----------------------------|--|--|--|
| <p>コース科目</p> | <p>語学文学 コース (中国学科)</p> | <p>【基礎】 中国文学特殊講義 1, 中国文学特殊講義 2, 中国文学特殊講義 3, 中国文学特殊講義 4, 中国語学特殊講義 1, 中国語学特殊講義 2, 中国語学特殊講義 3, 中国語学特殊講義 4, 中国語学特殊講義 5, 中国文化特殊講義 1, 中国文化特殊講義 2, 中国文学研究演習 1, 中国語学演習 1 【発展】 中国文学特殊講義 5, 中国文学特殊講義 6, 中国語学特殊講義 6, 中国語学特殊講義 7, 中国語学特殊講義 8, 中国語学特殊講義 9, 中国語学特殊講義 10, 中国語学特殊講義 11, 中国語学特殊講義 12, 中国文化特殊講義 3, 中国文化特殊講義 4, 中国文学研究演習 2, 中国語学演習 2</p> | |
| | <p>語学文学 コース (イスペイン 学科)</p> | <p>【基礎】 イスペイン文学特殊講義 1, イスペイン文学特殊講義 2, ラテンアメリカ文学特殊講義 1, ラテンアメリカ文学特殊講義 2, イスペイン語学特殊講義 1, イスペイン語学特殊講義 2, イスペイン文化特殊講義 1, イスペイン文化特殊講義 2, ラテンアメリカ文化特殊講義 1, ラテンアメリカ文化特殊講義 2, イスペイン文学研究演習 1, イスペイン文学研究演習 2, ラテンアメリカ文学研究演習 1, ラテンアメリカ文学研究演習 2, イスペイン語学演習 1, イスペイン語学演習 2 【発展】 イスペイン文学特殊講義 3, イスペイン文学特殊講義 4, ラテンアメリカ文学特殊講義 3, ラテンアメリカ文学特殊講義 4, イスペイン語学特殊講義 3, イスペイン語学特殊講義 4, イスペイン文化特殊講義 3, イスペイン文化特殊講義 4, ラテンアメリカ文化特殊講義 3, ラテンアメリカ文化特殊講義 4, イスペイン文学研究演習 3, イスペイン文学研究演習 4, ラテンアメリカ文学研究演習 3, ラテンアメリカ文学研究演習 4, イスペイン語学演習 3, イスペイン語学演習 4</p> | |
| | <p>国際法政 コース</p> | <p>【基礎】 社会学, 移民社会論, 統計学 1, 統計学 2, 民法 1, 民法 2, 政治学 1, 政治学 2, 国際政治学 1, 国際政治学 2, 文化と政治, 比較政治 1, 比較政治 2, 国際法「基本」1, 国際法「基本」2, 国際政治経済学, アジア国際関係史 1, アジア国際関係史 2, アメリカ政治 1, 中国法政論, ロシアの社会 1 ※ 1, ロシアの社会 2 ※ 1 【発展】 比較地域研究 1, 比較地域研究 2, 東南アジア地域論: 政治, 民法 3, 民法 4, 民法 5, 商法 1, 商法 2, 行政法 1, 行政法 2, 労働法, 国際取引法 1, 国際取引法 2, 法政特論 1, 法政特論 2, 途上国地域社会論 1, 途上国地域社会論 2, 国際紛争処理法, 国際法「発展」1, 国際法「発展」2, 国際私法 1, 国際私法 2, 東南アジア地域論特殊講義: 政治, ヨーロッパ政治 1, ヨーロッパ政治 2, アフリカ政治 1, アフリカ政治 2, アメリカ政治 2, ゲーム理論, 移民社会論演習, ロシア政治経済論 1, ロシア政治経済論 2, Japan and the international politics of Asia</p> | |
| | <p>経済経営 コース</p> | <p>【基礎】 ミクロ経済学 1, ミクロ経済学 2, マクロ経済学 1, マクロ経済学 2, 簿記原理, 統計学 1, 統計学 2, 経営学 1, 経営学 2, 神戸研究, 近代世界システム成立史, Japan's current and future challenges 【発展】 国際経営論 1, 国際経営論 2, 東南アジア地域論: 経済, 商法 1, 商法 2, 労働法, ミクロ経済政策 1, ミクロ経済政策 2, マクロ経済政策 1, マクロ経済政策 2, 産業組織の経済学 1, 産業組織の経済学 2, 経済学演習 1, 経済学演習 2, 経済学特殊講義 1, 経済学特殊講義 2, 経済学特殊講義 3, 経済学特殊講義 4, 経営学特殊講義 1, 経営学特殊講義 2, 経営学特殊講義 3, 経営学特殊講義 4, 会計学 1, 会計学 2, マーケティング論 1, マーケティング論 2, 国際商務論 1, 国際商務論 2, 商業英語 1, 商業英語 2, 国際金融論 1, 国際金融論 2, 国際貿易論, 貿易政策論, 開発経済論 1, 開発経済論 2, 多国籍企業論 1, 多国籍企業論 2, 金融論 1, 金融論 2, 東南アジア地域論特殊講義: 経済, 財政学 1, 財政学 2, 公共政策, 労働経済, 計量経済学 1, 計量経済学 2, ゲーム理論, ロシア政治経済論 1, ロシア政治経済論 2, プロジェクト演習 (経済経営)</p> | |
| | <p>多文化共生 コース</p> | <p>【基礎】 宗教と社会の共生, ヨーロッパ地域論, 移民社会論, 朝鮮文化論 1, 外国人学習者の観点から見た日本語, ロシア文化特殊講義 1, 中国文化特殊講義 2, ラテンアメリカ文化特殊講義 1, ラテンアメリカ文化特殊講義 2, 日本語の形と意味, 日本語の多様性, 民族誌学 1, 近現代日本社会, アジアの文化と社会の共生 1, アジアの文化と社会の共生 2, アジア言語文化の諸問題, フランスの思想と社会 1, 出版と編集 ※ 2, コミュニケーション学概論, コミュニケーション理論, 文化と政治, 社会調査分析 1, 社会調査分析 2, 言語と国家, 社会人類学, コミュニケーション論, 異文化間コミュニケーション論, 英米文学特殊講義 (現代社会) 1, 英米文学特殊講義 (現代社会) 2, 英語学特殊講義 (現代社会) 1, 英語学特殊講義 (現代社会) 2, 英語学特殊講義 (現代社会) 3, 英語学特殊講義 (現代社会) 4, 環境論 1, バリアフリー論, 日本手話, Japan's current and future challenges 【発展】 比較地域研究 1, 比較地域研究 2, フランスの社会, 朝鮮文化論 2, 東南アジア地域論: 経済, 東南アジア地域論: 政治, ロシア文化特殊講義 2, 中国文化特殊講義 4, 民族誌学 2, 日本語の談話研究, 日本語変異の研究, 近現代日本社会研究 1, 近現代日本社会研究 2, 言語文化の多様性とアジア 1, 言語文化の多様性とアジア 2, フランスの思想と社会 2, コミュニケーション研究, 東南アジアの社会と文化, 言語と文化, 社会人類学研究, 東南アジア地域論特殊講義: 経済, 東南アジア地域論特殊講義: 政治, 環境論 2, ジェンダー共生論演習, 社会共生論演習, プロジェクト演習 (多文化共生), 移民社会論演習, Japan and the international politics of Asia</p> | |
| <p>リベラル アーツ コース</p> | <p>【基礎】 宗教学基礎論, 西洋哲学史, 倫理学, 社会学, フランス文化論 1, ヨーロッパ文化史 1, ヨーロッパ文化論 1, ヨーロッパ文学論, 東洋史, 日本史, 日本文学論, 言語類型論, 歴史言語学, 古典語 (ギリシャ語) 1, 古典語 (ギリシャ語) 2, 日本語教育の基礎, 人間形成論, 日本語の文法, 日本語の音声, 日本の文化, 西洋古典学 1, 哲学, 自然科学 (基礎) 1, 自然科学 (基礎) 2, 人間関係論 1, 人間関係論 2, スポーツ文化論 1, スポーツ文化論 2, 中歐文化史 1, ヨーロッパにおけるドイツ 1, フランス文学論 1, 小学校英語教育論, 社会調査分析 1, 社会調査分析 2, ジェンダー論, 文化芸術論 1, 出版と編集 ※ 2 【発展】 フランス文化論 2, ヨーロッパ文化史 2, ヨーロッパ文化論 2, 日本文化の諸相 1, 日本文化の諸相 2, 言語学研究 1, 言語学研究 2, 小学校英語教育論演習, 社会言語学, 西洋古典学 2, 西洋史研究 1, 西洋史研究 2, アジア言語文化 1, アジア言語文化 2, 歴史学特殊講義, 自然科学 (発展) 1, 自然科学 (発展) 2, スポーツ文化論演習「第 1」1, スポーツ文化論演習「第 1」2, スポーツ文化論演習「第 2」1, スポーツ文化論演習「第 2」2, 一般言語学から見た日本語, 日本語の統語論的研究, 日本語の意味・機能研究, 日本語音声・音韻の研究, 日本文化研究 1, 日本文化研究 2, アジア言語学 1, アジア言語学 2, 哲学特殊講義 1, 哲学特殊講義 2, 中歐文化史 2, ヨーロッパにおけるドイツ 2, フランス文学論 2, 社会心理学演習 1, 社会心理学演習 2, 臨床心理学演習 1, 臨床心理学演習 2, 現代文明論, 文化芸術論 2</p> | | |
| <p>研究指導 卒業論文</p> | <p>研究指導 (通年 4 単位) 卒業論文 (半期 8 単位)</p> | | |

※ 1 「ロシアの社会 1・2」は、ロシア学科の学生が履修した場合は「学科基礎科目」、その他の学科の学生が履修した場合は「国際法政コース」科目として扱う。
※ 2 2025年度入学生の「出版と編集 1」については、「多文化共生コース」科目としてのみ扱う。

別表(4) - 3 国際関係学科 履修科目表 (2023年度以降入学生)

単位数の表示の無い科目は、半期2単位

| 科目種別 | 科目名称 | 注 |
|----------------------------------|---|---|
| 学科専攻語学 | I 階程： Global Issues 1 [通年2単位], Academic Reading 1 [通年2単位], Academic Writing 1 [通年2単位], Oral Communication 1 [通年2単位] II 階程： Global Issues 2 [通年2単位], Academic Reading 2 [通年2単位], Academic Writing 2 [通年2単位], Oral Communication 2 [通年2単位] III 階程： Global Issues 3 [通年2単位], Integrated Skills in English 1 [通年2単位] IV 階程： Global Issues 4 [通年2単位], Integrated Skills in English 2 [通年2単位] | |
| 兼修語学 | 必修語学 兼修ロシア語Ⅰ [1] [通年2単位], 兼修ロシア語Ⅱ [2] [通年2単位], 兼修ロシア語Ⅱ [1] [通年2単位], 兼修ロシア語Ⅱ [2] [通年2単位] 兼修中国語Ⅰ [1] [通年2単位], 兼修中国語Ⅰ [2] [通年2単位], 兼修中国語Ⅱ [1] [通年2単位], 兼修中国語Ⅱ [2] [通年2単位] 兼修スペイン語Ⅰ [1] [通年2単位], 兼修スペイン語Ⅰ [2] [通年2単位], 兼修スペイン語Ⅱ [1] [通年2単位], 兼修スペイン語Ⅱ [2] [通年2単位] 兼修フランス語Ⅰ [1] [通年2単位], 兼修フランス語Ⅱ [2] [通年2単位], 兼修フランス語Ⅱ [1] [通年2単位], 兼修フランス語Ⅱ [2] [通年2単位] 兼修ドイツ語Ⅰ [1] [通年2単位], 兼修ドイツ語Ⅰ [2] [通年2単位], 兼修ドイツ語Ⅱ [1] [通年2単位], 兼修ドイツ語Ⅱ [2] [通年2単位] | |
| | 自由選択語学 兼修英語Ⅲ [1] 講読 [通年2単位], 兼修英語Ⅲ [2] 作文会話 [通年2単位], 兼修ロシア語Ⅲ [半期1単位], 兼修中国語Ⅲ [半期1単位], 兼修スペイン語Ⅲ [半期1単位], 兼修フランス語Ⅲ [半期1単位], 兼修ドイツ語Ⅲ [半期1単位] イタリア語Ⅰ [通年2単位], イタリア語Ⅱ [通年2単位], ポルトガル語Ⅰ [通年2単位], ポルトガル語Ⅱ [通年2単位], インドネシア語 [通年2単位], 朝鮮語Ⅰ [通年2単位], 朝鮮語Ⅱ [通年2単位], エスペラント語 [通年2単位], 東欧諸語1・2・3・4 [各半期1単位], 東洋諸語 [通年2単位] | |
| 学科基礎科目 | 国際機構論, 国際関係学特別講義, 国際経済関係史, 地球市民社会論1, 地球市民社会論2, 地球市民社会論3, 地球市民社会論4 | |
| 全学共通科目 | 人文領域 宗教学入門, 哲学概論, 日本思想史, 仏教学, 倫理学入門, ジェンダー論入門, 社会学入門, アメリカ地域論, ヨーロッパ地域論入門, 西洋史, 東洋史入門, 日本史入門, 歴史学入門, 言語学入門, 日本語学概論1, 日本語学概論2, 日本文学論入門, 日本文化入門, 近現代日本社会入門, 言語学基礎論1, 言語学基礎論2, 音声学1, 音声学2, 古典語(ラテン語)1, 古典語(ラテン語)2, 中東欧研究入門1 [半期1単位], 中東欧研究入門2 [半期1単位], 中東欧研究入門3 [半期1単位], 中東欧研究入門4 [半期1単位], 海外派遣留学科目1, 海外派遣留学科目2, 海外派遣留学科目3, 海外派遣留学科目4, 海外協定校短期研修1, 海外協定校短期研修2, 海外協定校提供科目A, 海外協定校提供科目B, Japanese contemporary literature and culture, History of Japanese cinema, Negotiating stereotypes about Japanese culture | |
| | 社会科学領域 憲法1, 憲法2, 現代の法, 現代の政治, 現代日本経済論1, 現代日本経済論2, 経済経営入門, 現代国際法政問題, 現代国際経済問題, 現代国際文化問題, インターンシップ(就業体験)1 [半期1単位], インターンシップ(就業体験)2 [半期1単位], 神戸・地域メディアワークショップ, 現代の企業経営, 国際ビジネス・コミュニケーション, ビジネスロシア語1, ビジネスロシア語2, ビジネス中国語1, ビジネス中国語2, 商業スペイン語1, 商業スペイン語2, 現代世界経済論1, 現代世界経済論2, 社会開発論, 社会人類学入門, Issues in Japanese culture and society | |
| | 自然・人間科学領域 自然の認識1, 自然の認識2, 東の科学, 西の科学, 数理の世界1, 数理の世界2, 情報科学概論1, 情報科学概論2, 情報科学概論3, 人権論, 人権教育, 環境と人間, 人間形成論入門, 社会心理学入門1, 社会心理学入門2, 臨床心理学入門1, 臨床心理学入門2, 生涯教育論1, 生涯教育論2, 児童英語教育, スポーツ方法1 [半期1単位], スポーツ方法2 [半期1単位], 教育原理, 教育哲学, 教育史, 神戸・教育インターンシップ1 [半期1単位], 神戸・教育インターンシップ2 [半期1単位], 神戸・教育インターンシップ3 [半期1単位], キャリアデザイン, ジャーナリズム論1, キャンパスライフ入門, データサイエンス入門, キャンパス・リーダーシップ [半期1単位], プログラミング実習Ⅰ, プログラミング実習Ⅱ | |
| 全コースで コース科目 (主専攻 として認定) | 模擬国連 | |
| コース科目 | 国際法政 コース 【基礎】 民法1, 民法2, 政治学1, 政治学2, 国際政治学1, 国際政治学2, 比較政治1, 比較政治2, 国際法「基本」1, 国際法「基本」2, 国際政治経済学, ロシアの社会1*1, ロシアの社会2, アジア国際関係史1, アジア国際関係史2, アメリカ政治1, 中国法政論, 社会学, 移民社会論, 統計学1, 統計学2, 文化と政治 【発展】 東南アジア地域論: 政治, 民法3, 民法4, 民法5, 商法1, 商法2, 行政法1, 行政法2, 労働法, 国際取引法1, 国際取引法2, 法政特論1, 法政特論2, 途上国地域社会論1, 途上国地域社会論2, 国際紛争処理法, 国際法「発展」1, 国際法「発展」2, 国際私法1, 国際私法2, 東南アジア地域論特別講義: 政治, ヨーロッパ政治1, ヨーロッパ政治2, アフリカ政治1, アフリカ政治2, アメリカ政治2, 移民社会論演習, 比較地域研究1, 比較地域研究2, ゲーム理論, ロシア政治経済論1, ロシア政治経済論2, Japan and the international politics of Asia | |
| | 経済経営 コース 【基礎】 ミクロ経済学1, ミクロ経済学2, マクロ経済学1, マクロ経済学2, 簿記原理, 統計学1, 統計学2, 経営学1, 経営学2, 神戸研究, 近代世界システム成立史, Japan's current and future challenges 【発展】 国際経営論1, 国際経営論2, 東南アジア地域論: 経済, ミクロ経済政策1, ミクロ経済政策2, マクロ経済政策1, マクロ経済政策2, 産業組織の経済学1, 産業組織の経済学2, 経済学演習1, 経済学演習2, 経済学特殊講義1, 経済学特殊講義2, 経済学特殊講義3, 経済学特殊講義4, 経営学特殊講義1, 経営学特殊講義2, 経営学特殊講義3, 経営学特殊講義4, 会計学1, 会計学2, マーケティング論1, マーケティング論2, 国際商務論1, 国際商務論2, 商業英語1, 商業英語2, 国際金融論1, 国際金融論2, 国際貿易論, 貿易政策論, 開発経済論1, 開発経済論2, 多国籍企業論1, 多国籍企業論2, 金融論1, 金融論2, 東南アジア地域論特別講義: 経済, 財政学1, 財政学2, 公共政策, 労働経済, 計量経済学1, 計量経済学2, ゲーム理論, 商法1, 商法2, 労働法, ロシア政治経済論1, ロシア政治経済論2, プロジェクト演習(経済経営) | |

| | | |
|--------------|----------------------------|---|
| コース科目 | 多文化共生コース | <p>【基礎】 宗教と社会の共生, ヨーロッパ地域論, 移民社会論, 朝鮮文化論1, 外国人学習者の観点から見た日本語, ロシア文化特殊講義1【33520100】, 中国文化特殊講義2【34520300】, ラテンアメリカ文化特殊講義1【35620100】, ラテンアメリカ文化特殊講義2【35620200】, 日本語の形と意味, 日本語の多様性, 民族誌学1, 近現代日本社会, アジアの文化と社会の共生1, アジアの文化と社会の共生2, アジア言語文化の諸問題, フランスの思想と社会1, 出版と編集(2023~2025年度入学生は「出版と編集1」)※2, コミュニケーション学概論, コミュニケーション理論, 文化と政治, 社会調査分析1, 社会調査分析2, 言語と国家, 社会人類学, コミュニケーション論, 異文化間コミュニケーション論, 英米文学特殊講義(現代社会)1, 英米文学特殊講義(現代社会)2, 英語学特殊講義(現代社会)1, 英語学特殊講義(現代社会)2, 英語学特殊講義(現代社会)3, 英語学特殊講義(現代社会)4 環境論1, バリアフリー論, 日本手話, <u>Japan's current and future challenges</u></p> <p>【発展】 比較地域研究1, 比較地域研究2, フランスの社会, 朝鮮文化論2, ロシア文化特殊講義2【33520200】, 中国文化特殊講義4【34520400】, 民族誌学2, 日本語の談話研究, 日本語変異の研究, 近現代日本社会研究1, 近現代日本社会研究2, 言語文化の多様性とアジア1, 言語文化の多様性とアジア2, フランスの思想と社会2, コミュニケーション研究, 東南アジアの社会と文化, 言語と文化, 社会人類学研究, 環境論2, ジェンダー共生論演習, 社会共生論演習, プロジェクト演習(多文化共生), 東南アジア地域論:経済, 東南アジア地域論:政治, 東南アジア地域論特殊講義:経済, 東南アジア地域論特殊講義:政治, 移民社会論演習, <u>Japan and the international politics of Asia</u></p> |
| | リベラルアーツコース | <p>【基礎】 宗教学基礎論, 西洋哲学史, 倫理学, 社会学, フランス文化論1, ヨーロッパ文化史1, ヨーロッパ文化論1, ヨーロッパ文学論, 東洋史, 日本史, 日本文学論, 言語類型論, 歴史言語学, 古典語(ギリシャ語)1, 古典語(ギリシャ語)2, 日本語教育の基礎, 人間形成論, 日本語の文法, 日本語の音声, 日本の文化, 西洋古典学1, 哲学, 自然科学(基礎)1, 自然科学(基礎)2, 人間関係論1, 人間関係論2, スポーツ文化論1, スポーツ文化論2, 中欧文化史1, ヨーロッパにおけるドイツ1, フランス文学論1, 小学校英語教育論, ジェンダー論, 文化芸術論1, 社会調査分析1, 社会調査分析2, 出版と編集</p> <p>【発展】 フランス文化論2, ヨーロッパ文化史2, ヨーロッパ文化論2, 日本文化の諸相1, 日本文化の諸相2, 言語学研究1, 言語学研究2, 小学校英語教育論演習, 社会言語学, 西洋古典学2, 西洋史研究1, 西洋史研究2, アジア言語文化1, アジア言語文化2, 歴史学特殊講義, 自然科学(発展)1, 自然科学(発展)2, スポーツ文化論演習「第1」1, スポーツ文化論演習「第1」2, スポーツ文化論演習「第2」1, スポーツ文化論演習「第2」2, 一般言語学から見た日本語, 日本語の統語論的研究, 日本語の意味・機能研究, 日本語音声・音韻の研究, 日本文化研究1, 日本文化研究2, アジア言語学1, アジア言語学2, 哲学特殊講義1, 哲学特殊講義2, 中欧文化史2, ヨーロッパにおけるドイツ2, フランス文学論2, 社会心理学演習1, 社会心理学演習2, 臨床心理学演習1, 臨床心理学演習2, 現代文明論, 文化芸術論2</p> |
| 研究指導 卒業論文 | 研究指導(通年4単位) 卒業論文(半期8単位) | |

- ※1 「ロシアの社会1」は2024年度以前に入学した国際関係学科生が履修した場合「自由選択科目」として、2025年度以降に入学した国際関係学科生が履修した場合、「国際法政コース」科目として扱う。
- ※2 2025年度以前入学生の「出版と編集1」については、「多文化共生コース」科目としてのみ扱う。

下線の科目：1つの科目が複数のコースで開講されます。

別表(4)-2 複数のコースで開講される科目一覧

| 科目名 | 本籍 | 共通 |
|--|------------|------------|
| 社会学 | リベラルアーツコース | 国際法政コース |
| 移民社会論 | 多文化共生コース | 国際法政コース |
| 移民社会論演習 | 多文化共生コース | 国際法政コース |
| 統計学1 | 経済経営コース | 国際法政コース |
| 統計学2 | 経済経営コース | 国際法政コース |
| 文化と政治 | 多文化共生コース | 国際法政コース |
| 比較地域研究1 | 多文化共生コース | 国際法政コース |
| 比較地域研究2 | 多文化共生コース | 国際法政コース |
| ゲーム理論 | 経済経営コース | 国際法政コース |
| 商法1 | 国際法政コース | 経済経営コース |
| 商法2 | 国際法政コース | 経済経営コース |
| 労働法 | 国際法政コース | 経済経営コース |
| ロシア政治経済論1 | 国際法政コース | 経済経営コース |
| ロシア政治経済論2 | 国際法政コース | 経済経営コース |
| 東南アジア地域論:経済 | 経済経営コース | 多文化共生コース |
| 東南アジア地域論:政治 | 国際法政コース | 多文化共生コース |
| 東南アジア地域論特殊講義:経済 | 経済経営コース | 多文化共生コース |
| 東南アジア地域論特殊講義:政治 | 国際法政コース | 多文化共生コース |
| Japan's current and future challenges | 多文化共生コース | 経済経営コース |
| 社会調査分析1 | 多文化共生コース | リベラルアーツコース |
| 社会調査分析2 | 多文化共生コース | リベラルアーツコース |
| 出版と編集 | 多文化共生コース | リベラルアーツコース |
| Japan and the international politics of Asia | 国際法政コース | 多文化共生コース |

- ・開講されているコースを選択している場合(主専攻・副専攻)、その科目を履修した際に、コース科目として認定されます。
- ・この科目を履修した場合、主専攻・副専攻の組み合わせによって、認定されるコースや科目区分が異なりますので、注意してください。詳しくは次の表で確認してください。

主専攻・副専攻との関係は下記のとおりです。

(例)「商法1」(本:国際法政(発展)、共:経済経営(発展))の場合

| 学生の主専攻 | 学生の副専攻 | 認定されるコース |
|---------|---------|----------|
| 国際法政 | 経済経営 | 国際法政 |
| | 多文化共生 | 国際法政 |
| | リベラルアーツ | 国際法政 |
| 経済経営 | 国際法政 | 国際法政 |
| | 多文化共生 | 経済経営 |
| | リベラルアーツ | 経済経営 |
| 多文化共生 | 国際法政 | 国際法政 |
| | 経済経営 | 経済経営 |
| | リベラルアーツ | 自由選択 |
| リベラルアーツ | 国際法政 | 国際法政 |
| | 経済経営 | 経済経営 |
| | 多文化共生 | 自由選択 |

別表(5)ー2 各課程のために設置される科目

[2026年度以降入学生用]

| 課程名 | 科目名 |
|-------------|--|
| 教育職員養成課程 | 教職概論, 教育課程論, 教育心理学, 道德教育の理論と実践, 教育行政学, 教育方法論, 特別活動の指導法, 生徒・進路指導論, 教育相談, 教職実践演習(中・高), 教育実習1, 教育実習2, 英語教育法「第1」1・2, 英語教育法「第2」1・2, ロシア語教育法「第1」1・2, ロシア語教育法「第2」1・2, 中国語教育法「第1」1・2, 中国語教育法「第2」1・2, イスパニア語教育法「第1」1・2, イスパニア語教育法「第2」1・2, 教育原理, 教育哲学, 教育史, 神戸・教育インターンシップ1・2・3 [各半期1単位], 総合的な学習の時間の指導法, 特別支援教育の指導法, 教育とICT活用 |
| 司書課程 | 生涯学習概論, 図書館概論, 図書館制度・経営論, 図書館サービス概論, 情報サービス論, 児童サービス論, 情報サービス演習1 [半期1単位], 情報サービス演習2 [半期1単位], 図書館情報資源概論, 情報資源組織論, 情報資源組織演習1 [半期1単位], 情報資源組織演習2 [半期1単位], 図書館情報資源特論, 図書・図書館史, 図書館情報技術論 |
| 学校図書館司書教諭課程 | 学校経営と学校図書館, 学校図書館メディアの構成, 学習指導と学校図書館, 読書と豊かな人間性, 情報メディアの活用 |

別表(6) 複数回単位認定科目

| | | |
|--|------------|------------|
| <語学文学コース> | | |
| 中国学科 | | |
| 中国文学特殊講義 1 中国語学特殊講義12 | 中国文学特殊講義 2 | 中国語学特殊講義11 |
| <全コース> | | |
| 模擬国連 (但し、コース科目への認定は1回限り。2回目以降は自由選択単位。) | | |

別表(7)ー3 学部生が履修可能な第2部開講科目 (2026年度以降入学生)

| 第2部での科目種別 | 科目名称 | 学部で認定される科目種別/注 |
|--------------------|---|------------------------------------|
| 学科基礎科目 | 英国史, 英国の文化, 米国史, 米国の文化, 英国の社会1・2, 米国の社会, 英語圏の文化と社会1・2, 英文学史1・2, 米文学史, 英語学概論1・2, 英語研究入門1・2 | 学部英米学科 学科基礎科目 (学部英米学科以外は自由選択単位) |
| 兼修語学 (自由選択語学) | ロシア語Ⅲ(半期1単位), 中国語Ⅲ(半期1単位), イスパニア語Ⅲ(半期1単位) | 兼修語学 (自由選択語学) |
| 全学共通科目 (人文) | 宗教学入門, 哲学概論, 日本思想史, ジェンダー論入門, 社会学入門, ヨーロッパ地域論入門, 西洋史, 日本史入門, 歴史学入門, 言語学入門, 日本語学概論1・2, 日本文学論入門, 日本文化入門, 近現代日本社会入門, 言語学基礎論1・2, 音声学1・2, 古典語(ラテン語)1・2, 海外協定校提供科目A・B, Japanese contemporary literature and culture, History of Japanese cinema, Negotiating stereotypes about Japanese culture | 全学共通科目(人文) |
| | アジア言語文化の諸問題, ヨーロッパ地域論, 外国人学習者の観点から見た日本語, 日本語の形と意味, 日本語の多様性, 近現代日本社会 | コース科目(多文化共生) |
| | 宗教学基礎論, 西洋哲学史, 日本史, 日本文学論, 言語類型論, 歴史言語学, 社会学※, 古典語(ギリシャ語)1・2, 日本語教育の基礎, 日本語の文法, 日本語の音声, 日本の文化 | コース科目(リベラルアーツ) |
| (社会科学) | 現代の法, 現代の政治, 憲法1・2, 現代日本経済論1・2, 経済経営入門, 神戸・地域メディアワークショップ, Issues in Japanese culture and society | 全学共通科目(社会科学) |
| | ミクロ経済学1・2, マクロ経済学1・2, 簿記原理 | コース科目(経済経営) |
| (自然・人間科学) | 自然の認識1・2, 数理の世界1・2, 情報科学概論1・2・3, 人権論, 人権教育, 人間形成論入門, 社会心理学入門1・2, 臨床心理学入門1・2, 児童英語教育, ジャーナリズム論1, スポーツ方法1[半期1単位]・2[半期1単位], 教育原理, 教育哲学, 教育史, 神戸・教育インターンシップ1[半期1単位]・2[半期1単位]・3[半期1単位], キャンパスライフ入門, データサイエンス入門, プログラミング実習Ⅰ・Ⅱ, キャンパス・リーダーシップ[半期1単位] | 全学共通科目(自然・人間科学) |
| | スポーツ文化論1・2, 人間形成論 | コース科目(リベラルアーツ) |
| | 統計学1・2※ | コース科目(経済経営) |
| | 英語学特殊講義1~4, 音声学・音韻論講義, 統語論講義, 意味論講義, 語用論・談話分析講義, 応用言語学1・2, 構文研究, 語法文法研究, 英語学研究演習1~12, 英語教育学演習, 社会言語学※, メディア英語演習1・2, 英語史1・2 | コース科目 (英米学科・語学文学) |
| コース科目 (英語圏文化文学) | 英語文学・文化特殊講義1~8, イギリス文学特殊講義1~4, アメリカ文学特殊講義1~4, 英語圏文学特殊講義1・2, 英米文学・文化研究入門, 英米文学と視覚文化, 英米文学と社会, 比較文学, 現代の思想と文化, 英語文学・文化研究演習1~10, Advanced Writing1・2, 文学翻訳演習 | コース科目(多文化共生) |
| | 比較地域研究1・2※ | コース科目(多文化共生) |
| | 西洋史研究1・2 | コース科目(リベラルアーツ) |
| コース科目 (法経商) | 民法1・2・3・4・5, 商法1・2※, 行政法1・2, 労働法※, 国際法「基本」1・2, 国際取引法1・2, 政治学1・2, 法政特論1・2, 比較政治1・2, アメリカ政治1・2, Japan and the international politics of Asia※ | コース科目(国際法政) |
| | ミクロ経済政策1・2, マクロ経済政策1・2, 国際貿易論, 貿易政策論, 産業組織の経済学1・2, 計量経済学1・2, 経済学特殊講義1・2・3・4, 国際金融論1・2, 経営学1・2, 経営学特殊講義1・2・3・4, 会計学1・2, 国際商務論1・2, 商業英語1・2, ゲーム理論※, プロジェクト演習(経済経営) | コース科目(経済経営) |
| | Japan's current and future challenges※ | コース科目(多文化共生) |
| 課程科目 教員養成課程 | 教職概論, 教育課程論, 教育心理学, 道德教育の理論と実践, 教育行政学, 教育方法論, 特別活動の指導法, 生徒・進路指導論, 教育相談, 教職実践演習(中・高), 教育実習1・2, 英語教育法「第1」1・2, 英語教育法「第2」1・2, 総合的な学習の時間の指導法, 特別支援教育の指導法, 教育とICT活用 | 自由選択単位 |

注:第2部に同名の科目があるが 学部生が履修できない科目

学科専攻語学(専攻英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)

兼修語学の必修語学

研究指導

・司書課程・学校図書館司書教諭課程の科目の履修については,神戸市外国語大学外国語学部履修規則第11条第2項に定める。

・※印の科目は下記を参照のこと

| 科目名 | 本籍 | 共通 | 科目名 | 本籍 | 共通 |
|---------------------------------------|---------|------|--|-------|---------|
| 社会学 | リベラルアーツ | 国際法政 | 社会言語学 | 英米・語文 | リベラルアーツ |
| 統計学1・2 | 経済経営 | 国際法政 | 比較地域研究1・2 | 多文化共生 | 国際法政 |
| 商法1・2 | 国際法政 | 経済経営 | 労働法 | 国際法政 | 経済経営 |
| ゲーム理論 | 経済経営 | 国際法政 | | | |
| Japan's current and future challenges | 多文化共生 | 経済経営 | Japan and the international politics of Asia | 国際法政 | 多文化共生 |

語科(英・ロ・中・伊):本籍・共通どちらかのコースを選択している場合、自身のコースの科目として認定される。

国際関係:科目の「本籍」、「共通」の順にコース科目として認定される。(別表(4)-2参照)

例:主専攻「国際法政」、副専攻「経済経営」の学生が「統計学1・2」を履修した場合は、「経済経営」のコース科目として認定される。

別表（８） テーマ研究プログラムに関する科目

1. グローバルコミュニケーションプログラム（Global Communication Program：GCP）

| 種別 | | 授業科目 | 単位数 | 備考（科目区分） |
|---------------|-----------------|-------------------------|-----|---------------------------------------|
| 必要単位数 16単位 | コア科目 (8単位以上) | 放送通訳 | 2 | コース科目 語文（英・発展） |
| | | 模擬国連 | 2 | コース科目 |
| | | パブリック・スピーチ | 2 | コース科目 語文（英・基礎） |
| | | メディア英語演習1※ | 2 | コース科目 語文（英・基礎） |
| | | メディア英語演習2※ | 2 | コース科目 語文（英・基礎） |
| | | 神戸研究 | 2 | コース科目 経済経営（基礎） |
| | | 英語学特殊講義（現代社会）3 | 2 | 本：コース科目 語文（英・基礎） 共：コース科目 多文化共生（基礎） |
| | 選択科目 | コミュニケーション論 | 2 | コース科目 多文化共生（基礎） |
| | | 異文化間コミュニケーション論 | 2 | コース科目 多文化共生（基礎） |
| | | 通訳（基礎） | 2 | コース科目 語文（英・基礎） |
| | | 会議通訳（逐次） | 2 | コース科目 語文（英・基礎） |
| | | 会議通訳（同時） | 2 | コース科目 語文（英・発展） |
| | | 翻訳2（2025年度以前入学生は「翻訳」） | 2 | コース科目 語文（英・基礎） |
| | | コミュニケーション研究 | 2 | コース科目 多文化共生（発展） |
| | | 国際ビジネス・コミュニケーション | 2 | 全学共通（社会科学） |
| | | コミュニケーション学概論 | 2 | コース科目 多文化共生（基礎） |
| | | コミュニケーション理論 | 2 | コース科目 多文化共生（基礎） |
| | | 翻訳1（2025年度以前入学生は「翻訳理論」） | 2 | コース科目 語文（英・基礎） |
| | | 映画研究 | 2 | コース科目 語文（英・基礎） |
| | | メディア論 | 2 | コース科目 語文（英・基礎） |

※メディア英語演習1・2の両方を取得した場合、コア科目にはどちらか1科目のみ計上。

2. 対照言語学プログラム [2025年度以降入学生]

| 種別 | | 授業科目 | 単位数 | 必要単位数内訳 | 備考（科目区分） | | |
|-----------------------------------|-----------------|-----------------------|-----|-------------|-----------|--|--|
| 必単 16 要 単 位 数 位 | コア科目 (8単位以上) | 言語学入門 | 2 | 左記より 4単位 | 全学共通（人文） | | |
| | | 言語学基礎論1 | 2 | | 全学共通（人文） | | |
| | | 言語学基礎論2 | 2 | | 全学共通（人文） | | |
| | | 音声学1 | 2 | | 全学共通（人文） | | |
| | | 音声学2 | 2 | | 全学共通（人文） | | |
| | | 【所属学科の言語系学科基礎科目】 ※1 | | | | | |
| | | 英語学概論1 | 2 | 左記より 2単位 | 学科基礎（英米） | | |
| | | 英語学概論2 | 2 | | 学科基礎（英米） | | |
| | | 英語研究入門1 | 2 | | 学科基礎（英米） | | |
| | | 英語研究入門2 | 2 | | 学科基礎（英米） | | |
| | | ロシア語学入門 | 2 | | 学科基礎（ロシア） | | |
| | | 中国語学基礎論1 | 2 | | 学科基礎（中国） | | |
| | | 中国語学基礎論2 | 2 | | 学科基礎（中国） | | |
| | | イスパニア語学概論1 | 2 | | 学科基礎（イスパ） | | |
| | | イスパニア語学概論2 | 2 | | 学科基礎（イスパ） | | |
| | | 日本語学概論1 | 2 | | 全学共通（人文） | | |
| | | 日本語学概論2 | 2 | | 全学共通（人文） | | |
| | | 【所属学科以外の言語系学科基礎科目】 ※2 | | | | | |

| | | | | | |
|---------------|------------------|-------------------|---|---------------|---|
| 必 単 16 | 要 数 位 単 | 英語学概論 1 | 2 | 左記より 2 単 位 | 自由選択 |
| | | 英語学概論 2 | 2 | | 自由選択 |
| | | 英語研究入門 1 | 2 | | 自由選択 |
| | | 英語研究入門 2 | 2 | | 自由選択 |
| | | ロシア語学入門 | 2 | | 自由選択 |
| | | 中国語学基礎論 1 | 2 | | 自由選択 |
| | | 中国語学基礎論 2 | 2 | | 自由選択 |
| | | イスパニア語学概論 1 | 2 | | 自由選択 |
| | | イスパニア語学概論 2 | 2 | | 自由選択 |
| | | 日本語学概論 1 | 2 | | 全学共通 (人文) |
| | | 日本語学概論 2 | 2 | 全学共通 (人文) | |
| | | 音声学・音韻論講義 | 2 | 左記より 4 単 位 | コース科目 語文 (英・基礎) |
| | | 統語論講義 | 2 | | コース科目 語文 (英・基礎) |
| | | 意味論講義 | 2 | | コース科目 語文 (英・基礎) |
| | | 語用論・談話分析講義 | 2 | | コース科目 語文 (英・基礎) |
| | | 応用言語学 1 | 2 | | コース科目 語文 (英・基礎) |
| | | 応用言語学 2 | 2 | | コース科目 語文 (英・基礎) |
| | | 構文研究 | 2 | | コース科目 語文 (英・基礎) |
| | | 語法文法研究 | 2 | | コース科目 語文 (英・基礎) |
| | | 社会言語学 | 2 | | 本：コース科目 語文 (英・基礎) 共：コース科目 リベラルアーツ (発展) |
| | | ロシア語学演習 1 | 2 | | コース科目 語文 (ロシア・基礎) |
| | | ロシア語語形成論 | 2 | | コース科目 語文 (ロシア・基礎) |
| | | ロシア語アカデミックライティング | 2 | | コース科目 語文 (ロシア・発展) |
| | | ロシア語対照言語学 | 2 | | コース科目 語文 (ロシア・基礎) |
| | | ロシア語意味論 1 | 2 | | コース科目 語文 (ロシア・基礎) |
| | | ロシア語歴史研究 2 | 2 | | コース科目 語文 (ロシア・発展) |
| | | ロシア語語彙・文法研究 | 2 | | コース科目 語文 (ロシア・基礎) |
| | | ロシア語通訳・翻訳研究 | 2 | | コース科目 語文 (ロシア・発展) |
| | | ロシア語意味論 2 | 2 | | コース科目 語文 (ロシア・基礎) |
| | | ロシア語コミュニケーション演習 1 | 2 | | コース科目 語文 (ロシア・基礎) |
| | | ロシア語コミュニケーション演習 2 | 2 | | コース科目 語文 (ロシア・基礎) |
| | | スラヴ語学 1 | 2 | | コース科目 語文 (ロシア・発展) |
| | | スラヴ語学 2 | 2 | | コース科目 語文 (ロシア・発展) |
| | | ロシア語動詞研究 1 | 2 | | コース科目 語文 (ロシア・発展) |
| | | ロシア語動詞研究 2 | 2 | | コース科目 語文 (ロシア・発展) |
| | | 中国語学特殊講義 1 | 2 | | コース科目 語文 (中国・基礎) |
| | | 中国語学特殊講義 2 | 2 | | コース科目 語文 (中国・基礎) |
| | | 中国語学特殊講義 3 | 2 | | コース科目 語文 (中国・基礎) |
| | | 中国語学特殊講義 4 | 2 | | コース科目 語文 (中国・基礎) |
| | | 中国語学特殊講義 5 | 2 | | コース科目 語文 (中国・基礎) |
| | | 中国語学特殊講義 6 | 2 | | コース科目 語文 (中国・発展) |
| | | 中国語学特殊講義 7 | 2 | | コース科目 語文 (中国・発展) |
| | | 中国語学特殊講義 8 | 2 | | コース科目 語文 (中国・発展) |
| | | 中国語学特殊講義 9 | 2 | | コース科目 語文 (中国・発展) |
| | | 中国語学特殊講義 1 0 | 2 | | コース科目 語文 (中国・発展) |
| | | 中国語学特殊講義 1 1 | 2 | | コース科目 語文 (中国・発展) |
| | | 中国語学特殊講義 1 2 | 2 | | コース科目 語文 (中国・発展) |
| | | 中国語学演習 1 | 2 | | コース科目 語文 (中国・基礎) |
| | | 中国語学演習 2 | 2 | | コース科目 語文 (中国・発展) |
| | | イスパニア語学特殊講義 1 | 2 | | コース科目 語文 (イスパ・基礎) |
| | | イスパニア語学特殊講義 2 | 2 | | コース科目 語文 (イスパ・基礎) |
| | | イスパニア語学特殊講義 3 | 2 | | コース科目 語文 (イスパ・発展) |
| イスパニア語学特殊講義 4 | 2 | コース科目 語文 (イスパ・発展) | | | |
| イスパニア語学演習 1 | 2 | コース科目 語文 (イスパ・基礎) | | | |
| イスパニア語学演習 2 | 2 | コース科目 語文 (イスパ・基礎) | | | |
| イスパニア語学演習 3 | 2 | コース科目 語文 (イスパ・発展) | | | |
| イスパニア語学演習 4 | 2 | コース科目 語文 (イスパ・発展) | | | |
| イタリア語 I | 2 | 兼修語学 (自由選択語学) | | | |
| イタリア語 II | 2 | 兼修語学 (自由選択語学) | | | |
| ポルトガル語 I | 2 | 兼修語学 (自由選択語学) | | | |
| ポルトガル語 II | 2 | 兼修語学 (自由選択語学) | | | |
| インドネシア語 | 2 | 兼修語学 (自由選択語学) | | | |
| 朝鮮語 I | 2 | 兼修語学 (自由選択語学) | | | |
| 朝鮮語 II | 2 | 兼修語学 (自由選択語学) | | | |
| エスペラント語 | 2 | 兼修語学 (自由選択語学) | | | |

| | | | | | |
|---------------------------------------|-----------------------------|--------------|---|---------------------------------|--------------------|
| 必 単 16 位 単 要 数 位 | 選 択 科 目 (8単位以上) | 東洋諸語 | 2 | 左 記 よ り 4 単 位 | 兼修語学 (自由選択語学) |
| | | 兼修英語Ⅲ〔1〕講読 | 2 | | 兼修語学 (自由選択語学) |
| | | 兼修英語Ⅲ〔2〕作文会話 | 2 | | 兼修語学 (自由選択語学) |
| | | 兼修ロシア語Ⅲ | 1 | | 兼修語学 (自由選択語学) |
| | | 兼修中国語Ⅲ | 1 | | 兼修語学 (自由選択語学) |
| | | 兼修イスパニア語Ⅲ | 1 | | 兼修語学 (自由選択語学) |
| | | 兼修フランス語Ⅲ | 1 | | 兼修語学 (自由選択語学) |
| | | 兼修ドイツ語Ⅲ | 1 | | 兼修語学 (自由選択語学) |
| | | 東欧諸語 1 | 1 | | 兼修語学 (自由選択語学) |
| | | 東欧諸語 2 | 1 | | 兼修語学 (自由選択語学) |
| | | 東欧諸語 3 | 1 | | 兼修語学 (自由選択語学) |
| | | 東欧諸語 4 | 1 | | 兼修語学 (自由選択語学) |
| | | 日本語の形と意味 | 2 | | コース科目 多文化共生 (基礎) |
| | | 日本語の多様性 | 2 | | コース科目 多文化共生 (基礎) |
| | | 日本語の談話研究 | 2 | | コース科目 多文化共生 (発展) |
| | | 日本語変異の研究 | 2 | | コース科目 多文化共生 (発展) |
| | | 言語類型論 | 2 | | コース科目 リベラルアーツ (基礎) |
| | | 歴史言語学 | 2 | | コース科目 リベラルアーツ (基礎) |
| | | 日本語の文法 | 2 | | コース科目 リベラルアーツ (基礎) |
| | | 日本語の音声 | 2 | | コース科目 リベラルアーツ (基礎) |
| | | 言語学研究 1 | 2 | | コース科目 リベラルアーツ (発展) |
| | | 言語学研究 2 | 2 | | コース科目 リベラルアーツ (発展) |
| | | 日本語の意味・機能研究 | 2 | | コース科目 リベラルアーツ (発展) |
| | | アジア言語学 1 | 2 | | コース科目 リベラルアーツ (発展) |
| | | アジア言語学 2 | 2 | | コース科目 リベラルアーツ (発展) |

※1 国際関係学科の学生は「日本語学概論1」及び「日本語学概論2」のみから選択

※2 国際関係学科の学生は「日本語学概論1」又は「日本語学概論2」以外から選択。ロシア、中国、イスパニア学科の学科基礎科目のレベルは次の通り。

- ・兼修語学Ⅰ・Ⅱ 階履修済み相当：「ロシア語学入門」「中国語学基礎論1」
「イスパニア語学概論1」「イスパニア語学概論2」
- ・専攻語学Ⅰ・Ⅱ 階履修済み相当：「中国語学基礎論2」

3. 行政外交プログラム

| 種 別 | 授業科目 | 単 位 数 | 備考 (科目区分) |
|---------------------------------------|-----------------------------|----------|------------------------|
| 必 要 単 位 数 16 単 位 | コ ア 科 目 (8単位以上) | 憲法1 | 2 全学共通 (社会科学) |
| | | 憲法2 | 2 全学共通 (社会科学) |
| | | 民法1 | 2 コース科目 国際法政 (基礎) |
| | | 民法2 | 2 コース科目 国際法政 (基礎) |
| | | 国際法「基本」1 | 2 コース科目 国際法政 (基礎) |
| | | 国際法「基本」2 | 2 コース科目 国際法政 (基礎) |
| | | ミクロ経済学1 | 2 コース科目 経済経営 (基礎) |
| | | ミクロ経済学2 | 2 コース科目 経済経営 (基礎) |
| | | マクロ経済学1 | 2 コース科目 経済経営 (基礎) |
| | | マクロ経済学2 | 2 コース科目 経済経営 (基礎) |
| | 選 択 科 目 | 行政法1 | 2 コース科目 国際法政 (発展) |
| | | 行政法2 | 2 コース科目 国際法政 (発展) |
| | | 民法3 | 2 コース科目 国際法政 (発展) |
| | | 民法4 | 2 コース科目 国際法政 (発展) |
| | | 民法5 | 2 コース科目 国際法政 (発展) |
| | | 商法1 | 2 コース科目 国際法政/経済経営 (発展) |
| | | 商法2 | 2 コース科目 国際法政/経済経営 (発展) |
| | | 政治学1 | 2 コース科目 国際法政 (基礎) |
| | | 政治学2 | 2 コース科目 国際法政 (基礎) |
| | | 国際政治学1 | 2 コース科目 国際法政 (基礎) |
| | | 国際政治学2 | 2 コース科目 国際法政 (基礎) |
| | | 国際法「発展」1 | 2 コース科目 国際法政 (発展) |
| | | 国際法「発展」2 | 2 コース科目 国際法政 (発展) |

| | | | | |
|-----------------|---------|----------|---|----------------------|
| 必要単位数 16 単 位 | 選 択 科 目 | 国際紛争処理法 | 2 | コース科目 国際法政 (発展) |
| | | 国際機構論 | 2 | 学科基礎 (国際関係) /自由選択 |
| | | 経済学演習1 | 2 | コース科目 経済経営 (発展) |
| | | 経済学演習2 | 2 | コース科目 経済経営 (発展) |
| | | 経済学特殊講義1 | 2 | コース科目 経済経営 (発展) |
| | | 経済学特殊講義2 | 2 | コース科目 経済経営 (発展) |
| | | 経済学特殊講義3 | 2 | コース科目 経済経営 (発展) |
| | | 経済学特殊講義4 | 2 | コース科目 経済経営 (発展) |
| | | ミクロ経済政策1 | 2 | コース科目 経済経営 (発展) |
| | | ミクロ経済政策2 | 2 | コース科目 経済経営 (発展) |
| | | マクロ経済政策1 | 2 | コース科目 経済経営 (発展) |
| | | マクロ経済政策2 | 2 | コース科目 経済経営 (発展) |
| | | 現代日本経済論1 | 2 | 全学共通 (社会科学) |
| | | 現代日本経済論2 | 2 | 全学共通 (社会科学) |
| | | 統計学1 | 2 | コース科目 国際法政/経済経営 (基礎) |
| | | 統計学2 | 2 | コース科目 国際法政/経済経営 (基礎) |
| | | 公共政策 | 2 | コース科目 経済経営 (発展) |

※1 国際関係学科の学生は「日本語学概論1」及び「日本語学概論2」のみから選択

※2 国際関係学科の学生は「日本語学概論1」又は「日本語学概論2」以外から選択。ロシア、中国、イスパニア学科の学科基礎科目のレベルは次の通り。
 ・兼修語学Ⅰ・Ⅱ階履修済み相当：「ロシア語学入門」「中国語学基礎論1」「イスパニア語学概論1」「イスパニア語学概論2」
 ・専攻語学Ⅰ・Ⅱ階履修済み相当：「中国語学基礎論2」

4. 日本語学プログラム

| 種 別 | 授業科目 | 単 位 数 | 備考 (科目区分) |
|-----------------|--------------------|------------------|-------------------|
| 必要単位数 16 単 位 | コ ア 科 目 (8単位以上) | 日本語学概論1 | 2 全学共通科目 (人文) |
| | | 日本語学概論2 | 2 全学共通科目 (人文) |
| | | 日本語の形と意味 | 2 コース科目 (多文化共生) |
| | | 日本語の文法 | 2 コース科目 (リベラルアーツ) |
| | | 日本語の多様性 | 2 コース科目 (多文化共生) |
| | | 日本語の音声 | 2 コース科目 (リベラルアーツ) |
| | | 日本語教育の基礎 | 2 コース科目 (リベラルアーツ) |
| | | 外国人学習者の観点から見た日本語 | 2 コース科目 (多文化共生) |
| | 選 択 科 目 (8単位以上) | 日本文化入門 | 2 全学共通科目 (人文) |
| | | 日本の文化 | 2 コース科目 (リベラルアーツ) |
| | | 近現代日本社会入門 | 2 全学共通科目 (人文) |
| | | 近現代日本社会 | 2 コース科目 (多文化共生) |
| | | 日本文学論入門 | 2 全学共通科目 (人文) |
| | | 日本文学論 | 2 コース科目 (リベラルアーツ) |
| | | 言語学入門 | 2 全学共通科目 (人文) |
| | | 言語学基礎論1 | 2 全学共通科目 (人文) |
| | | 言語学基礎論2 | 2 全学共通科目 (人文) |
| | | 言語類型論 | 2 コース科目 (リベラルアーツ) |
| | | 歴史言語学 | 2 全学共通科目 (人文) |
| | | 音声学1 | 2 全学共通科目 (人文) |
| | | 音声学2 | 2 全学共通科目 (人文) |

別表（9）（第1条関係）数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する科目

1. リテラシーレベル

| 種別 | 授業科目 | 単位数 | 備考（科目区分） |
|-----|------------|-----|---------------|
| 必履修 | キャンパスライフ入門 | 2 | 全学共通(自然・人間科学) |
| 必履修 | データサイエンス入門 | 2 | 全学共通(自然・人間科学) |

神戸市外国語大学外国語学部第2部履修規則

(授業科目及び単位)

第1条 外国語学部第2部(以下「第2部」という)英米学科の学科専攻語学、兼修語学、学科基礎科目、全学共通科目、コース科目、研究指導及び自由選択単位については別表(Ⅱ-1)、別表(Ⅱ-2-1)及び別表(Ⅱ-2-2)で、2025年度以前入学生の教育職員養成課程、日本語学課程、司書課程及び学校図書館司書教諭課程に関する科目については別表(Ⅱ-3-1)で、2026年度以降入学生の教育職員養成課程、司書課程及び学校図書館司書教諭課程に関する科目については別表(Ⅱ-3-2)で定める。テーマ研究プログラムに関する科目については、別表(Ⅱ-6)で定める。数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する科目については、別表(Ⅱ-7)で定める。

(履修登録)

第2条 毎学年度に履修する授業科目は、その年度の初めにおいて指定された期日までに履修手続きを行うものとする。

2 学科専攻語学、研究指導以外の科目について、履修登録している授業を、指定された期間に登録を削除することができる。

3 履修する後期開講の授業科目は、毎学年度後期の指定された期日までに変更することができる。

4 毎学年度に履修登録できる単位数については別途規則等で定める。

(履修中止)

第3条 授業開始後、所定の期間に限り登録科目の履修中止手続きをすることができる。ただし履修中止科目は、次のとおりとする。

(1) 学科専攻語学、必履修科目又は研究指導以外の科目について、指定された期間に登録を削除することができる。

(2) 兼修語学などの通年科目は、前期の履修中止期間のみ登録を削除することができる。

2 履修中止した科目は、別で定めるGPA制度の対象科目に含まないものとする。

3 履修中止した科目は、次学期以降(通年科目は翌年度以降)に再度履修登録することができる。

(必修科目及び選択科目)

第4条 第2部英米学科では、学科専攻語学、研究指導を必修科目とし、兼修語学、学科基礎科目、コース科目及び卒業論文を選択科目とする。但し、全学共通科目のうちキャンパスライフ入門、データサイエンス入門については、必ず履修するものとするが、単位未修得の場合も卒業を妨げないもの(必履修科目)とする。

(単位の認定)

第5条 第2部英米学科の単位は、必修科目である学科専攻語学、研究指導及び第2条の規定により履修手続きを行った授業科目のうち所定の試験に合格したもの及び審査に合格した卒業論文に与える。

(成績評価)

第6条 授業科目の評点は100点をもって満点とし、60点以上を合格点として単位を与える。

2 合格した科目の評価は、90点~100点を評価Sとし、80点~89点を評価Aとし、70点~79点を評価Bとし、60点~69点を評価Cとする。

(成績通算制度)

第7条 学科専攻語学、兼修語学及び研究指導などの通年科目について、後期から休学又は神戸市外国語大学学生海外留学派遣規則(2023年4月規則第号。以下「海外留学派遣規則」という。)第2条に規定する留学をするときは、休学学期又は留学期間に連続する直前の前期と、休学学期又は留学期間との連続性に関わらず、復学学期以後又は留学期間の直近の後期の成績を合算して成績評価をし、単位を与えることができる。

2 復学学期以後又は留学期間後に前期から履修する通年科目の後期の成績は、第1項の成績の合算の対象とすることができない。

(単位計算の特例)

第8条 神戸市外国語大学学則(2007年4月学則第1号。以下「学則」という。)第32条第1項第2号に該当する授業科目の単位の計算は、次のとおりとする。

(1) 専攻語学及び兼修語学は、毎週2時間15週の授業をもって1単位とする。ただし、学科専攻語学のⅢ及びⅣ階程の科目は、毎週2時間15週の授業をもって2単位とする。

(2) スポーツ方法1及びスポーツ方法2は、毎週2時間15週の授業をもって1単位とする。

(3) 教育実習(事前及び事後指導を除く)は、原則的に連続した2週80時間(2単位)または3週120時間(4単位)で行うものとする。

2 臨時に増設する授業科目については、単位及び単位算定の方法をそのつど定め、取得した単位は卒業必要単位に算入することができる。

(コースの選択)

第9条 第2部英米学科では、英語学・英語研究コース、英語圏文化文学コース又は法経商コースのいずれかを選択するものとする。

2 前項のコースの選択は、学科専攻語学のⅢ階程に進級した年度の初めに届け出なければならない。

(履修科目)

第10条 第2部英米学科では、別表(Ⅱ-1)及び別表(Ⅱ-2-1)、別表(Ⅱ-2-2)に示す授業科目を履修しなければならない。

(学部で履修できる科目)

第11条 別表(Ⅱ-4-1)または別表(Ⅱ-4-2)または別表(Ⅱ-4-3)に示す学部の授業科目を36単位を超えない範囲で第2部の授業科目として履修することができる。ただし、同一科目を学部・第2部両方で重複して履修することはできない。

(学科専攻語学)

第12条 学科専攻語学の履修方法及び単位の付与については、次項以下で定める。

2 I、Ⅱ、Ⅲ及びⅣの階程を順次履修し、I及びⅡの階程ではそれぞれ10単位、Ⅲの階程では12単位、Ⅳの階程では8単位を履修するものとする。

3 Iの階程は半期科目に1単位、通年科目に2単位を与え、Ⅱの階程では通年単位に2単位を与え、Ⅲ及びⅣの階程は半期科目に2単位、通年科目4単位を与える。

4 I階程の科目のうち6単位を取得すればⅡ階程に進むことができる。

5 I階程の全科目の単位を取得した上で、Ⅱ階程の科目のうち6単位を取得すればⅢ階程に進むことができる。

6 Ⅱ階程の全科目の単位を取得した上で、Ⅲ階程の科目のうち8単位を取得すればⅣ階程に進むことができる。

7 I、Ⅱ、Ⅲ及びⅣの階程で単位を取得できなかった科目があるときは、その科目を次年度に再び履修して単位を取得しなければならない。Ⅱ階程に進級できなかった者は、単位を取得できなかったI階程の科目に加えてⅡ階程の科目を、また、Ⅳ階程に進級できなかった者は、単位を取得できなかったⅢ階程の科目に加えてⅣ階程の科目を、それぞれ履修することができる。ただし、各年度において取得できる単位の合計は、I及びⅡ階程においては10単位、Ⅲ及びⅣ階程においては12単位を超えることができない。

(兼修語学)

第13条 兼修語学の必修語学から英語以外の1科目を選択して履修する。

2 兼修語学の必修語学は、I、Ⅱ及びⅢの階程に分け順次履修する。

3 兼修語学の必修語学は、I階程の2科目を修了した後でなければⅡ階程に進むことができない。この単位についてはI階程では一括して4単位を与え、Ⅱ階程では科目ごとに2単位を与える。Ⅱ階程の1科目を取得すればⅢ階程に進むことができる。

4 兼修語学のうち1つの言語でⅡ階程の2科目を修得した場合、他の言語を履修することができる。

5 前項の定めにより2言語目以降の科目を履修する場合、大学が適当と認めるときは、Ⅱ階程又はⅢ階程から履修することができる。

(出席要件)

第14条 学科専攻語学、兼修語学及び、スポーツ方法1及びスポーツ方法2については、科目ごとにその全授業時数の2分の1以上出席しなければ単位を与えない。

(研究指導)

第15条 研究指導は学科専攻語学のⅢ階程に進級した年度から履修するものとする。

2 研究指導は、同一担当者について2年間履修するものとする。ただし、やむを得ない事情があるときは、担当者の承認を得て変更することができる。

3 研究指導は、同一年度に複数の担当者について履修することはできない。

4 研究指導は、通算して8単位まで卒業単位に算入する。

5 研究指導の単位を取得できなかったときは、次年度において、さらに

履修しなければならない。

(卒業論文)

第 16 条 研究指導を履修登録している者又は単位取得済みの者は、卒業論文を提出することができる。

2 削除

3 卒業論文を提出しない者は、選択したコースの専攻科目の中からこれに代えて 8 単位分の科目を取得しなければならない。

4 卒業論文は、所定の期日までに提出しなければならない。

5 卒業論文の審査は、原則として 2 人の審査員によって行う。そのうち 1 人は研究指導担当者がこれに当たるものとする。

(自由選択単位)

第 17 条 以下の場合に取得した単位は、自由選択単位として卒業必要単位の 16 単位まで算入することができる。

(1) 学生が属する学科の必修科目及び選択科目以外の科目を履修した場合

(2) 学生が属する学科の必修科目及び選択科目を既定の単位数を超えて履修した場合

(複数回単位認定科目)

第 18 条 別表(Ⅱ-5)に掲げる授業科目が異なる学期に開講されたときは、同一科目を履修しても、それぞれの科目を異なる授業科目として所定の単位を与え、卒業必要単位の算入することができる。また、同一の学期に開講された場合でも、担当者が異なるときは、それぞれの科目を異なる授業科目として所定の単位を与え、卒業必要単位の算入することができる。

(他大学等との単位互換科目)

第 19 条 学則第 36 条第 1 項及び第 2 項の規定に基づき取得した単位は、自由選択単位として卒業必要単位の算入することができる。

(編入学者及び転部者等の単位認定)

第 20 条 大学又は短期大学の卒業生又は中途退学者で新 1 年次に入学した学生、編入及び転部者が既に取得した科目の単位の認定に関しては別に定める。

(復学者の単位認定)

第 21 条 休学した者が当該年度に復学したときは、出席時数を考慮して単位を与えることができる。ただし、留学等のときは、別に定める海外留学派遣規則による。

(科目名称等の変更)

第 22 条 この規程の改正により授業科目の名称及び内容を変更したときは、その授業科目の履修及び単位の認定については、その都度定める。

附 則

(施行)

第 1 条 この規則は、2021 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

第 2 条 2020 年度以前に入学した者については、神戸市外国語大学外国語学部第 2 部履修規程(2007 年 4 月規程第 67 号)の 2020 年改正前の例による。

2 改正後の第 3 条の規定は、2021 年度以前に入学した者については、神戸市外国語大学外国語学部第 2 部履修規程(2007 年 4 月規程第 67 号)の例による。

(旧規程の廃止)

第 3 条 神戸市外国語大学外国語学部第 2 部履修規程は、廃止する。

附 則

(施行)

第 1 条 この規則は、2024 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

第 2 条 第 6 条第 2 項の規定は、2023 年度以前に入学した者については、神戸市外国語大学外国語学部第 2 部履修規則の 2023 年 4 月制定時の例による。

附 則

(施行)

第 1 条 この規則は、2025 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

(施行)

第 1 条 この規則は、2025 年 9 月 1 日から施行する。

(施行)

第 1 条 この規則は、2026 年 4 月 1 日から施行する。

別表（Ⅱ－１） 第２部英米学科の必要取得単位数

| 科目種別 | 必要取得単位数 | 履修条件 |
|-------------|------------------------------|---|
| 学 科 専 攻 語 学 | 40単位 | 各階程において取得する単位数は次のとおり Ⅰ階程 10単位 Ⅱ階程 10単位 Ⅲ階程 12単位 Ⅳ階程 8単位 |
| 兼 修 語 学 | 8単位 | 各階程において取得する単位数は次のとおり Ⅰ階程 4単位 Ⅱ階程 4単位 |
| 学 科 基 礎 科 目 | 12単位 | 各学科の設置する学科基礎科目から12単位を取得する。 |
| 全 学 共 通 科 目 | 12単位 | 人文領域、社会科学領域、自然・人間科学領域からそれぞれ少なくとも1科目を履修する。 |
| コ ー ス 科 目 | 20単位 | 各コースが設置するコース科目から20単位を取得する。 |
| 研究指導、卒業論文 | 16単位 (内、卒業論文の 単位数は8単位) | 卒業論文は自由選択。 卒業論文により8単位が取得できない場合は、所属コースのコース科目からこれに代えて8単位取得しなければならない。 |
| 自 由 選 択 単 位 | 16単位 | 他コース・他学科の開講科目および自学科・自コース開設科目で必要取得単位数以上に取得したものについては、原則として「自由選択単位」として卒業必要単位に算入する。 |

別表（Ⅱ－２－２） 第２部英米学科 履修科目表（2025年度以降入学生）

単位数の表示の無い科目は、半期２単位

| 科目種別 | 科目名称 | 注 |
|---------------------|--|-----------------|
| 学科専攻語学 | I 階程： 専攻英語Ⅰ講読【1】（短編小説）[通年2単位]， 専攻英語Ⅰ講読【2】（メディア英語基礎）[通年2単位]， 専攻英語Ⅰ作文 [通年2単位]， 専攻英語Ⅰ会話 [通年2単位]， 専攻英語Ⅰ文法 [半期1単位]， 専攻英語Ⅰ発音 [半期1単位] II 階程： 専攻英語Ⅱ講読【1】（小説）[通年2単位]， 専攻英語Ⅱ講読【2】（英語学入門）[通年2単位]， 専攻英語Ⅱ講読【3】（詩）[通年2単位]， 専攻英語Ⅱ作文 [通年2単位]， 専攻英語Ⅱ会話 [通年2単位] III 階程： 専攻英語Ⅲ講読【1】（文学）[通年4単位]， 専攻英語Ⅲ講読【2】（英語学基礎）[通年4単位]， 専攻英語Ⅲ講読【3】 [通年4単位]， 専攻英語Ⅲ会話 [通年4単位] IV 階程： 専攻英語Ⅳ講読【1】（文学）[通年4単位]， 専攻英語Ⅳ講読【2】（英語学発展）[通年4単位]， 専攻英語Ⅳ講読【3】 [通年4単位]， 専攻英語Ⅳ作文 [通年4単位] | |
| 兼修語学 | 必修語学 兼修ロシア語Ⅰ【1】 [通年2単位]， 兼修ロシア語Ⅰ【2】 [通年2単位]， 兼修ロシア語Ⅱ【1】 [通年2単位]， 兼修ロシア語Ⅱ【2】 [通年2単位] 兼修中国語Ⅰ【1】 [通年2単位]， 兼修中国語Ⅰ【2】 [通年2単位]， 兼修中国語Ⅱ【1】 [通年2単位]， 兼修中国語Ⅱ【2】 [通年2単位] 兼修スペイン語Ⅰ【1】 [通年2単位]， 兼修スペイン語Ⅰ【2】 [通年2単位]， 兼修スペイン語Ⅱ【1】 [通年2単位]， 兼修スペイン語Ⅱ【2】 [通年2単位] 兼修フランス語Ⅰ【1】 [通年2単位]， 兼修フランス語Ⅰ【2】 [通年2単位]， 兼修フランス語Ⅱ【1】 [通年2単位]， 兼修フランス語Ⅱ【2】 [通年2単位] 兼修ドイツ語Ⅰ【1】 [通年2単位]， 兼修ドイツ語Ⅰ【2】 [通年2単位]， 兼修ドイツ語Ⅱ【1】 [通年2単位]， 兼修ドイツ語Ⅱ【2】 [通年2単位] | ・「必修語学」から1種類を選択 |
| | 自由選択語学 兼修ロシア語Ⅲ [半期1単位]， 兼修中国語Ⅲ [半期1単位]， 兼修スペイン語Ⅲ [半期1単位] | |
| 学科基礎科目 (第2部英米学科) | 英国史， 英国の文化， 米国史， 米国の文化， 英国の社会1， 英国の社会2， 米国の社会（2025年度入学生は「米国の社会1」）， 米国の社会2， 英語圏の文化と社会1， 英語圏の文化と社会2， 英文学史1， 英文学史2， 米文学史（2025年度入学生は「米文学史1」）， 米文学史2， 英語学概論1， 英語学概論2， 英語研究入門1， 英語研究入門2 | |
| 全学共通科目 | 人文領域 宗教学入門， 宗教学基礎論， 哲学概論， 日本思想史， 西洋哲学史， ジェンダー論入門， 社会学入門， 社会学， ヨーロッパ地域論入門， ヨーロッパ地域論， 文化人類学1， 文化人類学2， アジア言語文化の諸問題， 西洋史， 日本史入門， 日本史， 歴史学入門， 言語学入門， 日本語学概論1， 日本語学概論2， 日本語の形と意味， 日本語の文法， 日本語の多様性， 日本語の音声， 日本文学入門， 日本文学論， 日本文化入門， 日本の文化（2025年度入学生は日本語学課程科目）， 近現代日本社会入門， 近現代日本社会（2025年度入学生は日本語学課程科目）， 日本文化入門「第3」1， 日本文化入門「第3」2， 言語学基礎論1， 言語学基礎論2， 言語類型論， 歴史言語学， 音声学1， 音声学2， 古典語（ギリシャ語）1， 古典語（ギリシャ語）2， 古典語（ラテン語）1， 古典語（ラテン語）2， 日本語教育の基礎， 外国人学習者の観点から見た日本語， 海外派遣留学科目1， 海外派遣留学科目2， 海外派遣留学科目3， 海外派遣留学科目4， 海外協定校短期研修1， 海外協定校短期研修2， 海外協定校提供科目A， 海外協定校提供科目B， Japanese contemporary literature and culture， History of Japanese cinema， Negotiating stereotypes about Japanese culture | |
| | 社会科学領域 憲法1， 憲法2， 現代の法， 現代の政治， 現代の経済， 現代日本経済論1， 現代日本経済論2， ミクロ経済学1， ミクロ経済学2， マクロ経済学1， マクロ経済学2， 経済経営入門， 簿記原理， 日本と世界1， 日本と世界2， インターンシップ（就業体験）1 [半期1単位]， インターンシップ（就業体験）2 [半期1単位]， 神戸・地域メディアワークショップ， Issues in Japanese culture and society | |
| | 自然・人間科学領域 自然の認識1， 自然の認識2， 数理の世界1， 数理の世界2， 統計学1， 統計学2， 情報科学概論1， 情報科学概論2， 情報科学概論3， 人権論， 人権教育， 人間形成論入門， 人間形成論， 社会心理学入門1， 社会心理学入門2， 臨床心理学入門1， 臨床心理学入門2， 児童英語教育， スポーツ文化論1， スポーツ文化論2， スポーツ方法1 [半期1単位]， スポーツ方法2 [半期1単位]， 教育原理， 教育哲学， 教育史， 神戸・教育インターンシップ1 [半期1単位]， 神戸・教育インターンシップ2 [半期1単位]， 神戸・教育インターンシップ3 [半期1単位]， ジャーナリズム論1， ジャーナリズム論2， 図書館情報資源概論， 生涯学習概論， 図書館概論， 図書・図書館史， キャンパスライフ入門， データサイエンス入門， プログラミング実習Ⅰ， プログラミング実習Ⅱ， キャンパス・リーダーシップ [半期1単位] | |

| | | | |
|--------------|--------------------------------------|---|--|
| | 全コースで コース科目 として認定 | 模擬国連 | |
| コース科目 | 英語学・ 英語研究 コース (第2部 英米学科) | 英語学特殊講義1, 英語学特殊講義2, 英語学特殊講義3, 英語学特殊講義4, 音声学・音韻論講義, 統語論講義, 意味論講義, 語用論・談話分析講義, 応用言語学1, 応用言語学2, 構文研究, 語法文法研究 英語学研究演習1, 英語学研究演習2, 英語学研究演習3, 英語学研究演習4, 英語学研究演習5, 英語学研究演習6 英語学研究演習7, 英語学研究演習8, 英語学研究演習9, 英語学研究演習10, 英語学研究演習11, 英語学研究演習12 パブリック・スピーチ, リスニング分析1, リスニング分析2, 英語教育学演習, 社会言語学, メディア英語演習1, メディア英語演習2, 通訳演習1, 通訳演習2, 英語史1, 英語史2 | |
| | 英語圏 文化文学 コース (第2部 英米学科) | イギリス文学特殊講義1, イギリス文学特殊講義2, イギリス文学特殊講義3, イギリス文学特殊講義4 アメリカ文学特殊講義1, アメリカ文学特殊講義2, アメリカ文学特殊講義3, アメリカ文学特殊講義4 英語文学・文化特殊講義1, 英語文学・文化特殊講義2, 英語文学・文化特殊講義3, 英語文学・文化特殊講義4, 英語文学・文化特殊講義5, 英語文学・文化特殊講義6, 英語文学・文化特殊講義7, 英語文学・文化特殊講義8, 英語圏文学特殊講義1, 英語圏文学特殊講義2, 英米文学・文化研究入門, 英米文学と視覚文化, 英米文学と社会, 比較文学, 現代の思想と文化, 英語文学・文化研究演習1, 英語文学・文化研究演習2, 英語文学・文化研究演習3 英語文学・文化研究演習4, 英語文学・文化研究演習5, 英語文学・文化研究演習6, 英語文学・文化研究演習7, 英語文学・文化研究演習8, 英語文学・文化研究演習9, 英語文学・文化研究演習10, Advanced Writing 1 Advanced Writing 2, 文学翻訳演習, 西洋史研究1, 西洋史研究2, 比較地域研究1, 比較地域研究2 | |
| | 法経商 コース | 民法1, 民法2, 民法3, 民法4, 民法5, 商法1, 商法2, 商法3, 商法4, 行政法1, 行政法2, 労働法, 経済法1, 経済法2, 英米法1, 英米法2, 国際取引法1, 国際取引法2, 政治学1, 政治学2, 比較政治1, 比較政治2, 法政特論1, 法政特論2, ミクロ経済政策1, ミクロ経済政策2, マクロ経済政策1, マクロ経済政策2, 国際貿易論, 貿易政策論, 産業組織の経済学1, 産業組織の経済学2, 計量経済学1, 計量経済学2, 経済学特殊講義1, 経済学特殊講義2, 経済学特殊講義3, 経済学特殊講義4, アメリカ経済論, アメリカ政治1, アメリカ政治2, 経営学1, 経営学2, 経営学特殊講義1, 経営学特殊講義2, 経営学特殊講義3, 経営学特殊講義4, ゲーム理論, 会計学1, 会計学2, 国際商務論1, 国際商務論2, 商業英語1, 商業英語2, 国際金融論1, 国際金融論2, 国際法「基本」1, 国際法「基本」2, プロジェクト演習(経済経営), Japan and the international politics of Asia, Japan's current and future challenges | |
| 研究指導 卒業論文 | 研究指導(通年4単位) 卒業論文(半期8単位) | | |

別表(Ⅱ-3-2)各課程のために設置される科目(第2部)

[2026年度以降入学生]

| 課程名 | 科目名 |
|-----------------|---|
| 教育職員養成課程 | 教職概論, 教育課程論, 教育心理学, 道德教育の理論と実践, 教育行政学, 教育方法論, 特別活動の指導法, 生徒・進路指導論, 教育相談, 教職実践演習(中・高), 教育実習1, 教育実習2, 英語教育法「第1」1・2, 英語教育法「第2」1・2, 教育原理, 教育哲学, 教育史, 神戸・教育インターンシップ1・2・3 [各半期1単位], 総合的な学習の時間の指導法, 特別支援教育の指導法, 教育とICT活用 |
| 司書課程 | 生涯学習概論, 図書館概論, 図書館制度・経営論, 図書館サービス概論, 情報サービス論, 児童サービス論, 情報サービス演習1 [半期1単位], 情報サービス演習2 [半期1単位], 図書館情報資源概論, 情報資源組織論, 情報資源組織演習1 [半期1単位], 情報資源組織演習2 [半期1単位], 図書館情報資源特論, 図書・図書館史, 図書館情報技術論 |
| 学校図書館司書 教諭課程 | 学校経営と学校図書館, 学校図書館メディアの構成, 学習指導と学校図書館, 読書と豊かな人間性, 情報メディアの活用 |

| 学部での科目種別 | 科目名称 | 第2部での科目種別 |
|---------------------------------------|--|---------------------|
| 学部英米学科学科基礎科目 (学部英米学科以外は 自由選択単位) | 英国史, 英国の文化, 米国史, 米国の文化, 英国の社会1・2, 米国の社会1・2, 英語圏の文化と社会1・2, 英文学史1・2, 米文学史1・2, 英語学概論1・2, 英語学入門1・2 | 学科基礎科目 |
| 兼修語学 (自由選択語学) | 兼修ロシア語Ⅲ(半期1単位), 兼修中国語Ⅲ(半期1単位), 兼修イスパニア語Ⅲ(半期1単位), 兼修フランス語Ⅲ(半期1単位), 兼修ドイツ語Ⅲ(半期1単位), イタリア語Ⅰ(通年2単位)・Ⅱ(通年2単位), ポルトガル語Ⅰ(通年2単位)・Ⅱ(通年2単位), インドネシア語(通年2単位), 朝鮮語Ⅰ(通年2単位)・Ⅱ(通年2単位), エスペラント語(通年2単位), 東欧諸語1・2・3・4(半期1単位), 東洋諸語(通年2単位) | 兼修語学 (自由選択語学) |
| 全学共通科目 (人文) | 宗教学入門, 哲学概論, 日本思想史, ジェンダー論入門, 海外協定校提供科目A・B 社会学入門, ヨーロッパ地域論入門, 西洋史, 日本史入門, 歴史学入門, 言語学入門, 日本語学概論1・2, 日本文学論入門, 日本文化入門, 近現代日本社会入門, 言語学基礎論1・2, 音声学1・2, 古典語(ラテン語)1・2 Japanese contemporary literature and culture, History of Japanese cinema, Negotiating stereotypes about Japanese culture | 全学共通科目 (人文) |
| | 仏教学, 倫理学入門, 東洋史入門, 中東欧研究入門1・2・3・4(半期1単位) | 自由選択単位 |
| 全学共通科目 (社会科学) | 憲法1・2, 現代の法, 現代の政治, 現代日本経済論1・2, 経済経営入門, 神戸・地域メディアワークショップ, Issues in Japanese culture and society | 全学共通科目 (社会科学) |
| | ビジネスロシア語1・2, ビジネス中国語1・2, 商業イスパニア語1・2, 現代の企業経営, 国際ビジネス・コミュニケーション | 自由選択単位 |
| 全学共通科目 (自然・人間科学) | 自然の認識1・2, ジャーナリズム論1, 数理の世界1・2, 情報科学概論1・2・3, 人権論, 人権教育, 人間形成論入門, 社会心理学入門1・2, 臨床心理学入門1・2, 児童英語教育, スポーツ方法1・2 [各半期1単位], 教育原理, 教育哲学, 教育史, 神戸・教育インターンシップ1・2・3 [各半期1単位], キャンパスライフ入門, データサイエンス入門, プログラミング実習Ⅰ・Ⅱ, キャンパス・リーダーシップ [半期1単位] | 全学共通科目 (自然・人間科学) |
| | キャリアデザイン, 東の科学, 西の科学, 環境と人間, 生涯教育論1・2 | 自由選択単位 |
| 学科基礎科目 (国際関係) | 国際機構論 | 自由選択単位 |
| コース科目 (語学文学) | イギリス文学特殊講義1~4, アメリカ文学特殊講義1~4, 英語学・文化特殊講義1~8, 英語圏文学特殊講義1・2, 英米文学・文化研究入門, 英米文学と視覚文化, 英米文学と社会, 比較文学, 現代の思想と文化 英語学・文化研究演習1~10, Advanced Writing1・2, 文学翻訳演習 | コース科目 (英語圏文化文学) |
| | 英語史1・2, 英語学特殊講義1~4, 音声学・音韻論講義, 統語論講義, 意味論講義, 語用論・談話分析講義, 応用言語学1・2, 構文研究, 語法文法研究 英語学研究演習1~12, 英語教育学演習, 社会言語学※, メディア英語演習1・2 パブリック・スピーチ | コース科目 (英語学・英語研究) |
| | 小学校英語教育論※, 放送通訳, 英語学特殊講義(現代社会)3, 通訳(基礎), 会議通訳(逐次), 会議通訳(同時), 翻訳1・2, 映画研究, メディア論 | 自由選択単位 |
| コース科目 (国際法政) | 民法1・2・3・4・5, 行政法1・2, 商法1・2※, 労働法※, 法政特論1・2, 国際取引法1・2, 政治学1・2, 比較政治1・2, 国際法「基本」1・2, アメリカ政治1・2, Japan and the international politics of Asia※ | コース科目(法経商) |
| | 国際法「発展」1・2, 国際紛争処理法, 国際私法1・2, 東南アジア地域論特殊講義:政治※, 東南アジア地域論:政治※, ロシア政治経済論1・2 | 自由選択単位 |
| コース科目 (経済経営) | ミクロ経済学1・2, マクロ経済学1・2, 簿記原理 | 全学共通科目(社会科学) |
| | 統計学1・2※ | 全学共通科目(自然・人間科学) |
| | ミクロ経済政策1・2, マクロ経済政策1・2, 計量経済学1・2, 産業組織の経済学1・2, 経済学特殊講義1・2・3・4, 経営学1・2, 経営学特殊講義1・2・3・4, 会計学1・2, 国際商務論1・2, 国際金融論1・2, 商業英語1・2, 国際貿易論, 貿易政策論, ゲーム理論※, プロジェクト演習(経済経営) | コース科目(法経商) |
| | 国際経営論1・2, マーケティング論1, 東南アジア地域論:経済※, 東南アジア地域論特殊講義:経済※, 開発経済論1・2, 神戸研究, 経済学演習1・2 | 自由選択単位 |
| コース科目 (多文化共生) | ヨーロッパ地域論, 外国人学習者の観点から見た日本語, 日本語の形と意味, 日本語の多様性, アジア言語文化の諸問題, 近現代日本社会 | 全学共通科目 (人文) |
| | 比較地域研究1・2※ | コース科目(英語圏文化文学) |
| | Japan's current and future challenges※ | コース科目(法経商) |
| | 近現代日本社会, アジアの文化と社会の共生1・2, 出版と編集※, コミュニケーション学概論, コミュニケーション理論, 宗教と社会の共生, 移民社会論※, フランスの社会, 朝鮮文化論1・2, コミュニケーション論, 異文化間コミュニケーション論, コミュニケーション研究 | 自由選択単位 |
| コース科目 (リベラルアーツ) | 宗教学基礎論, 西洋哲学史, 社会学※, 言語類型論, 歴史言語学, 日本史, 日本の文化, 古典語(ギリシャ語)1・2, 日本語教育の基礎, 日本語の文法, 日本語の音声, 日本文学論 | 全学共通科目 (人文) |
| | 人間形成論, スポーツ文化論1・2 | 全学共通科目(自然・人間科学) |
| | 西洋史研究1・2 | コース科目(英語圏文化文学) |
| | 日本の文化, アジア言語文化1・2, 倫理学, フランス文化論1・2, ヨーロッパ文化史1・2, ヨーロッパ文化論1・2, 東洋史, 日本文化の諸相1・2 | 自由選択単位 |
| 課程科目 教員養成課程 | 教職概論, 教育課程論, 教育心理学, 道德教育の理論と実践, 教育行政学, 教育方法論, 特別活動の指導法, 生徒・進路指導論, 教育相談, 教職実践演習(中・高), 教育実習1・2, 英語教育法「第1」1・2, 英語教育法「第2」1・2, 総合的な学習の時間の指導法, 特別支援教育の指導法, 教育とICT活用 | 自由選択単位 |

注：学部・第2部に同名の科目があるが、第2部学生の受講が認められない科目。
 学科専攻語学（専攻英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ）
 兼修語学内の必修語学
 研究指導

※印の科目は複数のコースで開講されています。

| 科目名 | 本 籍 | 共 通 |
|--|----------|---------|
| 社会言語学 | 語学文学（英米） | リベラルアーツ |
| 小学校英語教育論 | 語学文学（英米） | リベラルアーツ |
| 商法1・2 | 国際法政 | 経済経営 |
| 労働法 | 国際法政 | 経済経営 |
| ロシア政治経済論1・2 | 国際法政 | 経済経営 |
| 東南アジア地域論：政治 | 国際法政 | 多文化共生 |
| 東南アジア地域論特殊講義：政治 | 国際法政 | 多文化共生 |
| 東南アジア地域論：経済 | 経済経営 | 多文化共生 |
| 東南アジア地域論特殊講義：経済 | 経済経営 | 多文化共生 |
| 移民社会論 | 多文化共生 | 国際法政 |
| 比較地域研究1・2 | 多文化共生 | 国際法政 |
| 社会学 | リベラルアーツ | 国際法政 |
| ゲーム理論 | 経済経営 | 国際法政 |
| 出版と編集 | 多文化共生 | リベラルアーツ |
| Japan and the international politics of Asia | 国際法政 | 多文化共生 |
| Japan's current and future challenges | 多文化共生 | 経済経営 |

別表（Ⅱ－５）第２部 複数回単位認定科目

| |
|--------------------------------------|
| <全コース> |
| 模擬国連（但し、コース科目への認定は１回限り。２回目以降は自由選択単位） |

別表（Ⅱ－６） テーマ研究プログラムに関する科目

1. グローバルコミュニケーションプログラム（Global Communication Program : GCP)

| 種別 | | 授業科目 | 単位数 | 備考（科目区分） |
|-----------------|-----------------|--------------------------|-----|-----------------|
| 必要単位数 16 単 位 | コア科目 (8単位以上) | 放送通訳 | 2 | 自由選択 |
| | | 模擬国連 | 2 | 自由選択 |
| | | パブリック・スピーチ | 2 | コース科目（英語学・英語研究） |
| | | メディア英語演習 1 ※ | 2 | コース科目（英語学・英語研究） |
| | | メディア英語演習 2 ※ | 2 | コース科目（英語学・英語研究） |
| | | 神戸研究 | 2 | 自由選択 |
| | | 英語学特殊講義（現代社会） 3 | 2 | 自由選択 |
| | 選択科目 | コミュニケーション論 | 2 | 自由選択 |
| | | 異文化間コミュニケーション論 | 2 | 自由選択 |
| | | 通訳（基礎） | 2 | 自由選択 |
| | | 会議通訳（逐次） | 2 | 自由選択 |
| | | 会議通訳（同時） | 2 | 自由選択 |
| | | 翻訳 2（2025年度以前入学生は「翻訳」） | 2 | 自由選択 |
| | | コミュニケーション研究 | 2 | 自由選択 |
| | | 国際ビジネス・コミュニケーション | 2 | 自由選択 |
| | | コミュニケーション学概論 | 2 | 自由選択 |
| | | コミュニケーション理論 | 2 | 自由選択 |
| | | 翻訳 1（2025年度以前入学生は「翻訳理論」） | 2 | 自由選択 |
| | | 映画研究 | 2 | 自由選択 |
| | | メディア論 | 2 | 自由選択 |

※メディア英語演習 1・2の両方を取得した場合、コア科目にはどちらか 1 科目のみ計上。

2. 対照言語学プログラム

| 種 別 | 授業科目 | 単 位 数 | 必要単位数内訳 | 備考 (科目区分) | |
|------------|--------------------|---------------|-----------|-------------|------------------|
| 必 単 位 数 16 | コ ア 科 目 (8単位以上) | 言語学入門 | 2 | 左記より 4単位 | 全学共通 (人文) |
| | | 言語学基礎論1 | 2 | | 全学共通 (人文) |
| | | 言語学基礎論2 | 2 | | 全学共通 (人文) |
| | | 音声学1 | 2 | | 全学共通 (人文) |
| | | 音声学2 | 2 | | 全学共通 (人文) |
| | | 英語学概論1 | 2 | 左記より 2単位 | 学科基礎 (2部英米) |
| | | 英語学概論2 | 2 | | 学科基礎 (2部英米) |
| | | 英語研究入門1 | 2 | | 学科基礎 (2部英米) |
| | | 英語研究入門2 | 2 | | 学科基礎 (2部英米) |
| | | 日本語学概論1 | 2 | 左記より 2単位 | 全学共通 (人文) |
| | | 日本語学概論2 | 2 | | 全学共通 (人文) |
| | 選 択 科 目 (8単位以上) | 音声学・音韻論講義 | 2 | 左記より 4単位 | コース科目 (英語学・英語研究) |
| | | 統語論講義 | 2 | | コース科目 (英語学・英語研究) |
| | | 意味論講義 | 2 | | コース科目 (英語学・英語研究) |
| | | 語用論・談話分析講義 | 2 | | コース科目 (英語学・英語研究) |
| | | 応用言語学1 | 2 | | コース科目 (英語学・英語研究) |
| | | 応用言語学2 | 2 | | コース科目 (英語学・英語研究) |
| | | 構文研究 | 2 | | コース科目 (英語学・英語研究) |
| | | 語法文法研究 | 2 | | コース科目 (英語学・英語研究) |
| | | 社会言語学 | 2 | | コース科目 (英語学・英語研究) |
| | | イタリア語Ⅰ | 2 | | 兼修語学 (自由選択語学) |
| | | イタリア語Ⅱ | 2 | | 兼修語学 (自由選択語学) |
| | | ポルトガル語Ⅰ | 2 | | 兼修語学 (自由選択語学) |
| | | ポルトガル語Ⅱ | 2 | | 兼修語学 (自由選択語学) |
| | | インドネシア語 | 2 | | 兼修語学 (自由選択語学) |
| | | 朝鮮語Ⅰ | 2 | | 兼修語学 (自由選択語学) |
| | | 朝鮮語Ⅱ | 2 | | 兼修語学 (自由選択語学) |
| | | エスペラント語 | 2 | | 兼修語学 (自由選択語学) |
| | | 東洋諸語 | 2 | | 兼修語学 (自由選択語学) |
| | | 兼修ロシア語Ⅲ | 1 | | 兼修語学 (自由選択語学) |
| | | 兼修中国語Ⅲ | 1 | | 兼修語学 (自由選択語学) |
| | | 兼修イスパニア語Ⅲ | 1 | | 兼修語学 (自由選択語学) |
| | | 兼修フランス語Ⅲ | 1 | | 兼修語学 (自由選択語学) |
| | | 兼修ドイツ語Ⅲ | 1 | | 兼修語学 (自由選択語学) |
| 東欧諸語1 | 1 | 兼修語学 (自由選択語学) | | | |
| 東欧諸語2 | 1 | 兼修語学 (自由選択語学) | | | |
| 東欧諸語3 | 1 | 兼修語学 (自由選択語学) | | | |
| 東欧諸語4 | 1 | 兼修語学 (自由選択語学) | | | |
| 日本語の形と意味 | 2 | 左記より 4単位 | 全学共通 (人文) | | |
| 日本語の多様性 | 2 | | 全学共通 (人文) | | |
| 言語類型論 | 2 | | 全学共通 (人文) | | |
| 歴史言語学 | 2 | | 全学共通 (人文) | | |
| 日本語の文法 | 2 | | 全学共通 (人文) | | |
| 日本語の音声 | 2 | | 全学共通 (人文) | | |

3. 行政外交プログラム

| 種 別 | 授業科目 | 単 位 数 | 備考 (科目区分) |
|----------------------|--------------------|----------|---------------|
| 必 要 単 位 16 単 位 | コ ア 科 目 (8単位以上) | 憲法1 | 2 全学共通 (社会科学) |
| | | 憲法2 | 2 全学共通 (社会科学) |
| | | 民法1 | 2 コース科目 法経商 |
| | | 民法2 | 2 コース科目 法経商 |
| | | 国際法「基本」1 | 2 コース科目 法経商 |
| | | 国際法「基本」2 | 2 コース科目 法経商 |
| | | ミクロ経済学1 | 2 全学共通 (社会科学) |
| | | ミクロ経済学2 | 2 全学共通 (社会科学) |
| | | マクロ経済学1 | 2 全学共通 (社会科学) |
| | | マクロ経済学2 | 2 全学共通 (社会科学) |
| | 選 択 科 目 | 行政法1 | 2 コース科目 法経商 |
| | | 行政法2 | 2 コース科目 法経商 |
| | | 民法3 | 2 コース科目 法経商 |
| | | 民法4 | 2 コース科目 法経商 |
| | | 民法5 | 2 コース科目 法経商 |
| | | 商法1 | 2 コース科目 法経商 |
| | | 商法2 | 2 コース科目 法経商 |
| | | 政治学1 | 2 コース科目 法経商 |
| | | 政治学2 | 2 コース科目 法経商 |
| | | 国際法「発展」1 | 2 自由選択 |
| | | 国際法「発展」2 | 2 自由選択 |
| | | 国際紛争処理法 | 2 自由選択 |
| | | 国際機構論 | 2 自由選択 |
| | | 経済学演習1 | 2 自由選択 |
| | | 経済学演習2 | 2 自由選択 |
| | | 経済学特殊講義1 | 2 コース科目 法経商 |
| | | 経済学特殊講義2 | 2 コース科目 法経商 |
| | | 経済学特殊講義3 | 2 コース科目 法経商 |
| | | 経済学特殊講義4 | 2 コース科目 法経商 |
| | | ミクロ経済政策1 | 2 コース科目 法経商 |
| | | ミクロ経済政策2 | 2 コース科目 法経商 |
| | | マクロ経済政策1 | 2 コース科目 法経商 |
| | | マクロ経済政策2 | 2 コース科目 法経商 |
| | | 現代日本経済論1 | 2 全学共通 (社会科学) |
| 現代日本経済論2 | 2 全学共通 (社会科学) | | |
| 統計学1 | 2 全学共通 (自然・人間科学) | | |
| 統計学2 | 2 全学共通 (自然・人間科学) | | |

4. 日本語学プログラム

| 種 別 | | 授業科目 | 単 位 数 | 備 考 |
|---------------------------------------|-----------------------------|----------------------|-------|-------------------------------------|
| 必 単 16 単 位 要 数 位 | コ ア 科 目 (8単位以上) | 日本語学概論1 | 2 | 全学共通科目(人文) |
| | | 日本語学概論2 | 2 | 全学共通科目(人文) |
| | | 日本語の形と意味 | 2 | 全学共通科目(人文) |
| | | 日本語の文法 | 2 | 全学共通科目(人文) |
| | | 日本語の多様性 | 2 | 全学共通科目(人文) |
| | | 日本語の音声 | 2 | 全学共通科目(人文) |
| | | 日本語教育の基礎 | 2 | 全学共通科目(人文) |
| | | 外国人学習者の観点から 見た日本語 | 2 | 全学共通科目(人文) |
| | 選 択 科 目 (8単位以上) | 日本文化入門 | 2 | 全学共通科目(人文) |
| | | 日本の文化 | 2 | 日本語学課程科目(2025年度以前入学生) 全学共通科目(人文) |
| | | 近現代日本社会入門 | 2 | 全学共通科目(人文) |
| | | 近現代日本社会 | 2 | 日本語学課程科目(2025年度以前入学生) 全学共通科目(人文) |
| | | 日本文学論入門 | 2 | 全学共通科目(人文) |
| | | 日本文学論 | 2 | 全学共通科目(人文) |
| | | 言語学入門 | 2 | 全学共通科目(人文) |
| | | 言語学基礎論1 | 2 | 全学共通科目(人文) |
| | | 言語学基礎論2 | 2 | 全学共通科目(人文) |
| | | 言語類型論 | 2 | 全学共通科目(人文) |
| | | 歴史言語学 | 2 | 全学共通科目(人文) |
| 音声学1 | 2 | 全学共通科目(人文) | | |
| 音声学2 | 2 | 全学共通科目(人文) | | |

別表(Ⅱ-7)(第1条関係) 数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する科目
1. リテラシーレベル

| 種別 | 授業科目 | 単位数 | 備考(科目区分) |
|-------------|------------|-----|---------------|
| 必 履 修 | キャンパスライフ入門 | 2 | 全学共通(自然・人間科学) |
| 必 履 修 | データサイエンス入門 | 2 | 全学共通(自然・人間科学) |

神戸市外国語大学教育職員養成課程の履修に関する規則

(趣旨)

第 1 条 神戸市外国語大学学則（2007年4月学則第1号）第35条第2項及び神戸市外国語大学大学院学則（2007年4月学則第2号）第23条第2項に基づき、教育職員養成課程（以下「教員養成課程」という。）を履修しようとする者（以下「履修者」という。）の教育職員免許状（以下「免許状」という。）の種類及び免許教科、最低修得単位数並びに履修方法については、別に定めがあるもののほか、この規則の定めるところによる。

(取得できる免許状の種類等)

第 2 条 外国語学部（以下「学部」という。）及び外国語学部第2部（以下「第2部」という。）において取得できる免許状の種類及び免許教科は別表1に定めるところによる。

2 外国語学研究所（以下「研究所」という。）において取得できる免許状の種類及び免許教科は別表2に定めるところによる。

(必要修得単位数及び履修方法)

第 3 条 前条第1項に掲げる種類の免許状を取得しようとする者は、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）第5条別表第一に定める基礎資格（学士の学位）を有し、教科及び教職に関する科目を59単位以上、並びに教職課程として認定を受けた単位以外に一般教養として教育職員免許法施行規則（昭和24年文部省令第38号）第66条の6に定める科目を8単位以上修得しなければならない。

2 学部及び第2部に属する履修者の免許状の取得に必要な修得単位数及び履修方法は、教科及び教科の指導法に関する科目については別表3、教育の基礎的理解に関する科目等については別表4、大学が独自に設定する科目については別表5、免許法施行規則第66条の6に定める科目については別表6に定めるところによる。

3 前条第2項に掲げる種類の免許状を取得しようとする者は、大学院において修士の学位を取得し、所定の単位数を修得しなければならない。

4 研究所に属する履修者の免許状の取得に必要な修得単位数及び履修方法は、別表7に定めるところによる。

(教育実習)

第 4 条 教育実習は、学長が指定する学校において受けなければならない。

2 教育実習を履修しようとする者は、別途定める科目を教育実習の前年度までに履修していなければならない。

(教員養成課程の登録及び履修カルテ)

第 5 条 教員養成課程を履修しようとする者は、教員養成課程の資格登録を行ったうえで、履修登録を行わなければならない。

2 教員養成課程の資格登録を行った学生は、「履修カルテ」を作成しなければならない。

(介護等体験)

第 6 条 中学校教諭1種免許状を取得しようとする者は、小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律（平成9年法律第90号）の定めるところにより、介護等体験を行わなければならない。

附 則

1 この規則は、2023年4月1日より施行する。

2 神戸市外国語大学教育職員養成課程の履修に関する規程（2007年4月規程第68号）は、廃止する。

附 則

1 この規則は、2024年4月1日より施行する。

附 則

1 この規則は、2025年4月1日より施行する。

2 改正後の規則は、2025年度以降の入学生に適用し、2024年度以前の入学生については、なお従前の例による。

3 別表3(1)及び(6)については、2024年度入学生より適用するものとする。

附 則

1 この規則は、2026年4月1日より施行する。

2 改正後の規則は、2026年度以降の入学生に適用し、2025年度以前の入学生については、なお従前の例による。

別表1

| 学 部 | 学 科 | 認定を受けた免許状の種類 | |
|----------|---------|----------------|-----------------|
| | | 中学校教諭 1種免許状 | 高等学校教諭 1種免許状 |
| 外国語学部 | 英米学科 | 英語 | 英語 |
| | ロシア学科 | ロシア語 | ロシア語 |
| | 中国学科 | 中国語 | 中国語 |
| | イスパニア学科 | イスパニア語 | イスパニア語 |
| | 国際関係学科 | 英語 | 英語 |
| 外国語学部第2部 | 英米学科 | 英語 | 英語 |

備考 履修者の属する学科で認定を受けている免許教科以外の免許状を取得しようとする者は、別に定める要項にしたがって他学科の授業科目を履修することにより、免許状を取得することができる。

別表2

| 研 究 科 | 専 攻 | 認定を受けた免許状の種類 | |
|---------|-----------|----------------|-----------------|
| | | 中学校教諭 専修免許状 | 高等学校教諭 専修免許状 |
| 外国語学研究所 | 英語学専攻 | 英語 | 英語 |
| | 英語教育学専攻 | 英語 | 英語 |
| | ロシア語学専攻 | ロシア語 | ロシア語 |
| | 中国語学専攻 | 中国語 | 中国語 |
| | イスパニア語学専攻 | イスパニア語 | イスパニア語 |

備考 中学校教諭1種免許状又は高等学校1種免許状の所要資格を取得し、研究所において教科及び教科の指導法に関する科目を修得しなければならない。

別表3 (1) 英米学科

免許教科 英語 (中学校教諭1種免許状又は高等学校教諭1種免許状) を取得する場合

| 免許法施行規則に定める科目 | 授業科目 | 履修単位数 | | 履修方法 |
|------------------------|-------------------------|---------|--------|---------------|
| | | 必修 | 選択 | |
| 英語学 | 英語研究入門1 | 2 | | 1科目以上 選択必修 |
| | 英語研究入門2 | | 2 | |
| | 英語史1 | | 2 | |
| | 英語史2 | | 2 | |
| | 意味論講義 | | 2 | |
| | 統語論講義 | | 2 | |
| 英語文学 | 英米文学・文化研究入門 | 2 | | 1科目以上 選択必修 |
| | 英文学史1 | | 2 | |
| | 英文学史2 | | 2 | |
| | 米文学史 | | 2 | |
| | イギリス文学特殊講義1 | | 2 | |
| | イギリス文学特殊講義2 | | 2 | |
| | アメリカ文学特殊講義1 | | 2 | |
| | アメリカ文学特殊講義2 | | 2 | |
| | 英語圏文学特殊講義1 | | 2 | |
| | 英語圏文学特殊講義2 | | 2 | |
| 英米文学と視覚文化 | | 2 | | |
| 英語コミュニケーション | 専攻英語Ⅱ総合英語コミュニケーション | | 2 | 1科目以上 選択必修 |
| | 専攻英語Ⅲ総合英語(2)(コミュニケーション) | | 4 | |
| | Advanced Writing1 | | 2 | |
| | Advanced Writing2 | | 2 | |
| | 通訳(基礎) | | 2 | |
| | 翻訳2 | | 2 | |
| 異文化理解 | 英国の文化 | 2 | | 1科目以上 選択必修 |
| | 米国の文化 | 2 | | |
| | 英国の社会1 | | 2 | |
| | 英国の社会2 | | 2 | |
| | 英国史 | | 2 | 1科目以上 選択必修 |
| | 米国の社会 | | 2 | |
| | 米国史 | | 2 | |
| | 英語圏の文化と社会1 | | 2 | |
| 英語圏の文化と社会2 | | 2 | | |
| 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。) | 英語教育法「第1」1 | 2 | | 2(中種) 2(高1種) |
| | 英語教育法「第1」2 | | 2 | |
| | ※英語教育法「第2」1 | 2(中種) | 2(高1種) | |
| | ※英語教育法「第2」2 | 2(中種) | 2(高1種) | |
| 必要修得単位数 | | 28または32 | | |

備考 本学の必要修得単位数は、中学校教諭1種免許状を取得する場合は28単位、高等学校教諭1種免許状のみを取得する場合は32単位である。(中・高両方の場合は28単位)
 なお、法令上の最低修得単位数は中1種については28単位、高1種については24単位であり、これを超えて修得した単位については大学が独自に設定する科目の修得単位数に算入することができる。
 ※英語教育法「第2」1・2については、中学校教諭1種免許状を取得する場合にあっては4単位必修、高等学校教諭1種免許状のみを取得する場合にあっては選択単位である。(英語教育法「第1」1・2は中・高ともに4単位必修)

(2) ロシア学科
 免許教科 ロシア語 (中学校教諭1種免許状又は高等学校教諭1種免許状) を取得する場合

| 免許法施行規則に定める科目 | 授業科目 | 履修単位数 | | 履修方法 |
|------------------------|---------------|---------|--------|--------------|
| | | 必修 | 選択 | |
| ロシア語学 | 専攻ロシア語Ⅰ[1] | | 2 | 2 |
| | 専攻ロシア語Ⅰ[2] | | 2 | |
| | 専攻ロシア語Ⅰ[3] | | 2 | |
| | 専攻ロシア語Ⅱ文法[1] | 2 | | |
| | 専攻ロシア語Ⅱ文法[2] | 2 | | |
| | 専攻ロシア語Ⅲ講義[3] | 2 | | |
| ロシア文学 | 専攻ロシア語Ⅱ講義[1] | | 2 | 2 |
| | 専攻ロシア語Ⅱ講義[2] | | 2 | |
| | 専攻ロシア語Ⅲ講義[2] | | 2 | |
| | 専攻ロシア語Ⅳ講義[2] | | 2 | |
| ロシア語コミュニケーション | 専攻ロシア語Ⅰ[5] | | 2 | 2 |
| | 専攻ロシア語Ⅰ[6] | | 2 | |
| | 専攻ロシア語Ⅱ会話 | 2 | | |
| | 専攻ロシア語Ⅱ作文会話 | 2 | | |
| | 専攻ロシア語Ⅲ作文 | 2 | | |
| | 専攻ロシア語Ⅲ会話 | 2 | | |
| 異文化理解 | ロシアの社会1 | 2 | | 2 |
| | ロシアの社会2 | 2 | | |
| 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。) | ロシア語教育法「第1」1 | 2 | | 2(中種) 2(高1種) |
| | ロシア語教育法「第1」2 | | 2 | |
| | ※ロシア語教育法「第2」1 | 2(中種) | 2(高1種) | |
| | ※ロシア語教育法「第2」2 | 2(中種) | 2(高1種) | |
| 必要修得単位数 | | 28または32 | | |

備考 本学の必要修得単位数は、中学校教諭1種免許状を取得する場合は28単位、高等学校教諭1種免許状のみを取得する場合は32単位である。(中・高両方の場合は28単位)
 なお、法令上の最低修得単位数は中1種については28単位、高1種については24単位であり、これを超えて修得した単位については大学が独自に設定する科目の修得単位数に算入することができる。
 ※ロシア語教育法「第2」1・2については、中学校教諭1種免許状を取得する場合にあっては4単位必修、高等学校教諭1種免許状のみを取得する場合にあっては選択単位である。(ロシア語教育法「第1」1・2は中・高ともに4単位必修)

(3) 中国学科
 免許教科 中国語 (中学校教諭1種免許状又は高等学校教諭1種免許状) を取得する場合

| 免許法施行規則に定める科目 | 授業科目 | 履修単位数 | | 履修方法 |
|------------------------|--------------|---------|--------|--------------|
| | | 必修 | 選択 | |
| 中国語学 | 専攻中国語Ⅰ[1] | 2 | | 2 |
| | 専攻中国語Ⅰ[2] | | 2 | |
| | 専攻中国語Ⅰ[3] | | 2 | |
| | 専攻中国語Ⅱ講義[1] | | 2 | |
| | 専攻中国語Ⅱ講義[2] | | 2 | |
| | 専攻中国語Ⅱ文法 | 2 | | |
| | 専攻中国語Ⅲ講義[3] | | 2 | |
| | 専攻中国語Ⅲ講義[5] | | 2 | |
| | 専攻中国語Ⅳ講義[2] | | 2 | |
| | 専攻中国語Ⅳ講義[2] | | 2 | |
| 中国文学 | 専攻中国語Ⅱ講義[3] | | 2 | 2 |
| | 専攻中国語Ⅲ講義[1] | | 2 | |
| | 専攻中国語Ⅲ講義[2] | 2 | | |
| | 専攻中国語Ⅳ講義[1] | | 2 | |
| 中国語コミュニケーション | 専攻中国語Ⅳ講義[3] | | 2 | 2 |
| | 専攻中国語Ⅰ[4] | | 2 | |
| | 専攻中国語Ⅱ会話 | | 2 | |
| 異文化理解 | 現代中国論 | 2 | | 2 |
| | 中国地域論 | 2 | | |
| 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。) | 中国語教育法「第1」1 | 2 | | 2(中種) 2(高1種) |
| | 中国語教育法「第1」2 | | 2 | |
| | ※中国語教育法「第2」1 | 2(中種) | 2(高1種) | |
| | ※中国語教育法「第2」2 | 2(中種) | 2(高1種) | |
| 必要修得単位数 | | 28または32 | | |

備考 本学の必要修得単位数は、中学校教諭1種免許状を取得する場合は28単位、高等学校教諭1種免許状のみを取得する場合は32単位である。(中・高両方の場合は28単位)
 なお、法令上の最低修得単位数は中1種については28単位、高1種については24単位であり、これを超えて修得した単位については大学が独自に設定する科目の修得単位数に算入することができる。
 ※中国語教育法「第2」1・2については、中学校教諭1種免許状を取得する場合にあっては4単位必修、高等学校教諭1種免許状のみを取得する場合にあっては選択単位である。(中国語教育法「第1」1・2は中・高ともに4単位必修)

(4) イスパニア学科
 免許教科 イスパニア語 (中学校教諭1種免許状又は高等学校教諭1種免許状) を取得する場合

| 免許法施行規則に定める科目 | 授業科目 | 履修単位数 | | 履修方法 |
|------------------------|-----------------|-------|--------|--------------|
| | | 必修 | 選択 | |
| イスパニア語学 | 専攻イスパニア語Ⅰ[1] | 2 | | 2 |
| | 専攻イスパニア語Ⅰ[2] | | 2 | |
| | 専攻イスパニア語Ⅰ[4] | | 2 | |
| | 専攻イスパニア語Ⅰ[5] | | 2 | |
| | 専攻イスパニア語Ⅱ文法 | 2 | | |
| | 専攻イスパニア語Ⅱ作文 | | 2 | |
| | 専攻イスパニア語Ⅲ作文 | | 2 | |
| | 専攻イスパニア語Ⅳ作文 | | 2 | |
| イスパニア文学 | 専攻イスパニア語Ⅰ[3] | | 2 | 2 |
| | 専攻イスパニア語Ⅱ講義[1] | | 2 | |
| | 専攻イスパニア語Ⅱ講義[2] | | 2 | |
| | 専攻イスパニア語Ⅲ講義[1] | | 2 | |
| | 専攻イスパニア語Ⅲ講義[2] | | 2 | |
| | 専攻イスパニア語Ⅲ講義[3] | | 2 | |
| | 専攻イスパニア語Ⅳ講義[1] | | 2 | |
| イスパニア語コミュニケーション | 専攻イスパニア語Ⅰ[6] | | 2 | 2 |
| | 専攻イスパニア語Ⅱ会話[1] | | 2 | |
| | 専攻イスパニア語Ⅱ会話[2] | | 2 | |
| | 専攻イスパニア語Ⅲ会話[1] | | 2 | |
| 異文化理解 | 専攻イスパニア語Ⅲ会話[2] | | 2 | 2 |
| | 専攻イスパニア語Ⅳ会話 | | 2 | |
| | イスパニアの社会1 | 2 | | |
| 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。) | イスパニア語教育法「第1」1 | 2 | | 2(中種) 2(高1種) |
| | イスパニア語教育法「第1」2 | | 2 | |
| | ※イスパニア語教育法「第2」1 | 2(中種) | 2(高1種) | |
| 必要修得単位数 | ※イスパニア語教育法「第2」2 | 2(中種) | 2(高1種) | 28または32 |

備考 本学の必要修得単位数は、中学校教諭1種免許状を取得する場合は28単位、高等学校教諭1種免許状のみを取得する場合は32単位である。(中・高両方の場合は28単位)
 なお、法令上の最低修得単位数は中1種については28単位、高1種については24単位であり、これを超えて修得した単位については大学が独自に設定する科目の修得単位数に算入することができる。
 ※イスパニア語教育法「第2」1・2については、中学校教諭1種免許状を取得する場合にあっては4単位必修、高等学校教諭1種免許状のみを取得する場合にあっては選択単位である。(イスパニア語教育法「第1」1・2は中・高ともに4単位必修)

(5) 国際関係学科
免許教科 英語 (中学校教諭1種免許状又は高等学校教諭1種免許状) を取得する場合

| 免許法施行規則に定める科目 | 授業科目 | 履修単位数 | | 履修方法 |
|-------------------------|--|-----------------|----|------|
| | | 必修 | 選択 | |
| 英語学 | 専攻英語I Academic Reading 1 | 2 | | |
| | 専攻英語II Academic Reading 2 | 2 | | |
| | 専攻英語III Global Issues 3 | 2 | | |
| | 英語学特殊講義 (現代社会) 1 | | 2 | |
| | 英語学特殊講義 (現代社会) 2 | | 2 | |
| | 英語学特殊講義 (現代社会) 3 | | 2 | |
| 英語文学 | 英米文学特殊講義 (現代社会) 1 | 2 | | |
| | 英米文学特殊講義 (現代社会) 2 | 2 | | |
| 英語コミュニケーション | 専攻英語I Academic Writing 1 | 2 | | |
| | 専攻英語I Oral Communication 1 | 2 | | |
| | 専攻英語II Academic Writing 2 | 2 | | |
| | 専攻英語II Oral Communication 2 | 2 | | |
| | 専攻英語III Integrated Skills in English 1 | | 2 | |
| | 専攻英語IV Integrated Skills in English 2 | | 2 | |
| 異文化理解 | 言語と国家 | | 2 | |
| | 言語と文化 | | 2 | |
| | 異文化間コミュニケーション論 | 2 | | |
| 各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。) | 英語教育法 [第1] 1 | 2 | | |
| | 英語教育法 [第1] 2 | 2 | | |
| | ※英語教育法 [第2] 1 | 2 (中1種) 2 (高1種) | | |
| | ※英語教育法 [第2] 2 | 2 (中1種) 2 (高1種) | | |
| 必要修得単位数 | | 28または32 | | |

備考 本学の必要修得単位数は、中学校教諭1種免許状を取得する場合は28単位、高等学校教諭1種免許状のみを取得する場合は32単位である。(中・高両方の場合は28単位)
 なお、法令上の最低修得単位数は中1種については28単位、高1種については24単位であり、これを超えて修得した単位については大学が独自に設定する科目の修得単位数に算入することができる。
 ※英語教育法 [第2] 1・2については、中学校教諭1種免許状を取得する場合にあつては4単位必修、高等学校教諭1種免許状のみを取得する場合にあつては選択単位である。(英語教育法 [第1] 1・2は中・高ともに4単位必修)

(6) 第2部英米学科
免許教科 英語 (中学校教諭1種免許状又は高等学校教諭1種免許状) を取得する場合

| 免許法施行規則に定める科目 | 授業科目 | 履修単位数 | | 履修方法 |
|-------------------------|-------------------|-----------------|----|-------------------|
| | | 必修 | 選択 | |
| 英語学 | 英語研究入門1 | 2 | | } 1科目以上 } 選択必修 |
| | 英語研究入門2 | | 2 | |
| | 英語史1 | | 2 | |
| | 英語史2 | | 2 | |
| | 意味論講義 | | 2 | |
| | 統語論講義 | | 2 | |
| | 語用論・談話分析講義 | | 2 | |
| 英語文学 | 英米文学・文化研究入門 | 2 | | } 1科目以上 } 選択必修 |
| | 英文学史1 | | 2 | |
| | 英文学史2 | | 2 | |
| | 米文学史 | | 2 | |
| | イギリス文学特殊講義1 | | 2 | |
| | イギリス文学特殊講義2 | | 2 | |
| | アメリカ文学特殊講義1 | | 2 | |
| | アメリカ文学特殊講義2 | | 2 | |
| | 英語圏文学特殊講義1 | | 2 | |
| | 英語圏文学特殊講義2 | | 2 | |
| 英米文学と視覚文化 | | 2 | | |
| 英語コミュニケーション | 専攻英語 I 作文 | 2 | | |
| | 専攻英語 I 会話 | 2 | | |
| | Advanced Writing1 | | 2 | |
| | Advanced Writing2 | | 2 | |
| 異文化理解 | 英国の文化 | 2 | | } 1科目以上 } 選択必修 |
| | 米国の文化 | 2 | | |
| | 英国の社会1 | | 2 | |
| | 英国の社会2 | | 2 | |
| | 英国史 | | 2 | } 1科目以上 } 選択必修 |
| | 米国の社会 | | 2 | |
| | 米国史 | | 2 | |
| | 英語圏の文化と社会1 | | 2 | |
| 英語圏の文化と社会2 | | 2 | | |
| 各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。) | 英語教育法 [第1] 1 | 2 | | |
| | 英語教育法 [第1] 2 | 2 | | |
| | ※英語教育法 [第2] 1 | 2 (中1種) 2 (高1種) | | |
| | ※英語教育法 [第2] 2 | 2 (中1種) 2 (高1種) | | |
| 必要修得単位数 | | 28または32 | | |

備考 本学の必要修得単位数は、中学校教諭1種免許状を取得する場合は28単位、高等学校教諭1種免許状のみを取得する場合は32単位である。(中・高両方の場合は28単位)
 なお、法令上の最低修得単位数は中1種については28単位、高1種については24単位であり、これを超えて修得した単位については大学が独自に設定する科目の修得単位数に算入することができる。
 ※英語教育法 [第2] 1・2については、中学校教諭1種免許状を取得する場合にあつては4単位必修、高等学校教諭1種免許状のみを取得する場合にあつては選択単位である。(英語教育法 [第1] 1・2は中・高ともに4単位必修)

別表4 教育の基礎的理解に関する科目等

| 免許法施行規則に定める科目 | 各科目に含める必要事項 | 左記に対応する本学開設授業科目 | 必修単位 | |
|-------------------------------------|--|------------------------|------|-----|
| | | | 中1種 | 高1種 |
| 教育の基礎的理解に関する科目 | ・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 | ○教育原理 ○教育哲学 ○教育史 | 2 | 2 |
| | ・教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。) | ○教職概論 | 2 | 2 |
| | ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) | ○教育行政学 | 2 | 2 |
| | ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 | ○教育心理学 | 2 | 2 |
| | ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 | ○特別支援教育の指導法 | 2 | 2 |
| | ・教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。) | ○教育課程論 | 2 | 2 |
| 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | ・道徳の理論及び指導法 | ※道徳教育の理論と実践(中1種のみ必修) | 2 | |
| | ・総合的な学習の時間の指導法 | ○総合的な学習の時間の指導法 | 2 | 2 |
| | ・特別活動の指導法 | ○特別活動の指導法 | 2 | 2 |
| | ・教育の方法及び技術 | ○教育方法論 | 2 | 2 |
| | ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 | ○教育とICT活用 | 2 | 2 |
| | ・生徒指導の理論及び方法 | ○生徒・進路指導論 | 2 | 2 |
| | ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 | | | |
| | ・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法 | ○教育相談 | 2 | 2 |
| 教育実践に関する科目 | 教育実習 | ○教育実習1(事前・事後指導を含む) | 3 | 3 |
| | | ※教育実習2(中1種のみ必修) | 2 | |
| | 教職実践演習 | ○教職実践演習(中・高) | 2 | 2 |
| 必要修得単位数 | | | 33 | 29 |

備考 1 表中の○を付した授業科目は、必修科目とする。※を付した授業科目は、中1種のみ必修科目。
 2 教育実習を履修しようとする者は、教育実習の前年度までに次の科目を履修しておかなければならない。
 ・中学校教諭1種免許の場合…「教育の基礎的理解に関する科目」及び「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」のうち、10単位以上(道徳教育の理論と実践は必ず修得すること。)及び別表3の教育実習を行う教科の「教育法」第1) 1・2(4単位)。
 ・高等学校教諭1種免許の場合…「教育の基礎的理解に関する科目」及び「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」のうち8単位以上及び別表3の教育実習を行う教科の「教育法」第1) 1・2(4単位)は必ず修得すること。
 3 本学の必要修得単位数は、中学校教諭1種免許状を取得する場合にあっては33単位、高等学校教諭1種免許状を取得する場合にあっては29単位である。(中・高両方の場合は33単位)
 なお法令上の最低修得単位数は中学校教諭1種免許状を取得する場合にあっては27単位、高等学校教諭1種免許状を取得する場合にあっては23単位であり、これを超えて修得した単位については大学が独自に設定する科目の修得単位数に算入することができる。

別表5 大学が独自に設定する科目

| 免許法施行規則に定める科目 | 授業科目 | 履修単位数 | |
|---------------|--------------------------|--------|----|
| | | 必修 | 選択 |
| 大学が独自に設定する科目 | 神戸・教育インターンシップ* 1・2・3(各1) | | 3 |
| | 教育とICT活用(2021年以前入学生) | | 2 |
| | 道徳教育の理論と実践(高1種のみ取得の場合) | | 2 |
| 必要修得単位数 | | 4または12 | |

備考 1 必要修得単位数は、この表に掲げる大学が独自に設定する科目に係る単位数並びに取得しようとする免許状の種類に応じて教育職員免許法別表第1に規定する最低単位数を超えて履修した、「教科及び教科の指導法に関する科目」及び「教育の基礎的理解に関する科目等」に係る単位数により満たさなければならない。
 2 必要修得単位数は、中学校教諭1種免許状を取得する場合にあっては4単位、高等学校教諭1種免許状を取得する場合にあっては12単位である。

別表6 免許法施行規則第66条の6に定める科目

| 免許法施行規則に定める科目 | 授業科目 | 履修単位数 | | 履修方法 |
|-------------------------------|--------------------|-------|----|-----------------|
| | | 必修 | 選択 | |
| 日本国憲法 | 憲法1 | | 2 | } 1科目 } 選択必修 |
| | 憲法2 | | 2 | |
| 体育 | スポーツ方法1 | 1 | | |
| | スポーツ方法2 | 1 | | |
| 外国語コミュニケーション | (専攻語学Ⅱ・兼修語学Ⅱが該当する) | 2 | | |
| 数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作 | データサイエンス入門 | | 2 | } 1科目 } 選択必修 |
| | 情報科学概論3 | | 2 | |

別表7 (1) 英語学専攻

免許教科 英語（中学校教諭専修免許状又は高等学校教諭専修免許状）を取得する場合

| | 授業科目（教科及び教科の指導法に関する科目） | 履修単位数 | |
|-----------|------------------------|-------|----|
| | | 必修 | 選択 |
| 英語学専攻 | 英語学研究1 | | 2 |
| | 英語学研究2 | | 2 |
| | 英語学研究3 | | 2 |
| | 英語学研究4 | | 2 |
| | 英語学演習1 | | 2 |
| | 英語学演習2 | | 2 |
| | 英米文学研究1 | | 2 |
| | 英米文学研究2 | | 2 |
| | 英米文学演習1 | | 2 |
| | 英米文学演習2 | | 2 |
| | 英米文学演習3 | | 2 |
| | 英米文学演習4 | | 2 |
| | 英米文化研究1 | | 2 |
| | 英米文化研究2 | | 2 |
| | 英米文化研究3 | | 2 |
| | 英米文化研究4 | | 2 |
| | 通訳理論研究1 | | 2 |
| | 通訳理論研究2 | | 2 |
| | 会議通訳分析1 | | 2 |
| | 会議通訳分析2 | | 2 |
| | メディア通訳翻訳研究1 | | 2 |
| | メディア通訳翻訳研究2 | | 2 |
| | 放送通訳分析1 | | 2 |
| | 放送通訳分析2 | | 2 |
| | 翻訳理論研究1 | | 2 |
| | 翻訳理論研究2 | | 2 |
| | 翻訳分析1 | | 2 |
| | 翻訳分析2 | | 2 |
| | 言語学特殊研究Ⅰ1 | | 2 |
| | 言語学特殊研究Ⅰ2 | | 2 |
| 言語学特殊研究Ⅱ1 | | 2 | |
| 言語学特殊研究Ⅱ2 | | 2 | |
| 外国語教授法研究1 | | 2 | |
| 外国語教授法研究2 | | 2 | |
| 必要修得単位数 | | 24 | |

(2) 英語教育学専攻

免許教科 英語（中学校教諭専修免許状又は高等学校教諭専修免許状）を取得する場合

| | 授業科目（教科及び教科の指導法に関する科目） | 履修単位数 | | |
|---------|------------------------|-------|----|--|
| | | 必修 | 選択 | |
| 英語教育学専攻 | 英語教育指導分析 | 2 | | |
| | 国際語としての英語 | 2 | | |
| | 英語教授法1（指導法入門） | 2 | | |
| | 英語教授法2（聞くこと・話すこと） | 2 | | |
| | 英語教授法3（読むこと・書くこと） | 2 | | |
| | インクルーシブ英語教育法 | 2 | | |
| | 英語教育研究法 | 2 | | |
| | 英語教育学特別研究1 | 2 | | |
| | 英語教育学特別研究2 | 2 | | |
| | 教育工学と英語教育 | | 2 | |
| | 異文化理解教育 | | 2 | |
| | 言語アセスメント | | 2 | |
| | インストラクショナルデザイン | | 2 | |
| | 学習と教育の心理学 | | 2 | |
| | 教育哲学・学校教育学 | | 2 | |
| | 必要修得単位数 | | 24 | |

(3) ロシア語学専攻

免許教科 ロシア語（中学校教諭専修免許状又は高等学校教諭専修免許状）を取得する場合

| | 授業科目（教科及び教科の指導法に関する科目） | 履修単位数 | |
|---------|------------------------|-------|----|
| | | 必修 | 選択 |
| ロシア語学専攻 | ロシア語学研究1 | | 2 |
| | ロシア語学研究2 | | 2 |
| | ロシア語学研究3 | | 2 |
| | ロシア語学研究4 | | 2 |
| | ロシア語学演習1 | | 2 |
| | ロシア語学演習2 | | 2 |
| | ロシア文学研究1 | | 2 |
| | ロシア文学研究2 | | 2 |
| | ロシア文学演習1 | | 2 |
| | ロシア文学演習2 | | 2 |
| | ロシア文化研究1 | | 2 |
| | ロシア文化研究2 | | 2 |
| | ロシア文化研究3 | | 2 |
| | ロシア文化研究4 | | 2 |
| 必要修得単位数 | | 24 | |

(4) 中国語学専攻

免許教科 中国語（中学校教諭専修免許状又は高等学校教諭専修免許状）を取得する場合

| | 授業科目（教科及び教科の指導法に関する科目） | 履修単位数 | |
|--------|------------------------|-------|----|
| | | 必修 | 選択 |
| 中国語学専攻 | 中国語学研究1 | | 2 |
| | 中国語学研究2 | | 2 |
| | 中国語学研究3 | | 2 |
| | 中国語学研究4 | | 2 |
| | 中国語学研究5 | | 2 |
| | 中国語学研究6 | | 2 |
| | 中国語学演習1 | | 2 |
| | 中国語学演習2 | | 2 |
| | 中国語学演習3 | | 2 |
| | 中国語学演習4 | | 2 |
| | 中国文学研究1 | | 2 |
| | 中国文学研究2 | | 2 |
| | 中国文学演習1 | | 2 |
| | 中国文学演習2 | | 2 |
| | 中国文化研究1 | | 2 |
| | 中国文化研究2 | | 2 |
| | 中国文化研究3 | | 2 |
| | 中国文化研究4 | | 2 |
| | 必要修得単位数 | | 24 |

(5) スペイン語学専攻

免許教科 スペイン語（中学校教諭専修免許状又は高等学校教諭専修免許状）を取得する場合

| | 授業科目（教科及び教科の指導法に関する科目） | 履修単位数 | | |
|----------|------------------------|-------|----|--|
| | | 必修 | 選択 | |
| スペイン語学専攻 | スペイン語学研究1 | | 2 | |
| | スペイン語学研究2 | | 2 | |
| | スペイン語学研究3 | | 2 | |
| | スペイン語学研究4 | | 2 | |
| | スペイン語学研究5 | | 2 | |
| | スペイン語学研究6 | | 2 | |
| | スペイン語学演習1 | | 2 | |
| | スペイン語学演習2 | | 2 | |
| | スペイン文学研究1 | | 2 | |
| | スペイン文学研究2 | | 2 | |
| | スペイン文学演習1 | | 2 | |
| | スペイン文学演習2 | | 2 | |
| | スペイン文化研究1 | | 2 | |
| | スペイン文化研究2 | | 2 | |
| | 必要修得単位数 | | 24 | |

神戸市外国語大学司書課程に関する履修規則

第 1 条 司書の資格を取得しようとする者は、卒業に必要な単位を修得するほかに、別表に定める科目のすべての単位を修得しなければならない。

附 則

- 1 この規則は、2023年4月1日から施行する。
- 2 司書課程に関する履修規程（2007年4月規程第70号）は、廃止する。

別表 司書課程科目・単位数

| 科 目 | 単 位 | 科 目 | 単 位 |
|------------|-----|------------|-----|
| 図書館概論 | 2 | 情報資源組織演習 1 | 1 |
| 図書・図書館史 | 2 | 情報資源組織演習 2 | 1 |
| 図書館情報資源概論 | 2 | 生涯学習概論 | 2 |
| 図書館情報技術論 | 2 | 図書館サービス概論 | 2 |
| 情報サービス論 | 2 | 図書館情報資源特論 | 2 |
| 情報サービス演習 1 | 1 | 図書館制度・経営論 | 2 |
| 情報サービス演習 2 | 1 | 児童サービス論 | 2 |
| 情報資源組織論 | 2 | | |

学校図書館司書教諭課程に関する履修規則

第 1 条 司書教諭の資格を取得しようとする者は、卒業に必要な単位を修得し、かつ教育職員免許状を取得するために必要な単位を修得するほかに、別表に定める科目のすべての単位を修得しなければならない。

附 則

- 1 この規則は、2023年4月1日から施行する。
- 2 学校図書館司書教諭課程に関する履修規程（2009年規程第71号）は、廃止する。

別表 学校図書館司書教諭課程科目・単位数

| 科 目 | 単 位 |
|--------------|-----|
| 学校経営と学校図書館 | 2 |
| 学校図書館メディアの構成 | 2 |
| 学習指導と学校図書館 | 2 |
| 読書と豊かな人間性 | 2 |
| 情報メディアの活用 | 2 |
| 必要単位数 | 10 |

神戸市外国語大学テーマ研究プログラムに関する履修規則

(趣旨)

第 1 条 この規則は、神戸市外国語大学外国語学部履修規則（2023年4月規則第77号）第1条第5号及び神戸市外国語大学外国語第2部履修規則（2023年4月規則第78号）第1条に定めるテーマ研究プログラム（以下「プログラム」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(プログラム名等)

第 2 条 プログラムは、外国語学部及び外国語学部第2部全学科共通とし、カリキュラム部会の議を経て、学部長が設置し、及び廃止する。

2 プログラム名は別表第1のとおりとする。

(履修方法等)

第 3 条 プログラムの履修方法等については、カリキュラム部会の議によって定める。

(授業科目の種類)

第 4 条 プログラムの授業科目は、神戸市外国語大学学則（2007年4月学則第1号）第30条第1項の授業科目から、カリキュラム部会の議によって定める。

2 前項で定める授業科目から、カリキュラム部会の議によって、プログラムコア科目を指定する。

(取得しなければならない単位数)

第 5 条 プログラムを修了するために前条第1項で定める授業科目から取得しなければならない単位数は、16単位とする。

2 前項で定める単位数のうち、前条第2項で定めるプログラムコア科目を8単位以上履修する必要がある。

(修了認定)

第 6 条 プログラムの修了認定は、運営機関及びカリキュラム部会の議を経て、学部長が行う。

(修了証書の授与)

第 7 条 学長は、前条によりプログラムを修了したと認定された学生に対し、プログラム修了証書を授与する。

2 前項により授与するプログラム修了証書は、様式第1号のとおりとする。

(委任)

第 8 条 この規則に定めるもののほか、プログラムの履修に関し必要な事項は、カリキュラム部会の議を経て、学部長が定める。

(規則適用の範囲)

第 9 条 この規則は、2021年度以降の入学生に対して適用する。

附 則

1 この規則は、2023年4月1日から施行する。

2 神戸市外国語大学テーマ研究プログラムに関する履修規程（2021年4月規程第3号）は、廃止する。

附 則

1 この規則は、2025年8月1日から施行する。

附 則

1 この規則は、2026年4月1日から施行する。

別表1（第2条第2項関係）

| テーマ研究プログラム名 |
|---------------------|
| グローバルコミュニケーションプログラム |
| 対照言語学プログラム |
| 行政外交プログラム |
| 日本語学プログラム |

神戸市外国語大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム(KCUPS-DASH)に関する履修規則

(趣旨)

第 1 条 この規則は、神戸市外国語大学外国語学部履修規則（2023年4月規則第80号）第1条第6号及び神戸市外国語大学外国語学部第2部履修規則（2023年4月規則第81号）第1条に定めるプログラム（以下「本教育プログラム」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(本教育プログラムの目的)

第 2 条 本教育プログラムは、学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それ

を活用する基礎的な能力を育成するとともに、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な能力の向上を図る機会の拡大に資することを目的とする。

(履修対象者)

第 3 条 本教育プログラムを履修することができる者は、本学に在籍する学生（科目等履修生を除く。以下「学生」という。）とする。

(所管等)

第 4 条 本教育プログラムは、外国語学部及び外国語学部第2部全学科共通とし、運営機関である数理・データサイエンス・AI教育推進部会及びカリキュラム部会の議を経て、学部長が設置し、及び廃止する。

2 本教育プログラムには、その運営に関して必要な事項を定めるため、またプログラムを改善・進化させるため、数理・データサイエンス・AI教育推進部会を置く。

3 本教育プログラムの自己点検・評価は、数理・データサイエンス・AI教育推進部会及び評価企画会議が行う。

(履修科目等)

第 5 条 本教育プログラムの対象科目は、神戸市外国語大学履修規則（2023年4月規則第30号）別表1-0及び神戸市外国語大学外国語学部第2部履修規則（2023年4月規則第81号）別表Ⅱ-7に定めるものとする。

(修了要件)

第 6 条 本教育プログラムの修了要件は、学生が第5条に定める授業科目の単位を修得することとする。

(修了認定)

第 7 条 本教育プログラムの修了認定は、数理・データサイエンス・AI教育推進部会及び教務委員会の議を経て、学部長が行う。

(修了証書の授与)

第 8 条 学長は、前条により本教育プログラムを修了したと認定された学生のうち、申請のあった学生に対し、修了証書を授与する。

(委任)

第 9 条 この規則に定めるもののほか、本教育プログラムの履修に関し必要な事項は、数理・データサイエンス・AI教育推進部会の議を経て、学部長が定める。

附 則

この規則は、2024年4月1日から施行する。

神戸市外国語大学試験に関する規則

(試験の種類及び定義)

第 1 条 この規則で試験とは、科目履修の認定のために行うもので定期試験及び追試験とする。

2 定期試験は、学期末試験及び学年末試験とし、学期末試験は、前期末に行い、学年末試験は、後期末に行う。

3 追試験は、正当な事由によって定期試験を受験できない者に対し行う。

(試験期日)

第 2 条 定期試験の期日は、学長が教授会の議を経てその都度定め、試験開始2週間前までに実施計画を公表するものとする。

(追試験の受験科目及び単位)

第 3 条 追試験を許可する者及びその授業科目は、教務部長が決定するものとする。

(追試験の受験手続)

第 4 条 追試験を受けようとする者は、所定の願書と事由証明書を教務部長が定める日までに提出しなければならない。

(レポート等)

第 5 条 各授業科目担当が必要又は適当と認めるときは、レポート等をもって試験にかえることができる。

(授業料滞納者)

第 6 条 授業料を別に定められた期日までに納入していない者は、学年末試験の受験資格を認めない。

(不正行為)

第 7 条 試験において次の各号に定める行為（以下「不正行為」という。）を行った学生については、当該学期の全履修科目の評点を与えない。ただし、通年科目については、不正行為を行った学期に関わらず、全履修科目の評点を与えない。試験終了後に不正行為が判明した場合も同様とする。

(1) 試験問題又は答案を盗むこと。

- (2) 試験に関連した内容を机、身体、所持品又は紙片等に記載し、試験中に参照し又は参照させ、若しくは参照できるような状態で受験をすること。
- (3) 他人の答案を見たり、他人に自分の答案を見せたりすること。
- (4) 本人に代わって受験し、又は受験させること。
- (5) 持込み許可を受けていない書籍、ノート、電子機器等を利用し、又は利用させること。
- (6) 音声、動作等により答案作成に役立つ情報を伝えること、又はそのような行為に加担すること。
- (7) 指定された答案用紙以外の答案用紙を用いること。
- (8) 答案用紙をすり替え、又はすり替えさせること。
- (9) 試験監督の指示に従わないこと。
- (10) 前9号のほか、明らかに公正な試験の実施を阻害すると認められる行為をすること。
- 2 第5条に定めるレポート等において前項に定める不正行為に類する行為又は盗用等の学問的倫理に反する行為を行った学生に対しては、当該科目の評点を与えない。
- 3 不正行為が行われた科目の担当者は、教務部長を通して学長に対し当該不正行為を報告するものとする。
- 4 学長は、前項の報告を受けたときは、速やかに懲戒手続きを行うものとする。
- (実施細目)
- 第8条 この施行に関し必要な細目は、教務部長が別に定める。
- 附則
この規則は、2023年4月1日から施行する。
この規則は、2026年4月1日から施行する。

学生の公休に関する規程

- 第1条 この規程で「公休」とは、神戸市外国語大学学則第19条に定める休業日以外の日において出席すべきときに出席しなくても出席したものと取り扱うことをいう。
- 第2条 公休を願い出る者は、次の各号の一に当てはまるもので、その前日までに学長に願い出て許可を受けなければならない。
- (1) 大学のための行事に参加するもの
- (2) その他学生支援部長において適当であると認めたもの
- 第3条 学生が親族の喪に遇ったときは、その願い出により次の区分によって公休を与える。
- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 配偶者及び1親等の血族 | 5日間 |
| (2) 2親等の血族及び1親等の姻族 | 3日間 |
| (3) 3親等の血族及び2親等の姻族 | 1日間 |
- 第4条 前条の規定にかかわらず引き続き10日以上欠席している者については、公休を与えない。
- 第5条 この規程に定めるもののほか、公休に関し必要な事項は学生支援部長が別に定める。
- 附則
この規程は、2007年4月1日から適用する。
- 附則
この規程は、2007年12月1日から適用する。
- 附則
この規程は、2020年7月1日から適用する。
- 附則
この規程は、2022年4月1日から適用する。

神戸市外国語大学外国語学部 履修登録単位の上限に関する規則

- (趣旨)
- 第1条 この規則は、学生の効果的な履修に資するために、神戸市外国語大学外国語学部履修規則（2023年4月規則第 号。以下「外国語学部履修規則」という。）第2条第4項及び神戸市外国語大学外国語学部第2部履修規則（2023年4月規則第 号。以下「第2部履修規則」という。）第2条第4項に定める「別途規則等」として、毎学年度に履修登録可能な単位の上限を定めるものである。
- (履修単位の上限)
- 第2条 外国語学部及び外国語学部第2部（以下「第2部」という。）に

在籍する学生が毎年度に履修登録可能な単位の上限は49単位とする。
(履修単位の上限算定の例外科目)

第3条 次に掲げる科目は、第2条の算定対象としない。

- (1) 外国語学部履修規則における別表(5)-1 および(5)-2（各課程のために設置される科目）又は第2部履修規則における別表（Ⅱ-3-1 およびⅡ-3-2）（各課程のために設置される科目（第2部））に規定される科目
- (2) 卒業論文
- (3) 模擬国連
- (4) 外国語学部履修規則第19条又は第2部履修規則第19条に規定される他大学等との単位互換科目
- (例外規程)

第4条 この規則は、外国語学部及び第2部の編入学学生に対しては適用しない。

附則

- 1 この規則は、2023年4月1日から施行する。
- 2 神戸市外国語大学外国語学部履修登録単位の上限に関する規程（2009年4月規程第9号）は、廃止する。
- 3 この規則は、2026年4月1日から施行する。

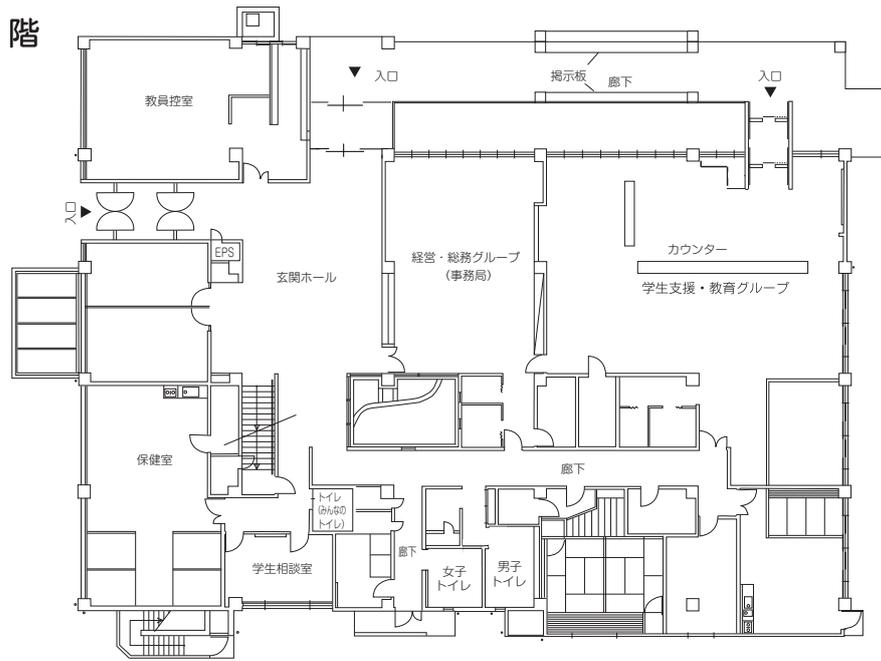
その他

神戸市外国語大学科目等履修生に関する規則
学生便覧を参照してください。

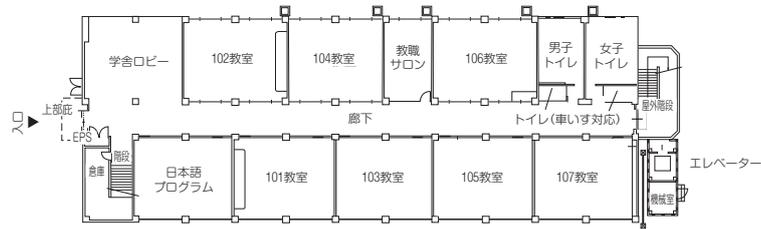
神戸市外国語大学特別聴講学生に関する規則
学生便覧を参照してください。

IV 教室等配置図

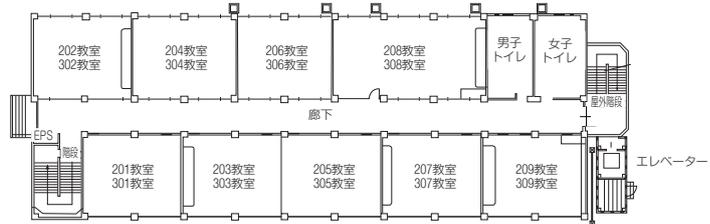
本部棟 1階



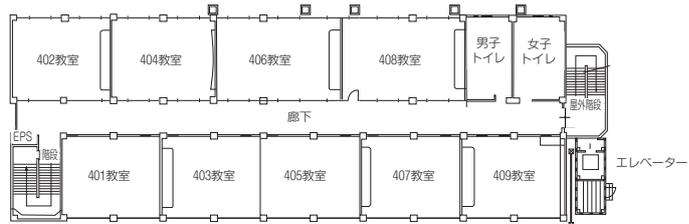
学舎 1階



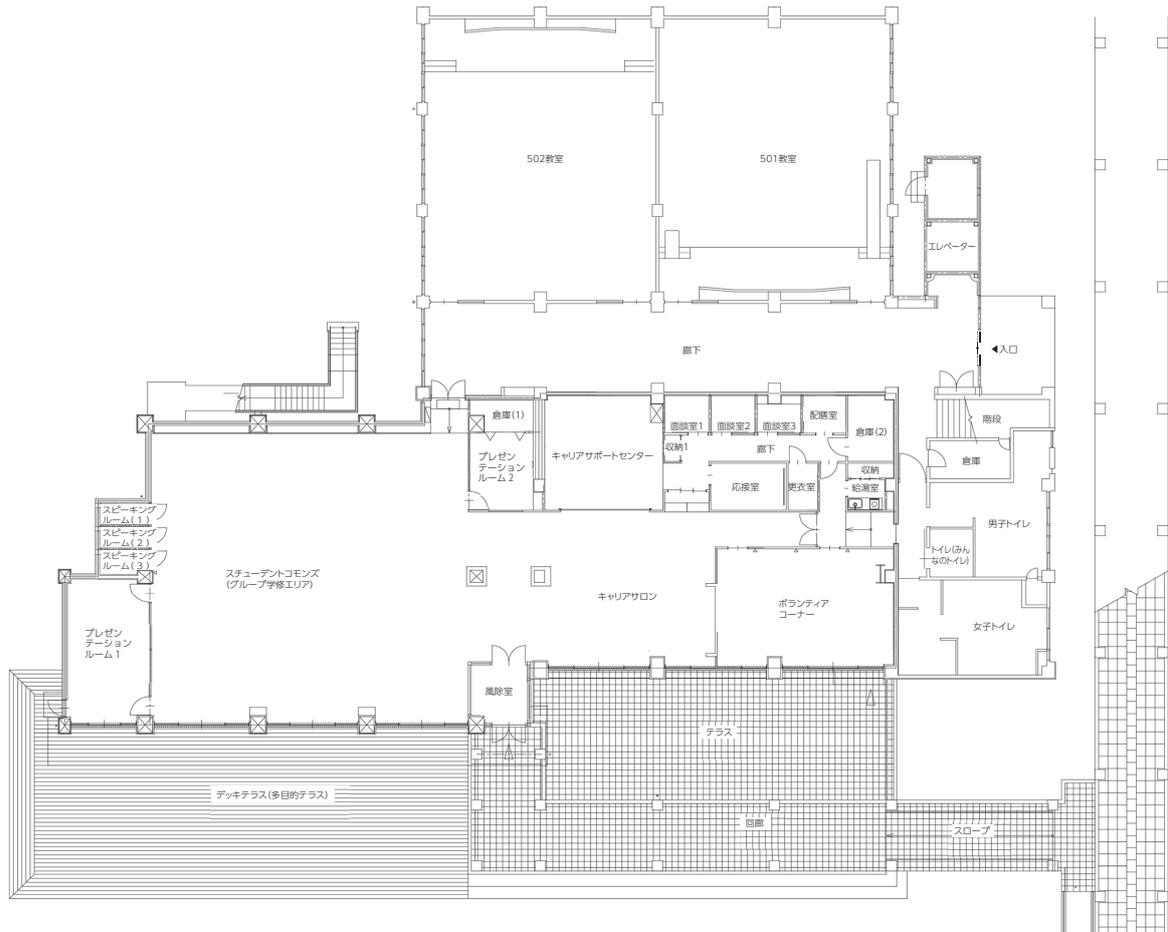
学舎 2・3階



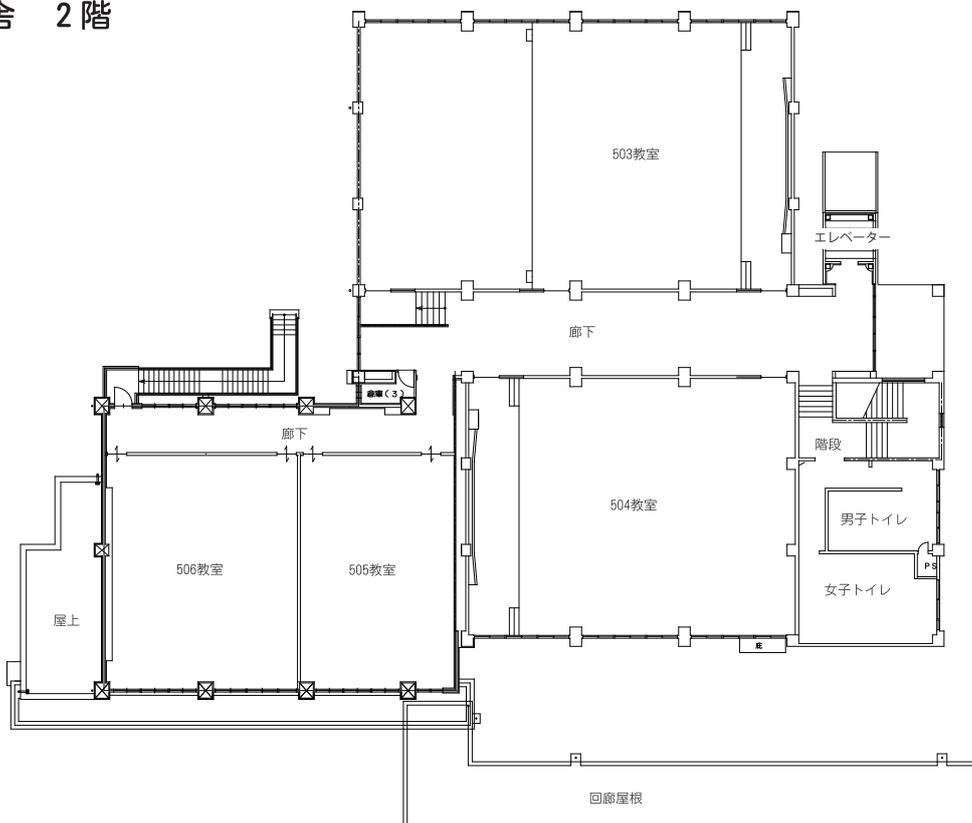
学舎 4階



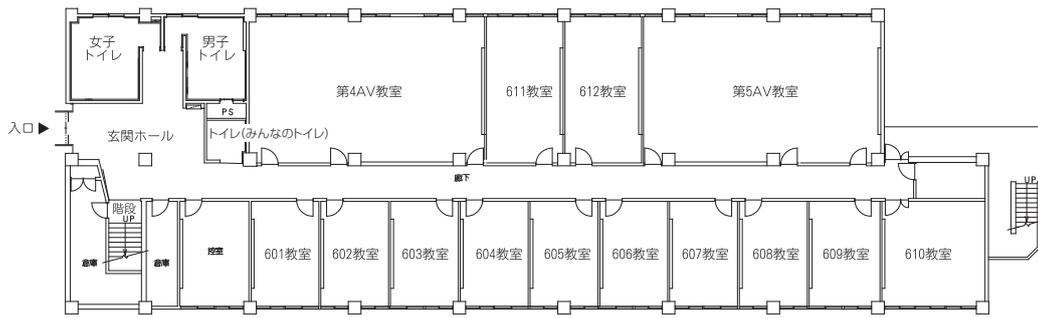
第2学舎 1階



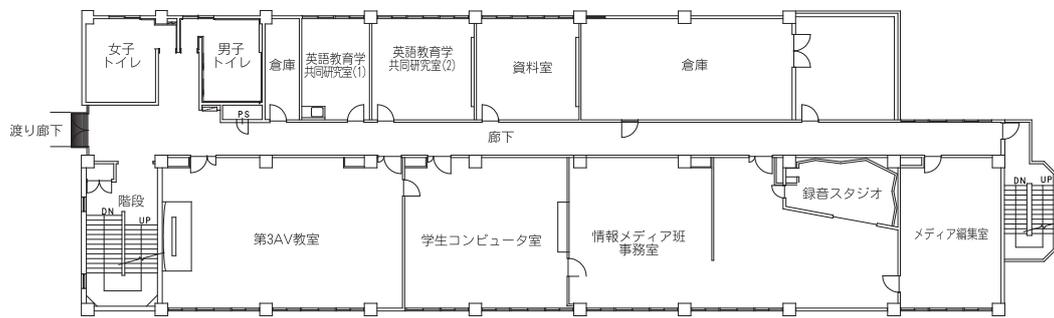
第2学舎 2階



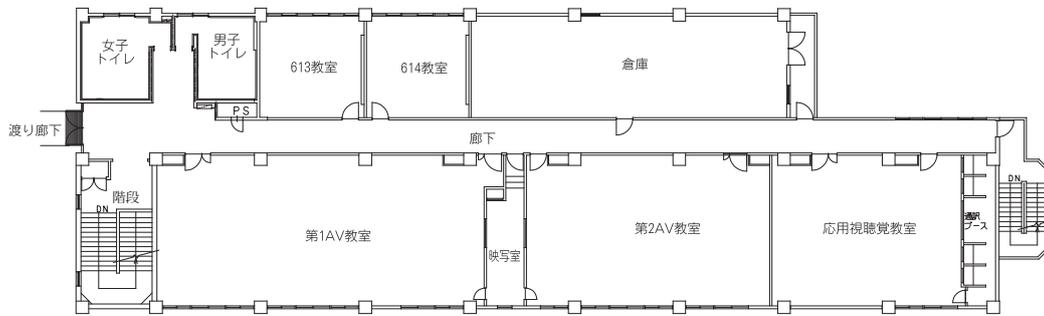
共同研究棟 1階



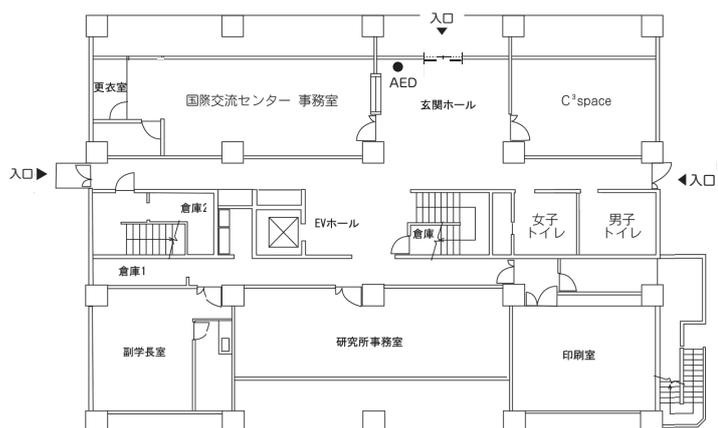
共同研究棟 2階



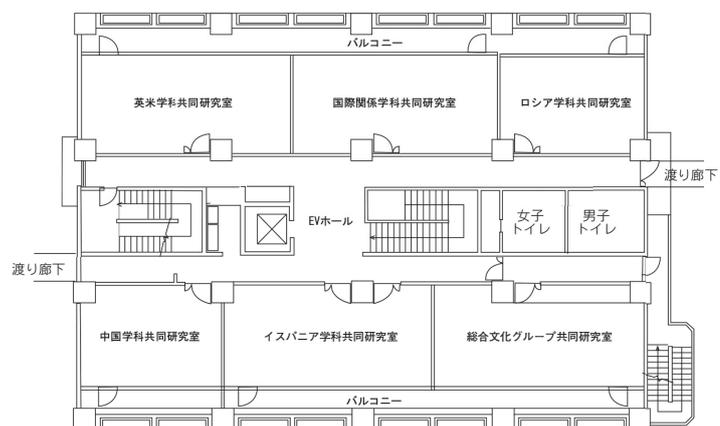
共同研究棟 3階



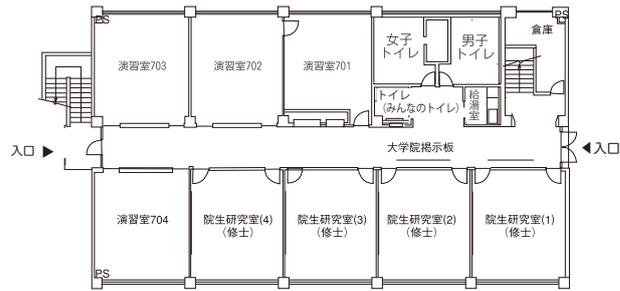
研究棟 1階



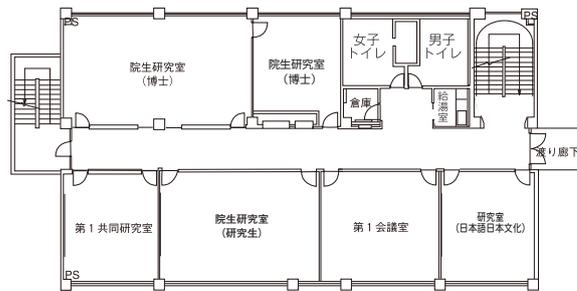
研究棟 2階



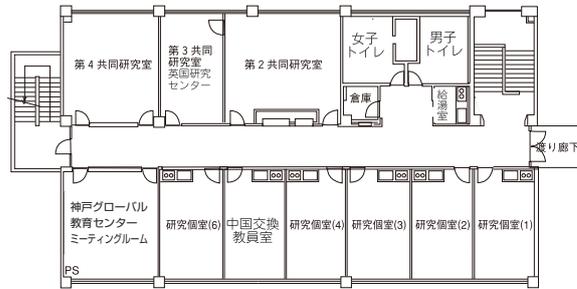
第2研究棟 1階



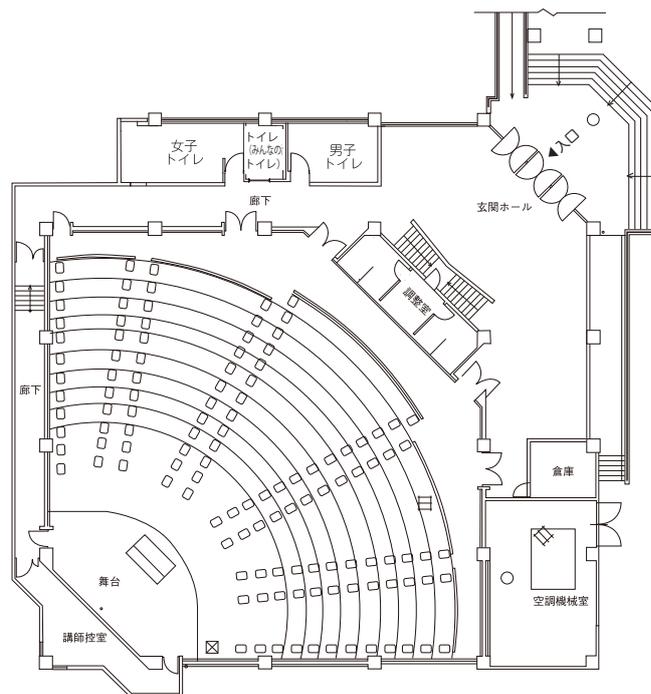
第2研究棟 2階



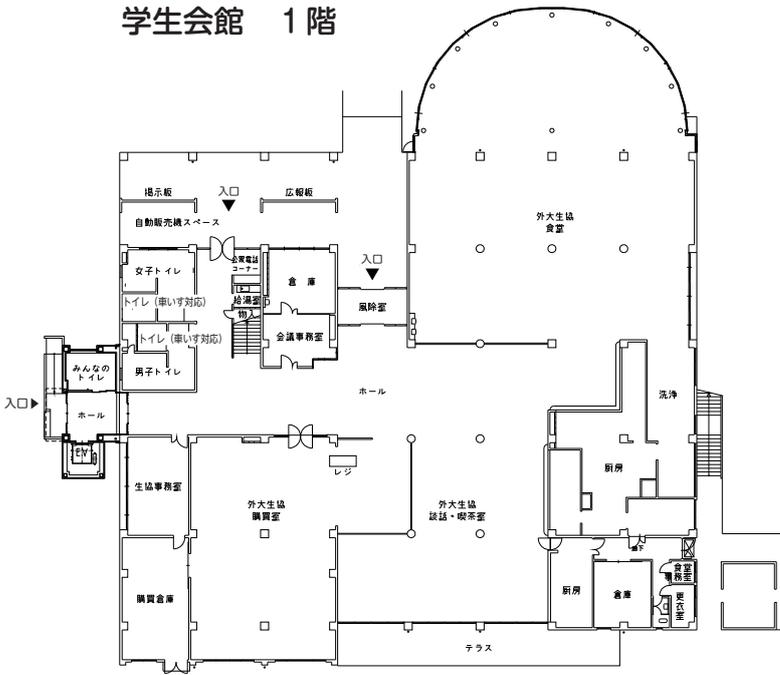
第2研究棟 3階



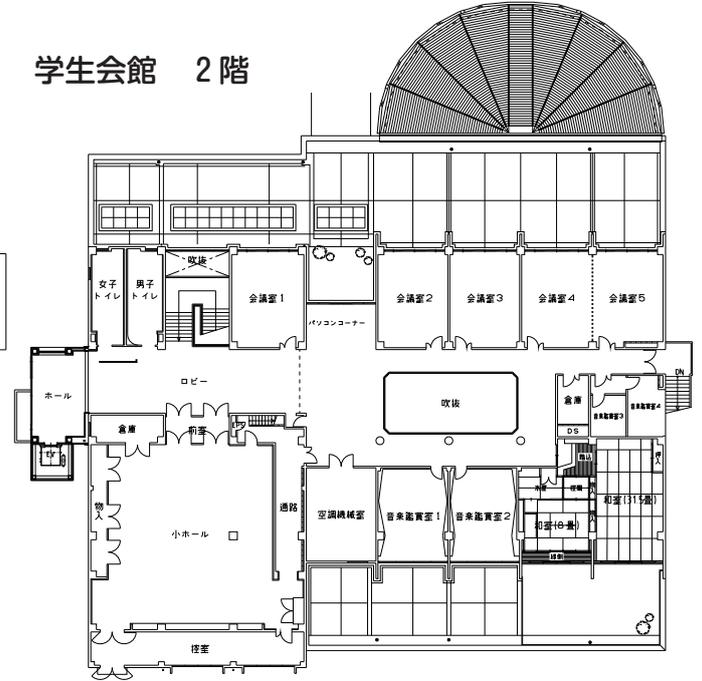
大ホール



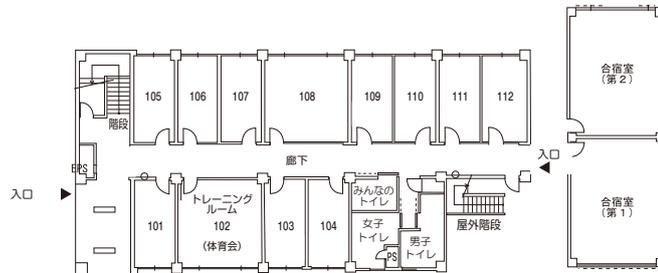
学生会館 1階



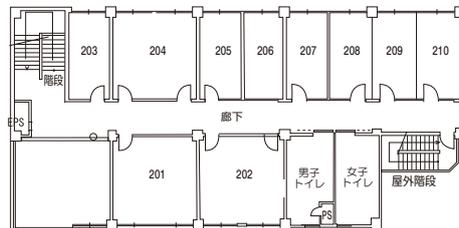
学生会館 2階



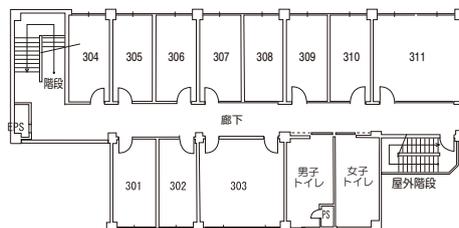
部室会館 1階



部室会館 2階



部室会館 3階



2026年4月1日 印刷発行

編 集 神戸市外国語大学学生支援・教育グループ

電 話 (078) 794-8133

F A X (078) 794-8338

発 行 神戸市外国語大学

印 刷 株式会社興文社

大
学



Kobe City University of Foreign Studies

神戸市外国語大学